

2023

授業計画

Syllabus

宝塚大学 看護学部
助産学専攻科



看護学部

看護学科

2023年度 授業計画 (SYLLABUS)

目 次

看護学部

看護学部の教育方針（2022年度以降入学生）	4
看護学部の教育方針（2017～2021年度入学生）	7
シラバスについて	10
2023年度 学年暦	11
卒業要件	12
実務家教員一覧（2022年度以降入学生）	13
実務家教員一覧（2017～2021年度入学生）	16
教育課程（2022年度以降入学生）	18
教育課程（2019～2021年度入学生）	20
教育課程（2017～2018年度入学生）	22
2023年度授業科目・担当者一覧表（2022年度以降入学生）	24
2023年度授業科目・担当者一覧表（2017～2021年度入学生）	26
授業科目（2022年度以降入学生）	27
I 基礎分野	29
II 専門基礎分野	67
III 専門分野	93
IV 専門分野（臨地実習科目）	125
授業科目（2017～2021年度入学生）	127
I 基礎分野	129
II 専門基礎分野	131
III 専門分野	135
IV 専門分野（臨地実習科目）	157

看護学部の教育方針（2022年度以降入学生）

教育目的

人間の生命や生活の質を真に理解できる感性豊かな人間性ととも、生命の尊厳と人権の尊重を基盤にした倫理観を備え、人々の健康問題の解決に向けて、保健・医療・福祉を統合した看護を実践できる能力の育成をめざす。さらにアート＝技を駆使し専門職として、看護学の発展に自律的・創造的に探求できる人材を育成する。

【教育目標】

- (1) 人間に対する豊かな感性と深い関心をもち、生命の尊厳に基づく倫理観を培い人間を尊重する態度を養う。
- (2) 個人や集団の健康問題を的確に判断し、生活の質の向上を目指した看護を創造的に実践できる能力を養う。
- (3) 看護専門職としての社会的責任を自覚し、他領域の専門職と連携・協力・調整して問題解決するためのリーダーシップを発揮する能力を養う。
- (4) 看護の実践・教育・研究の発展に資することのできる能力を養う。

「入学者受入れの方針」（アドミッション・ポリシー）

以下の能力を備えた受験生を、各種選抜試験を通して入学させる。

1. 知識・理解

- ・入学後の就学に必要な基礎学力を有している。
- ・高等学校で履修する国語、数学、理科、外国語などについて、内容を理解し、高等学校卒業相当の知識を有している。

2. 思考・判断

さまざまな問題に立ち向かい、物事を多面的かつ論理的に考察することができる。

3. 関心・意欲

人間の生命と健康に深い関心を持ち、積極的に社会に貢献する意欲がある。

4. 態度

豊かな感性と誠実な態度で、積極的に他者と関わることができる。

5. 意欲

看護学を主体的・創造的に学ぶ意欲を有している。

6. 表現

自分の考えを的確に表現し、伝えることができる。

「教育編成・実施方針」（カリキュラム・ポリシー）

教育理念、教育目標を基盤に打ち出したアドミッション・ポリシーを基盤に置き、ディプロマ・ポリシーに沿った能力を持つ学生の育成を目指したカリキュラム編成とするため、5つのカリキュラム・ポリシーを策定する。カリキュラムは、基礎分野、専門基礎分野、専門分野に大きく分類し、それぞれの科目内容の持つ教育的な性格、位置づけを明確にし、科目配列の順序性は、体系だった理解が容易になるための配列、時間数を配置する。

1. 基礎分野は、教養としての位置づけと、専門基礎科目を理解していく基盤とする。

人間を理解していく教育内容を「人間と科学」「人間と社会」「人間と文化」「人間と語学」に分類し科目内容を構築する。加えて人間が生活をしていく中で必要な社会性、および学びを深めるために必要な能力として、読む・書く・聞く・話すなどの能力を身につけるために必要な教育内容とする。

2. 専門基礎分野は、専門科目の内容理解の基盤とする。

必要な教育内容を「人間の理解」「健康と疾病の理解」「関係の発展」に分類し、科目内容を構築する。人間を心身両面から理解するために必要な科目と社会や医療を幅広く理解する科目を配置する。

3. 専門分野の教育内容の中心概念として、「看護実践力の育成」をおく。

専門分野は、「看護とアート」「看護の基礎」「看護の発展」「看護の実践」「看護の統合」に分類する。「看護とアート」では、癒しと芸術について、人間の内なる自然力を回復させるアートの可能性について学ぶ科目を配置する。「看護の基礎」では、看護実践の基盤となる科目を配置した。「看護の発展」では、対象の発達段階、看護の場、看護の機能の特徴から6領域（地域・在宅看護論、成人看護学、老年看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学、）に分け、それぞれの領域ごとに科目を構築する。「看護の実践」では、9領域の看護学実習科目を配置する。「看護の統合」では、学生が主体的にキャリア能力を持続的に育成し続ける学修力育成に必要な科目を配置した。

4. 学生が効率的に学修でき、成果が上がることを目指して、基礎分野・専門基礎分野・専門分野の教育内容を精選したうえで、必要最小限の教育内容とする。

5. 本カリキュラムにより取得できる看護職のキャリアは、看護師国家試験受験資格である。

「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)

本学部は、所定の卒業要件単位を修得し、建学の精神である「芸術と科学の協調」を理解し、次のような能力を備えたうえで、看護学の知識・技術を用いて社会に貢献できる学生に対し、卒業を認定し学位を授与する。

1. 主体的行動力

- ・自らの目標を設定し、それを達成するために主体的且つ意欲的に行動することができる。

2. 表現力

- ・看護の対象者の声に耳を傾け、自分の考えを学修によって獲得した知識や技術を駆使して口頭や文章によって表現し、社会の規範を遵守したうえでの確に発信することができる。

3. 社会貢献力・コラボレーション力

- ・自己と異なる考えや多様な人と協働し、獲得した知識や技術を用いて、社会のために積極的に行動し、貢献することができる。

4. 課題発見力・課題解決力

- ・看護現場にある様々な問題や課題を発見し、その解決のための方法を探求し、その成果を基に主体的に実践することができる。
- ・看護の発展に寄与できるよう、自己研鑽力と基礎的な研究能力を有する。

5. コミュニケーション力

- ・自身の考えを論理的に表現、発信し、他者と考えを交流させることができる。

6. 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)

- ・看護の対象となる人々を身体・心理・社会的な面から総合的に理解するため、豊かな教養と学問への探究心を備え、専門的な知識技術を修得している。
- ・アートを生かした癒しの看護が実践できる。
- ・多様な場における対象の看護課題に対し、科学的根拠に基づく判断ができ、解決するための実践ができる。
- ・人間の尊厳に基づく倫理観を有し、人々の多様な価値観を尊重する姿勢を身につけている。

看護学部の教育方針（2017～2021年度以降入学生）

教育目的

人間の生命や生活の質を真に理解できる感性豊かな人間性ととも、生命の尊厳と人権の尊重を基盤にした倫理観を備え、人々の健康問題の解決に向けて、保健・医療・福祉を統合した看護を実践できる能力の育成をめざす。さらにアート＝技を駆使し専門職として、看護学の発展に自律的・創造的に探求できる人材を育成する。

【教育目標】

- (1) 人間に対する豊かな感性と深い関心をもち、生命の尊厳に基づく倫理観を培い人間を尊重する態度を養う。
- (2) 個人や集団の健康問題を的確に判断し、生活の質の向上を目指した看護を創造的に実践できる能力を養う。
- (3) 看護専門職としての社会的責任を自覚し、他領域の専門職と連携・協力・調整して問題解決するためのリーダーシップを発揮する能力を養う。
- (4) 看護の実践・教育・研究の発展に資することのできる能力を養う。

「入学者受入れの方針」（アドミッション・ポリシー）

下記の能力を備えた受験生を各種選抜試験を通して入学させる。

1. 知識・理解

- ・入学後の就学に必要な基礎学力を有している。
- ・高等学校で履修する国語、数学、理科、外国語などについて、内容を理解し、高等学校卒業相当の知識を有している。

2. 思考・判断

さまざまな問題に立ち向かい、物事を多面的かつ論理的に考察することができる。

3. 関心・意欲

人間の生命と健康に深い関心を持ち、積極的に社会に貢献する意欲がある。

4. 態度

豊かな感性と誠実な態度で、積極的に他者と関わることができる。

5. 意欲

看護学を主体的・創造的に学ぶ意欲を有している。

6. 表現

自分の考えを的確に表現し、伝えることができる。

「教育編成・実施方針」（カリキュラム・ポリシー）

教育理念、教育目標を基盤に打ち出したアドミッション・ポリシーを基盤に置き、ディプロマ・ポリシーに沿った能力を持つ学生の育成を目指したカリキュラム編成とするため、5つのカリキュラム・ポリシーを策定する。カリキュラムは、基礎分野、専門基礎分野、専門分野に大きく分類し、それぞれの科目内容の持つ教育的な性格、位置づけを明確にし、科目配列の順序性は、体系だった理解が容易になるための配列、時間数を配置する。

1. 基礎分野は、教養としての位置づけと、専門基礎科目を理解していく基盤とする。

人間を理解していく教育内容を「人間と科学」「人間と社会」「人間と文化」「人間と語学」に分類し科目内容を構築する。

加えて人間が生活をしていく中で必要な社会性、および学びを深めるために必要な能力として、読む・書く・聞く・話すなどの能力を身につけるために必要な教育内容とする。

2. 専門基礎分野は、専門科目の内容理解の基盤とする。

必要な教育内容を「人間の理解」「健康と疾病の理解」「関係の発展」に分類し、科目内容を構築する。人間を心身両面から理解するために必要な科目と社会や医療を幅広く理解する科目を配置する。さらに癒しと芸術について、人間の内なる自然力を回復させるアートの可能性について学ぶ科目を配置する。

3. 専門分野の教育内容の中心概念として、「看護実践力の育成」をおく。

専門分野は、「看護の基盤となる領域」「看護を発展させる領域」「看護を応用する領域」看護の技を習得する領域」に分類する。「看護の基盤となる領域」では、看護実践の基盤となる科目を配置した。「看護を発展させる領域」では、対象の発達段階、看護の場、看護の機能の特徴から6領域（成人看護学、老年看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学、在宅看護論）に分け、それぞれの領域ごとに科目を構築する。「看護の技を習得する領域」では、8領域の看護学実習科目を配置する。「看護を応用する領域」では、学生が主体的にキャリア能力を持続的に育成し続ける学修力育成に必要な科目を配置した。

4. 学生が効率的に学修でき、成果が上がることを目指して、基礎分野・専門基礎分野・専門分野の教育内容を精選したうえで、必要最小限の教育内容とする。

5. 本カリキュラムにより取得できる看護職のキャリアは、看護師国家試験受験資格である。

「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)

宝塚大学看護学部看護学科は、所定の卒業要件単位を修得し、建学の精神である「芸術と科学の協調」を理解し、次のような能力、資質を備えたうえで、看護学の知識・技術を用いて社会に貢献できる学生に対し、卒業を認定し学位を授与する。

1. 主体的行動力

- ・自らの目標を設定し、それを達成するために主体的且つ意欲的に行動することができる。

2. 表現力

- ・看護の対象者の声に耳を傾け、自分の考えを学修によって獲得した知識や技能を駆使して口頭や文章によって表現し、社会の規範を遵守したうえでの確に発信することができる。

3. 社会貢献力・コラボレーション力

- ・自己と異なる考えや多様な人と協働し、獲得した知識や技能を用いて、社会のために積極的に行動し、貢献することができる。

4. 課題発見力・課題解決能力

- ・看護現場にある様々な問題や課題を発見し、その解決のための方法を探求し、その成果を基に主体的に実践することができる。
- ・看護の発展に寄与できるよう、自己研鑽力と基礎的な研究能力を有する。

5. コミュニケーション力

- ・自身の考えを論理的に表現、発信し、他者と考えを交流させることができる。

6. 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)

- ・看護の対象となる人々を身体・心理・社会的な面から総合的に理解するため、豊かな教養と学問への探究心を備え、専門的な知識技術を修得している。
- ・アートを生かした癒しの看護が実践できる。
- ・多様な場における対象の看護課題に対し、科学的根拠に基づく判断ができ、解決するための実践ができる。
- ・人間の尊厳に基づく倫理観を有し、人々の多様な価値観を尊重する姿勢を身につけている。

シラバスについて

シラバスは学生に単位取得のための履修科目選択の情報を提供する履修科目一覧としての役割と、履修する個々の授業科目について科目の目標、授業内容などの授業計画を示すとともに、学生の教室外における予習などについての指示を与える役割があります。

大学では、単位制をとっており、1単位は、①教員が教室などで授業を行う時間、②学生が事前・事後に教室外において予習・復習を行う時間の合計で45時間の学修を要する教育内容をもって構成されています。(大学設置基準第21条)

授業方法	授業時間	教室外学習
講義・演習	15～30時間	30～15時間
実験・実習	30～45時間	15時間

科目の単位を取得するには、授業科目は、授業回数の3分の2以上出席していなければ受験資格が得られません。実習科目は5分の4以上の出席が無ければ単位取得資格が得られません。

「StudentGuide Book 2022」の履修方法にも目を通して受験資格、単位取得に必要な条件を確認してください。

皆さんは、自分の将来に向け目標を掲げていることでしょう。それぞれの進路に合わせ、履修計画を立てる上で、シラバスを十分に活用してください。

2023年4月1日

宝塚大学
看護学部

2023(令和5)年度 学年暦

宝塚大学 看護学部
【大阪梅田キャンパス】

		日	月	火	水	木	金	土	備 考	日	月	火	水	木	金	土	備 考		
2023年4月								1	4/1 入学式 4/3~6 新入生ガイダンス期間	10月		1	2	3	4	5	6	7	10/2~4 履修登録修正期間 臨地実習(9月~3月)3年次生
		2	3	4	5	6	7	8	4/5 前期履修届提出締切日 4/7 前期授業開始			8	9	10	11	12	13	14	10/9 平常授業実施
		9	10	11	12	13	14	15	4/14~4/15 履修登録修正期間			15	16	17	18	19	20	21	
		16	17	18	19	20	21	22			22	23	24	25	26	27	28		
		23	24	25	26	27	28	29	4/29 平常授業実施			29	30	31					
		30																	
5月			(1)	(2)	3	4	5	(6)	臨地実習(5月~7月)4年次生 5/23 創立記念日(平常授業実施)	11月					1	2	3	4	11/3 平常授業実施
		7	8	9	10	11	12	13				5	6	7	8	9	10	11	
		14	15	16	17	18	19	20				12	13	14	15	16	17	18	
		21	22	23	24	25	26	27				19	20	21	22	23	24	25	11/23 平常授業実施
		28	29	30	31							26	27	28	29	30			
6月					1	2	3		12月						1	2	年末年始休業(12/28~1/5)		
		4	5	6	7	8	9			10		3	4	5	6	7		8	9
		11	12	13	14	15	16			17		10	11	12	13	14		15	16
		18	19	20	21	22	23			24		17	18	19	20	21		22	23
		25	26	27	28	29	30					24	25	26	27	(28)		(29)	(30)
7月								1	総合実習(7/3~7/28のうち2週間)4年次生 7/17 平常授業実施 7/27 前期授業終了 7/28 補講日 7/29~8/4 前期定期試験	2024年1月			1	(2)	(3)	(4)	(5)	6	1/16~17 補講日 1/19 後期授業終了 1/20 補講日 1/22~1/27 後期定期試験 1/29 4年次生 後期追・再試験
		2	3	4	5	6	7	8				7	8	9	10	11	12	13	
		9	10	11	12	13	14	15				14	15	16	17	18	19	20	
		16	17	18	19	20	21	22				21	22	23	24	25	26	27	
		23	24	25	26	27	28	29				28	29	30	31				
		30	31																
8月			1	2	3	4	5	夏季休業(8/11~17) 8/19~8/24 前期追・再試験 基礎看護学実習Ⅰ(8/28~9/8のうち1週間)1年次生	2月					1	2	3	基礎看護学実習Ⅱ(2/5~3/1のうち3週間)2年次生		
		6	7	8	9	10	11			(12)		4	5	6	7	8		9	10
		13	(14)	(15)	(16)	(17)	18			19		11	12	13	14	15		16	17
		20	21	22	23	24	25			26		18	19	20	21	22		23	24
		27	28	29	30	31						25	26	27	28	29			
9月						1	2	9/16~18 宝翔祭期間(予定) うち1日宝翔祭(予定) 9/20 9月卒業生学位記授与式(予定) 9/19~22 後期ガイダンス 9/22 後期履修届提出締切日 9/25 後期授業開始	3月						1	2	3/4~3/7 1・2年次生 後期追・再試験 3/9 又は 3/16 学位記授与式(予定) 次年度ガイダンス及び健康診断 (3/11~30の間のいずれかに設定予定)		
		3	4	5	6	7	8			9		3	4	5	6	7		8	9
		10	11	12	13	14	15			(16)		10	11	12	13	14		15	16
		17	18	19	20	21	22			23		17	18	19	20	21		22	23
		24	25	26	27	28	29			30		24	25	26	27	28		29	30

	日	月	火	水	木	金	土
前期	15	15	15	15	15	15	15
後期	15	15	15	15	15	15	15

- ... 授業日
- ... 定期試験
- ... 祝日(平常授業実施日)
- ... 日曜・祝日(休業日)
- ... 大学施設閉館日

卒業要件

本学を卒業するためには4年以上在学し、下記の単位を取得しなければならない。

看護学部
看護学科

2022年度以降入学生

基礎分野 27単位 以上
専門基礎分野 30単位 以上
専門分野 71単位 以上
計 128単位 以上

2017～2021年度入学生

基礎分野 28単位 以上
専門基礎分野 29単位 以上
専門分野 71単位 以上
計 128単位 以上

科目ナンバリングについて

体系的履修の指針となるように、全ての授業科目にアルファベットと5桁の数字からなる科目ナンバリングを付番しています。科目ナンバリングは以下の規則によって付番されています。

科目領域	レベル	科目形式	科目番号 (連番)
KGE=基礎分野 KSB=専門基礎分野 KSP=専門分野	1=1年次レベル 2=2年次レベル 3=3年次レベル 4=4年次レベル	1=必修 2=選択必修 3=選択	1=講義 2=講義・演習 3=演習 4=実習
	+	+	+
			01～99

アクティブラーニングの種別について

アクティブラーニングの要素を含む手法を取り入れる授業回については、以下のアクティブラーニングの種別を数字で授業計画AL欄に記載しています。

- 1 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業
- 2 ディスカッション、ディベート
- 3 グループワーク
- 4 プレゼンテーション
- 5 実習、フィールドワーク
- 6 その他 (上記1～5に当てはまらないアクティブラーニング)

実務家教員一覧（2022年度以降入学生）

担当教員	専任／非常勤	2023 授業科目	科目ナンバ	必修／選択	単位数	時間数	実務経験の概要	実務経験の反映内容
北島 洋子	専任	基礎看護学概論	KSP11101	必修	2	30	大学病院で看護師として小児科病棟に勤務し、血液疾患や悪性疾患の看護に携わった。また、腎泌尿器専門病院に勤務し、人工透析や糖尿病の看護を経験した。	小児期から成人期、老年期にわたる各発達段階に応じた看護を提供するための、基礎的な知識と技術、看護専門職としての基盤となる考え方を修得するための学習を支援する。
		看護理論	KSP11102	必修	1	15		
		看護コミュニケーション論	KSP11202	必修	1	30		
		基礎看護学援助技術 I	KSP11203	必修	2	60		
		基礎看護学援助技術 II	KSP11204	必修	2	60		
		基礎看護学実習 I	KSP11401	必修	1	45		
神寶 ひろみ	専任	基礎看護学援助技術 I	KSP11203	必修	2	60	総合病院、大学病院で循環器 (CCU) で循環器外科・内科、消化器外科、救命救急病棟で看護師として、また看護科長補佐として臨床経験がある。 また、初治療では緊急アンギオカテーテル (心臓・脳外科・消化器)、消化器内視鏡検査・治療に携わり、内視鏡技師の資格を得て看護を経験した。	自身の看護実践の経験をもとに、健康障害を持つ対象に対して、「より健康に生きる」ための援助、その人の健康の状態や援助の必要性をしっかりと読み取ることが「できる、看護することの意味や喜びを看護師も感じ取れる基本姿勢を身に付けられるよう支援します。
		基礎看護学援助技術 II	KSP11204	必修	2	60		
		基礎看護学実習 I	KSP11401	必修	1	45		
		基礎看護学実習 II	KSP21401	必修	3	135		
瀬山 由美子	専任	基礎看護学援助技術 I	KSP11203	必修	2	60	総合病院で看護師として脳外科、内科、手術部、救命救急の臨床経験がある。また、内科、腎泌尿器科の診療所で内視鏡検査の看護を経験した。	疾患の重症度や発達段階にあわせた看護を提供するために必要な基本的な知識と技術の習得を支援する。命の尊厳と心の尊重を基軸として安全で安楽な看護の修得を支援する。
		基礎看護学援助技術 II	KSP11204	必修	2	60		
		基礎看護学実習 I	KSP11401	必修	1	45		
		基礎看護学実習 II	KSP21401	必修	3	135		
森永 聡美	専任	基礎看護学援助技術 I	KSP11203	必修	2	60	地域拠点病院、大学病院、特別養護老人ホーム、有床クリニックにて、形成外科、皮膚科、婦人科、整形外科、消化器外科での看護実践を経験した。 臨床指導者・現任教育委員として、学生の実習教育・新人看護師の教育に携わった。	自身の看護実践の経験をもとに、対象者の生活を見据えた援助ができるよう、具体的事例を通じた知識・技術を伝えていきたい。 自己効力理論をベースとして、学生の主体的な学習を支援したいと考えている。
		基礎看護学援助技術 II	KSP11204	必修	2	60		
		基礎看護学実習 I	KSP11401	必修	1	45		
		基礎看護学実習 II	KSP21401	必修	3	135		
國松 秀美	専任	ヘルスアセスメント	KSP21202	必修	1	30	総合病院で看護師、認定看護師、看護師長として、循環器・呼吸器内科・救命救急センター・集中治療室での臨床経験がある。シミュレーションを用いたスタッフ教育を実践してきた。また、新人看護師専任師長として、新人看護師教育に携わっている。	健康障害を持つ人々への看護について、臨床での事例を踏まえて、患者の気がかりを中心とした情報を解釈・分析し、科学的根拠に基づいた看護が実践できるよう教授する。
		看護過程展開の基礎	KSP21203	必修	1	30		
		基礎看護学実習 I	KSP11401	必修	1	45		
		基礎看護学実習 II	KSP21401	必修	3	135		

担当教員	専任／非常勤	2023 授業科目	科目ナンバ	必修／選択	単位数	時間数	実務経験の概要	実務経験の反映内容
前中 夕紀	専任	ヘルスアセスメント	KSP21202	必修	1	30	看護師として、総合病院の手術室、救命救急センター等の臨床経験がある。臨床ではDMATとして活動し、現在も国際緊急援助隊として災害看護に携わっている。	臨床での実践経験をもとに、基礎的な看護の知識や技術を中心に根拠に基づいた看護が行えるよう教授する。
		看護過程展開の基礎	KSP21203	必修	1	30		
		基礎看護学実習 I	KSP11401	必修	1	45		
		基礎看護学実習 II	KSP21401	必修	3	135		
桶河 華代	専任	地域・在宅看護学概論	KSP21101	必修	2	30	大学病院で、病院看護師として脳外科病棟等で臨床経験がある。また、公立保育所で、保育所看護師として、乳幼児に対する保育や健康管理に携わる。さらに、地域で生活する人々に訪問看護師として在宅看護に携わる。	地域で生活する人々に対しての看護と多職種で共同する看護の役割を教授する。すべての年齢、疾患を対象とした健康の保持・増進と健康段階に合わせた看護の提供を教授する。
		地域・在宅看護学援助論 I	KSP21102	必修	1	15		
		地域・在宅看護学援助論 II	KSP21103	必修	2	30		
中川 ひろみ	専任	成人看護学概論	KSP21104	必修	1	15	大学病院で看護師、認定看護師、看護師長として内科と外科、集中治療室・救急部での臨床経験がある。成人期にある人々を対象とした看護実践と教育、指導、研究に携わってきた。	健康障害を持つ急性期、慢性期、終末期にある成人期の人々への看護について、臨床での事例を踏まえて、問題解決のために必要な概念や理論を用いて、看護のポイントを教授する。
		成人看護学援助論 I	KSP21204	必修	2	60		
		成人看護学援助論 II	KSP21205	必修	1	30		
房間 美恵	専任	成人看護学概論	KSP21104	必修	1	15	総合病院で看護師、看護師長として腎臓内科や免疫内科、内分泌内科、呼吸器内科、泌尿器科などの臨床経験があり、看護学生の実習指導に携わってきた。	実臨床での具体的な事例をもとに、慢性的”病い”をかかえて生きる人々がもつ課題を理解し、問題解決への取り組みができるよう看護理論を踏まえながら解説を行う。
		成人看護学援助論 I	KSP21204	必修	2	60		
		成人看護学援助論 II	KSP21205	必修	1	30		
浅井 直子	専任	成人看護学概論	KSP21104	必修	1	15	看護師として医療型障害児入所施設にて、呼吸器内科の臨床経験がある。呼吸療法認定師として、スタッフ教育に携わってきた。	臨床での経験をもとに、呼吸ケアの知識や技術についての学習支援を促す。
		成人看護学援助論 I	KSP21204	必修	2	60		
		成人看護学援助論 II	KSP21205	必修	1	30		
小林 いずみ	専任	成人看護学概論	KSP21104	必修	1	15	看護師として民間病院の混合内科や腎臓内科の経験がある。	患者が慢性疾患に至った経緯を把握し、治療や看護、退院後に患者のライフスタイルがスムーズに変容できる援助を自ら学ぶサポートを行う。
		成人看護学援助論 I	KSP21204	必修	2	60		
		成人看護学援助論 II	KSP21205	必修	1	30		
松尾 ひとみ	専任	小児看護学概論	KSP21106	必修	2	30	看護師として、600床の民間病院で3年間外科・NICUを経験後、小児専門病院で循環器、NICU、ICU、感染症を10年経験した。実習指導者や新人指導を経験し、旧日本看護協会看護研修学校に進学した。教員となつてからは、臨床の小児看護師との事例検討や研究の相談を行ってきた。	小児看護の実践の根拠として有益な知識や理論を教授し、初学者でも実習で理論を活用できるよう、知識と実践の統合を促進する教育方法を組み立てている。
		小児看護学援助論 I	KSP21207	必修	1	30		
鷺尾 弘枝	専任	母性看護学概論	KSP21107	必修	2	30	大学附属病院、病院、診療所において助産師としての臨床経験がある。また、産科だけでなく、婦人科での臨床経験がある。さらに、病棟管理者として、臨床指導者として、看護実践と教育、指導、研究に携わってきた。	健康障害を持つ女性及び周産期にある母子の生理的変化、身体的・精神的・社会的な特徴と看護ケアについて教授する。また、臨床での事例を踏まえて、問題解決のために必要な概念や理論を用いて、看護のポイントを教授する。

担当教員	専任／ 非常勤	2023 授業科目	科目ナンバ-	必修／ 選択	単位数	時間数	実務経験の概要	実務経験の反映内容
東尾 公子	専任	母性看護学援助論 I	KSP21208	必修	1	30	助産師として、総合病院の産婦人科病棟、助産師外来の臨床経験がある。	臨床での経験を踏まえ、ウェルネスの視点で周産期の対象と新生児の看護について教授する。
西垣 里志	専任	精神看護学概論	KSP21108	必修	2	30	精神科病院で、看護師、認定看護師としての実務経験がある。急性期、慢性期、外来、訪問、家族などを対象とした臨床経験があり、看護学生の実習指導にも携わってきた	精神障害をもつ人々が、病をもって生きることの生きづらさやそれを支える家族の支援について、臨床経験を踏まえ具体的事例を通して、多面的に捉えられるように教授する。
		精神看護学援助論 I	KSP21209	必修	1	15		
		精神看護学援助論 II	KSP21210	必修	1	15		
棕本 美帆	専任	精神看護学概論	KSP21108	必修	2	30	総合病院で、看護師として精神科や身体科に勤務し、身体合併のある精神障害をもつ人に対する看護、脳卒中の看護を経験した。また産業看護師や保健師として、地域で生活を送る人々に対する健康管理や健康相談の実務経験がある。	身体的・精神的・社会的側面など、精神障がいをもつ人を多面的に捉え支援する精神看護について教授する。
		精神看護学援助論 I	KSP21209	必修	1	15		
		精神看護学援助論 II	KSP21210	必修	1	15		

カリキュラム単位数合計 33

実務家教員一覧（2017年度～2021年度入学生）

担当教員	専任／ 非常勤	2023 授業科目	科目ナンバー	必修／ 選択	単位数	時間数	実務経験の概要	実務経験の反映内容
中川 ひろみ	専任	成人看護学Ⅳ (援助方法論)	KSP31301	必修	2	60	大学病院で看護師、認定看護師、看護師長として内科と外科、集中治療室・救急部での臨床経験がある。成人期にある人々を対象とした看護実践と教育、指導、研究に携わってきた。	健康障害を持つ急性期、慢性期、終末期にある成人期の人々への看護について、臨床での事例を踏まえて、問題解決のために必要な概念や理論を用いて、看護のポイントを教授する。
		成人看護学実習Ⅰ (急性期・回復期)	KSP31401	必修	3	135		
		成人看護学実習Ⅱ (慢性期・終末期)	KSP31402	必修	3	135		
房間 美恵	専任	成人看護学Ⅳ (援助方法論)	KSP31301	必修	2	60	総合病院で看護師、看護師長として腎臓内科や免疫内科、内分泌内科、呼吸器内科、泌尿器科などの臨床経験があり、看護学生の実習指導に携わってきた。	実臨床での具体的な事例をもとに、慢性の”病い”をかかえて生きる人々をもつ課題を理解し、問題解決への取り組みができるよう看護理論を踏まえながら解説を行う。
		成人看護学実習Ⅰ (急性期・回復期)	KSP31401	必修	3	135		
		成人看護学実習Ⅱ (慢性期・終末期)	KSP31402	必修	3	135		
浅井 直子	専任	成人看護学Ⅳ (援助方法論)	KSP31301	必修	2	60	看護師として医療型障害児入所施設にて、呼吸器内科の臨床経験がある。呼吸療法認定師として、スタッフ教育に携わってきた。	臨床での経験をもとに、呼吸ケアの知識や技術についての学習支援を促す。
		成人看護学実習Ⅰ (急性期・回復期)	KSP31401	必修	3	135		
		成人看護学実習Ⅱ (慢性期・終末期)	KSP31402	必修	3	135		
小林 いずみ	専任	成人看護学Ⅳ (援助方法論)	KSP31301	必修	2	60	看護師として民間病院の混合内科や腎臓内科の経験がある。	患者が慢性疾患に至った経緯を把握し、治療や看護、退院後に患者のライフスタイルがスムーズに変容できる援助を自ら学ぶサポートを行う。
		成人看護学実習Ⅰ (急性期・回復期)	KSP31401	必修	3	135		
		成人看護学実習Ⅱ (慢性期・終末期)	KSP31402	必修	3	135		
松尾 ひとみ	専任	小児看護学Ⅳ (小児のアセスメントとケア論)	KSP31302	必修	1	30	看護師として、600床の民間病院で3年間外科・NICUを経験後、小児専門病院で循環器、NICU、ICU、感染症を10年経験した。実習指導者や新人指導を経験し、旧日本看護協会看護研修学校に進学した。教員となつてからは、臨床の小児看護師との事例検討や研究の相談を行ってきた。	小児看護の実践の根拠として有益な知識や理論を教授し、初学者でも実習で理論を活用できるよう、知識と実践の統合を促進する教育方法を組み立てている。
		小児看護学実習	KSP31404	必修	2	90		
西村 郁香	専任	小児看護学Ⅳ (小児のアセスメントとケア論)	KSP31302	必修	1	30	公立病院において看護師として、脳神経内科の臨床経験がある。また公立専門病院において看護師として、救急部門と重症心身障がい児病棟での臨床経験がある。AHAのBLS、ACLSを活用し、病院内の講習会・地域への普及活動をしていた。	臨床での経験を踏まえ障がいのある小児とその家族の看護について教授する。
		小児看護学実習	KSP31404	必修	2	90		
鷺尾 弘枝	専任	母性看護学実習	KSP31405	必修	2	90	大学附属病院、病院、診療所において助産師としての臨床経験がある。また、産科だけでなく、婦人科での臨床経験がある。さらに、病棟管理者として、臨床指導者として、看護実践と教育、指導、研究に携わってきた。	健康障害を持つ女性及び周産期にある母子の生理的変化、身体的・精神的・社会的な特徴と看護ケアについて教授する。また、臨床での事例を踏まえて、問題解決のために必要な概念や理論を用いて、看護のポイントを教授する。

担当教員	専任／ 非常勤	2023 授業科目	科目ナンバ-	必修／ 選択	単位数	時間数	実務経験の概要	実務経験の反映内容
東尾 公子	専任	母性看護学実習	KSP31405	必修	2	90	助産師として、総合病院の産婦人科病棟、助産師外来の臨床経験がある。	臨床での経験を踏まえ、ウェルネスの視点で周産期の対象と新生児の看護について教授する。
園田 希	専任	母性看護学Ⅳ (周産期ケアマネジメント)	KSP31202	必修	1	30	助産師として総合周産期母子医療センター (NICU) や総合病院の産婦人科病棟、有床診療所での産科病棟や助産師外来の臨床経験がある。	臨床での経験を踏まえ、周産期の母子とその家族が持つ力を最大限発揮するための看護について、具体的に教授する。
		母性看護学実習	KSP31405	必修	2	90		
西垣 里志	専任	精神看護学Ⅳ (地域における援助)	KSP31101	必修	1	30	精神科病院で、看護師、認定看護師としての実務経験がある。急性期、慢性期、外来、訪問、家族などを対象とした臨床経験があり、看護学生の実習指導にも携わってきた。	精神障害をもつ人々が、病をもって生きることの生きづらさやそれを支える家族の支援について、臨床経験を踏まえ具体的事例を通して、多面的に捉えられるように教授する。
		精神看護学実習	KSP31406	必修	2	90		
棕本 美帆	専任	精神看護学Ⅳ (地域における援助)	KSP31101	必修	1	30	総合病院で、看護師として精神科や身体科に勤務し、身体合併のある精神障害をもつ人に対する看護、脳卒中の看護を経験した。また産業看護師や保健師として、地域で生活を送る人々に対する健康管理や健康相談の実務経験がある。	身体的・精神的・社会的側面など、精神障がいをもつ人を多面的に捉え支援する精神看護について教授する。
		精神看護学実習	KSP31406	必修	2	90		
桶河 華代	専任	在宅看護論Ⅲ (在宅ケアの演習)	KSP31303	必修	1	30	大学病院で、病院看護師として脳外科病棟等で臨床経験がある。また、公立保育所で、保育所看護師として、乳幼児に対する保育や健康管理に携わる。さらに、地域で生活する人々に訪問看護師として在宅看護に携わる。	地域で生活する人々に対しての看護と多職種で共同する看護の役割を教授する。すべての年齢、疾患を対象とした健康の保持・増進と健康段階に合わせた看護の提供を教授する。
		在宅看護論Ⅳ (地域ネットワーク論)	KSP31203	必修	1	30		
		在宅看護論実習	KSP31407	必修	2	90		
北島 洋子	専任	看護教育学	KSP42101	選択	1	15	大学病院で看護師として小児科病棟に勤務し、血液疾患や悪性疾患の看護に携わった。また、腎泌尿器専門病院に勤務し、人工透析や糖尿病の看護を経験した。	小児期から成人期、老年期にわたる各発達段階に応じた看護を提供するための、基礎的な知識と技術、看護専門職としての基盤となる考え方を修得するための学習を支援する。

カリキュラム単位数合計

22

教育課程（2022年度以降入学生）

区分	2022年度授業科目	科目ナンバー	配当 年次	単位数		時間 数	備考			
				必修	選択		必修	選択	卒業要件	
基礎分野	人間と科学	看護とサイエンス	KGE11101	1前	1	30	必修4単位	選択12単位以上	必修12単位 選択必修3単位以上 選択12単位以上 合計27単位以上	
		心理学への招待	KGE13101	1後		2				30
		統計学入門	KGE11201	1後	1					30
		ヒトと生物学	KGE11102	1前	2					30
		環境と生態	KGE13102	1前		2				30
		化学	KGE13103	1前		2				30
	映像表現の理論と実践	KGE23101	2前		1	30				
	人間と社会	キャリア教育Ⅰ	KGE11103	1前	1		30			必修6単位
		キャリア教育Ⅱ	KGE21101	2前	1		30			
		人間関係概論	KGE11104	1前	2		30			
		発達心理学	KGE23102	2前		2	30			
		家族社会学	KGE11105	1後	2		30			
		地域・福祉・ボランティア	KGE13104	1後		2	30			
		ジェンダー論	KGE23103	2後		2	30			
		ダイバーシティと共生	KGE23104	2前		2	30			
	人間と文化	医療ジャーナリズム論	KGE23105	2後		2	30			
		法律入門	KGE13105	1前		2	30			
		デッサンと表現	KGE13201	1後		1	30			選択必修1単位
		茶道と香道の理論と表現	KGE12201	1前		1	30			
	生け花の理論と表現	KGE12202	1前		1	30				
	書芸の理論と表現	KGE12203	1前		1	30				
	人間と語学	英語Ⅰ	KGE11301	1前	1		30			必修2単位
		英語Ⅱ	KGE11302	1後	1		30			
		英会話Ⅰ	KGE12301	1前		1	30			選択必修2単位
		英会話Ⅱ	KGE12302	1後		1	30			
		英語Ⅲ	KGE22301	2前		1	30			
		英語Ⅳ	KGE22302	2後		1	30			
		フランス語Ⅰ	KGE12303	1前		1	30			
		フランス語Ⅱ	KGE12304	1後		1	30			
		中国語会話Ⅰ	KGE12305	1前		1	30			
		中国語会話Ⅱ	KGE12306	1後		1	30			
		韓国語Ⅰ	KGE12307	1前		1	30			
韓国語Ⅱ		KGE12308	1後		1	30				
イタリア語Ⅰ		KGE12309	1前		1	30				
イタリア語Ⅱ		KGE12310	1後		1	30				
ドイツ語Ⅰ		KGE12311	1前		1	30				
ドイツ語Ⅱ		KGE12312	1後		1	30				
専門基礎分野	人間の理解	医療行動科学	KSB13101	1後		2	必修5単位			
		死生学	KSB23101	2前		1		15		
		癒しと芸術	KSB11101	1前	2			30		
		栄養と健康	KSB11102	1後	1			30		
		医療概論（生命倫理）	KSB11103	1後	2			30		
	健康と疾病の理解	医療人類学	KSB23102	2前		2	30	必修16単位		
		人体構造機能論Ⅰ	KSB11104	1前	1		30			
		人体構造機能論Ⅱ	KSB11105	1前	1		30			
		人体構造機能論Ⅲ	KSB11106	1後	1		30			
		病態治療学Ⅰ	KSB11107	1後	2		30			
		病態治療学Ⅱ	KSB21101	2前	2		30			
		病態治療学Ⅲ	KSB21102	2前	2		30			
		生化学	KSB21103	2前	1		30			
		臨床薬理学	KSB21104	2前	1		30			
		感染と免疫	KSB11108	1後	1		30			
		疫学・保健統計	KSB21201	2後	2		30			
		公衆衛生学	KSB21105	2前	1		30			
		運動と健康Ⅰ	KSB13301	1前		1	30			
		運動と健康Ⅱ	KSB13302	1後		1	30			
		衛生関係法規	KSB21106	2前	1		30			
		関係の発展	情報処理Ⅰ	KSB11201	1前	1			30	必修3単位
			情報処理Ⅱ	KSB13201	1後		1		30	
			社会保障と福祉	KSB21107	2後	2			30	
			医療と経済	KSB23103	2後		2		30	
臨床心理学	KSB23104		2前		2	30				

区分	2022年度授業科目	科目ナンバー	配当 年次	単位数		時間 数	備考			
				必修	選択		必修	選択	卒業要件	
専 門 分 野	看護とアート	看護とアートⅠ（治療環境とアメニティ）	KSP11201	1後	1		30	必修2単位	—	必修68単位 選択必修3単位以上 合計71単位以上
		看護とアートⅡ（治療環境とアメニティ）	KSP21201	2後	1		30			
		看護とアートⅢ（笑い療法）	KSP22201	2前		1	15	選択必修 2単位		
		看護とアートⅣ（音楽療法）	KSP22202	2前		1	15			
		看護とアートⅤ（絵画療法）	KSP22203	2前		1	15			
		看護とアートⅥ（陶芸療法）	KSP22204	2後		1	15			
		看護とアートⅦ（セラピーメイク）	KSP22205	2後		1	15			
		看護とアートⅧ（アロマセラピー・タッチケア）	KSP22206	2後		1	15			
		看護とアートⅨ（推拿）	KSP22207	2後		1	15			
	看護の基礎	基礎看護学概論	KSP11101	1前	2		30	必修11単位		
		看護理論	KSP11102	1後	1		15			
		看護コミュニケーション論	KSP11202	1前	1		30			
		基礎看護学援助技術Ⅰ	KSP11203	1前	2		60			
		基礎看護学援助技術Ⅱ	KSP11204	1後	2		60			
		ヘルスアセスメント	KSP21202	2前	1		30			
		看護過程展開の基礎	KSP21203	2後	1		30			
	看護マネジメント論	KSP31101	3前	1		30				
	看護の発展	地域・在宅看護学概論	KSP21101	2前	2		30	必修28単位		
		地域・在宅看護学援助論Ⅰ	KSP21102	2後	1		15			
		地域・在宅看護学援助論Ⅱ	KSP21103	2後	2		30			
		地域・在宅看護学援助論Ⅲ	KSP31201	3前	1		30			
		成人看護学概論	KSP21104	2前	1		15			
		成人看護学援助論Ⅰ	KSP21204	2後	2		60			
		成人看護学援助論Ⅱ	KSP21205	2後	1		30			
		成人看護学援助論Ⅲ	KSP31202	3前	2		60			
		老年看護学概論	KSP21105	2前	2		30			
		老年看護学援助論Ⅰ	KSP21206	2後	1		30			
		老年看護学援助論Ⅱ	KSP31203	3前	1		30			
		小児看護学概論	KSP21106	2前	2		30			
		小児看護学援助論Ⅰ	KSP21207	2後	1		30			
		小児看護学援助論Ⅱ	KSP31204	3前	1		30			
		母性看護学概論	KSP21107	2前	2		30			
		母性看護学援助論Ⅰ	KSP21208	2後	1		30			
		母性看護学援助論Ⅱ	KSP31205	3前	1		30			
		精神看護学概論	KSP21108	2前	2		30			
		精神看護学援助論Ⅰ	KSP21209	2後	1		15			
精神看護学援助論Ⅱ		KSP21210	2後	1		15				
看護の実践	基礎看護学実習Ⅰ	KSP11401	1前	1		45	必修23単位			
	基礎看護学実習Ⅱ	KSP21401	2後	3		135				
	地域・在宅看護学実習	KSP31401	3後・4前	2		90				
	成人・老年看護学実習Ⅰ	KSP31402	3後・4前	3		0				
	成人・老年看護学実習Ⅱ	KSP31403	3後・4前	2		0				
	成人・老年看護学実習Ⅲ	KSP31404	3後・4前	3		0				
	小児看護学実習	KSP31405	3後・4前	2		90				
	母性看護学実習	KSP31406	3後・4前	2		90				
	精神看護学実習	KSP31407	3後・4前	2		90				
	看護とアート実習	KSP31408	3後	1		45				
総合実習	KSP41401	4前	2		90					
看護の統合	看護研究Ⅰ	KSP31206	3前	1		30	必修2単位			
	看護研究Ⅱ	KSP41201	4前	1		30				
	国際看護活動論	KSP42101	4後		1	15	選択必修 1単位			
	災害看護活動論	KSP42102	4後		1	15				
	チーム医療論	KSP42103	4後		1	15				
	看護の生涯教育論	KSP42104	4後		1	15	必修2単位			
	統合看護演習Ⅰ	KSP31301	3前	1		15				
統合看護演習Ⅱ	KSP41301	4前	1		15					

教育課程（2019～2021年度入学生）

区分	授業科目	科目ナンバー	配当 年次	単位数		時間 数	備考			
				必修	選択		必修	選択	卒業要件	
基礎分野	人間と科学	生きた人間学	KGE11101	1後	2	30	必修6単位	選択8単位以上 ※選択必修科目群より 選択することも可	必修16単位 選択必修4単位以上 選択8単位以上 合計28単位以上	
		統計学入門	KGE11201	1後	2	30				
		論理の世界	KGE13101	1前	2	30				
		心理学への招待	KGE13102	1前	2	30				
		情報心理学	KGE13103	1前	2	30				
		ヒトと生物学	KGE11102	1前	2	30				
	人間と社会	環境と生態	KGE13104	1前	2	30	必修2単位			
		化学	KGE13105	1前	2	30				
		キャリア教育Ⅰ	KGE11103	1前	1	30				
		キャリア教育Ⅱ	KGE21101	2前	1	30				
		人間関係概論	KGE13106	1前	2	30				
		教育学概論	KGE23101	2前	2	30				
		発達心理学	KGE23102	2前	2	30				
		ジェンダー論	KGE23103	2後	2	30				
		情報化と社会	KGE13107	1前	2	30				
		民俗学	KGE23104	2後	2	30				
		メディア社会学	KGE13108	1後	2	30				
		医療ジャーナリズム論	KGE23105	2前	2	30				
	人間と文化	ヘルスケア・マーケティング	KGE13109	1前	2	30	必修2単位			
		生活の中の法律	KGE13110	1前	2	30				
		文芸論	KGE13111	1後	2	30				
		文章表現法Ⅰ	KGE11103	1前	2	30				
		文章表現法Ⅱ	KGE33101	3前	2	30				
		ファッションアートサーヴェイ	KGE13112	1前	2	30				
		マスコミと報道	KGE13113	1前	2	30				
	人間と語学	西洋美術の源流	KGE13114	1前	2	30	選択必修2単位			
		伝統芸術表現研究Ⅰ（茶道と香道の理論と表現）	KGE12201	1前	2	30				
		伝統芸術表現研究Ⅱ（生け花の理論と表現）	KGE12202	1前	2	30				
		伝統芸術表現研究Ⅲ（書芸術の理論と表現）	KGE12203	1前	2	30				
		英語Ⅰ（Reading1）	KGE11301	1通	2	60				必修6単位
		英語Ⅱ（Writing1）	KGE21301	2通	2	60				
	英会話Ⅰ（Listening&Speaking1）	KGE11302	1通	2	60					
	英会話Ⅱ（Listening&Speaking2）	KGE22301	2通	2	60					
英語Ⅲ（Reading2）	KGE22302	2通	2	60						
英語Ⅳ（Writing2）	KGE22303	2通	2	60						
人間の理解	フランス語Ⅰ	KGE12301	1通	2	60	選択必修2単位				
	フランス語Ⅱ	KGE22304	2通	2	60					
	中国語会話Ⅰ	KGE12302	1通	2	60					
	中国語会話Ⅱ	KGE22305	2通	2	60					
	ビジネス中国語	KGE12303	1通	2	60					
	イタリア語Ⅰ	KGE12304	1通	2	60					
	イタリア語Ⅱ	KGE22306	2通	2	60					
	ドイツ語Ⅰ	KGE12305	1通	2	60					
	ドイツ語Ⅱ	KGE22307	2通	2	60					
	専門基礎分野	医療概論（生命倫理）	KSB11101	1後	2		30	必修6単位		
		医療行動科学	KSB13101	1後	2		30			
		生涯教育論	KSB23101	2後	2		30			
		癒しと芸術	KSB21101	2前	2		30			
		健康と疾病の理解	栄養と健康	KSB11102	1後		2	30	必修14単位	
人体構造機能論Ⅰ（人体の構造と機能）			KSB11103	1前	2	60				
人体構造機能論Ⅱ（人体の機能と生理）			KSB11104	1後	1	30				
病態治療学Ⅰ（総論と主な疾患）			KSB11105	1後	1	30				
病態治療学Ⅱ（内科系）			KSB11106	1後2前	2	60				
病態治療学Ⅲ（外科系）			KSB21102	2前	1	30				
生化学			KSB11107	1後	1	30				
薬理学			KSB21103	2前	1	30				
感染と免疫			KSB11108	1後	1	30				
疫学			KSB21104	2後	2	30				
関係の発展	医療と情報（保健統計）	KSB31201	3前	2	30	必修3単位				
	運動と健康	KSB33201	3前	2	30					
	情報処理Ⅰ（入門編）	KSB11201	1前	1	30					
	情報処理Ⅱ（応用編）	KSB13201	1後	1	30					
	福祉情報技術	KSB23201	2前	2	30					
	医療と経済	KSB33101	3前	2	30					
カウンセリング	KSB23102	2前	1	30						
社会保障と福祉	KSB21105	2後	2	30						

通 = 通年科目

区分	授業科目	科目ナンバー	配当年次	単位数		時間数	備考			
				必修	選択		必修	選択	卒業要件	
専門分野	看護の基礎となる領域	基礎看護学Ⅰ(概論)	KSP11101	1前	1	30	必修8単位	—	必修63単位 選択必修8単位以上 合計71単位以上	
		基礎看護学Ⅱ(コミュニケーション技術)	KSP11201	1前	1	30				
		基礎看護学Ⅲ(健康教育)	KSP21201	2後	1	30				
		基礎看護学Ⅳ-1(基礎看護技術)	KSP11202	1前	1	30				
		基礎看護学Ⅳ-2(基礎看護技術)	KSP11203	1後	2	60				
		基礎看護学Ⅴ(フィジカルアセスメント)	KSP21202	2前	1	30				
		基礎看護学Ⅵ(看護過程)	KSP21203	2前	1	30				
	看護を発展させる領域	成人看護学Ⅰ(概論)	KSP11102	1後	1	30	必修26単位			
		成人看護学Ⅱ(急性期・回復期援助論)	KSP21204	2後	2	60				
		成人看護学Ⅲ(慢性期・終末期援助論)	KSP21205	2後	1	30				
		成人看護学Ⅳ(援助方法論)	KSP31301	3前	2	60				
		老年看護学Ⅰ(概論)	KSP21101	2前	1	30				
		老年看護学Ⅱ(疾病と障害)	KSP21102	2後	1	15				
		老年看護学Ⅲ(理論とアセスメント)	KSP21206	2前	1	30				
		老年看護学Ⅳ(症状とケアプラン)	KSP31201	3前	1	30				
		小児看護学Ⅰ(概論と保健)	KSP21103	2前	1	30				
		小児看護学Ⅱ(主な疾患と看護)	KSP21104	2後	1	15				
		小児看護学Ⅲ(健康障害のある小児と家族への援助)	KSP21207	2後	1	30				
		小児看護学Ⅳ(小児のアセスメントとケア論)	KSP31302	3前	1	30				
		母性看護学Ⅰ(概論)	KSP21105	2前	1	30				
		母性看護学Ⅱ(女性生殖・周産期医療)	KSP21106	2後	1	15				
		母性看護学Ⅲ(周産期アセスメント)	KSP21208	2後	1	30				
		母性看護学Ⅳ(周産期ケアマネジメント)	KSP31202	3前	1	30				
	看護を応用する領域	精神看護学Ⅰ(精神保健)	KSP21107	2前	1	30	必修3単位			
		精神看護学Ⅱ(主な精神疾患と精神症状)	KSP21108	2後	1	15				
		精神看護学Ⅲ(施設における援助)	KSP21209	2後	1	30				
		精神看護学Ⅳ(地域における援助)	KSP31101	3前	1	30				
		在宅看護論Ⅰ(概論)	KSP21109	2前	1	15				
		在宅看護論Ⅱ(訪問看護の展開方法)	KSP21210	2後	1	15				
		在宅看護論Ⅲ(在宅ケアの演習)	KSP31303	3前	1	30				
		在宅看護論Ⅳ(地域ネットワーク論)	KSP31203	3前	1	30				
	看護を応用する領域	看護と芸術Ⅰ-①(絵画療法)	KSP32201	3前		2	30			選択必修4単位以上
		看護と芸術Ⅰ-②(音楽療法)	KSP32202	3前		2	30			
看護と芸術Ⅰ-③(笑い療法)		KSP32203	3前		2	30				
看護と芸術Ⅰ-④(セラピーメイク)		KSP32204	3前		2	30				
看護と芸術Ⅰ-⑤(陶芸療法)		KSP32205	3前		2	30				
看護と芸術Ⅱ(治療環境とアメニティ)		KSP41101	4後	2		30	必修2単位			
看護教育学		KSP42101	4後		1	15				
海外看護活動論		KSP42102	4後		2	30	必修1単位			
看護マネジメント学Ⅰ(リスクマネジメント)		KSP31102	3前	1		30				
看護マネジメント学Ⅱ(看護管理)		KSP42103	4後		2	30	選択必修4単位以上			
地域リハビリテーション論		KSP32101	3前		2	30				
移植コーディネーション論		KSP42104	4後		2	30				
看護研究の方法	KSP31204	3前	1		30	必修3単位				
看護の探究(看護の統合)	KSP41201	4後	2		60					
看護の技を修得する領域	基礎看護学実習Ⅰ(対象理解)	KSP11401	1前	1	45	必修23単位				
	基礎看護学実習Ⅱ(看護過程)	KSP21401	2後	2	90					
	成人看護学実習Ⅰ(急性期・回復期)	KSP31401	3後4前	3	135					
	成人看護学実習Ⅱ(慢性期・終末期)	KSP31402	3後4前	3	135					
	老年看護学実習	KSP31403	3後4前	4	180					
	小児看護学実習	KSP31404	3後4前	2	90					
	母性看護学実習	KSP31405	3後4前	2	90					
	精神看護学実習	KSP31406	3後4前	2	90					
	在宅看護論実習	KSP31407	3後4前	2	90					
	総合実習	KSP41401	4前	2	90					

教育課程（2017～2018年度入学生）

区分	授業科目	科目ナンバー	配当年次	単位数		時間数	備考			
				必修	選択		必修	選択	卒業要件	
基礎分野	人間と科学	生きた人間学	KGE11101	1後	2	30	必修6単位	選択10単位以上 ※選択必修科目群より選択することも可	必修14単位 選択必修4単位以上 選択10単位以上 合計28単位以上	
		統計学入門	KGE11201	1後	2	30				
		論理の世界	KGE13101	1前		2				30
		心理学への招待	KGE13102	1前		2				30
		情報心理学	KGE13103	1前		2				30
		ヒトと生物学	KGE11102	1前	2					30
		環境と生態	KGE13104	1前		2				30
		化学	KGE13105	1前		2				30
	人間と社会	人間関係概論	KGE13106	1前		2	30			—
		教育学概論	KGE23101	2前		2	30			
		発達心理学	KGE23102	2前		2	30			
		ジェンダー論	KGE23103	2後		2	30			
		情報化と社会	KGE13107	1前		2	30			
		民俗学	KGE23104	2後		2	30			
		メディア社会学	KGE13108	1後		2	30			
		医療ジャーナリズム論	KGE23105	2前		2	30			
		ヘルスケア・マーケティング	KGE13109	1前		2	30			
		生活の中の法律	KGE13110	1前		2	30			
	人間と文化	文芸論	KGE13111	1後		2	30			必修2単位
		文章表現法Ⅰ	KGE11103	1前	2		30			
		文章表現法Ⅱ	KGE33101	3前		2	30			
		ファッションアートサーヴェイ	KGE13112	1前		2	30			
		マスコミと報道	KGE13113	1前		2	30			
		西洋美術の源流	KGE13114	1前		2	30			
		伝統芸術表現研究Ⅰ（茶道と香道の理論と表現）	KGE12201	1前		2	30			
		伝統芸術表現研究Ⅱ（生け花の理論と表現）	KGE12202	1前		2	30			
	伝統芸術表現研究Ⅲ（書芸術の理論と表現）	KGE12203	1前		2	30				
	人間と語学	英語Ⅰ（Reading1）	KGE11301	1通	2		60			必修6単位
		英語Ⅱ（Writing1）	KGE21301	2通	2		60			
		英会話Ⅰ（Listening&Speaking1）	KGE11302	1通	2		60			
		英会話Ⅱ（Listening&Speaking2）	KGE22301	2通		2	60			
		英語Ⅲ（Reading2）	KGE22302	2通		2	60			
		英語Ⅳ（Writing2）	KGE22303	2通		2	60			選択必修2単位
フランス語Ⅰ		KGE12301	1通		2	60				
フランス語Ⅱ		KGE22304	2通		2	60				
中国語会話Ⅰ		KGE12302	1通		2	60				
中国語会話Ⅱ		KGE22305	2通		2	60				
ビジネス中国語		KGE12303	1通		2	60				
イタリア語Ⅰ		KGE12304	1通		2	60				
イタリア語Ⅱ		KGE22306	2通		2	60				
ドイツ語Ⅰ		KGE12305	1通		2	60				
ドイツ語Ⅱ		KGE22307	2通		2	60				
専門基礎分野	人間の理解	医療概論（生命倫理）	KSB11101	1後	2	30	必修6単位			
		医療行動科学	KSB13101	1後		2		30		
		生涯教育論	KSB23101	2後		2		30		
		癒しと芸術	KSB21101	2前	2			30		
		栄養と健康	KSB11102	1後	2			30		
	健康と疾病の理解	人体構造機能論Ⅰ（人体の構造と機能）	KSB11103	1前	2		60	必修14単位		
		人体構造機能論Ⅱ（人体の機能と生理）	KSB11104	1後	1		30			
		病態治療学Ⅰ（総論と主な疾患）	KSB11105	1後	1		30			
		病態治療学Ⅱ（内科系）	KSB11106	1後2前	2		60			
		病態治療学Ⅲ（外科系）	KSB21102	2前	1		30			
		生化学	KSB11107	1後	1		30			
		薬理学	KSB21103	2前	1		30			
		感染と免疫	KSB11108	1後	1		30			
		疫学	KSB21104	2後	2		30			
		医療と情報（保健統計）	KSB31201	3前	2		30			
		運動と健康	KSB33201	3前		2	30			
		関係の発展	情報処理Ⅰ（入門編）	KSB11201	1前	1			30	必修3単位
			情報処理Ⅱ（応用編）	KSB13201	1後		1		30	
			福祉情報技術	KSB23201	2前		2		30	
			医療と経済	KSB33101	3前		2		30	
カウンセリング	KSB23102		2前		1	30				
社会保障と福祉	KSB21105	2後	2		30					

通 = 通年科目

区分	授業科目	科目ナンバー	配当 年次	単位数		時間数	備考		
				必修	選択		必修	選択	卒業要件
看護の 基礎と なる領域	基礎看護学Ⅰ(概論)	KSP11101	1前	1		30	必修8単位	—	—
	基礎看護学Ⅱ(コミュニケーション技術)	KSP11201	1前	1		30			
	基礎看護学Ⅲ(健康教育)	KSP21201	2後	1		30			
	基礎看護学Ⅳ-1(基礎看護技術)	KSP11202	1前	1		30			
	基礎看護学Ⅳ-2(基礎看護技術)	KSP11203	1後	2		60			
	基礎看護学Ⅴ(フィジカルアセスメント)	KSP21202	2前	1		30			
基礎看護学Ⅵ(看護過程)	KSP21203	2前	1		30	必修26単位	—	—	
成人看護学Ⅰ(概論)	KSP11102	1後	1		30				
成人看護学Ⅱ(急性期・回復期援助論)	KSP21204	2後	2		60				
成人看護学Ⅲ(慢性期・終末期援助論)	KSP21205	2後	1		30				
成人看護学Ⅳ(援助方法論)	KSP31301	3前	2		60				
老年看護学Ⅰ(概論)	KSP21101	2前	1		30				
老年看護学Ⅱ(疾病と障害)	KSP21102	2後	1		15				
老年看護学Ⅲ(理論とアセスメント)	KSP21206	2前	1		30				
老年看護学Ⅳ(症状とケアプラン)	KSP31201	3前	1		30				
小児看護学Ⅰ(概論と保健)	KSP21103	2前	1		30				
小児看護学Ⅱ(主な疾患と看護)	KSP21104	2後	1		15				
小児看護学Ⅲ(健康障害のある小児と家族への援助)	KSP21207	2後	1		30				
小児看護学Ⅳ(小児のアセスメントとケア論)	KSP31302	3前	1		30				
母性看護学Ⅰ(概論)	KSP21105	2前	1		30				
母性看護学Ⅱ(女性生殖・周産期医療)	KSP21106	2後	1		15				
母性看護学Ⅲ(周産期アセスメント)	KSP21208	2後	1		30				
母性看護学Ⅳ(周産期ケアマネジメント)	KSP31202	3前	1		30				
精神看護学Ⅰ(精神保健)	KSP21107	2前	1		30				
精神看護学Ⅱ(主な精神疾患と精神症状)	KSP21108	2後	1		15				
精神看護学Ⅲ(施設における援助)	KSP21209	2後	1		30				
精神看護学Ⅳ(地域における援助)	KSP31101	3前	1		30				
在宅看護論Ⅰ(概論)	KSP21109	2前	1		15				
在宅看護論Ⅱ(訪問看護の展開方法)	KSP21210	2後	1		15				
在宅看護論Ⅲ(在宅ケアの演習)	KSP31303	3前	1		30				
在宅看護論Ⅳ(地域ネットワーク論)	KSP31203	3前	1		30				
看護を 発展さ せる領域	看護と芸術Ⅰ-①(絵画療法)	KSP32201	3前		2				30
	看護と芸術Ⅰ-②(音楽療法)	KSP32202	3前		2	30			
	看護と芸術Ⅰ-③(笑い療法)	KSP32203	3前		2	30			
	看護と芸術Ⅰ-④(セラピーメイク)	KSP32204	3前		2	30			
	看護と芸術Ⅰ-⑤(陶芸療法)	KSP32205	3前		2	30			
	看護と芸術Ⅱ(治療環境とアメニティ)	KSP41101	4後	2		30	必修2単位		
	看護教育学	KSP42101	4後		1	15			
	海外看護活動論	KSP42102	4後		2	30	必修1単位		
	看護マネジメント学Ⅰ(リスクマネジメント)	KSP31102	3前	1		30			
	看護マネジメント学Ⅱ(看護管理)	KSP42103	4後		2	30	選択必修 4単位以上		
	地域リハビリテーション論	KSP32101	3前		2	30			
	移植コーディネーション論	KSP42104	4後		2	30			
	看護研究の方法	KSP31204	3前	1		30	必修3単位		
	看護の探究(看護の統合)	KSP41201	4後	2		60			
看護の 技を習 得する 領域	基礎看護学実習Ⅰ(対象理解)	KSP11401	1前	1		45	必修23単位	—	—
	基礎看護学実習Ⅱ(看護過程)	KSP21401	2後	2		90			
	成人看護学実習Ⅰ(急性期・回復期)	KSP31401	3後4前	3		135			
	成人看護学実習Ⅱ(慢性期・終末期)	KSP31402	3後4前	3		135			
	老年看護学実習	KSP31403	3後4前	4		180			
	小児看護学実習	KSP31404	3後4前	2		90			
	母性看護学実習	KSP31405	3後4前	2		90			
	精神看護学実習	KSP31406	3後4前	2		90			
	在宅看護論実習	KSP31407	3後4前	2		90			
	総合実習	KSP41401	4前	2		90			

2023 年度授業科目・担当者一覧表（2022 年度以降入学生）

I 基礎分野

(授業科目)	(担当者名)	(ページ)	(授業科目)	(担当者名)	(ページ)
看護とサイエンス	八田 康弘	29	人体構造機能論Ⅲ	片山 泰一	75
心理学への招待	岩城 晶子	30	病態治療学Ⅰ	巽 圭太	76
統計学入門	崔 煌	31	病態治療学Ⅱ	巽 圭太	77
ヒトと生物学	前野 覚大	32	病態治療学Ⅲ	巽 圭太・他	78
環境と生態	八田 康弘	33	生化学	中川 学	79
化学	堅中 泰樹	34	臨床薬理学	内海 美保	80
映像表現の理論と実践	渡邊 哲意	35	感染と免疫	巽 圭太	81
キャリア教育Ⅰ	鷲尾/國松/桶河/西垣	36	疫学・保健統計	日高 庸晴	82
キャリア教育Ⅱ	岩城/八田	37	公衆衛生学	日高・牧野	83
人間関係概論	岩城 晶子	38	運動と健康Ⅰ	大本 友香	84
発達心理学	小川 詩乃	39	運動と健康Ⅱ	大本 友香	85
家族社会学	中山 麻耶	40	衛生関係法規	牧野 裕子	86
地域・福祉・ボランティア	軸丸/浮田/岩城	41	情報処理Ⅰ	吉田 浩	87
ジェンダー論	聶 蕙菁	42	情報処理Ⅱ	吉田 浩	88
ダイバーシティと共生	聶 蕙菁	43	社会保障と福祉	長谷川 章子	89
医療ジャーナリズム論	佐々木 宏	44	医療と経済	川島 隆志	90
法律入門	青木 亮祐	45	臨床心理学	岩城 晶子	91
デッサンと表現	中村 仁美	46			
茶道と香道の理論と表現	飯島 照仁	47			
生け花の理論と表現	小林 秀加	48			
書芸術の理論と表現	池田 方彩	49			
英語Ⅰ	毛利 郁子	50			
英語Ⅱ	毛利 郁子	51			
英会話Ⅰ	池田美智子	52			
英会話Ⅱ	池田美智子	53			
英語Ⅲ	池田美智子	54			
英語Ⅳ	池田美智子	55			
フランス語Ⅰ	渋谷 直樹	56			
フランス語Ⅱ	渋谷 直樹	57			
中国語会話Ⅰ	潘 建秀	58			
中国語会話Ⅱ	潘 山海	59			
韓国語Ⅰ	裴 恵麟	60			
韓国語Ⅱ	裴 恵麟	61			
イタリア語Ⅰ	中川 光	62			
イタリア語Ⅱ	小松 寛明	63			
ドイツ語Ⅰ	神竹 道士	64			
ドイツ語Ⅱ	神竹 道士	65			

Ⅲ 専門分野

看護とアートⅠ (治療環境とアメニティ)	森 合音	93
看護とアートⅡ (治療環境とアメニティ)	森 合音	94
看護とアートⅢ (笑い療法)	古谷 昭雄	95
看護とアートⅣ (音楽療法)	武田倫衣子	96
看護とアートⅤ (絵画療法)	フルイミエコ	97
看護とアートⅥ (陶芸療法)	上田 順平	98
看護とアートⅦ (セラピーメイク)	倉地 祐子	99
看護とアートⅧ (アロマセラピー・タッチケア)	佐保美奈子	100
看護とアートⅨ (推拿)	矢尾/陳/鈴	101
基礎看護学概論	北島 洋子	102
看護理論	北島 洋子	103
看護コミュニケーション論	北島 洋子	104
基礎看護学援助技術Ⅰ	北島洋子/基礎看護学分野教員	105
基礎看護学援助技術Ⅱ	北島洋子/基礎看護学分野教員	106
ヘルスアセスメント	國松秀美/基礎看護学分野教員	107
看護過程展開の基礎	國松秀美/基礎看護学分野教員	108
地域・在宅看護学概論	桶河 華代	109
地域・在宅看護学援助論Ⅰ	桶河 華代	110
地域・在宅看護学援助論Ⅱ	桶河 華代	111
成人看護学概論	成人看護学分野教員	112
成人看護学援助論Ⅰ	成人看護学分野教員	113
成人看護学援助論Ⅱ	成人看護学分野教員	114
老年看護学概論	老年看護学分野教員	115
老年看護学援助技術Ⅰ	老年看護学分野教員	116
小児看護学概論	松尾ひとみ	117
小児看護学援助論Ⅰ	松尾ひとみ	118
母性看護学概論	鷲尾 弘枝	119
母性看護学援助論Ⅰ	東尾 公子	120

Ⅱ 専門基礎分野

医療行動科学	日高 庸晴	67
死生学	山本佳世子	68
癒しと芸術	フルイミエコ	69
栄養と健康	須田あゆみ	70
医療概論 (生命倫理)	林 貴啓	71
医療人類学	景山 千愛	72
人体構造機能論Ⅰ	片山 泰一	73
人体構造機能論Ⅱ	片山 泰一	74

(授業科目)	(担当者名)	(ページ)
精神看護学概論	西垣 里志	121
精神看護学援助論 I	西垣 / 木村 / 棕本 / 東野	122
精神看護学援助論 II	西垣 / 木村 / 棕本 / 東野	123

IV 専門分野（臨地実習科目）

基礎看護学実習 I	北島洋子 / 基礎看護学分野教員	125
基礎看護学実習 II	國松秀美 / 基礎看護学分野教員	126

2023 年度授業科目・担当者一覧表（2017～2021 年度入学生）

I 基礎分野

(授業科目)	(担当者名)	(ページ)
文章表現法Ⅱ	加畑公一郎	129

II 専門基礎分野

医療と情報（保健統計）	日高 庸晴	131
運動と健康	大本 友香	132
医療と経済	川島 隆志	133

III 専門分野

成人看護学Ⅳ（援助方法論）	成人看護学分野教員	135
老年看護学Ⅳ（症状とケアプラン）	老年看護学分野教員	136
小児看護学Ⅳ （小児のアセスメントとケア論）	松尾 / 西村	137
母性看護学Ⅳ （周産期ケアマネジメント）	園田 / 母性看護学分野教員	138
精神看護学Ⅳ（地域における援助）	西垣 / 木村 / 椋本 / 東野	139
在宅看護論Ⅲ（在宅ケアの演習）	桶河 華代	140
在宅看護論Ⅳ（地域ネットワーク論）	桶河 華代	141
看護と芸術Ⅰ－①（絵画療法）	フルイ ミエコ	142
看護と芸術Ⅰ－②（音楽療法）	武田 倫衣子	143
看護と芸術Ⅰ－③（笑い療法）	古谷 昭雄	144
看護と芸術Ⅰ－④（セラピーメイク）	倉地 祐子	145
看護と芸術Ⅰ－⑤（陶芸療法）	上田 順平	146
看護と芸術Ⅱ（治療環境とアメニティ）	森 合音	147
看護教育学	北島 洋子	148
海外看護活動論	杉野 美礼	149
看護マネジメント学Ⅰ （リスクマネジメント）	伊津美孝子	150
看護マネジメント学Ⅱ	高須久美子	151
地域リハビリテーション論	三好 弘之	152
移植コーディネーション論	高原 史郎	153
看護研究の方法	日高・中川・西垣・北島・鷺尾・房間・國松・東尾・園田	154
看護の探究（看護の統合）	看護学部専任教員	155

IV 専門分野（臨地実習科目）

成人看護学実習Ⅰ（急性期・回復期）	成人看護学分野教員	157
成人看護学実習Ⅱ（慢性期・終末期）	成人看護学分野教員	158
老年看護学実習	老年看護学分野教員	159
小児看護学実習	松尾 / 西村	160
母性看護学実習	鷺尾 / 東尾 / 園田	161
精神看護学実習	西垣 / 木村 / 椋本 / 東野	162
在宅看護論実習	桶河 華代	163
総合実習	看護学部専任教員	164

授 業 科 目

授業要項と授業内容（2022年度以後入学生）

凡 例

2023年度のシラバスは次の原則にしたがって編集されています。

1. 授業科目は以下の分野に分かれています。
 - I. 基礎分野
 - II. 専門基礎分野
 - III. 専門分野
 - IV. 専門分野（臨地実習科目）

2. 各分野においては、1年次履修科目、2年次履修科目、3年次履修科目、4年次履修科目にわけて配列されています。ただし専門分野においては、看護学領域に分けて配列されています。

3. 授業科目は Semester 制による前期科目および後期科目、一年を通して行われる通年科目の2種類に分かれています。

I 基礎分野

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
看護とサイエンス	八田 康弘	講義	1年次 前期	必修	1	30	KGE11101

科目の概要

本科目は理科分野に重点をおいて、看護学部で学ぶ上でのスタディスキルズを身につける科目と位置付ける。ヒトを理解する重要性からも生物分野に重点をおき、入学前教育と連動して内容を深めていくよう講義する。化学や物理については、将来看護職を目指す上で必須の知識を厳選して説明する。あわせて論理展開、表やグラフの読み取り、データ処理、基礎的な計算能力の向上など、看護を学ぶ上での必須の項目をカバーし、講義と演習を行う。

到達目標

- 看護に関する科学の基礎知識を身につけ、説明することができる。
- 社会生活における科学的側面を論理的に述べるができる。
- 看護で対面する患者をヒトとして科学的に理解し、看護に活用できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL 2	生物の定義 看護の生物 生物無生物の違い
第2回	生物としてのヒト1 人体構造 細胞と分裂 神経系 ホルモン
第3回	生物としてのヒト2 人体の維持 循環 免疫 消化
第4回	生物としてのヒト3 環境適応 感覚器官 生殖と発生
第5回	ヒトの遺伝 遺伝の仕組み DNA
第6回	ヒトと他生物の比較 進化 脳の発達
第7回	からだと医療の化学1 元素 化学反応 (演習)
第8回	からだと医療の化学2 酸 塩基 酸化還元 (演習)
第9回	からだと医療の物理学 力 運動 電気 (演習)
第10回	医療現場における数的処理 看護に必要な計算 (演習)
第11回	医療現場におけるグラフ読解と論理力 データサイエンス (演習)
第12回 AL 2	探求科学1 ヒトの食生活① 栽培 農耕 畜産 発酵
第13回 AL 2	探求科学2 ヒトの食生活② 食糧問題 食と健康 食の未来
第14回 AL 2	探求科学3 ヒトの病気 (ウイルス 細菌 寄生虫)
第15回 AL 2	探求科学4 ヒトの病気治療 西洋医学と東洋医学 薬草 漢方

成績評価方法	定期試験(筆記) 60% 小テスト 20% 成果物 20%					
教科書	なし 適宜プリント配布					
参考文献	『医療系総合講座テキスト改訂版』(入学前教育) 東進ハイスクール					
事前学習(内容・時間)	医療系総合講座テキストの講義関連内容を予習 (2時間)					
事後学習(内容・時間)	講義内容の疑問点を調べる (2時間)					
フィードバックの方法	講義初めに前回の小テストまたは課題の説明をする					
備考					オフィスアワー	質問はメールにて受け付けます。
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用 (看護実践力)
	△	○	△	○	△	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
心理学への招待	岩城 晶子	講義	1年次 後期	選択	2	30	KGE13101

科目の概要

本講義では、心理学分野の基本的な知識について紹介する。学生が心理学という学問領域での心の捉え方や研究結果を知り、人間の心について理解や考えを深めることを目的とする。心についての基本的な考え方や、身近な生活の中での心のはたらき、人の行動のメカニズム、人間の性格の仕組み等を毎回のテーマとして、素朴な疑問に対して、心理学の知識によって自分なりに考えたり、答えを見つけられることを目指し授業を行う。

到達目標

- 心理学の基礎、例えば外界を認知する仕組みや記憶のメカニズムなどについて基本的な知識を獲得し、説明できる。
- 学習や動機づけ理論についての学びを通して、人間の行動のメカニズムについて説明できる。
- 人間の心についての理解を、大学生活や医療・看護領域でどのように活かすか発展的に考え、述べるができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	オリエンテーション（心理学とは・その目的や歴史、心を捉える視点について）
第2回	心理学研究法（人間の心についてどのような方法で研究することができるのか？）
第3回	心と脳
第4回 AL 6	感覚・知覚①（われわれは周囲の世界をどのように把握しているか？）
第5回	感覚・知覚②（われわれは周囲の世界をどのように把握しているか？）
第6回 AL 6	記憶：覚えること・忘れることの仕組み①
第7回	記憶：覚えること・忘れることの仕組み②
第8回 AL 6	学習と行動：私たちの「行動」の仕組み①
第9回	学習と行動：私たちの「行動」の仕組み②
第10回 AL 6	動機づけ
第11回	パーソナリティ：私たちの「性格」について①
第12回 AL 6	パーソナリティ：私たちの「性格」について②
第13回	個と集団の関係①
第14回 AL 6	個と集団の関係②
第15回	インターネットに関わる心理学

成績評価方法	定期試験（レポート）70% 成果物 30%					
教科書	『看護を学ぶ人のための心理学 ヒューマン・ケアを科学する』遠藤公久（弘文堂）					
参考文献	『よくわかる心理学』無藤隆・森敏昭編（ミネルヴァ書房） 『よくわかる臨床心理学（改訂新版）』下山晴彦編（ミネルヴァ書房）					
事前学習(内容・時間)	前講義時の指示に基づき授業準備する（2時間）					
事後学習(内容・時間)	講義の内容を振り返り、自分で要点をまとめること。授業で配布・提示される資料を自主的に読んだり視聴するなどして、内容を理解しておくこと。（2時間）					
フィードバックの方法	コメントフォームで送信された質問や課題について翌週の授業冒頭でフィードバックする					
備 考					オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力（看護実践力）
	△	○	△	○	△	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
統計学入門	崔 煌	講義・演習	1年次 後期	必修	1	30	KGE11201

科目の概要

本講座は看護統計のための統計的な基礎知識について講義する。まず、統計学の基礎知識と看護との関連について説明する。その後、記述統計学のパートでは、得られたデータの特徴を要約する方法について、推測統計学のパートでは、標本データから母集団の特徴を推測する方法について教授する。

到達目標

- 看護統計のための統計学の基礎知識を習得し、説明できる。
- 記述統計学と推測統計学を学び、各々の目的を述べることができる。
- 相関関係と因果関係が区別できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	オリエンテーション&統計学の基礎知識（統計学の定義、記述統計学と推測統計学など）と統計学と看護との関係
第2回	データと変数、度数分布表、度数分布表をグラフにする
第3回	平均と中央値&平均と中央値、最頻値の違い&量的変数のばらつき①&小テスト①
第4回	量的変数のばらつき②&クロス集計表①
第5回	クロス集計表②&相関係数①
第6回	相関係数②&小テスト②
第7回 AL 6	原因と結果の考え方&短いレポートの提出
第8回	3重クラス表①
第9回	3重クラス表②&母集団と標本の関係①&小テスト③
第10回 AL 6	母集団と標本の関係②&推測統計学の基礎と統計的推定①&短いレポートの提出
第11回	推測統計学の基礎と統計的推定②
第12回	推測統計学の基礎と統計的推定③&統計的検定の考え方①&小テスト④
第13回	統計的検定の考え方②
第14回	統計的検定の考え方③&クロス表のカイ2乗検定①
第15回	クロス表のカイ2乗検定②&小テスト⑤

成績評価方法	小テスト 60% 成果物 40%					
教科書	『基本からわかる看護統計学入門 第2版』大木秀一（医歯薬出版株式会社）					
参考文献	『社会調査のための統計学』神林博史・三輪哲（技術評論社）					
事前学習(内容・時間)	教科書による予備学習（1時間）					
事後学習(内容・時間)	授業資料による復習（3時間）					
フィードバックの方法	小テストに対するフィードバックは授業中に行う					
備 考	小テストは3回の授業で1回行われ、5回実施される。 その日以外の授業の後はコメントカードを提出する。			オフィスアワー	随時メールとTEAMSのチャットで受け付ける	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	—	—	—	○	—	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
ヒトと生物学	前野 覚大	講義	1年次 前期	必修	2	30	KGE11102

科目の概要

ヒトを含めた生物の基本単位は細胞であり、様々な細胞の働きによって生命活動が営まれている。ヒトは、1個の受精卵という細胞から分裂を繰り返し、個体へと発生する。前半は、細胞自身が持つ遺伝情報に基づき必要なタンパク質が体内で合成されることで多様な機能が発現される、生命活動の基本原則を解説する。後半は、恒常性を維持するシステムについて、内分泌系、神経系、免疫系を中心に解説する。

到達目標

- 円滑な生命活動を支える物質とその流れ（代謝）の仕組みを説明することができる。
- 細胞および、その増殖と分化、発生といった基本的な仕組みを述べるができる。
- 内分泌系、神経系、免疫系の三者の相互作用で支えられている生体の恒常性を維持する仕組みについて説明できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	生物学の基礎（教科書，p.1-9）
第2回	細胞（教科書，p.11-21）
第3回	生物を構成する物質（教科書，p.22-33）
第4回	栄養と代謝（教科書，p.34-45）
第5回	遺伝とDNA（教科書，p.46-59）
第6回	遺伝情報の発現（教科書，p.60-67）
第7回	細胞の増殖と死（教科書，p.68-75）
第8回	生殖，発生，分化（教科書，p.76-84）
第9回	動物の組織（教科書，p.86-93）
第10回	動物の器官（教科書，p.95-104）
第11回	ホルモンと生体調節（教科書，p.105-118）
第12回	神経系（教科書，p.119-127）
第13回	免疫（教科書，p.128-140）
第14回	微生物と感染症（教科書，p.141-152）
第15回	生命システムの破綻：癌と老化（教科書，p.154-161）

成績評価方法	定期試験（筆記）70% 成果物 30%					
教科書	『医療・看護系のための生物学』田村隆明（裳華房）					
参考文献	『三訂版 視覚でとらえるフォトサイエンス生物図録』鈴木孝仁 監修（数研出版）					
事前学習(内容・時間)	教科書の該当ページを読む（2時間，「コラム」と「発展学習」は除外）					
事後学習(内容・時間)	教科書等を用いて復習をし、Microsoft Teamsからミニテストに回答する（2時間）。成果物として評価。					
フィードバックの方法	Microsoft Teamsなどを活用して講評します					
備 考					オフィスアワー	講義前10分、講義後15分
ディプロマ・ポリシーに 掲げる 能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケー ション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	○	△	—	○	—	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
環境と生態	八田 康弘	講義	1年次 前期	選択	2	30	KGE13102

科目の概要

生物圏は一様ではない。一様でない地球環境の中で色々な多くの生物が非生物的要素の影響を受け相互に作用を及ぼしながら生きている。その様子を具体的に示し、生物の種が複雑にからみ合っていてできあがっている生態系の仕組みを説明する中で、生物がもつ特性を教授する。具体的には、環境とは、自然界のまとまり、ヒトと環境、現代の環境問題について講義する。

到達目標

- 生物と環境の関わりの基本を学ぶことにより、日々の暮らしの改善につながる力を身につけ実践することができる。
- 人間の社会生活活動と環境の関わりを説明できる。
- 日本だけでなく世界各地特有の状況から、環境と生態のあり様についての考えを述べることができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	環境とは何か 環境と生物 さまざまな環境要因 生物多様性を生み出す環境条件
第2回	生態系の構造と機能 変化する生態系 生態系の遷移について
第3回	生物多様性と地理的分布 (コスタリカの生物多様性)
第4回	環境指標生物について生態学的知見を交えて 指標生物と外来生物
第5回	生物適応の戦略的進化 (植物)
第6回	生物適応の戦略的進化 (動物)
第7回	異種間の相互作用 生物群集の構成 (競争 捕食 寄生 共生)
第8回	環境問題の歴史 公害問題と農薬汚染 環境ホルモン「沈黙の春」
第9回 AL 3	現代の環境問題 地質時代における人新生の問題点 環境問題グループ発表
第10回	地球温暖化と生物および生態系
第11回	グローバルな環境問題1 (ガラパゴス マダガスカル 絶滅危惧種)
第12回	グローバルな環境問題2 (モンゴル アタカマ砂漠 砂漠化・環境問題)
第13回	グローバルな環境問題3 (英国の自然再生 世界自然遺産)
第14回 AL 2	人類生態学 衣食住環境の問題点 生活環境の変化に伴う人類の病気
第15回 AL 2	環境との調和と環境再生 開発の世紀から環境の世紀へ

成績評価方法	定期試験(レポート) 50% 成果物 30% 定期試験(筆記) 20%					
教科書	適宜プリント配布					
参考文献	『生物科学入門コース7 「生態と環境」』松本忠夫著 (岩波書店)					
事前学習(内容・時間)	前講義時の指示に基づき授業準備をする (2時間)					
事後学習(内容・時間)	講義に関連する文献を紹介するので、目を通してください (2時間)					
フィードバックの方法	講義の初めに、前回の疑問点について説明を行います					
備考						オフィスアワー 質問はメールにて受け付けます。
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	△	○	○	○	△	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
化学	堅中 泰樹	講義	1年次 前期	選択	2	30	KGE13103

科目の概要

人体の働きを理解するためには、化学の体系的知識が不可欠である。原子や分子からはじめて、物質の量的表現、化学反応、水や溶液の化学を説明し、糖、脂質、タンパク質など人体を構成する物質を説明する。第8回と第15回では、学生が自ら化学分野で興味を持ったテーマについて調べ、パワーポイントなどを使って発表し、質疑応答を行う(個人単位での発表)。

到達目標

- 日常生活や医療分野における現象を化学の言葉を用いて正しく説明できる。
- 物質の量的表現を理解し、計算できる。
- 生化学や医療分野で見られる化学現象に興味を持ち、自己研鑽できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	原子の構造：原子
第2回	原子の構造：元素と周期表
第3回	原子と原子のつながり
第4回	モルと化学式
第5回	濃度の表し方
第6回	化学反応と熱エネルギー
第7回	化学反応と化学平衡
第8回 AL 4	学生の発表：化学分野で深掘してみた件1(成果物として採点します 20%)
第9回	水と溶液、透析と浸透圧
第10回	酸と塩基
第11回	酸化と還元
第12回	糖
第13回	脂質
第14回	アミノ酸・タンパク質
第15回 AL 4	学生の発表：化学分野で深掘してみた件2(成果物として採点します 20%)

成績評価方法	定期試験(筆記) 50% 成果物 40% 小テスト 10%					
教科書	『はじめて学ぶ化学』野島高彦(化学同人)					
参考文献	なし					
事前学習(内容・時間)	講義予定の部分の教科書を読む(2時間)					
事後学習(内容・時間)	教科書の練習問題を解く(2時間)					
フィードバックの方法	ショートテストは、授業中に答えを合わせ、解説します					
備 考	各授業の最初にその日のテーマのショートテストを行います			オフィスアワー		授業の前後(各30分)
	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケー ション力	6 専門的知識・ 技能の活用 力(看護実践力)
ディプロマ・ポリシー に掲げる 能力と授業の対応	○	○	△	○	○	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
映像表現の理論と実践	渡邊 哲意	講義	2年次 前期	選択	1	30	KGE23101

科目の概要

本講義では、映像表現分野について基本的な知識を紹介する。映像の基本的な考え方、制作の方法、投影の技術などを知り、映像表現の理解を深めることを目的とする。簡単な映像制作から投影機器の操作まで、制作からアウトプットまでの基本的な流れを理解するための講義と演習を行う。

到達目標

- 映像表現の基礎知識を習得し、説明できる。
- 映像機器の技術について理解し、説明及び操作ができる。
- 映像制作に必要なスキルを習得し、映像作品を制作できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	オリエンテーション・映像表現の基礎知識・映像の理論
第2回 AL 3	ストーリーと映像の関係・モンタージュ映像ストーリーの制作
第3回 AL 3	ストーリーと映像の関係・モンタージュ映像素材の制作
第4回	モンタージュ作品講評・ショートムービー解説・現状
第5回 AL 5	ショートムービー制作・ロケハン
第6回 AL 5	ショートムービー制作・撮影・編集
第7回	ショートムービー講評・ストップモーションアニメ
第8回 AL 3	ストップモーションアニメ制作
第9回 AL 3	ストップモーションアニメ制作・講評
第10回	空間映写機器についての解説・映像信号の種類と仕組み
第11回	プロジェクションマッピング講習
第12回 AL 5	デジタル掛け軸レクチャー・テスト
第13回 AL 5	デジタル掛け軸シミュレーション
第14回 AL 5	プロジェクションアート投影
第15回	授業まとめ レポート提出

成績評価方法	成果物 60% 定期試験(レポート) 40%					
教科書	なし					
参考文献	なし					
事前学習(内容・時間)	授業内で指示した次回授業の予習(2時間)					
事後学習(内容・時間)	内容の振り返り、講義・実技内容の理解(2時間)					
フィードバックの方法	授業毎に対応します					
備考	映像制作に興味がある人の積極的な参加を期待します			空間映写機器についての解説・映	授業後30分間受け付けます	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	—	—	○	—

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
キャリア教育 I	鷺尾・國松 桶河・西垣	講義	1年次 前期	必修	1	30	KGE11103

科目の概要

大学生活を送るための時間管理や、社会人基礎力を構築するための礎となる、アカデミックスキルを教授する。グループワークを活用して、人間関係の形成や自らのキャリア形成について考えることができるように教授する。また、働くことの意義を講義する。

到達目標

- 大学の初年児教育として、社会人としての常識や基礎的知識を理解し説明することができる。
- グループワークを通して、仲間づくりや共同発表をすることができる。
- 働くことについての考え、ディスカッションすることができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL 4	大学生活についてのガイダンス（ディプロマポリシー等）
第2回 AL 3	グループワーク1：（友達を作ろう）
第3回 AL 3	グループワーク2：（宝塚大学を知ろう）
第4回 AL 3	グループワーク3：（宝塚大学で働いている人を知ろう）
第5回 AL3,4	グループワーク4：（宝塚大学を紹介しよう）
第6回 AL 4	わかりやすい文章の書き方
第7回 AL2,3	レポートの書き方
第8回 AL 4	資料の探し方
第9回 AL 4	情報リテラシーについて
第10回 AL 4	プレゼンテーションについて
第11回 AL 4	自分をプレゼンテーションしよう
第12回 AL2,3	社会人としての将来を考えてみよう
第13回 AL 2	働くとはどういうことかディスカッションしよう
第14回 AL 4	先輩の話を聞いてみよう
第15回 AL 4	PROG結果の説明会

成績評価方法	成果物 80% プレゼンテーション20%					
教科書	適宜提示					
参考文献	『大学生 学びのハンドブック』（世界思想社）					
事前学習(内容・時間)	前時の指示に基づき授業準備する（1時間程度）					
事後学習(内容・時間)	毎回提示された課題に取り組む（1時間程度）					
フィードバックの方法	成果物やプレゼンテーションに対してコメントを返します					
備 考				オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用能力(看護実践力)
	○	○	○	○	○	—

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
キャリア教育Ⅱ	岩城 晶子 八田 康弘	講義	2年次 前期	必修	1	30	KGE21101

科目の概要

宝塚大学看護学部における1年間の学びをふまえ、将来看護職を担うために必要な能力を高めることを目的とする。医療・看護分野の知見と現代的課題を知り、それらを踏まえたキャリアデザインを構想し、学術的な文章に表現できるよう教授する。また、地域に根差した視点から問題を発見し解決の方向を探る力を高めること、協働と貢献の意義の理解を通して、看護職としての社会人基礎力を高めるためのフィールドワークを実施する。

到達目標

- 医療・看護分野の文献を読み、自らのキャリアデザインと関連させて理解し、適切に批評できる。
- 医療・看護分野の文献等で学んだことと関連させた上で、自らのキャリアデザインに関する文章を書くことができる。
- 地域でフィールドワークを行い、地域における看護職者の役割をグループの一員として探究し表現できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	オリエンテーション
第2回 AL 2	看護実践・研究のためのクリティカル・リーディング：基礎編／現代社会を知る①：体・心・他者とのつながり
第3回 AL 2	看護実践・研究のためのクリティカル・リーディング：応用編／現代社会を知る②：子どもを取り巻く社会的課題
第4回 AL 2	看護実践・研究のためのアカデミック・ライティング：基礎編／現代社会を知る③：高齢者を取り巻く社会的課題
第5回 AL 2	看護実践・研究のためのアカデミック・ライティング：応用編／現代社会を知る④：障害者を取り巻く社会的課題
第6回 AL 2	看護実践・研究のためのプレゼンテーションの技法／現代社会を知る⑤：災害時・非常時のメンタルヘルス
第7回 AL 1	地域に学び、地域に活かす：看護職者の役割について 1（事前講義：北区の医療・福祉の現状）
第8回 AL 3	地域に学び、地域に活かす：看護職者の役割について 2（テーマの探求）
第9回 AL 5	地域に学び、地域に活かす：看護職者の役割について 3（フィールドワーク）
第10回 AL 3	地域に学び、地域に活かす：看護職者の役割について 4（プレゼン準備・討議）
第11回 AL 4	地域に学び、地域に活かす：看護職者の役割について 5（ポスター発表①）
第12回 AL 4	地域に学び、地域に活かす：看護職者の役割について 6（ポスター発表②）
第13回 AL 1	地域に学び、地域に活かす：看護職者の役割について 7（事後講義：地域包括ケアシステムの中の看護師）
第14回 AL 2	地域に学び、地域に活かす：看護職者の役割について 8（グループディスカッション）
第15回 AL 3	全体のまとめと振り返り

成績評価方法	成果物 40% 定期試験(レポート) 30% 定期試験(実技) 30%					
教科書	なし					
参考文献	『看護職としての社会人基礎力の育て方（第2版）』箕浦とき子・高橋恵編（日本看護協会出版会）					
事前学習(内容・時間)	前時の指示に基づき授業準備する（30分）					
事後学習(内容・時間)	授業内で提示された課題に取り組む（30分）					
フィードバックの方法	提出課題はルーブリックに基づき自己評価し、教員評価を付記してフィードバックする					
備 考	・評価やフィールドワークの詳細については授業時に指示する ・実践を通して学ぶことを念頭に、日々の授業に臨むこと			オフィスアワー		オフィスアワー一覧表参照
	ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力
	○	○	○	○	○	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
人間関係概論	岩城 晶子	講義	1年次 前期	必修	2	30	KGE11104

科目の概要

人間は様々な「関係」の中に生きる存在である。本授業では、臨床心理学分野の知見を中心に、家族など身近な他者との関係、友人関係、所属集団との関係、自分を取り巻く社会との関係、自分自身との関係など、様々な「関係」の捉え方と特徴について紹介する。授業前半では、精神分析の主要概念と、赤ちゃんから高齢者までの生涯発達およびそれに伴う関係性の発展をテーマとして取り上げる。それを踏まえて、後半では個人のメンタルヘルスや、医療看護現場における人間関係、受容と共感や「語り」のアプローチ等について取り上げ、人間同士の関係について深く考える時間をもつ。

到達目標

- 心理学の基礎的内容のうち、特に人間関係の理解に必要とされる事柄について理解し、述べることができる。
- 各発達段階における心理的特徴や、対人関係など日常生活の中で個人が自分の心を守る仕組みについて、説明することができる。
- 自分自身の周囲にある様々な関係について、ある程度客観的に考えられるようになる。また、人間の心や関係性についての理解を医療・看護領域においてどのように活かすか、発展的に考え述べるができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	オリエンテーション（授業の目的、心の捉え方、心理学研究法など）
第2回	臨床心理学と関連領域の様々な学派
第3回	人間の発達と関係性の発展（1）
第4回	人間の発達と関係性の発展（2）
第5回	人間の発達と関係性の発展（3）
第6回	人間の発達と関係性の発展（4）
第7回	人間の発達と関係性の発展（5）
第8回	人間の発達と関係性の発展（6）
第9回 AL 5	自分自身について知る（1）
第10回	自分自身について知る（2）
第11回 AL 3	心の適応（1）：ストレスと心理的障害、メンタルヘルス
第12回 AL 3	心の適応（2）：発達の病理と様々な心理的援助
第13回	医療看護現場における人間関係（1）
第14回 AL 3	医療看護現場における人間関係（2）
第15回 AL 3	「語り」を聴く

成績評価方法	定期試験(筆記) 70% 成果物 30%					
教科書	『看護を学ぶ人のための心理学 ヒューマン・ケアを科学する』遠藤公久（弘文堂）					
参考文献	『こころを大切にする看護 燃え尽きを防ぐための臨床心理学』檜村通子（日本評論社）、 『よくわかる臨床心理学（改訂新版）』下山晴彦編（ミネルヴァ書房）など。適宜紹介します。					
事前学習(内容・時間)	前講義時の指示に基づき授業準備する（2時間）					
事後学習(内容・時間)	講義の内容を振り返り、自分で要点をまとめること。授業で配布・提示される資料を自主的に読んだり視聴するなどして内容を理解しておくこと。（2時間）					
フィードバックの方法	コメントフォームに記入された質問や課題について翌週の授業冒頭でフィードバックする					
備 考	参考文献は図書館にあります			オフィスアワー		オフィスアワー一覧表参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用能力 (看護実践力)
	△	○	△	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
発達心理学	小川 詩乃	講義	2年次 前期	選択	2	30	KGE23102

科目の概要

人間は、生まれてから死に至るまで、心身ともに変化し続けます。その変化は、身体だけではなく、感情表現、他者との関わり方、物事の捉え方など様々です。そうした生涯の発達について探求するのが「発達心理学」という学問です。本講義では、胎児期から高齢期までの各発達段階の特徴・困難・課題、及び発達障害について講義します。また、発達に関する課題の支援や対応について、受講生のみなさんと一緒に考えていきます。

到達目標

- 人間の各発達段階における特徴、および発達障害の特性に関する基礎知識を獲得し、説明できる。
- 人間が直面する困難や課題について理解し、その背景要因を指摘できる。
- ケース事例の検討を通じて、発達心理学の多様な観点から問題・課題を提起し、支援及び対応の考え方を身に着ける。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画	
第1回 AL 6	発達心理学とは	発達障害① 事例検討①
第2回 AL 6	胎児期・新生児期	事例検討②
第3回 AL 6	乳児期	事例検討③
第4回 AL 6	幼児期前期	事例検討④
第5回 AL 6	幼児期後期	事例検討⑤
第6回 AL 6	児童期	事例検討⑥
第7回 AL 6	青年期前期	事例検討⑦
第8回 AL 6	青年期後期	事例検討⑧
第9回 AL 6	成人期前期	事例検討⑨
第10回 AL 6	成人期後期	事例検討⑩
第11回 AL 6	高齢期	事例検討⑪
第12回 AL 6	発達障害②	事例検討⑫
第13回 AL 6	発達障害③	事例検討⑬
第14回 AL 6	発達障害④	事例検討⑭
第15回 AL 6	各発達段階における発達の特性の振り返り・補足	

成績評価方法	定期試験(筆記) 70% 成果物 30%					
教科書	なし(毎回、講義資料を配布する)					
参考文献	授業内で適宜紹介します					
事前学習(内容・時間)	次回講義に関係する資料や動画等の閲覧を指示するので、それを観て事前の理解を促すこと(2時間)					
事後学習(内容・時間)	講義資料、レポート(成果物)、別途指示する資料等を確認して、講義内容を復習すること(2時間)					
フィードバックの方法	レポート(成果物)に記載されたコメント・質問に対しては、授業内で解説を行います					
備考	レポート(成果物)は、毎回Teamsを介して配布し、Teams上で提出してもらいます(合計15回)			オフィスアワー		授業終了後30分、教室で質問を受け付ける
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	—	△	○	△	△	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
家族社会学	中山 麻耶	講義	1年次 後期	必修	2	30	KGE11105

科目の概要

本講義では「家族」とは何か、家族社会学の基礎的な理論から現代社会において多様化する家族の考え方について講義を行う。講義を通じて家族の構造や機能、歴史的変化や文化的差異を説明し、さらに家族についての課題について検討をおこなう。

到達目標

- 家族の機能について理解し説明できるようになる。
- 多様な家族について知識を得、説明できるようになる。
- 家族に関する課題について自分の意見を説明できるようになる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL 2	オリエンテーション—家族とは—
第2回	「家族」の形と基礎知識
第3回	近代家族①
第4回	近代家族②
第5回	恋愛と結婚①
第6回	恋愛と結婚②
第7回	結婚制度を考える
第8回 AL 2	妊娠と出産
第9回	家事分担
第10回	社会階層と家族
第11回	家族支援の現状と課題
第12回	家族ネットワーク
第13回	DV, 虐待
第14回	性的マイノリティと家族
第15回 AL 4	まとめ

成績評価方法	定期試験(レポート) 70% 成果物 30%					
教科書	教科書は用いず資料を配布する					
参考文献	授業内では用いない。より理解が深まる文献を授業内で紹介する。					
事前学習(内容・時間)	関連のあるテーマについて時事問題を調べておく (2時間)					
事後学習(内容・時間)	授業内容を復習し、復習課題に取り組む (2時間)					
フィードバックの方法	成果物およびレポートについて授業内で解説をする					
備考	積極的な授業参加・発言を期待します				オフィスアワー	授業後教室で受け付ける
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	○	○	△	○	△	—

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
地域・福祉・ボランティア	軸丸 政代 浮田 恭子 岩城 晶子	講義	1年次 後期	選択	2	30	KGE13104

科目の概要

医療・保健・福祉や自然災害現場などのあらゆる場でボランティアが活動している。まず自分たちの身近な地域と福祉について多面的に知り、ボランティアの役割についての理解を深める。またより広い視野でボランティア活動の現状と課題等を考察し、将来看護師としてキャリアを積んでいく上で必要な社会貢献の視点を身につける。講義やフィールドワーク、グループワーク等を通して以上のことを学ぶ。

到達目標

- 地域・福祉・ボランティアについて基礎的な知識を身につけ、自分の言葉で表現することができる。
- フィールドワークやボランティア活動に積極的に参加し、自分の学びを振り返り、表現することができる。
- 授業で学んだことを看護師としての自らのキャリアと結び付け考察し、文章化し、発表することができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL 3	オリエンテーション（本科目の特徴、学び方、授業の予定など）
第2回 AL 2	地域を知る(地域で暮らす人々について)：1
第3回 AL 2	地域を知る（地域で暮らす子どもの実態）：2
第4回 AL 2	地域を知る（地域で暮らす高齢者・障がい者の実態）：3
第5回 AL 3	地域を知る（地域で暮らす方々を支える地域住民）：4
第6回 AL 3	地域でのボランティア活動（住民主体によるボランティア活動とは）：1
第7回 AL 2	地域でのボランティア活動（フィールドワーク）：2
第8回 AL 2	地域でのボランティア活動：3
第9回 AL 5	地域でのボランティア活動（フィールドワーク）：4
第10回 AL 2	地域でのボランティア活動（フィールドワーク）：5
第11回 AL 3	災害におけるボランティア活動：6
第12回 AL 2	地域でのボランティア活動（フィールドワーク）：7
第13回 AL 2	地域福祉を知る：1
第14回 AL 4	学びのまとめ（フィールドワーク、ボランティア体験を通してまとめを発表）：1
第15回 AL 5	学びのまとめ：2

成績評価方法	定期試験（レポート）50% 成果物 50%					
教科書	必要な場合は授業前に指示する					
参考文献	必要な場合は授業前に指示する					
事前学習(内容・時間)	指示した課題に対する調べ学習など（2時間）					
事後学習(内容・時間)	指示した課題に対するまとめなど（2時間）					
フィードバックの方法	提出された成果物に対してフィードバックを行う					
備 考	本科目では実際にフィールドワークやボランティア活動を行い授業時間に含める。そのため時間割で指定された曜日・時間以外でそれら課外授業を行う場合は時間割の時間に代えて出席カウントを行う。また3つのテーマそれぞれにおいて概論講義・フィールドワーク・グループ討論・発表を行うが、フィールドワークの日程によりその他の活動日程を変更することがある。地域とのフィールドワーク調整の都合上、履修人数を制限する場合がある。			オフィスアワー		授業時間の前後 （事前にメール等で相談のこと）
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用能力 (看護実践力)
	○	○	○	○	○	—

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
ジェンダー論	聶 蕙菁	講義	2年次 後期	選択	2	30	KGE23103

科目の概要

ジェンダーとは何か。私たちの日常生活に大きな影響を与えているにも関わらず、見ようとしなければ見えないもの、「あたりまえ」のものとして考えている性まつわる事柄を、家族や労働、教育、メディアなど、身近な領域の身近な問題を素材に考え、それらを通して、自分が生きる社会を見つめなおすための、思考の枠組みを教授する。

到達目標

- ジェンダーやセクシャリティの基本的概念について説明できる。
- 現代社会におけるジェンダー課題について、自分なりの考えを説明できる。
- ジェンダーに関わる各テーマに関するレポートを作成し、発表できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL 3	ジェンダーってなんだろう
第2回 AL 3	メディアの中のジェンダー
第3回 AL 3	家族とジェンダー：性役割と家族形成
第4回 AL 3	家族とジェンダー：母性って何？
第5回 AL 3	教育とジェンダー：教育達成のジェンダー差
第6回 AL 3	教育とジェンダー：学校における隠れたカリキュラム
第7回 AL 3	労働とジェンダー：働き方のジェンダー差
第8回 AL 3	労働とジェンダー：看護の仕事とジェンダー
第9回 AL 3	スポーツとジェンダー
第10回 AL 3	暴力とジェンダー
第11回 AL 3	犯罪とジェンダー
第12回 AL 3	精神疾患とジェンダー
第13回 AL 3	男らしさについて①
第14回 AL 3	男らしさについて②
第15回 AL 3	ジェンダーとセクシャリティ

成績評価方法	成果物60% 定期試験(レポート)40%					
教科書	特に使用しません。適宜、プリントや参考資料を配布します。					
参考文献	『よくわかるジェンダースタディーズ 人文社会科学から自然科学まで』木村涼子ほか編著（ミネルヴァ書房）					
事前学習(内容・時間)	毎時間テーマに基づいた課題を出すので、キーワードを事前に調べてくること（2時間）					
事後学習(内容・時間)	毎時間の授業内容を踏まえた小レポートを作成し、次回授業時までに提出すること（2時間）					
フィードバックの方法	成果物およびレポートについては、授業内で解説します					
備考	毎時間課題を提出してもらいますので、受講生の意欲的な参加を求めます			オフィスアワー		オフィスアワー一覧表参照
	ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力
	○	○	○	○	○	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
ダイバーシティと共生	聶 蕙菁	講義	2年次 前期	選択	2	30	KGE23104

科目の概要

私たちが暮らす社会は、多様な個人や社会集団で成り立っています。しかしながら、社会の仕組みや私たちがあたりまえとする価値観の中には、多数派の論理が浸透し、弱者が排除される状況が生み出されています。また、世界規模での人の移動が活発化していく中で、互いに異なることを前提とし、尊重し合い、協働することも求められています。本講義では、多様性や共生の基本理念について理解するために、人種や文化、セクシャリティや障害などについて、さまざまな事例に基づきその現状と課題を教授します。また、共生社会実現のために医療者に求められることについても講義します。

到達目標

- 多様性や共生の基本的概念や理論について説明できる。
- 共生に伴う具体的課題について理解し、解決策を構想できる。
- 共生社会実現のために医療者に求められる思考や知識について発表できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL 3	ダイバーシティとは何か
第2回 AL 3	共生社会とはどのようなものか
第3回 AL 3	少子高齢化と社会保障①
第4回 AL 3	少子高齢化と社会保障②
第5回 AL 3	グローバリゼーションと多文化共生
第6回 AL 3	在日外国人を取り巻く状況
第7回 AL 3	医療から考える多文化共生
第8回 AL 3	セクシャルマイノリティとジェンダー①
第9回 AL 3	セクシャルマイノリティとジェンダー②
第10回 AL 3	障害者を取り巻く状況
第11回 AL 3	合理的配慮と特別支援
第12回 AL 3	ヘイトスピーチ、ヘイトクライムについて考える
第13回 AL 3	国際協力と共生社会
第14回 AL 3	SDGsの観点から、共生社会を考える
第15回 AL 3	全体のまとめと振り返り

成績評価方法	定期試験(筆記) 70% 成果物 30%					
教科書	なし					
参考文献	『これからの共生社会を考える』小山望ほか(福村出版)					
事前学習(内容・時間)	毎時間テーマに基づいた課題を出すので、キーワードを事前に調べてくること(2時間)					
事後学習(内容・時間)	毎時間の授業内容を踏まえた小レポートを作成し、次回授業時までに提出すること(2時間)					
フィードバックの方法	成果物およびレポートについては、授業内で解説します					
備考	毎時間課題を提出してもらいますので、受講生の意欲的な参加を求めます				オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照
	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用能力 (看護実践力)
ディプロマ・ポリシーに 掲げる能力と授業の対応	○	△	△	○	○	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
医療ジャーナリズム論	佐々木 宏	講義	2年次 後期	選択	2	30	KGE23105

科目の概要

医療機関や医療従事者に注がれる患者・家族や社会の目が厳しさを増している。それは命の重みと医療への期待の大きさにほかならない。『あるべき医療』には、単に医療スキルの向上だけでなく、患者・家族とのコミュニケーション（人間関係）能力を高め、社会とどう向き合っていくかも求められている。人生100年、コロナ禍により、一層、医療と福祉のあり方が注目される中、ジャーナリズムの機能と役割を理解し、新聞記事を通してどのように報道されてきたのか、実例をもとに講義する。

到達目標

- 医療に求められる社会的な視点について説明ができる。
- 多様な観点から医療に従事する者としての意識を身につけ、プレゼン（発表）、作文（小論文）で表現ができる。
- 記事を読み解き、プレゼンテーション力、文章力、コミュニケーション力を身につけられる。

授業内容

授業回数・AL	授業計画
第1回	ガイダンス（医療とコロナ社会）
第2回	新聞の読み方、文章の書き方
第3回	新聞から読み解く①（読者投稿欄から）・・・課題文提出
第4回	新聞から読み解く②（新型コロナウイルスについて①）
第5回	新聞から読み解く③（新型コロナウイルスについて②）・・・課題文提出
第6回	新聞から読み解く④（がん患者・家族の支援について①）
第7回	新聞から読み解く⑤（がん患者・家族の支援について②）・・・課題文提出
第8回	新聞から読み解く⑥（薬害エイズについて）
第9回	新聞から読み解く⑦（高齢者社会について）・・・課題文提出
第10回	新聞から読み解く⑧（医療とスポーツ）
第11回	新聞から読み解く⑨（医療と政治）・・・課題文提出
第12回 AL 2	グループ討論①（プレゼンテーション）
第13回 AL 2	グループ討論②（プレゼンテーション）
第14回 AL 2	グループ討論③（プレゼンテーション）・・・レポート提出
第15回	総括 医療とコロナ社会を考える

成績評価方法	成果物80% 小テスト20%					
教科書	なし					
参考文献	なし					
事前学習(内容・時間)	新聞もしくはTeamsのファイルに掲示した資料（記事コピー）に目を通す（毎回2時間）					
事後学習(内容・時間)	課題文、レポートの添削で指摘されたことを再考する（毎回2時間）					
フィードバックの方法	Teamsで返却、もしくは授業内で講評					
備考	毎回、当日の朝刊もしくは過去の記事コピーなど資料を提供します。一般常識として知っておきたい「ことば力」のミニテストを行う予定。課題文、レポートも5～6回程度提出を求めます。			オフィスアワー		授業終了後、Teamsのチャットなどで質問を受けます
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	○	○	△	△	○	—

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
法律入門	青木 亮祐	講義	1年次 前期	選択	2	30	KGE13105

科目の概要

法（法学）全体の考え方の基礎となる概念、手続、体系と分類などの概要について学んだ上で、契約、不法行為など社会生活を送る中で関係する法律について基本構造や基本的考え方を取り上げる。それによって社会生活をおくる中で遭遇するさまざまな場面においてどのような法がどのように機能しているのかを考える。また、看護学を学ぶ学生にとって手薄になりがちな法律素養を体験的に身につけ、法律的な思考ができるようになることをめざし講義する。

到達目標

- 自己の考えを、学習によって得られた知識等を用いて、社会の規範（ルール）を他者に説得的に表現すること
- 学修によって得られた知識を統合し、社会生活において活用できること
- 社会のなかの様々な問題に関心を持ち、自分なりの解決策を発見して行動できること

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	法学とは何か：法学の誕生とその目的
第2回	憲法の目的と仕組み：憲法の目的と全体像を確認する
第3回	基本的人権の尊重①：幸福追求権、平等原則、表現の自由
第4回	基本的人権の尊重②：精神的自由権・経済的自由権
第5回	基本的人権の尊重③：社会権
第6回	憲法の統治機構論
第7回	民法①：総則
第8回	民法②：物権法
第9回	民法③：債権法
第10回	民法④：親族法・相続法
第11回	刑法①：犯罪論体系、構成要件
第12回	刑法②：違法性、責任
第13回	刑法③：共犯、中止犯
第14回	刑法④：罪数論
第15回	刑事訴訟法

成績評価方法	定期試験（レポート）70% 成果物 30%					
教科書	特に指定しない。毎回レジメ資料を出す					
参考文献	特に指定しない					
事前学習(内容・時間)	次回のシラバスの内容について予習する（2時間）					
事後学習(内容・時間)	配布したレジメ資料を確認する（2時間）					
フィードバックの方法	リアクションペーパーを作成し、そのなかでの意見や質問に対して回答する					
備 考	日常生活で当たり前となっているルールこそ、その理由を見出せる能力を養いたい			オフィスアワー		出講日の授業の前後30分（オンライン）
	ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力
	△	○	△	○	△	—

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
デッサンと表現	中村 仁美	講義・演習	1年次 後期	選択	1	30	KGE13201

科目の概要

観察による描画表現（デッサンやクロッキー）は、アートにおける本質の感受と、サイエンスにおける諸要素の分析的理解による、総体的・相互作用的な観察を行い、自分なりに対象を問い直して表現する営みである。本科目では、観察の多様性を学び、実技制作を通して、体験的に、看護に生かされる観察力と表現力、コミュニケーション能力を養うことを目的として授業を実施する。

到達目標

- 観察の、多様なあり方を知ることができる（知識・考え方）。
- 自身を取り巻くものやことに対し、多様な見方をすることができる（技能）。
- 自分の観察したものやことに合わせて表現手段を選択し、描画表現をすることができる（技術）。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	ガイダンス
第2回 AL 6	【観察画1】 観察の多様性（1） 視覚的正確性に基づく描画表現：視覚的要素をかく ①
第3回 AL 6	【観察画1】 観察の多様性（1） 視覚的正確性に基づく描画表現：視覚的要素をかく ②
第4回 AL 6	【観察画2】 観察の多様性（2） 視覚的正確性に基づかない描画表現：存在感をかく
第5回 AL 6	【観察画3】 観察の多様性（3） 視覚的正確性に基づかない描画表現：概念をかく
第6回 AL 6	【観察画4】 いのちをかく（1）布
第7回 AL 6	【観察画5】 いのちをかく（2）木 ①
第8回 AL 6	【観察画5】 いのちをかく（2）木 ②
第9回	【映画鑑賞】 人をみるということ
第10回 AL 6	【観察画6】 いのちをかく（3）人（他者・個）
第11回 AL 6	【観察画7】 いのちをかく（3）人（他者・多）
第12回 AL 6	【観察画8】 いのちをかく（3）人（自分）
第13回 AL 6	【観察画9】 心が動くものをかく ①
第14回 AL 6	【観察画9】 心が動くものをかく ②
第15回	看護における観察

成績評価方法	成果物 100%					
教科書	なし					
参考文献	なし					
事前学習(内容・時間)	身の周りで次時に扱うモチーフを探し、観察しておく（1時間）					
事後学習(内容・時間)	授業の内容を踏まえ、身の周りのものを観察する（1時間）					
フィードバックの方法	成果物を学生同士で相互鑑賞して意見交換をしたり、教員が講評をしたりする。					
備 考	スケッチブック、画材など、教材費として3000円程度必要です。			オフィスアワー		授業終了後、教室やTeamsのチャットなどで質問を受け付けます
	ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
茶道と香道の理論と表現	飯島 照仁	講義・演習	1年次 前期	選択	1	30	KGE12201

科目の概要

本科目は、茶の湯の学術的基礎を概観し、茶を「点てる」「飲む」という実践を行う。また季節感のある茶の湯のお菓子を、グループ茶会のもてなしのためにデザインする。さらにお香の種類と基礎を学ぶ。茶道表現の理論的・実践的講義を通して、伝統芸術の創造と将来への展望、そして何よりも看護の分野へ応用できるよう教授する。

到達目標

- 客の心得を理解し、考え方を述べることができる。
- 盆略点前を習得し、その技術を実践できる。
- 茶の湯・お香の基礎を学び、概要とその考え方を述べるができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	茶の湯入門（茶道のこころ1）
第2回	茶の湯入門（茶道のこころ2）
第3回	茶についての基礎知識
第4回	茶道の成り立ち（茶道史1）
第5回	茶道の成り立ち（茶道史2）
第6回	茶道の基礎知識1（茶室と露地）
第7回	茶道の基礎知識2（茶花）
第8回	茶道の基礎知識3（茶席のお菓子）
第9回	茶道の基礎知識4（茶道具）
第10回 AL 3	実技のための総論
第11回 AL 3	茶の湯基礎・割稽古1
第12回 AL 3	茶の湯基礎・割稽古2
第13回 AL 3	茶の湯の基礎・盆略点前1
第14回 AL 3	茶の湯の基礎・盆略点前2
第15回 AL 3	独自のお菓子をデザインしてお茶会の準備をする

成績評価方法	小テスト（実技）50% 成果物 50%					
教科書	必要に応じてオンデマンドの資料等の配布をする					
参考文献	『茶の湯がわかる本』飯島照仁共著（淡交社）					
事前学習(内容・時間)	配布資料の確認（30分）					
事後学習(内容・時間)	配布資料の確認と実技の復習（30分）					
フィードバックの方法	課題・実技に関しては対面授業内で解説します					
備 考					オフィスアワー	授業の前後
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用 力(看護実践力)
	○	○	○	△	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
生け花の理論と表現	小林 秀加	講義・演習	1年次 前期	選択	1	30	KGE12202

科目の概要

この授業は、花に触れ、花の表情に気づき、命の尊さ・奥深さを学ぶことが目的である。実際に季節の花を活けることにより、花を活かすことを教授する。いけ花を通して自身の感性を豊かに磨き、表現する能力を養い、表現を通して自分自身を知ってもらいたい。また花を中心に色彩・効用・祭との関わり等、実践を交えながら解説する。

到達目標

- 実践（技能・技術の習得）を通して生け花の本質を探り、作品を通して伝統芸術の根底にある日本的な心（知識・考え方）を表現できる。
- 季節の花に触れ、草花の命を見つめ、花の表情を捉え、いけ花の技能を生かし表現する技能・技術をつける。
- 個人の表現を通して自己を知り、他者の作品を眺めることで、自己の特性を知る。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	生け花とは — 授業で何を学ぶのか（目的・内容・評価）。生け花とは、花を活ける過程を見せる（実践） —
第2回	花との対話 — 実践を通して花を活かす「活け花」（盛花）を学ぶ。道具について学ぶ—
第3回 AL 4	表現原理 — いけ花は何を表現しているのか、理論・実技から学ぶ —
第4回	生け花の誕生 — 花と人との関係を知り、その歴史を古代から現代まで探る —
第5回 AL 5	技と表現様式 — 壺に生ける生け方（投入）を実践。花の扱いについて学ぶ —
第6回	器との調和 — 花器の種類や素材・焼き物について学ぶ。器による表現法を学ぶ —
第7回 AL 4	生け花の型① — 飾る場所を意識して花を活ける（斜主型・直主型） —
第8回	伝統行事の花 — 節句を中心に花との関係を知る・祭りとは① 葵祭と花 — 盛花の生け方
第9回 AL 4	生け花の型② — 飾る場所を意識して花を活ける（横主型・垂主型） —
第10回	敷板との調和 — 敷板としての塗り物・その効用についても学ぶ・敷板を意識した空間表現 — 投入の生け方
第11回 AL 4	生け花の型③ — 飾る場所を意識して花を活ける（四方正面型） —
第12回	植物の効用 — 薬用としての植物を学ぶ — 季節をテーマにした作品
第13回	祭りとは② — 祇園祭と花 — 連鎖・株分けの作品
第14回	植物の染料 — 日本の伝統色彩から花との深い関係を捉える — 色を意識した作品
第15回 AL 5	いけ花作品の制作・展示・合評

成績評価方法	成果物 85% 定期試験（レポート） 15%					
教科書	なし					
参考文献	なし					
事前学習(内容・時間)	授業で紹介する内容を前回の授業で確認し、それを踏まえ当日までに予習する（2時間）					
事後学習(内容・時間)	授業での成果物の添削内容を踏まえ、次に生かせるよう学習する（2時間）					
フィードバックの方法	課題提出に対して、個々とやりとりしながら指導					
備 考	授業用物品（花はさみと剣山、花代等）は5,000円～10,000円程度が必要になります。詳細は別途お知らせします。			オフィスアワー		授業時間前後
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力（看護実践力）
	○	○	△	○	○	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
書芸術の理論と表現	池田 方彩	講義・演習	1年次 前期	選択	1	30	KGE12203

科目の概要

書とは筆墨をかりて文字を書くということであるが、文字には表意文字(漢字)と表音文字(仮名)があり、その書体には篆隸楷行草の五體、および仮名(かな)文字があり、書風も線質・字形・章法によって様々である。かような書之美を歴史的に順を追って講義する。また古典各体の臨書を課することで、各筆の有する深い人格性や高い技芸力、詩魂や情操の結実した造形の跡を理解する力を付け、さらに自ら書写することの喜びを感得してもらう。

到達目標

- 書(詞章)の意味を考え、内容を味わうことにより感性を高め、書写能力を向上させる。
- 書(文字)の鑑賞力を向上させ、芸術的な視点から述べることができる。
- 実際に書くという行為の楽しさを知り、自娛の境地を体得し、自らの書に表すことができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	(講義) 書芸術概論
第2回	(実技) 臨三体千字文
第3回	(講義) 奈良朝写経
第4回 AL 6	(実技) 臨三体般若心経・臨細楷般若心経
第5回	(講義) 平安朝三筆・三蹟
第6回 AL 6	(実技) 臨空海・臨行成
第7回	(講義) 平安朝仮名
第8回 AL 6	(実技) 仮名いろは文字
第9回	(講義) 鎌倉熊野懷紙
第10回 AL 6	(実技) 臨篆書・臨隸書
第11回	(講義) 墨蹟(禅の書)
第12回 AL 6	(実技) 座右の銘
第13回	(講義) 江戸の書
第14回 AL 6	(実技) 詠七夕懷紙
第15回 AL 6	(講義) 近現代の書 (実技) 自由創作

成績評価方法	成果物 100%					
教科書	適宜資料を配布する					
参考文献	なし					
事前学習(内容・時間)	授業計画を確認しておく(2時間)					
事後学習(内容・時間)	講義で配布した資料をしっかりと読むこと(2時間)					
フィードバックの方法	作品は講評し、次回評価をお伝えします					
備 考	筆ペン(太字用)の用意。受講中は私語を慎み、他者に迷惑をかけること。			オフィスアワー		授業時間前後
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用 (看護実践力)
	○	○	△	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
英語 I	毛利 郁子	演習	1年次 前期	必修	1	30	KGE11301

科目の概要

基礎的な文法と構文を説明し、テキストを用いて看護・医療分野における専門用語を教授する。英語の読解力を深めながら同時にListening, Writing, Speaking の4技能全てを向上させ、自分の考えを適切に英語で表現し、英語で意思疎通が図れるように指導する。学期末には医療関連の英語の文献を辞書や検索ツールを用いながら読んで理解し、英作文、医療現場での英会話ができるように講義する。

到達目標

- 医療英語の専門用語の覚え方や基礎的な語彙を身につける事により、医療関連の文献を読むことができる。
- 辞書や検索ツールを用いて医療分野の英語を日本語に訳し、理解することができる。
- 医療現場で想定される会話を英語で行い、患者に伝達したい事を英語で表現できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL 3	オリエンテーション およびUnit1-1 First Visit to a Hospital (来院)
第2回 AL 3	Unit1-2 First Visit to a Hospital (来院)
第3回 AL 3	Unit2-1 How to Fill in a Registration Form (初診の受付) その1
第4回 AL 3	Unit2-2 How to Fill in a Registration Form (初診の受付) その2
第5回 AL 3	Unit3-1 Let's Ask about Mr. Brown's Daily Activities (生活習慣を聞く) その1
第6回 AL 3	Unit3-2 Let's Ask about Mr. Brown's Daily Activities (生活習慣を聞く) その2
第7回 AL 3	Unit4-1 Mr. Brown's Symptoms (問診1)その1
第8回 AL 3	Unit4-2 Mr. Brown's Symptoms (問診1)その2
第9回 AL 2	Unit5 Medical Checkup 1 (脈拍・血圧・体重の測定)
第10回 AL 2	Unit6 Medical Checkup 2 (採血・採尿)
第11回 AL 3	Unit7-1 Mr. Brown's Diagnosis (診断1) その1
第12回 AL 3	Unit7-2 Mr. Brown's Diagnosis (診断1) その2
第13回 AL 3	Unit8-1 Mr. Anderson's Symptoms (問診2) その1
第14回 AL 3	Unit8-2 Mr. Anderson's Symptoms (問診2) その2
第15回 AL 2	学期の復習 (Unit 1-8)

成績評価方法	定期試験(筆記) 40% 小テスト 30% 成果物 30%					
教科書	『First Aid! English for Nursing』 Akihiko Higuchi, John Tremarco (金星堂)					
参考文献	なし					
事前学習(内容・時間)	単語調べなどの教科書の予習 (30分程度)					
事後学習(内容・時間)	授業の復習 (1時間程度)					
フィードバックの方法	小テストは授業中に答え合わせをしてフィードバックをする					
備 考	辞書とノートを持参			オフィスアワー	授業の前後30分	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用能力(看護実践力)
	△	○	△	○	○	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
英語Ⅱ	毛利 郁子	演習	1年次 後期	必修	1	30	KGE11302

科目の概要

英語Ⅰでの学習を基盤とした更に応用的な看護・医療英語を講義する。Reading, Writing, Listening, Speakingの四技能をバランスよく授業に取り入れ、医療現場において英語でコミュニケーションを図れるように教授する。生活習慣病や脳卒中等の疾患や医療現場で使われる医療機器や薬について英語で理解し、患者に疾患・投薬・検査および検査結果等について英語で伝達できるように講義する。

到達目標

- 医療現場の様々な場面で見聞きする英語を理解し、日本語に変換することができる。また日本語を英語に変換することができる。
- 患者の気持ちを思いやり、不安を取り除いたり励ましたりする言葉を英語で書くことができる
- 患者に疾患や薬の説明をわかりやすく英語で説明することができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL 3	オリエンテーションと英語Ⅰの復習
第2回 AL 3	Unit9-1 Let's Ask More about Mr. Anderson's Symptom (症状をより詳しく聞く) その1
第3回 AL 3	Unit9-2 Let's Ask More about Mr. Anderson's Symptom (症状をより詳しく聞く) その2
第4回 AL 3	Unit10-1 Explaining Blood Test Results (診断2血液検査) その1
第5回 AL 3	Unit10-2 Explaining Blood Test Results (診断2血液検査) その2
第6回 AL 3	Unit11-1 How to Take Medicines (薬の説明) その1
第7回 AL 3	Unit11-2 How to Take Medicines (薬の説明) その2
第8回 AL 3	Unit12-1 Mrs. Johnson Feels Dizzy (問診3) その1
第9回 AL 3	Unit12-2 Mrs. Johnson Feels Dizzy (問診3) その2
第10回 AL 3	Unit13-1 An MRI Test (MRIを受ける) その1
第11回 AL 3	Unit13-2 An MRI Test (MRIを受ける) その2
第12回 AL 3	Unit14-1 Recommending an Operation (手術を勧める) その1
第13回 AL 3	Unit15 Post-operative Care (術後のコミュニケーション)
第14回 AL 2	学期の総復習1
第15回 AL 2	学期の総復習2

成績評価方法	定期試験(筆記) 40% 小テスト 30% 成果物 30%					
教科書	『First Aid! English for Nursing』 Akihiko Higuchi, John Tremarco (金星堂)					
参考文献	なし					
事前学習(内容・時間)	単語調べなど教科書の予習(30分程度)					
事後学習(内容・時間)	授業の復習(1時間程度)					
フィードバックの方法	小テストは授業中に答え合わせをしてフィードバックをする					
備 考					オフィスアワー	授業の前後30分
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用 (看護実践力)
	△	○	△	○	○	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
英会話 I	池田美智子	演習	1年次 前期	選択	1	30	KGE12301

科目の概要

医療現場における英語によるコミュニケーションを中心に、ListeningとSpeakingを主軸とした英語活動を行う。そのため、医療や看護に関わる語彙の修得、基本的な英会話のパターンの修得、ペアやグループでの実践などを基本とする。また、将来、多様な文化的、言語的背景を持つ人々と接していくことを想定し、文化の違いなどに配慮し、相手を包括的に理解してコミュニケーションを深めることを目指す。日常的な会話場面を中心に、的確に機能できる英語能力の基本を講義する。

到達目標

- テキストの役立つ表現を英語で説明できるだけでなく、記述も出来る。
- 会話だけでなく、英文を書くときのルールを習得し、英文で患者の症状、生活習慣についても記述できる。
- 病院で必要とされるフォームを英語で記入できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	授業の進め方の説明とLesson 1 In the Lobby of the Hospital病院にて（その1）
第2回	Lesson 1 In the Lobby of the Hospital病院にて（その2）
第3回 AL 6	Lesson 1 In the Lobby of the Hospital病院にて（その3）
第4回	Lesson 2 Registration 受付登録（その1）
第5回 AL 6	Lesson 2 Registration受付登録（その2）
第6回	Lesson 3 Checking the Registration診察券を確認する（その1）
第7回 AL 6	Lesson 3 Checking the Registration診察券を確認する（その2）
第8回	Lesson 1～Lesson 3の復習
第9回	Lesson 4 Finding the Way院内案内（その1）
第10回 AL 6	Lesson 4 Finding the Way院内案内（その2）
第11回	Lesson 5 Personal History病歴（その1）
第12回 AL 6	Lesson 5 Personal History病歴（その2）
第13回	Lesson 6 Daily Activities生活習慣（その1）
第14回 AL 6	Lesson 6 Daily Activities生活習慣（その2）
第15回	Lesson 4～Lesson 6の復習

成績評価方法	定期試験(筆記) 50% 小テスト 30% 成果物 20%					
教科書	『How Are You Feeling Today? やさしい看護英語』 助川尚子編 (成美堂)					
参考文献	なし					
事前学習(内容・時間)	学習する範囲の内容や単語について調べておく (45分)					
事後学習(内容・時間)	学習した単語や英語表現について、必ず復習する (45分)					
フィードバックの方法	次回、もしくはそれ以降の課題返却時に解説を行う					
備 考					オフィスアワー	授業の前後30分
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	○	○	△	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
英会話Ⅱ	池田美智子	演習	1年次 後期	選択	1	30	KGE12302

科目の概要

ここで学ぶ英会話は一般のコミュニケーションにおいても欠かせない表現が多く含まれ、看護の現場以外でも役立つものが多い。授業は、病院を舞台として、そこで患者と看護師の間でかわされる会話を中心に進める。特に、既往歴や生活習慣についての質問形式や検査及び薬についての説明や服用の指示など叙述や命令形を中心に講義する。

到達目標

- テキスト内の役立つ表現を英語で説明できるだけでなく、記述もできる。
- 会話だけでなく、英文を書くときのルールを習得し、英文で患者の症状、生活習慣、検査や与薬についても記述できる。
- 病院で必要とされるフォームを英語で記入できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	Lesson 7 More about Daily Activities 詳細な生活習慣(その1)
第2回	Lesson 7 More about Daily Activities 詳細な生活習慣(その2)
第3回 AL 6	Lesson 7 More about Daily Activities 詳細な生活習慣(その3)
第4回	Lesson 8 Asking about Symptoms 症状について(その1)
第5回 AL 6	Lesson 8 Asking about Symptoms 症状について(その2)
第6回	Lesson 9 More about Symptoms 詳細な症状について(その1)
第7回 AL 6	Lesson 9 More about Symptoms 詳細な症状について(その2)
第8回	Lesson 7~Lesson 9復習
第9回	Lesson 10 Checking Blood Pressure and Weight 血圧と体重測定(その1)
第10回 AL 6	Lesson 10 Checking Blood Pressure and Weight 血圧と体重測定(その2)
第11回	Lesson 11 Laboratory Specimens 検査用検体について(その1)
第12回 AL 6	Lesson 11 Laboratory Specimens 検査用検体について(その2)
第13回	Lesson 12 Taking Medicines 薬剤服用について(その1)
第14回 AL 6	Lesson 12 Taking Medicines 薬剤服用について(その2)
第15回	Lesson 10~Lesson 12の復習

成績評価方法	定期試験(筆記) 50% 小テスト 30% 成果物 20%					
教科書	『How Are You Feeling Today? やさしい看護英語』助川尚子編 成美堂					
参考文献	なし					
事前学習(内容・時間)	学習する範囲の内容や単語について調べておく (45分)					
事後学習(内容・時間)	学習した単語や英語表現について必ず復習する (45分)					
フィードバックの方法	次回、もしくはそれ以降の課題返却時に解説を行う					
備 考					オフィスアワー	授業の前後30分
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用 (看護実践力)
	○	○	△	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
英語Ⅲ	池田美智子	演習	2年次 前期	選択	1	30	KGE22301

科目の概要

看護師と患者の対話、痛みや症状の表現、薬の基本的知識など、看護・医療の現場で役に立つ様々な英語表現の基礎と応用を学ぶ。英作文や英会話を学習しながら、ライティングのみならず、リスニング、リーディング、スピーキングをも総合的にスキルアップし、英語でコミュニケーションをとれるように講義する。ペアワーク、グループワークのアクティブラーニングで行う。

到達目標

- リーディングを中心に総合的な英語力を修得し、医療関連の文献を英語で読める。
- 医療に必要な語彙や知識を英語で修得し、それらを用いて記述または説明できる。
- 看護のための専門用語や英語表現を修得し、それらを用いて患者様とコミュニケーションをはかることができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL 6	Unit 1 No Regrets 後悔はない(その1)
第2回 AL 3	Unit 1 No Regrets 後悔はない(その2)
第3回 AL 6	Unit 2 Ordinary Things ありふれたこと(その1)
第4回 AL 3	Unit 2 Ordinary Things ありふれたこと(その2)
第5回 AL 6	Unit 3 Making It Fit 馴染ませること(その1)
第6回 AL 3	Unit 3 Making It Fit 馴染ませること(その2)
第7回 AL 6	Unit 4 Promises to Keep 守るべき約束(その1)
第8回 AL 3	Unit 4 Promises to Keep 守るべき約束(その2)
第9回	Unit 1~Unit 4の復習
第10回 AL 6	Unit 5 The Eyes of a Pediatric Nurse 小児科看護師として(その1)
第11回 AL 3	Unit 5 The Eyes of a Pediatric Nurse 小児科看護師として(その2)
第12回 AL 6	Unit 6 Bed Bath 清拭(その1)
第13回 AL 3	Unit 6 Bed Bath 清拭(その2)
第14回 AL 6	Unit 7 A Nurse's Mother's Nurses 看護師の母親を担当した看護師たち(その1)
第15回 AL 3	Unit 7 A Nurse's Mother's Nurses 看護師の母親を担当した看護師たち(その2)

成績評価方法	定期試験(筆記)50% 成果物 30% 小テスト 20%					
教科書	『Reflections 看護師たちのリフレクション』田中芳文編(三修社)					
参考文献	なし					
事前学習(内容・時間)	次回に学習する範囲の単語や内容を調べておく(45分)					
事後学習(内容・時間)	学習したところの単語や英語表現を必ず復習しておく(45分)					
フィードバックの方法	次回、もしくはそれ以降の課題返却時に解説を行う					
備 考					オフィスアワー	授業の前後30分
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用(看護実践力)
	△	○	△	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
英語IV	池田美智子	演習	2年次 後期	選択	1	30	KGE22302

科目の概要

米国看護学専門誌のAmerican Journal of Nursingの中にReflectionsというコラムには看護師、医療従事者、患者やその家族も執筆してるエッセイがある。このエッセイを読み進めることで、実際の看護現場での起こり得る事象の英語表現についても説明する。また、看護の分野で必要とされる重要単語や表現を説明する。

到達目標

- リーディング、ライティング、リスニングを通じて医療に関する看護の専門知識や用語を身につけ、表現できる。
- 医療に必要な語彙や役立つ知識を英語で修得し、それらを用いて記述または説明することができる。
- 看護のための専門用語や英語表現を修得し、それらを用いて患者様とコミュニケーションをはかることができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL 6	Unit 8 A Place for Palliative Care 緩和ケアにふさわしい機会 (その1)
第2回 AL 3	Unit 8 A Place for Palliative Care 緩和ケアにふさわしい機会 (その2)
第3回 AL 6	Unit 9 My Turn 私の順番 (その1)
第4回 AL 3	Unit 9 My Turn 私の順番 (その2)
第5回 AL 6	Unit 10 Big Love 大いなる愛 (その1)
第6回 AL 3	Unit 10 Big Love 大いなる愛 (その2)
第7回 AL 6	Unit 11 Socks and All… ソックスもすべて… (その1)
第8回 AL 3	Unit 11 Socks and All… ソックスもすべて… (その2)
第9回 AL 6	Unit 12 The Dirtiest House in Town 町でいちばん汚れた家 (その1)
第10回 AL 3	Unit 12 The Dirtiest House in Town 町でいちばん汚れた家 (その2)
第11回 AL 6	Unit 13 Hiding a Tender Soul 思いやりのある心を隠すこと (その1)
第12回 AL 3	Unit 13 Hiding a Tender Soul 思いやりのある心を隠すこと (その2)
第13回 AL 6	Unit 14 Keeping Secrets 秘密を守ること (その1)
第14回 AL 3	Unit 14 Keeping Secrets 秘密を守ること (その2)
第15回 AL 6	Unit 15 A Man of Few Words 寡黙な男

成績評価方法	定期試験(筆記) 50% 成果物 30% 小テスト 20%					
教科書	『Reflections 看護師たちのリフレクション』田中芳文編(三修社)					
参考文献	なし					
事前学習(内容・時間)	学習する内容や単語について調べておく(45分)					
事後学習(内容・時間)	学習した単語や英語表現について、必ず復習する(45分)					
フィードバックの方法	次回、もしくはそれ以降の課題返却時に解説を行う					
備 考					オフィスアワー	授業の前後30分
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	△	○	△	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
フランス語 I	渋谷 直樹	演習	1年次 前期	選択	1	30	KGE12303

科目の概要

この授業は旅行でパリに来たYumiとパリに住むAlexとのやり取りを軸に、フランス語による自己紹介の表現や、日常生活に必要な会話の基礎が学べられるよう授業を進めます。それに伴い自分についての情報を話し書くための基本的なフランス語文法もお教えします。またフランスの文化や歴史に関する映像を通し、フランス人の考え方や日常生活といった異文化理解が深められるような内容を講義します。

到達目標

- 自己紹介に関連したさまざまな表現を身に着け、旅行や日常生活にも役立つコミュニケーションをフランス語ですることができる。
- 自己紹介のために必要な基礎的な文法を習得することで、フランス語で自分についての情報を伝えるだけでなく書くこともできる。
- 文化に関するコラムや映像を通して、フランスの日常生活やフランス人の物の考え方を理解し、説明することができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	【イントロダクション】① ガイダンス ② パリの街並みとフランス語
第2回 AL 6	【フランス語の音と綴り】① フランス語と日本語の聞き比べ ② アルファベット ③ 略字
第3回 AL 6	【日常よく使われる表現】① 挨拶 ② 受け答え ③ 呼びかけ ④ お礼 ⑤ お詫び ⑥ 依頼
第4回 AL 6	【国籍】① 主語人称代名詞 ② 動詞《être》「～です」③ 国籍 ④ 《語彙・実践》「さまざまな国籍」
第5回 AL 6	【名前・職業】① 名前 ② 職業 ③ 動詞《avoir》「持っている」④ 《文化》「多民族社会フランス」
第6回 AL 6	【年齢】① 《語彙》「数字 (1-30)」② 年齢の言い方 ③ 「私は～歳です」④ 《文化》「日本人は若作り？」
第7回 AL 6	【言語・人の形容】① 《-er 動詞》② 「私は～語を話します。」③ 《語彙》「言語」④ 形容詞の性数一致
第8回 AL 6	【物】① 名詞の性数 ② 不定冠詞 ③ 《que》「何？」④ 指示代名詞《ce(c)》⑤ 《語彙》「日用品 I」
第9回 AL 6	【物の形容・趣味】① 形容詞の位置 ② 動詞《aimer》「好きである」③ 定冠詞 ④ 《語彙》「国名・趣味」
第10回 AL 6	【疑問文・不定冠詞と定冠詞】① 3通りの疑問文 ② 《実践》「不定冠詞から定冠詞に変換する表現」
第11回 AL 6	【居住地】① 《où》「どこ？」を用いた様々な表現 ② 動詞《habiter》「住んでいる」③ 住んでいる所
第12回 AL 6	【否定文】① 否定形 I ② 《実践》「さまざまな動詞の否定文」③ 《文化》「フランスにおける日本語学習」
第13回 AL 6	【位置】① 《語彙》「建造物・前置詞」② 「～があります」③ 量の表現 ④ 《文化》「日本のマンガ・アニメ」
第14回 AL 6	【様態・移動】① 疑問形容詞《quel》「どんな」「どの」② 動詞《venir》「来る」③ 動詞《aller》「行く」
第15回	【前期のまとめ】

成績評価方法	成果物（課題）45% 定期試験（筆記）40% 成果物（発音）15%					
教科書	『Le Japon, c'est cool! (ル・ジャポン、セ・クール [パリのクール・ジャパン] !)』藤田裕二 (朝日出版社)					
参考文献	授業中に紹介します					
事前学習(内容・時間)	理解をより早めるために、授業の予習として毎回一通り教科書に目を通しておいて下さい (30分)					
事後学習(内容・時間)	次の授業で新しいことを学ぶためには、前に習ったこと全てが前提となりますので復習をして下さい (1時間)					
フィードバックの方法	提出して頂いた練習問題は添削をし、間違えたところは説明をしながら次回の授業の最初にお返しします					
備考	発音と練習問題を毎回します。語学は大変ですが、まずはフランスという国の文化や伝統を楽しみながら学んで下さい			オフィスアワー		授業の終了後30分、教室で質問を受け付けます
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用能力 (看護実践力)
	—	○	△	—	○	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
フランス語Ⅱ	渋谷 直樹	演習	1年次 後期	選択	1	30	KGE12304

科目の概要

この授業は「フランス語Ⅰ」で用いた教科書の後半から始めます。パリを舞台にYumiとAlexとの間で交わされる会話を軸に、中級会話・文法を身に着けるために学びを発展させます。そして1つの技能に偏るのではなく、フランス語の4技能（話す・聞く・読む・書く）を習得することを目指した授業を行います。また映像を通じてフランスの歴史や文化についての見聞を広められるような講義をいたします。

到達目標

- 会話における中級文法を習得することで、フランス語での簡単な物語を読むだけでなく、文章、手紙、メールを書くことができる。
- 自分の考えや欲求のみならず、自分が置かれた状況の説明や過去の出来事をフランス語で伝えるだけの会話力を得ることができる。
- 映像や文化に関するコラムを通して、フランスの日常生活やフランス人の物の考え方を理解し、説明することができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	【フランスの童話の世界】① フランスの18世紀 ② フランスの童話
第2回 AL 6	【パリでの日本食 (1)】① 部分冠詞 ② 状況に合わせた冠詞の使い方 ③ 《語彙》「食べ物と飲み物」
第3回 AL 6	【パリでの日本食 (2)】① 定冠詞の縮約 ② 《実践》「食べたい物とレストラン」 ③ 《文化》「レストラン」
第4回 AL 6	【パリの日本専門店 (1)】① 所有形容詞 ② 《語彙》「家族」 ③ 《実践》「人称代名詞を用いた家族構成」
第5回 AL 6	【パリの日本専門店 (2)】① 人称代名詞の強勢形 ② 《文化》「日本の生活様式化」
第6回 AL 6	【買い物 (1)】① 指示形容詞 < ce > ② 指示代名詞 < celui > ③ < combien > 「どれだけ？」
第7回 AL 6	【買い物 (2)】① 比較級 ② 《語彙》「日用品Ⅱ」 ③ 《実践》「理由の表現・値段」 ④ 《文化》「日本製品」
第8回 AL 6	【ジャパン・エキスポ (1)】① 命令形 ② 中性代名詞 < y > ③ 《語彙》「曜日・月」 ④ 日時の表現
第9回 AL 6	【ジャパン・エキスポ (2)】① 補語人称代名詞 ② 《実践》「直・間接補語」 ③ 《文化》「ジャパン・エキスポ」
第10回 AL 6	【天候】① 代名動詞 ② 非人称 ③ 《語彙・実践》「天候・時刻」 ④ 形容詞の女性形 ⑤ 《文化》「気候」
第11回 AL 6	【美術館】① < qui > 「誰？」 ② 過去形Ⅰ ③ 《語彙》「衣服と色」 ④ 《実践》「対象物」 ⑤ 《文化》「親日」
第12回 AL 6	【バカンス (1)】① 過去形Ⅱ ② 否定形Ⅱ ③ < comment > 「どのように？」 ④ 《語彙》「乗り物」
第13回 AL 6	【バカンス (2)】① 《実践》「目的地までの交通手段」 ② 《文化》「フランスと日本のバカンス事情」
第14回 AL 6	【Yumiの帰国】① 未来 ② 《語彙》「季節と未来」 ③ 感嘆文 ④ 《実践》「予定」 ⑤ 《文化》「四季」
第15回	【後期のまとめ】

成績評価方法	成果物（課題）45% 定期試験（筆記）40% 成果物（発音）15%					
教科書	『Le Japon, c'est cool! (ル・ジャポン、セ・クール [パリのクール・ジャパン] !)』藤田裕二（朝日出版社）					
参考文献	授業中に紹介します					
事前学習(内容・時間)	理解をより早めるために、授業の予習として毎回一通り教科書に目を通しておいて下さい（30分）					
事後学習(内容・時間)	次の授業で新しいことを学ぶためには、前に習ったこと全てが前提となりますので復習をして下さい（1時間）					
フィードバックの方法	提出して頂いた練習問題は添削をし、間違えたところは説明をしながら次回の授業の最初にお返しします					
備 考	授業は前期の続きからですので、前期に学んだことは知っていることを前提に、授業を進めさせてもらいます			オフィスアワー		授業の終了後30分、教室で質問を受け付けます
	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用能力（看護実践力）
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	—	○	△	—	○	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
中国語会話 I	潘 建秀	演習	1年次 前期	選択	1	30	KGE12305

科目の概要

中国語の入門クラス。前期の前半では、中国語の発音練習や四声及び発音表記である「ピンイン」の修得に重点をおいて授業を進め、後半から簡単な中国語の会話を通じて発音や四声を確認なものにしたい。後期前半ではより複雑な会話を教授すると同時に、読解練習を通じて語彙を増やすとともに文法を理解できるように指導する。

到達目標

- ピンインが正しく表記ができ、発音することができる。
- 教科書で学んだ文法を理解し、文例に出た表現をマスターすることができる。
- 授業で学んだ内容を活用し、中国語で簡単な文書の作成や、コミュニケーションをすることができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	ガイダンス、中国語の特徴、発音の基本 ①声調 ②単母音 ③複合母音
第2回	発音の基本 子音 鼻母音
第3回	声調の組み合わせ 発音の総合的な練習
第4回 AL 3	第一課 ①人称代名詞 ②「是」の文 ③「吗」疑問詞 ④名前の言い方
第5回	第一課 チャレンジ及びスキット 第二課 ①動詞が述語になる文 ②指示代名詞
第6回 AL 3	第二課 ③疑問詞を使う疑問文 ④「的」 チャレンジ及びスキット
第7回	中国文化紹介と中間試験及び解説
第8回	第三課 ①形容詞が述語になる文 ②所有をあらわす「有」 ③反復疑問詞 ④副詞「也」と「都」
第9回 AL 3	第三課 チャレンジ及びスキット 第四課 ①場所代名詞 ②存在「在」 ③動詞の重ね型 ④省略疑問文「呢」
第10回	第四課 チャレンジ及びスキット 第五課 ①数詞 ②量詞 ③「几」と「多少」④語気助詞「吧」
第11回	第五課 チャレンジ及びスキット 第六課 ①存在「有」②連動文 ③月日・曜日 ④時刻
第12回	第六課 チャレンジ及びスキット 第七課 ①要・想 ②介詞“在・从”③完了“了”
第13回	第七課 チャレンジ及びスキット 第八課 ①助動詞 “能・会・可以”②経験を表す“过”③時間の長さ
第14回	第八課 チャレンジ及びスキット 総合復習
第15回	中国文化紹介と期末試験及び解説

成績評価方法	定期試験（筆記及び実技）40% 中間試験（筆記及び実技）30% 小テスト 30%					
教科書	『中国語ポイント42』本間史、孟広学（白水社）					
参考文献	授業中に指示します					
事前学習(内容・時間)	授業前にCDを使って単語の発音を予習しておく（1時間）					
事後学習(内容・時間)	毎回習った会話文を復習しておく（1時間）					
フィードバックの方法	試験の解説は授業内で行います					
備考	発音練習時は積極的に口に出して練習しよう			オフィスアワー	授業の前後	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用能力(看護実践力)
	○	△	—	△	○	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
中国語会話Ⅱ	潘 山海	演習	1年次 後期	選択	1	30	KGE12306

科目の概要

中国語会話Ⅰを踏まえ、発音システムや基礎知識を固めながら実践的な中国語会話(医療系に重点を置き)を講義する。教員がリードして学生に中国語会話必要表現を朗読・暗記させながら、グループワークを通して場面別の会話を教授する。また、話題関連や場面に合わせて中国の文化・歴史・習慣及び医療・看護などの現状知識も紹介する。

到達目標

- 中国語発音スキルの必須項目「四声」と「拼音一覧表」を暗唱することができ、実践に活用できる。
- 場面別の実用的な中国語会話表現(医療系に重点を置き)と実践会話技能を習得できる。
- 中国の歴史・文化・習慣や医療・看護等の現状についての知識をある程度述べられる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL 3	ガイダンス(学習注意事項等を説明)、自分の名前を中国語で読む・呼び合う練習・基本挨拶復習(グループワーク)
第2回 AL 3	中国語の「四声」と「拼音一覧表」をスラスラ読めるように繰り返し音声練習し、暗唱・暗記できるようにする
第3回 AL 3	第一課：好久不见。你好吗？(日常挨拶・副詞+動詞・主語+述語・“吗?”疑問文など)(グループワーク)
第4回 AL 3	第二課：你是中国人吗？(人称代詞・S+V+O・疑問代名詞疑問文1など)(グループワーク)
第5回 AL 3	第三課：你有健康保险证吗？(指示代詞・“的”の用法・疑問代名詞疑問文2と反復疑問文)(グループワーク)
第6回 AL 3	第四課：家里都有什么人？(数の数え方・方位名詞・存在文など)(グループワーク)
第7回 AL 3	第五課：请在那儿稍等一下。(場所指示代詞・所在文・“在”の用法など)(グループワーク)
第8回 AL 3	第六課：会说一点儿。(可能を表す助動詞1[能・会]・必要/当然[要・应该]を表す助動詞など)(グループワーク)
第9回 AL 3	第七課：请去检查示作检查吧。(願望を表す助動詞[想]・選択疑問文[AそれともB?]など)(グループワーク)
第10回 AL 3	第八課：你怎么了？(状態補語“得”・方向補語“来/去/上/下”・使役表現“讓”など)(グループワーク)
第11回 AL 3	第九課：请张开口！(結果補語[V+見/住]・可能補語[得/不]・進行表現[在+V])(グループワーク)
第12回 AL 3	第十課：你吃过这种药吗？(二重目的語[S+V+O _i +O _d]・経験態[V+過]・完了態[V+了])(グループワーク)
第13回 AL 3	第十一課：请把衣服放在那儿！(出現/消失の表現法・“把”字文・持続態[V+着])(グループワーク)
第14回 AL 3	第十二課：病情比以前好多了。(比較の表現法[A比B~]・可能を表す助動詞2[可以+V]など)(グループワーク)
第15回 AL 3	各種用語/表現の補充学習及び重点復習(身体部位用語・趣味表現・病名/病状・検査/治療用語など)

成績評価方法	定期試験(実技)60% 小テスト30% 成果物10%					
教科書	『医療系学生のための初級中国語』山田真一(白帝社)					
参考文献	必要に応じてその都度プリントを配布する					
事前学習(内容・時間)	授業に出る前に教科書とノートで既習内容を復習し、次回の内容を予習すること(30分)					
事後学習(内容・時間)	授業で既習内容を復習し、宿題を完成すること(1時間)					
フィードバックの方法	宿題は授業外で確認・訂正し授業内で戻し説明します。小テストは授業内で解説します。					
備考	授業に出るときは必ず教科書とノートを持参しよう。朗読練習やグループワークには積極的に参加しよう。宿題・課題は必ず完成しよう。			オフィスアワー		授業終了後30分、質問を受け付ける。随時メールでも受け付ける
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用(看護実践力)
	△	○	△	○	○	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
韓国語 I	裊 恵麟	演習	1年次 前期	選択	1	30	KGE12307

科目の概要

韓国文化を親しめる雰囲気の中で、韓国語に慣れるように韓国語の基礎となる発音や文法をしっかりと説明する。単語の発音練習、読み書きなどを中心に、韓国語であいさつや自己紹介などができるように講義する。

到達目標

- 知識：韓国語の成り立ち（「子音+母音」、「子音+母音+バッチム」）を説明できる。
- 技能：基礎的な韓国語会話（基本あいさつや自己紹介など）ができる。
- 技術：単語の意味や発音、読み書きができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	韓国文化の紹介と韓国語の成り立ち、基本挨拶など
第2回	韓国語の基礎1. 子音（基本）と母音（基本）
第3回	子音（基本）と母音（基本）の復習
第4回	韓国語の基礎2. 子音（激音）と母音（基本）
第5回	韓国語の基礎3. 子音（濃音）と母音（基本）
第6回	2回から5回までの小テストと関連内容（プリント配布）
第7回	韓国語の基礎4. 子音と母音（複合母音）と小テストのフィードバック
第8回	母音（複合母音）の復習
第9回	韓国語の基礎5. バッチム
第10回	韓国語の基礎6. 2文字のバッチム
第11回	7回から10回までの小テストと関連内容（プリント配布）
第12回	韓国語の基礎7. 発音の変化
第13回	第1課 私は浅井ゆかりです。（文法 「～は」「～です」について）
第14回	定期試験と文法 「～は」「～です」の続き
第15回	定期試験のフィードバック 総括

成績評価方法	定期試験(筆記) 60% 小テスト(実技を含む) 30% 成果物 10%					
教科書	『基礎から学ぶ 韓国語講座 初級』木内明 (国書刊行会)					
参考文献	なし					
事前学習(内容・時間)	教科書の該当箇所を読み、予習しておく (30分)					
事後学習(内容・時間)	講義内容を復習し、練習問題を解く (30分)					
フィードバックの方法	直接フィードバックを行う					
備考	恥ずかしいと思わず、話せると思って進んで発音し、積極的に授業に参加してください				オフィスアワー	授業終了後10分、教室で質問を受け付ける
	ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力
	○	○	△	△	○	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
韓国語Ⅱ	裊 恵麟	演習	1年次 後期	選択	1	30	KGE12308

科目の概要

韓国語の基礎「話す、聞く、読む、書く」の4技能を中心に発展させる。自分に関する情報を発信し、質疑応答に答えたり、会話を発展させたりできるように講義する。韓国の歴史や文化に対する見聞を広めるように説明する。

到達目標

- 知識：文法を説明できる。
- 考え方：韓国の歴史と文化にクローズアップし、自分の意見を述べることができる。
- 技能：質疑応答ができる。

授業内容

授業回数・AL	授業計画
第1回	第2課 出身はソウルですか（文法「～が」「～ですか？」について）
第2回	復習と関連プリント
第3回	第3課 図書館ではありません（文法「～ではありません」「～ではありませんか？」について）
第4回	第4課 時間がありますか（文法「います/あります」「いません/ありません」について）
第5回	復習と関連プリント、名詞と動詞について
第6回	1回から5回までの小テストと関連内容（プリント配布）
第7回	第5課 何をしますか（文法「します/しますか」「何」について）、小テストのフィードバック
第8回	復習と関連プリント
第9回	第6課 貿易会社で働いています（文法「㉿体」について）
第10回	復習と関連プリント
第11回	7回から10回までの小テストと関連内容（プリント配布）
第12回	小テストのフィードバックと文法「㉿体」の続き
第13回	1回から12回までの文法確認とクリスマスソング
第14回	定期試験（筆記）と韓国のお正月の風景や文化について
第15回	総括：定期試験のフィードバック、韓国の歴史について

成績評価方法	定期試験(筆記) 60% 小テスト(実技を含む) 30% 成果物 10%					
教科書	『基礎から学ぶ 韓国語講座 初級』木内明（国書刊行会）					
参考文献	なし					
事前学習(内容・時間)	教科書の該当箇所を読み、予習しておく（30分）					
事後学習(内容・時間)	講義内容を復習し、練習問題を解く（30分）					
フィードバックの方法	直接フィードバックを行う					
備考	言語にまつわる文化も楽しんで下さい。恥ずかしいと思わず、発音し、返事し、積極的に授業に参加してください。			オフィスアワー		授業終了後10分、教室で質問を受け付ける
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	○	○	△	△	○	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
イタリア語 I	中川 光	演習	1年次 前期	選択	1	30	KGE12309

科目の概要

まず会話表現を習得してもらい、イタリア語に慣れてもらいます。さらにその表現の中にある言葉の決まりを少しずつ解説していきます。実用的な力も養ってもらおうと同時に、実際に使われている表現の中で文法が機能していることを説明します。イタリア語を通してわかる日本との考え方の違いなどにも触れていきます。

到達目標

- イタリア語の基本的な仕組みを理解し、簡単な文をつくれる。
- イタリア旅行に使えるレベルの表現を発話できる。
- イタリア語を正しく音読・発音できるようになる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	オリエンテーション 受講時の注意事項 イタリア語の発音・読み方
第2回 AL 3	会話表現：挨拶・近況をたずねる表現・自己紹介/文法解説：名詞の性数
第3回 AL 3	会話表現：お礼の表現・声かけ・状況を表す/文法解説：冠詞
第4回 AL 3	会話表現：お詫び・値段の尋ね方 数字の言い方/文法解説：essere動詞と人称代名詞
第5回 AL 3	会話表現：希望を伝える・感情を伝える/文法解説：形容詞
第6回 AL 3	会話表現：予定を伝える・必要性を訴える/文法解説：規則動詞（are動詞）
第7回 AL 3	会話表現：好みを言う・ものを尋ねる/文法解説：規則動詞（ere, ire 動詞）
第8回 AL 3	会話表現：場所を尋ねる・有無を尋ねる/文法解説：不規則動詞（andare, avere, fare）
第9回 AL 3	会話表現：どれか尋ねる・手段を尋ねる/文法解説：指示代名詞・不規則動詞（dovere）
第10回 AL 3	会話表現：所要時間を尋ねる・所有を尋ねる/文法解説：不規則動詞（volere）・所有形容詞
第11回 AL 3	会話表現：依頼する・許可を求める/文法解説：不規則動詞（potere）・目的代名詞
第12回 AL 3	会話表現：時間を尋ねる・曜日日付を言う/文法解説：再帰動詞
第13回 AL 3	会話表現：聞き返す・励ましの表現/文法解説：近過去（1）
第14回 AL 3	会話表現：天候表現・困ったときの表現/文法解説：近過去（2）
第15回	学習事項のまとめ・総復習

成績評価方法	定期試験(筆記) 50% 成果物 30% 小テスト 20%					
教科書	『イタリア語がびっくりするほど身につく本』鶴田真子美著 あさ出版					
参考文献	各種伊和辞典					
事前学習(内容・時間)	事前に次回講義の会話表現を読んで筆写してみる (30分)					
事後学習(内容・時間)	学習した表現を声を出して読み書く (30分)					
フィードバックの方法	小テストは終了後にその場で解説する					
備 考	反復練習が多くなると思いますが飽きないで取り組んでください			オフィスアワー	授業前後の30分	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	△	○	△	○	○	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
イタリア語Ⅱ	小松 寛明	演習	1年次 後期	選択	1	30	KGE12310

科目の概要

イタリア語の基本的な文法と語彙の復習をしながら、文章を読み、書き、聞き取り、話す能力を養成する。特に動詞の変化は文法の最重要事項なので徹底的に指導する。なお、各メディアを利用して、受講生のみなさんが興味を持ってそうなイタリアの情勢を紹介し、語学プラス・アルファの授業を展開する。

到達目標

- つづり字を正確に発音できる。
- 平易な文章を読めるようになる。
- 平易な内容を聞き取れるようになる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	近過去の復習
第2回	注意すべき近過去の復習
第3回	半過去の復習
第4回	注意すべき半過去の復習
第5回	遠過去の復習
第6回	注意すべき遠過去の復習
第7回 AL 6	過去時制のまとめ・小テスト；アクティブラーニング
第8回	動詞の過去時制で書かれた文章の読解・聞き取り①
第9回	動詞の過去時制で書かれた文章の読解・聞き取り②
第10回 AL 6	動詞の過去時制で書かれた文章の読解・聞き取り③小テスト；アクティブラーニング
第11回	命令法
第12回	条件法
第13回 AL 6	接続法；アクティブラーニング
第14回	後期の内容の総復習・後期学科試験
第15回	後期学科試験の解答・解説

成績評価方法	定期試験（筆記）50% 小テスト 30% 成果物 20%					
教科書	『ア・ゾンゾ』一ノ瀬俊和（朝日出版社）					
参考文献	なし					
事前学習(内容・時間)	週に1時間程度、単語調べなど					
事後学習(内容・時間)	例文・練習問題を音読し書きながら復習すること（1時間）					
フィードバックの方法	小テスト・課題は採点の上、解答・解説を配布する					
備 考					オフィスアワー	授業終了後10分
ディプロマ・ポリシーに 掲げる 能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケー ション力	6 専門的知識・ 技能の活用 力(看護実践力)
	○	○	○	△	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
ドイツ語 I	神竹 道士	演習	1年次 前期	選択	1	30	KGE12311

科目の概要

初めてドイツ語を学ぶ学生のための入門ドイツ語です。ドイツ語の綴りと発音、名詞の性（男性・女性・中性）と数（単数・複数）、定冠詞と不定冠詞、動詞の人称変化など、最も基礎的な文法事項について講義します。

到達目標

- ドイツ語の綴りと発音についての基礎知識を習得し、ドイツ語の単語が正しく読めるようになる。
- ドイツ語の基礎的な文法知識を習得し、日常会話で用いる簡単な文章について説明できるようになる。
- 簡単な内容の文章をドイツ語で発信できるようになる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	導入：授業の概要説明、ドイツ語のアルファベット
第2回	ドイツ語の綴りと発音：母音と変母音、子音と外来語
第3回 AL 3	ドイツ語の綴りと発音：曜日、季節、月の名、人名
第4回 AL 3	第1課：動詞の人称変化(1)、疑問文
第5回	第1課：挨拶表現
第6回	第1課：練習問題
第7回 AL 3	第2課：名詞の性と格変化、中間テストの実施
第8回 AL 3	第2課：2通りの会話表現
第9回	第2課：練習問題
第10回 AL 3	第3課：動詞の人称変化(2)、
第11回 AL 3	第3課：数詞（基数）の読み方
第12回	第3課：練習問題
第13回 AL 3	第4課：名詞の複数形、命令形(1)
第14回 AL 3	第4課：否定表現
第15回	第4課：練習問題、期末テストの実施

成績評価方法	定期試験(筆記) 50% 小テスト50%					
教科書	『楽しいドイツ語の旅—ペア練習で学ぶ初級ドイツ語—』神竹道士・田島昭洋（朝日出版社）					
参考文献	授業中適宜提示する					
事前学習(内容・時間)	教科書の下調べ（1時間）					
事後学習(内容・時間)	既習事項の再確認（1時間）					
フィードバックの方法	課題に対しては、授業時間内に正解を板書して解説する					
備 考					オフィスアワー	出講日の授業の前後20分程度
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	△	○	—	○	○	—

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
ドイツ語Ⅱ	神竹 道士	演習	1年次 後期	選択	1	30	KGE12312

科目の概要

ドイツ語Ⅰを履修した学生、またはすでにドイツ語の基礎知識を備えている学生を対象にした授業です。疑問文、否定文、命令文、勧誘文など様々な文の種類について説明します。動詞の時制（現在形、過去形、現在完了形）についても講義します。

到達目標

- 相手の簡単な質問に対して、ドイツ語で適切に答えることができるようになる。
- 相手に何かして欲しい時、適切なドイツ語で表現できるようになる。
- 過去形、現在形、現在完了形の区別をして、適切に時間軸に沿った表現をすることができるようになる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	導入：授業の概要説明、ドイツ語の挨拶表現
第2回 AL 3	第5課：命令形(2)、zu不定詞
第3回 AL 3	第5課：前置詞(1)、時刻の表現
第4回	第5課：練習問題
第5回 AL 3	第6課：前置詞(2)、形容詞
第6回 AL 3	第6課：序数、西暦の読み方
第7回	第6課：練習問題、中間テストの実施
第8回 AL 3	第7課：形容詞と副詞の比較表現
第9回 AL 3	第7課：動詞の現在人称変化(3)
第10回	第7課：練習問題
第11回 AL 3	第8課：話法の助動詞
第12回 AL 3	第8課：分離動詞、従属接続詞
第13回	第8課：練習問題
第14回 AL 3	第9課：動詞の3基本形、過去人称変化
第15回	第9課：現在完了形、期末テストの実施

成績評価方法	定期試験(筆記) 50% 小テスト50%					
教科書	『楽しいドイツ語の旅—ペア練習で学ぶ初級ドイツ語—』神竹道士・田島昭洋(朝日出版社)					
参考文献	授業中適宜提示する					
事前学習(内容・時間)	教科書の下調べ(1時間)					
事後学習(内容・時間)	既習事項の再確認(1時間)					
フィードバックの方法	課題に対しては、授業時間内に正解を板書して解説する					
備 考					オフィスアワー	出講日の授業の前後20分程度
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	△	○	—	○	○	—

II 專門基礎分野

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
医療行動科学	日高 庸晴	講義	1年次 後期	選択	2	30	KSB13101

科目の概要

健康増進と疾病の予防に寄与する人の行動のメカニズムを学ぶために、古典的な行動理論から現在注目されている理論まで幅広く教授する。現代医療における重要な点は、予防的保健行動の促進であり、喫煙や運動といった具体的事例や疾患を例に教授する。人間の行動を包括的にとらえ考えさせるために心理学・社会学・教育学・保健学などの多領域の知見と理論を統合して、講義、演習などを組み合わせ、視聴覚教材や疫学調査によるエビデンスを随時紹介することによって、学生の理解度を深める。

到達目標

- 健康行動に関係する大規模データの読み取り方や考え方を身に付け、説明できる。
- 健康増進と疾病の予防に寄与する人の行動のメカニズムを理解し、述べることができる。
- 古典的な行動理論から臨床現場で実践・応用可能な理論まで幅広く学び、列挙できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	オリエンテーション・健康信念モデル
第2回	行動変容のためのコミュニケーション
第3回	オペラント条件付け・学習理論
第4回	合理的行動理論・計画的行動理論
第5回	禁煙の行動科学ーどうしても煙草がやめられないー
第6回	エイズパンデミックー世界・アジア・日本ー行動科学的予防アプローチ
第7回 AL 6	HIVや性感染症予防について、必要な予防対策の立案
第8回	多職種チームでHIV陽性者を支えるということ
第9回	義足による支援
第10回 AL 6	LGBTQ+の健康課題1
第11回 AL 6	LGBTQ+の健康課題2
第12回 AL 6	LGBTQ+の健康課題3
第13回	食行動とダイエット/タイプA行動特性ー忙しいのが好きなあなた/ソーシャルサポートネットワーク
第14回	合法？ 脱法？ アルコールとドラッグ使用の健康問題
第15回	いのちは誰のものか

成績評価方法	定期試験（レポート）100%					
教科書	適宜配布資料を用意します。					
参考文献	適宜紹介します					
事前学習（内容・時間）	講義時のアナウンス等に応じて、情報収集や予習を行うこと（2時間）					
事後学習（内容・時間）	随時指定する課題について、自分の考えをまとめる取り組みをすること（2時間）					
フィードバックの方法	コメントシートの記入内容の一部を、次回の講義時に全体で共有すると共に、講評します					
備 考	私語や講義に関係しないスマートフォン操作等は厳禁			オフィスアワー		オフィスアワー一覧表参照
	ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力
	○	△	○	○	○	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
死生学	山本佳世子	講義	2年次 後期	選択	1	15	KSB23101

科目の概要

いかに医療が進歩しても、人として「死」を免れることはできないところにおいて、いかに「生と死」に向き合うかが問われてくる。一方で、医療が進歩しからこそ、向き合わなければならない死生の問題がある。将来の医療人にとって、また、一人の人間にとって、「死とは何か」を様々な観点から講義する。

到達目標

- 死生学の基本概念について理解し、説明できる。
- 日本人の死生観に関する基礎的な知識を身につけ、説明できる。
- 自身の死生観を振り返り、言語化できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	死生学とは何か
第2回	死生観はいかに育まれるのか：生と死の教育
第3回	死までの生を生きる：「よく生きる」ということ
第4回	死からの生を生きる：死別後の悲嘆
第5回	死んだらどこに行くのか：日本人の他界観
第6回	死者を送る：葬送儀礼
第7回	この世にいる死者：お迎え、幽霊
第8回	受け継がれていく生、まとめ

成績評価方法	定期試験（レポート）70% 成果物 30%					
教科書	なし					
参考文献	適宜、指示する					
事前学習（内容・時間）	前時に指示する次回講義に関係する資料を事前に読んでおく（2時間）					
事後学習（内容・時間）	毎講義後、講義を受けて得た学び・気づきをまとめる（2時間）					
フィードバックの方法	毎回の提出物について、授業内で講評する					
備考	映画や絵本を紹介しながら、死についての考えを深めていけたらと思っています。積極的な受講を期待します。			オフィスアワー		質問は授業前後30分またはメールで受け付けます
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用能力 (看護実践力)
	○	○	△	○	△	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
癒しと芸術	フルイミエコ	講義	1年次 後期	必修	2	30	KSB11101

科目の概要

この教科では「アートによる癒し」について、創造と享受の二方向から取り上げて講義します。特に学生自身が表現者としての喜びを実感しながら学ぶことを重視し、主に臨床美術の手法に基づく作品制作と作品を介したアートコミュニケーションを実施し、看護の場で生かせる感性と技術を教授します。

到達目標

- アートの役割と可能性について自分の言葉で説明できる知識を習得する。
- 色や形など美術の造形を楽しみ、感じるままに表現することができる考え方や技術を習得する。
- 自分の感性と学習した手法でアートを看護に活かせる技能を身につける。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL 5	授業概論～癒しと芸術 看護とアートの関わりを考える、創造と享受 作品「アナログ画を描く」
第2回 AL 5	絵は誰でも描ける？ (1) 臨床美術の理論～右脳モードで描く、作品「線と色で遊ぶ」
第3回	絵は誰でも描ける？ (2) 臨床美術の理論～QOLを高めるアート、十人十色の表現
第4回 AL 5	絵は誰でも描ける？ (3) 臨床美術の現場から～認知症、高次脳機能障害 演習「三原色のクロッキー」
第5回	絵は誰でも描ける？ (4) アートとアートセラピー、アートは誰のもの？
第6回 AL 5	絵は誰でも描ける？ (5) モチーフを感じる、作品「りんごの量感画」
第7回	絵は誰でも描ける？ (6) 患者の表現の変化
第8回 AL 5	アートコミュニケーション (1) I (アイ) メッセージの大切さ 作品「パステル色の空」
第9回 AL 5	アートコミュニケーション (2) 観賞会をしてみよう 作品「パステル色の空」
第10回	アートコミュニケーション (3) 制作過程でのコミュニケーション
第11回 AL 5	アートコミュニケーション (4) 信じるということ 作品「紅葉を描く」
第12回 AL 5	アートコミュニケーション (5) 観賞会をしてみよう 作品「紅葉を描く」
第13回 AL 5	看護におけるアートの役割 (1) こどもとアート、障害者とアート 作品「いろいろ田んぼ」
第14回 AL 5	看護におけるアートの役割 (2) いてくれてありがとうの精神 作品「モザイクリズム」
第15回 AL 5	まとめ～癒しと芸術 今を生きるアート

成績評価方法	成果物 70% 小テスト 30%					
教科書	なし					
参考文献	『臨床美術 認知症医療と芸術のコラボレーション』宇野正威、芸術造形研究所編（金剛出版発行）、『臨床美術のすすめ』日本臨床美術協会編（日本地域社会研究所発行）					
事前学習(内容・時間)	実技に必要なものを用意する（2時間）					
事後学習(内容・時間)	実技作品画像の提出、小テスト（2時間）					
フィードバックの方法	授業の時間内に成果物についてコメント。質問は次回の授業にて回答する。					
備 考	画材は指定のものを使うこと。(2500円程度必要) 指示のあるものは各自が事前に用意すること。				オフィスアワー	Teamsにて随時受け付けます
	ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力
	○	○	○	○	△	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
栄養と健康	須田あゆみ	講義	1年次 後期	必修	1	30	KSB11102

科目の概要

人は栄養素なくして生きていくことはできない。適正な栄養摂取と食生活は、健康の維持・増進、および疾病の予防・治療・増悪防止の基本であり、すべての人に必要な事である。本授業では、生命維持における栄養の意義、栄養素や食品の栄養的特徴、ライフステージと食、生活習慣病と食、疾病と食について講義する。また、栄養ケア・マネジメント、チーム医療についても講義する。

到達目標

- 健康と栄養の関係を理解し、人生各期の栄養の特徴を述べることができる。
- 主な病態の栄養管理の特徴と栄養療法を理解し、説明することができる。
- 栄養アセスメントの基礎となるBMIの判定や標準体重の算出ができる。その他、エネルギー消費量の算出ができる。
- 栄養ケアの場における多職種のチームアプローチの重要性を理解した上で、看護専門職の役割について述べるができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL 2	第1章：栄養学を学ぶ意義。人はなぜ食事をするのかを今一度考えてみましょう。
第2回	第2章：栄養素の種類と働き（糖質、脂質、タンパク質）
第3回	第2章：栄養素の種類と働き（ビタミン、ミネラル・食物繊維・水）
第4回	第3章：食物の消化・吸収
第5回	第3章：栄養素の代謝・排泄
第6回	第4章：エネルギー代謝
第7回 AL 2	第5章：食事と食品（日本人の食事摂取基準）、第10章：食事バランスガイド
第8回	第6章：栄養ケア・マネジメント
第9回 AL 2	第7章：栄養状態の評価・判定（栄養アセスメント）
第10回	第8章：ライフステージと栄養（妊娠期・乳児期・幼児期）
第11回	第8章：ライフステージと栄養（学童期・思春期・成人期・高齢期）
第12回	第8章：ライフステージと栄養（高齢期）、第9章：臨床栄養（経腸栄養・静脈栄養法・病院食）
第13回	第1～12回の復習と補足
第14回	第9章：臨床栄養（病院食の意義、疾病・症状別栄養療法）
第15回	第9章：臨床栄養（術後の栄養管理、がん患者の栄養・食事療法）、第10章：全体のまとめ

成績評価方法	定期試験(筆記)80% 成果物 20%					
教科書	『系統看護学講座 専門基礎分野 栄養学 人体の構造と機能(3)』中村丁次（医学書院）他適宜資料を配布します。					
参考文献	『ナーシング・グラフィカ 疾病の成り立ち (4) 臨床栄養学』關戸啓子（メディカ出版）					
事前学習(内容・時間)	教科書の該当箇所を読み、要点をまとめておく（1回2時間）					
事後学習(内容・時間)	練習問題やまとめのレポートに取り組む。分からなかった場所を整理しておく（1回2時間）。					
フィードバックの方法	授業中に練習問題の答え合わせとレポートの解説を行います。試験終了後、解答を配布します。					
備考	理解度を把握するために、質問や感想を記入してもらいます（評価外）			オフィスアワー		授業の前後30分、教室で質問を受け付ける。Teamsでも随時質問を受け付ける。
	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
ディプロマ・ポリシーに 掲げる 能力と授業の対応	○	△	△	△	—	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
医療概論 (生命倫理)	林 貴啓	講義	1年次 後期	必修	2	30	KSB11103

科目の概要

倫理学の基本的な概念・原理を解説し、患者の権利、脳死と臓器移植、終末期医療、生殖補助医療、遺伝子医療といったテーマを扱い、現代の医療が孕む複雑な倫理的問題に関して、背景知識と判断材料を提供しつつ、学生が主体的に問題を検討し、意見を交換する場を設ける。こうしたことを通して、自ら倫理的に思考し、判断する力を培うよう授業を行う。

到達目標

- 倫理に関する知識を深め、説明することができる。
- 倫理が問われる医療諸問題について、さまざまな見解を認識し、説明することができる。
- 物事を倫理的に考える姿勢を身につけ、自らの考えを述べるすることができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL 2	医療の倫理とは 倫理的な思考の基本
第2回 AL 2	倫理学の考えかた I—基本編
第3回 AL 2	倫理学の考えかた II—さまざまな倫理学説
第4回 AL 2	インフォームド・コンセントと看護の視点
第5回 AL 2	道徳的想像力
第6回 AL 2	安楽死・終末期の治療停止をめぐる
第7回 AL 2	脳死と臓器移植
第8回 AL 2	人工妊娠中絶をめぐる
第9回 AL 2	出生前診断と選択的中絶
第10回 AL 2	文献を読んで考える—レポート執筆のためのワークショップ
第11回 AL 2	生殖補助医療 I—不妊治療をめぐる状況
第12回 AL 2	生殖補助医療 II—A I Dと代理出産の問題
第13回 AL 2	最先端医療の倫理
第14回 AL 2	医療とは—看護の見地からの意味
第15回 AL 2	死生学の課題

成績評価方法	定期試験（レポート）60% 成果物（各回の小レポート）40%					
教科書	「教科書」という形では特に指定しない。資料は各回に配布する。					
参考文献	各回の配布資料でそれぞれのテーマに関連する文献を紹介する。第15回の「死生学」については、担当者著『問いとしてのスピリチュアリティ—宗教なき時代に生死を語る』（京都大学学術出版会）の一読を薦める。					
事前学習(内容・時間)	シラバスに提示した各回のテーマについて、事前に情報を集めておく（2時間）					
事後学習(内容・時間)	講義時に紹介した文献を読み、理解を深める（2時間）					
フィードバックの方法	質問や各回の提出課題に対しては、次回講義時に配布資料・説明を通してフィードバックする					
備考	生命倫理は自ら考え、対話することによって初めて自分のものになります。みなさんの主体的・積極的な取り組みを期待します。			オフィスアワー		講義時の前30分。またTeamsの「チャット」を利用した質問は随時受け付けます。
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	△	○	△	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
医療人類学	景山 千愛	講義	2年次 前期	選択	2	30	KSB23102

科目の概要

この講義は、医療人類学の基本的な理論について説明する。また、医療に関連する実際のニュースや出来事を題材に、医療人類学の理論によって医療や一般社会における現象がどのように説明できるのかや、我々の社会にとって主流の考え方が他の文化にとって当然ではなく、医療に関する考え方は文化によって異なること講義する。

到達目標

- 履修者は、医療人類学の基本的思考を身に付けることができる。
- 得た知識をもとに自ら思考し、その考えを他人に理解できるように伝えることができる。
- 履修者は、授業で得た批判的な思考法を応用して、自らの直面する課題に取り組み、今後の職業生活に役立てることができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	イントロダクション——文化人類学の基本的な考え方について
第2回	医療化①——社会構成主義の考え方を学ぶ
第3回	医療化②——実例を通して学ぶ
第4回	病人役割①——役割論の考え方を学ぶ
第5回	病人役割②——実例を通して学ぶ
第6回	文化結合症候群と文化相対主義
第7回	多角的医療体系
第8回	中間テスト・後半ふりかえり
第9回	応用①——優生学
第10回	応用②——生殖医療
第11回	応用③——痛み
第12回	応用④——メディアにおける「病気」
第13回	応用⑤——感染症と差別
第14回	後半ふりかえり・今後の発展的学習の一例を学ぶ
第15回 AL 6	レポート講評・動画視聴

成績評価方法	定期試験(レポート) 70% 定期試験(筆記) 30%					
教科書	なし					
参考文献	授業中に示します					
事前学習(内容・時間)	前回の授業で示した予習 (2時間)					
事後学習(内容・時間)	授業で扱った内容の復習 (2時間)					
フィードバックの方法	中間テスト・レポートともに、採点後に返却します					
備 考					オフィスアワー	授業前後の15分間および随時メールで受け付ける
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用(看護実践力)
	△	—	△	○	○	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
人体構造機能論 I	片山 泰一	講義	1年次 前期	必修	1	30	KSB11104

科目の概要

病気（疾病）や障害は、様々な原因で、通常の状態とは異なる状態になり、患者は困り感を抱く。従って、看護師として患者の困り感を理解するための基礎知識として、疾病に至る前の通常の状態を正確に知っておく必要がある。本科目では、特に循環器系、呼吸器系について、学生それぞれの理解できる身近な現象などを取り上げながら、人間の身体が如何に精密に出来上がっているのか、正常な人の身体の形態（構造）と働き（機能）、更には両者の密接なつながり等について講義する。

到達目標

- 循環器系・呼吸器系の主要な器官の名称と構造を系統的に他者に説明できる。
- 循環器系・呼吸器系の主要な器官の機能を構造と結び付けて系統的に他者に説明できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL 2	人体構造機能論 I を学習するために（基礎知識・総論）
第2回	循環器系 1
第3回	循環器系 2
第4回	循環器系 3
第5回	循環器系 4
第6回	循環器系 5（小テスト1）
第7回	循環器系 6
第8回	循環器系 7
第9回	呼吸器系・血液 1
第10回	呼吸器系・血液 2
第11回	呼吸器系・血液 3
第12回	呼吸器系・血液 4（小テスト2）
第13回	呼吸器系・血液 5
第14回	呼吸器系・血液 6
第15回	呼吸器系・血液 7

成績評価方法	定期試験(筆記) 80% 小テスト20%					
教科書	『系統看護学講座 専門基礎分野「人体の構造と機能 [1] 解剖生理学」2022改定版、「疾病のなりたちと回復の促進[2] 病態生理学」』(医学書院)					
参考文献	『病気がみえる「vol.1 消化器」「vol.2 循環器」「vol.3 糖尿病・代謝・内分泌」「vol.4 呼吸器」「vol.6 免疫・膠原病・感染症」「vol.7 脳・神経」』(メディックメディア)、『看護師・看護学生のためのレビューブック2023』(メディックメディア)、6月頃『看護師国家試験 高正答率過去問題集』(東京アカデミー)、『得意になる解剖生理』美田 誠二(照林社)、『ぜんぶわかる人体解剖図』坂井 建雄、橋本 尚詞(成美堂出版)、『新版 からだの地図帳』佐藤 達夫 監修(講談社)、『カラーで学ぶ解剖生理学(第2版)』コメディカルサポート研究会(翻訳)(メディカルサイエンスインターナショナル)					
事前学習(内容・時間)	上記教科書「系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学」を中心に進めるので、講義予定の目次を確認し、概要を把握すること(30分)					
事後学習(内容・時間)	講義、配布資料の復習。各種テストの復習。他の教科書・参考資料を用いて、受講した講義に関する箇所をチェックする(60分)					
フィードバックの方法	課題については、授業中あるいは、Web (Teams) にてフィードバックする					
備 考	成績評価に関わる不正行為はすべて厳罰とする。授業の進行は、各々の身体や病気に関する体験が、知識につながることに気づくように工夫されているので、できるだけ身近にある経験を言語化、文章化しておくことが望ましい。			オフィスアワー		質問は授業の前後30分あるいはTeamsのチャットにて受け付ける
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	—	△	—	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
人体構造機能論Ⅱ	片山 泰一	講義	1年次 前期	必修	1	30	KSB11105

科目の概要

病気（疾病）や障害は、様々な原因で、通常の状態とは異なる状態になり、患者は困り感を抱く。従って、看護師として患者の困り感を理解するための基礎知識として、疾病に至る前の通常の状態を正確に知っておく必要がある。本科目では、特に消化器系、泌尿器系について、学生それぞれの理解できる身近な現象などを取り上げながら、人間の身体が如何に精密に出来上がっているのか、正常な人の身体の形態（構造）と働き（機能）、更には両者の密接なつながり等について講義する。

到達目標

- 消化器系・泌尿器系の主要な器官の名称と構造を系統的に他者に説明できる。
- 消化器系・泌尿器系の主要な器官の機能を構造と結び付けて系統的に他者に説明できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL 2	口・咽頭・食道の構造と機能（1）（口の構造と機能）
第2回	口・咽頭・食道の構造と機能（2）（咽頭、咀嚼、嚥下）
第3回	口・咽頭・食道の構造と機能（3）（食道の構造、組織と機能）
第4回	腹部消化管の構造と機能（1）胃の構造と機能
第5回	腹部消化管の構造と機能（2）小腸・大腸の構造と機能
第6回	腹部消化管の構造と機能（3）栄養素の消化と吸収-1（小テスト1）
第7回	腹部消化管の構造と機能（4）栄養素の消化と吸収-2
第8回	膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能（1）膵臓の構造と機能
第9回	膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能（2）肝臓・胆嚢の構造と機能
第10回	膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能（3）肝臓の機能・腹膜、
第11回	泌尿器系の構造と機能（1）腎臓の構造と機能-1
第12回	泌尿器系の構造と機能（2）腎臓の構造と機能-2（小テスト2）
第13回	泌尿器系の構造と機能（3）腎臓の構造と機能-3
第14回	泌尿器系の構造と機能（4）排尿路の構造と機能
第15回	泌尿器系の構造と機能（5）体液の調節

成績評価方法	定期試験(筆記) 80% 小テスト 20%					
教科書	『系統看護学講座 専門基礎分野「人体の構造と機能 [1] 解剖生理学」2022改定版、「疾病のなりたちと回復の促進[2] 病態生理学」』(医学書院)					
参考文献	『病気がみえる「vol.1 消化器」「vol.2 循環器」「vol.3 糖尿病・代謝・内分泌」「vol.4 呼吸器」「vol.6 免疫・膠原病・感染症」「vol.7 脳・神経」』(メディックメディア)、『看護師・看護学生のためのレビューブック2023』(メディックメディア)、6月頃『看護師国家試験 高正答率過去問題集』(東京アカデミー)、『得意になる解剖生理』美田 誠二(照林社)、『ぜんぶわかる人体解剖図』坂井 建雄、橋本 尚詞(成美堂出版)、『新版 からだの地図帳』佐藤 達夫 監修(講談社)、『カラーで学ぶ解剖生理学(第2版)』コメディカルサポート研究会(翻訳)(メディカルサイエンスインターナショナル)					
事前学習(内容・時間)	上記教科書「系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学」を中心に進めるので、講義予定の目次を確認し、概要を把握すること(30分)					
事後学習(内容・時間)	講義、配布資料の復習。各種テストの復習。他の教科書・参考資料を用いて、受講した講義に関する箇所をチェックする(60分)					
フィードバックの方法	課題については、授業中あるいは、Web(Teams)にてフィードバックする					
備考	成績評価に関わる不正行為はすべて厳罰とする。授業の進行は、各々の身体や病気に関する体験が、知識につながることに気づくように工夫されているので、できるだけ身近にある経験を言語化、文章化しておくことが望ましい。			オフィスアワー		質問は授業の前後30分あるいはTeamsのチャットにて受け付ける。
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	—	△	—	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
人体構造機能論Ⅲ	片山 泰一	講義	1年次 後期	必修	1	30	KSB11106

科目の概要

病気（疾病）や障害は、様々な原因で、通常の状態とは異なる状態になり、患者は困り感を抱く。従って、看護師として患者の困り感を理解するための基礎知識として、疾病に至る前の通常の状態を正確に知っておく必要がある。本科目では、特に運動器系、神経系、感覚器系、内分泌系および生殖器系の構造と機能を理解し、学生それぞれの理解できる身近な現象などを取り上げながら、人間の身体が如何に精密に出来上がっているのか、正常な人の身体の形態（構造）と働き（機能）、更には両者の密接なつながり等について講義する。

到達目標

- 運動器系・神経系・感覚器系・内分泌系・生殖器系の主要な器官の名称と構造を系統的に他者に説明できる。
- 運動器系・神経系・感覚器系・内分泌系・生殖器系の主要な器官の機能を構造と結び付けて系統的に他者に説明できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL 2	骨格とはどのようなものか？人体の骨格総論
第2回	骨格筋（構造と機能・神経支配・筋の収縮）
第3回	体幹の骨格と筋（脊柱・胸郭、肺胸部・腹部の筋）
第4回	上肢の骨格と筋（上肢帯・自由上肢の骨格、上肢帯・上腕・前腕の筋群）
第5回	下肢の骨格と筋（下肢帯・骨盤・自由下肢の骨格、下肢帯・大腿・下腿の筋群）
第6回	頭頸部の骨格と筋（神経頭蓋・内臓頭蓋、頭頸部の筋）（小テスト1）
第7回	神経系の構造と機能（1）概論・自律神経による調節
第8回	神経系の構造と機能（2）脊髄と脳、脊髄神経と脳神経
第9回 AL 2	神経系の構造と機能（3）脳の高次機能、上行・下行伝導路
第10回	感覚器の構造と機能（1）眼の構造と視覚、耳の構造と聴覚
第11回	感覚器の構造と機能（2）耳の構造と平衡感覚、味覚と嗅覚、痛み（小テスト2）
第12回	内分泌系による調節
第13回	全身の内分泌腺と内分泌細胞
第14回	ホルモン分泌の調節
第15回	生殖器系の構造と仕組み（男性生殖器・女性生殖器、受精と胎児の発生）

成績評価方法	定期試験（筆記）80% 小テスト 20%					
教科書	『系統看護学講座 専門基礎分野「人体の構造と機能 [1] 解剖生理学」2022改定版、「疾病のなりたちと回復の促進 [2] 病態生理学』』（医学書院）					
参考文献	『病気がみえる「vol.1 消化器」「vol.2 循環器」「vol.3 糖尿病・代謝・内分泌」「vol.4 呼吸器」「vol.6 免疫・膠原病・感染症」「vol.7 脳・神経』』（メディックメディア）、『看護師・看護学生のためのレビューブック2023』』（メディックメディア）、6月頃『看護師国家試験 高正答率過去問題集』（東京アカデミー）、『得意になる解剖生理』美田 誠二（照林社）、『ぜんぶわかる人体解剖図』坂井 建雄、橋本 尚詞（成美堂出版）、『新版 からだの地図帳』佐藤 達夫 監修（講談社）、『カラーで学ぶ解剖生理学（第2版）』コメディカルサポート研究会（翻訳）（メディカルサイエンスインターナショナル）					
事前学習（内容・時間）	上記教科書「系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学」を中心に進めるので、講義予定の目次を確認し、概要を把握すること（30分）					
事後学習（内容・時間）	講義、配布資料の復習。各種テストの復習。他の教科書・参考資料を用いて、受講した講義に関する箇所をチェックする（60分）					
フィードバックの方法	課題については、授業中あるいは、Webにてフィードバックする					
備考	成績評価に関わる不正行為はすべて厳罰とする。授業の進行は、各々の身体や病気に関する体験が、知識につながることに気づくように工夫されているので、できるだけ身近にある経験を言語化、文章化しておくことが望ましい。			オフィスアワー		質問は授業の前後30分あるいはTeamsのチャットにて受け付ける
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力（看護実践力）
	○	○	—	△	—	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
病態治療学 I	巽 圭太	講義	1年次 後期	必修	2	30	KSB11107

科目の概要

疾患に関して、病態生理から治療に関する横断的な考え方を習得し、循環器、呼吸器、消化器の代表的な疾患について、看護に関連する病態像を、正しく認識することを目的とする。講義時間の都合上、本科目で学習する疾患は、極めて代表的なものに限られるが、教わった“知識”“だけ”を習得するのではなく、今後、学内演習、臨地実習、さらには卒業社会人になって、様々な疾患に出会ったときに、自学自習できる礎となる“知恵”を身に付ける。

到達目標

- 治療及び看護の実際の基盤となる病態の横断的な考え方を習得し、疾患の成り立ちやその病理・病態像の知識を述べることができる。
- 各器官系において、おのおの代表的な疾患の定義・概念を5疾患以上説明できる。
- 特に重要な疾患については、主な症状と症候、検査所見、治療方法、予後、疫学について説明できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	はじめに、総論（細胞障害、循環障害、内因外因、再生と修復）
第2回	循環器疾患1
第3回	循環器疾患2
第4回 AL 2	循環器疾患3/小テスト1
第5回	循環器疾患4
第6回	循環器疾患5
第7回 AL 2	呼吸器疾患1/小テスト2
第8回	呼吸器疾患2
第9回	呼吸器疾患3
第10回 AL 2	呼吸器疾患4/小テスト3
第11回	消化器疾患1
第12回	消化器疾患2
第13回 AL 2	消化器疾患3/小テスト4
第14回	消化器疾患4
第15回	消化器疾患5

成績評価方法	定期試験(筆記) 70% 小テスト 24% 成果物 6%					
教科書	『疾病のなりたちと回復の促進 [2] 病態生理学(冊子+電子)』(医学書院)、『病気がみえる 「vol. 1 消化器」「vol. 2 循環器」「vol. 4 呼吸器」』(メディックメディア)、『看護師・看護学生のためのレビューブック』(メディックメディア)、『看護師国家試験 高正答率過去問題集』(東京アカデミー)、『系統看護学講座 専門基礎分野 「人体の構造と機能[1] 解剖生理学」』(医学書院)、『書いて覚える解剖生理ワークブック』(プチナースBOOKS 安谷屋均 照林社)					
参考文献	『大学教養基礎講座 医療系総合講座』(ナガセ) 他、関連科目で購入済みの教科書。					
事前学習(内容・時間)	教科書での予習：講義予定の内容を把握し、注意すべき用語をチェックする (2時間)					
事後学習(内容・時間)	講義の復習。用語は当日、翌日、1週間後に見直す (2時間)					
フィードバックの方法	授業中、及び、ICTを活用してフィードバックする					
備考				オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	△	△	△	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
病態治療学Ⅱ	巽 圭太	講義	2年次 後期	必修	2	30	KSB21101

科目の概要

内分泌、代謝、腎、神経、血液、免疫の代表的な疾患について、定義義・概念、病態生理、検査所見、治療方法、予後などを正しく認識することを目的とする。講義時間の都合上、本科目で学習する疾患は、極めて代表的なものに限られるが、教わった“知識”“だけ”を習得するのではなく、今後、学内演習、臨地実習、さらには卒後社会人になって、様々な疾患に出会ったときに、自学自習できる礎となる“知恵”を身に付ける。

到達目標

- 各器官系において、おのおの代表的な疾患の定義・概念を5疾患以上説明できる。
- 特に重要な疾患については、主な症状と症候、検査所見、治療方法、予後、疫学について説明できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	血液疾患1
第2回	血液疾患2
第3回	内分泌疾患1
第4回	内分泌疾患2
第5回 AL 2	内分泌疾患3/小テスト1
第6回	代謝疾患1
第7回	代謝疾患2
第8回	体液の異常
第9回	腎疾患1/小テスト2
第10回	腎疾患2
第11回	免疫疾患1
第12回	免疫疾患2
第13回	小テスト3と解説
第14回	神経疾患1
第15回	神経疾患2

成績評価方法	定期試験(筆記)70% 小テスト21% 成果物 9%					
教科書	『病気がみえる「vol.3 糖尿病・代謝・内分泌」「vol.6 免疫・膠原病・感染症」「vol.8 腎・泌尿器」』(メディックメディア)、『疾患別看護過程』(医学書院)。 既購入:『「解剖生理学」「病態生理学」』(医学書院)、『看護師・看護学生のためのレビューブック』(メディックメディア)、『看護師国家試験 高正答率過去問題集』(東京アカデミー)、『書いて覚える解剖生理ワークブック』(プチナースBOOKS、安谷屋均 著、照林社)					
参考文献	『病気がみえる「vol.5 血液」「vol.7 脳・神経」』(メディックメディア) 『大学教養基礎講座医療系総合講座』(ナガセ) 他、関連科目で購入済みの教科書					
事前学習(内容・時間)	教科書での予習: 講義予定の内容を把握し、注意すべき用語をチェックする (1時間)					
事後学習(内容・時間)	講義の復習。用語は当日、翌日、1週間後に見直す (1時間)					
フィードバックの方法	授業中、及び、ICTを活用してフィードバックする					
備考				オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用(看護実践力)
	○	○	△	△	△	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
病態治療学Ⅲ	巽 圭太・他	講義	2年次 前期	必修	2	30	KSB21102

科目の概要

小児、女性生殖器、精神、老年の代表的な疾患について、定義・概念、病態生理、検査所見、治療方法、予後などを正しく認識することを目的とする。講義時間の都合上、本科目で学習する疾患は、極めて代表的なものに限られるが、教わった“知識”“だけ”を習得するのではなく、今後、学内演習、臨地実習、さらには卒後社会人になって、様々な疾患に出会ったときに、自学自習できる礎となる“知恵”を身に付ける。

到達目標

- 各器官系において、おのおの代表的な疾患の定義・概念を5疾患以上説明できる。
- 特に重要な疾患については、主な症状と症候、検査所見、治療方法、予後、疫学について説明できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	小児疾患1
第2回	小児疾患2
第3回	小児疾患3
第4回	小児疾患4
第5回	小児疾患5
第6回	小児疾患6
第7回 AL 2	小テスト1と解説
第8回	女性生殖器疾患1
第9回	女性生殖器疾患2
第10回	女性生殖器疾患3
第11回 AL 2	小テスト2と解説
第12回	精神疾患1
第13回	精神疾患2
第14回	精神疾患3
第15回	精神疾患4

成績評価方法	定期試験(筆記) 80% 小テスト12% 成果物 8%					
教科書	『疾患別看護過程』(医学書院)。 既購入：『「解剖生理学」「病態生理学」』(医学書院)、『看護師・看護学生のためのレビューブック』(メディックメディア)、『看護師国家試験 高正答率過去問題集』(東京アカデミー)					
参考文献	関連科目で購入済みの教科書					
事前学習(内容・時間)	教科書での予習：講義予定の内容を把握し、注意すべき用語をチェックする(1時間)					
事後学習(内容・時間)	講義の復習。用語は当日、翌日、1週間後に見直す(1時間)					
フィードバックの方法	授業中、及び、ICTを活用してフィードバックする					
備 考				オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	○	○	△	△	△	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
生化学	中川 学	講義	2年次 後期	必修	1	30	KSB21103

科目の概要

「生化学」は、生命現象に関わる現象を化学の眼から見る学問である。生体構成物質とそれに関連する代謝調節の化学反応を分子レベルで見える力を養成できるように、様々な生命現象と病態のしくみについて講義を行う。この科目は一年次に学修した「ヒトと生物学」や「栄養と健康」または化学（選択科目）などと密接に関連しているため、講義では絶えずこれらの科目との関連性を意識させつつ講義を進める。

到達目標

- 五大栄養素を中心とした生体を構成、調節する物質の基本構造と性質を述べることができる。
- 栄養素からエネルギーを獲得する代謝系全体が、酵素やホルモンによってどのように調節や維持されているのかを説明できる。
- 肥満、高血圧、糖尿病、脂質異常症、動脈硬化等代表的な代謝関連疾患の病因と発病機序について生化学的に説明できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	化学の基礎知識（教科書：p.138-144）
第2回	代謝総論（教科書：p.12-22）
第3回	糖質の生化学①（教科書：p.23-28, p.63-65）
第4回	糖質の生化学②（教科書：p.65-71）
第5回	糖質の生化学③（教科書：p.71-74）
第6回	脂質の生化学①（教科書：p.28-34, p.76-81）
第7回	脂質の生化学②（教科書：p.81-87）
第8回	アミノ酸とタンパク質の生化学①（教科書：p.35-40）
第9回	アミノ酸とタンパク質の生化学②（教科書：p.89-97）
第10回	酵素（p.54-59）
第11回	ビタミン（p.45-51）
第12回	核酸・ヌクレオチドの生化学①（p.40-45, p.100-103）
第13回	エネルギー代謝の統合と制御（p.106-111）
第14回	遺伝情報（教科書：p.114-126）
第15回	遺伝子の変化・先天性代謝異常（p.126-136）

成績評価方法	定期試験(筆記) 80% 成果物 20%					
教科書	ナーシンググラフィカ『人体の構造と機能② 臨床生化学』 宮澤恵二編（メディカ出版）					
参考文献	『イラストレイテッド ハーパー・生化学 原書30版』 清水孝雄監訳（丸善出版株式会社）					
事前学習(内容・時間)	教科書の該当ページを熟読する（2時間）					
事後学習(内容・時間)	講義で学習したことを自分の言葉でノート（試験終了後要提出）にまとめる（1.5時間）。また復習ミニテスト（Microsoft Teamsを利用）に回答する（0.5時間）。これらの取り組みは成果物として評価の対象					
フィードバックの方法	Microsoft Teamsなどを活用して講評します					
備 考					オフィスアワー	講義前10分、講義後20分
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	△	—	○	—	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
臨床薬理学	内海 美保	講義	2年次 前期	必修	1	30	KSB21104

科目の概要

この授業では、臨床現場での安全かつ効果的な薬物療法を提供するため、薬が作用する仕組みや生体に及ぼす影響を講義する。また、一般的な薬理学の知識以外にも、薬の体内動態（吸収・分布・代謝・排泄）や製剤学的特徴、薬物相互作用、副作用、使用上の注意など、薬物療法に関する幅広い視点から授業を行う。第1～3回目の総論では、薬の基本を概説し、第4回目以降の各論では、臨床で汎用される医薬品について疾患を踏まえて講義する。

到達目標

- 薬が作用する仕組みや生体に及ぼす影響について説明できる。
- 臨床で汎用される医薬品の特徴（体内動態、製剤学的特徴、使用上の注意等）を列挙できる。
- 薬物療法の際の看護のポイントを指摘できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL 2	総論 (1)
第2回 AL 2	総論 (2)
第3回 AL 2	総論 (3)
第4回	抗感染症薬(1)
第5回	抗感染症薬(2)
第6回	抗がん薬(1)
第7回	抗がん薬(2)
第8回	免疫治療薬
第9回	抗アレルギー薬・抗炎症薬
第10回	末梢での神経活動に作用する薬物
第11回	中枢神経系に作用する薬物
第12回	循環器系に作用する薬物 (1)
第13回	循環器系に作用する薬物 (2)
第14回	呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物
第15回	物質代謝に作用する薬物

成績評価方法	定期試験（筆記）100%					
教科書	『系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[3] 薬理学』吉岡充弘、泉 剛、井関 健 編著（医学書院）					
参考文献	『NEW 薬理学』田中千賀子、加藤隆一編著（南江堂）					
事前学習（内容・時間）	次回の講義内容を教科書で確認しておくこと（30分間）					
事後学習（内容・時間）	授業内容が広範囲に及ぶため、1回の講義ごとに必ず復習をすること（2時間）					
フィードバックの方法	レポート・小テストについては、授業内で解説を行います					
備考	授業に関するアナウンスはTeamsで行います。質問はTeamsのチャット機能で受け付けます。			オフィスアワー	授業の前後30分	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用 力（看護実践力）
	○	△	△	○	—	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
感染と免疫	巽 圭太	講義	1年次 後期	必修	1	30	KSB11108

科目の概要

感染症と免疫について、基礎的な内容から代表的な疾患について講義する。疾患については、定義・概念、病態生理、検査所見、治療方法、予後などを正しく認識することを目的とする。講義時間の都合上、本科目で学習する疾患は、極めて代表的なものに限られるが、教わった“知識”“だけ”を習得するのではなく、今後、学内演習、臨地実習、さらには卒業社会人になって、様々な疾患に出会ったときに、自学自習できる礎となる“知恵”を身に付ける。

到達目標

- 感染症と免疫について、特徴を理解し、説明できる。
- 感染症と免疫において、おのおの代表的な疾患の定義・概念を5疾患以上説明できる。
- 特に重要な疾患については、主な症状、検査所見、治療方法、予後、疫学について説明できる。

授業内容

授業回数・AL	授業計画
第1回	感染症1
第2回	免疫1
第3回	感染症2
第4回	感染症3
第5回	感染症4/小テスト1
第6回	感染症5
第7回	感染症6
第8回	感染症7
第9回	感染症8/小テスト2
第10回	免疫2
第11回	免疫3
第12回	免疫4
第13回	免疫5/小テスト3
第14回	免疫6
第15回	免疫7

成績評価方法	定期試験(筆記)70% 小テスト24% 成果物6%					
教科書	『病気がみえる「vol.6 免疫・膠原病・感染症」』(メディックメディア)、『看護師・看護学生のためのレビューブック』(メディックメディア)、『看護師国家試験 高正答率過去問題集』(東京アカデミー)					
参考文献	関連科目で購入済みの教科書					
事前学習(内容・時間)	教科書での予習：講義予定の内容を把握し、注意すべき用語をチェックする(2時間)					
事後学習(内容・時間)	講義の復習。用語は当日、翌日、1週間後に見直す。(2時間)					
フィードバックの方法	授業中、及び、ICTを活用してフィードバックする					
備考				オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	△	△	△	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
疫学・保健統計	日高 庸晴	講義・演習	2年次 後期	必修	2	30	KSB21201

科目の概要

疫学の歴史的発展と疫学の主要目的のひとつである疾病のリスク因子の同定、分布と発生頻度の測定、自然経過と予後の把握、保健医療および環境（衛生）政策の評価方法、予防と治療などその具体的な内容の基礎知識、またその前提となる研究デザインをはじめとした疫学的方法論の教示を行う。また、国内外の健康課題についてグローバルヘルスの視点から講義を行う。

到達目標

- 「いつ・どこで・だれが」疾患にかかっているのかといった、基本的な考え方を身に付け、述べることができる。
- 疾病や健康問題を集団的な現象として量的に把握するための方法論を理解し、説明できる。
- 現代の健康問題の解決の一方法としての疫学的方法論を学び、習得する。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	オリエンテーション、疫学の歴史と定義、ヘルスリテラシーとは
第2回	EMBの理念
第3回	医療情報の検索のために (1)
第4回	医療情報の検索のために (2)
第5回 AL 6	医療情報の検索のために (3)
第6回 AL 6	医療情報の検索のために (4)
第7回 AL 6	医療情報の検索のために (5)
第8回	研究デザイン、データのバイアス、妥当性と信頼性
第9回	スクリーニングと予防の疫学
第10回	有病率など主な疫学指標
第11回	国際保健
第12回	感染症
第13回	薬害（B型肝炎）
第14回 AL 4	医学情報を検索・まとめのプレゼンテーション
第15回	看護職における保健統計の重要性

成績評価方法	定期試験(レポート) 100%					
教科書	『標準保健師講座 別巻2 疫学・保健統計学』 牧本清子 (医学書院)					
参考文献	適宜紹介します					
事前学習(内容・時間)	オリエンテーション時の説明および講義前のアナウンスに基づき、必要に応じて情報収集や予習を行うこと (2時間)					
事後学習(内容・時間)	随時指定する課題について、自分の考えをまとめる取り組みをすること (2時間)					
フィードバックの方法	コメントシートの記入内容の一部を次回の講義全体でシェアすると共に、講評します					
備考	私語や講義に関係しないスマートフォン操作等は厳禁			オフィスアワー		オフィスアワー一覧表参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	○	○	△	△	—	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
公衆衛生学	日高 庸晴 牧野 裕子	講義	2年次 前期	必修	1	30	KSB21105

科目の概要

疾病の発生と予防ならびに健康増進を維持促進するために、その理論的枠組みや施策について深い理解を促すために「いつ、何処で、誰が」という基本に立ち返りつつ、個人・集団・地域社会・国・グローバルといった視点から、公衆衛生の理論的背景と実践を学ぶ。また人々の健康を維持するための生活環境やその維持、法的基盤・社会保障制度、対象に応じた公衆衛生活動の必要性や地域・学校・産業保健の概要についても講義する。

到達目標

- 公衆衛生に基本や歴史的経緯について、理解できる。
- 保健活動の基盤となる法や施策について理解できる。
- 健康増進のために必要な理論的枠組みやその実践方法を習得できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	健康の定義・公衆衛生の理念
第2回	地域保健法とヘルスプロモーション（健康日本21）
第3回	健康に関する指標や要因
第4回	公衆衛生と人権(1)
第5回	公衆衛生と人権(2)
第6回	公衆衛生における予防的保健行動の促進
第7回	公衆衛生における感染症対策
第8回	公衆衛生における環境対策と食の安全対策
第9回	保健活動の実践機関（保健所・市区町村保健センター）
第10回	地域保健活動
第11回	母子保健活動
第12回	精神保健活動・難病支援
第13回	学校保健活動
第14回	職場の健康管理
第15回	保健師活動の実際

成績評価方法	定期試験(レポート) 50% 小テスト 50%					
教科書	『公衆衛生（ナーシング・グラフィカ健康支援と社会保障）, 平野かよ子ほか, メディカ出版					
参考文献	適宜紹介します					
事前学習(内容・時間)	講義時のアナウンス等に応じて、情報収集や予習を行うこと（2時間）					
事後学習(内容・時間)	随時指定する課題について、自分の考えをまとめる取り組みをすること（2時間）					
フィードバックの方法	コメントの記入内容の一部を、次の講義時等に全体で共有すると共に、随時講評します					
備考	私語や講義に関係しないスマートフォン操作等は厳禁			オフィスアワー		オフィスアワー一覧表参照
	ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力
	○	△	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
運動と健康 I	大本 友香	演習	1年次 前期	選択	1	30	KSB13301

科目の概要

この授業では、生活習慣病をはじめとした病気や障害に対する予防・治癒を目的とした身体活動、運動の必要性について講義する。加えて、解剖学に基づいて骨、筋肉、腱、関節、それぞれの役割を理解し、柔軟性、筋力、筋持久力を向上させていく技術を教授する。簡単にできるストレッチ法や機能的な動きを実施することで、自身の身体のバランスに気づき、ひずみを調整する方法、および健康へアプローチする運動の方法についての理解を促す。

到達目標

- 運動の不足や過剰がもたらす病気や障害について理解し、健康の一助としての運動の必要性について論ずることができる。
- 身体の柱となる骨格の役割、および筋の役割を理解し、説明できる。
- 自身の身体を使ってストレッチやエクササイズなどの実技を行うことにより、身体のバランスを整えるための技術を習得する。
- 実技を通し、コミュニケーション力・チーム力及びリーダーシップ力を身に付ける。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL 3	身体のバランスの重要性/ボールを使って身体を整える運動とフットセラピー、動きの仕組み/有酸素運動①
第2回 AL 3	殿部の筋肉と関わる骨、関節①/ボールを使った運動とピラティス、フットセラピー、動きの仕組み/有酸素運動②
第3回 AL 3	殿部の筋肉②・脚後面の筋肉と関わる骨、関節①/ボールを使った運動とピラティス、フットセラピー、動きの仕組み/有酸素運動③
第4回 AL 3	脚後面の筋肉と関わる骨、関節②/ボールを使った運動とピラティス、フットセラピー、動きの仕組み/有酸素運動④
第5回 AL 3	脚前面の筋肉と関わる骨、関節①/ボールを使った運動とピラティス、フットセラピー、動きの仕組み/有酸素運動⑤
第6回 AL 3	脚前面の筋肉と関わる骨、関節②/ボールを使った運動とピラティス、フットセラピー、動きの仕組み/有酸素運動⑥
第7回 AL 3	下肢の筋肉と関わる骨、関節①/ボールを使った運動とピラティス、肩関節周辺をほぐすためのストレッチ、動きの仕組み/体操①
第8回 AL 3	下肢の筋肉と関わる骨、関節②/ボールを使った運動とピラティス、肩関節周辺をほぐすためのストレッチ、動きの仕組み/体操②
第9回 AL 3	脚サイドの筋肉と関わる骨、関節/ボールを使った運動とピラティス、肩関節周辺をほぐすためのストレッチ、動きの仕組み/体操③
第10回 AL 3	内転の筋肉と関わる骨、関節①/ボールを使った運動とピラティス、関節周辺をほぐすためのストレッチ、動きの仕組み/体操④
第11回 AL 3	内転の筋肉と関わる骨、関節②/ボールを使った運動とピラティス、関節周辺をほぐすためのストレッチ、動きの仕組み/体操⑤
第12回 AL 3	内転の筋肉と関わる骨、関節③/ボールを使った運動とピラティス、関節周辺をほぐすためのストレッチ、動きの仕組み/体操⑥
第13回 AL 3	関節周辺をほぐすためのストレッチ、ピラティスと動きの仕組み体操⑦
第14回 AL 3	ピラティスと動きの仕組み体操⑧
第15回 AL 3	実技テスト及びまとめ

成績評価方法	定期試験（実技）60% 小テスト 40%					
教科書	プリント配布					
参考文献	『骨のしくみ・はたらき事典』松村天裕（西東社） 『筋肉と関節しくみと動きが見える事典』末吉勝則・中田康夫（永岡書店）					
事前学習（内容・時間）	次の授業に必要な筋肉の付着部を覚えてくる（2時間）					
事後学習（内容・時間）	授業で行ったワークを1つでも実践し、確認する（2時間）					
フィードバックの方法	小テストは授業内で解説します					
備 考	水分を補給しながらの実技です。水分補給できる物を用意すること。またGパン、スカート、ストッキングは×です。動きやすい服装（前にファスナーやボタンが付いているものは推奨しない）、Tシャツ、トレーニング用のコットン素材のスパッツ又はトレーニング用パンツ着用。靴は、底の平らなものを用意。			オフィスアワー		授業後15分
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用 力（看護実践力）
	○	○	△	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
運動と健康Ⅱ	大本 友香	演習	1年次 後期	選択	1	30	KSB13302

科目の概要

この授業では、生活習慣病をはじめとした病気や障害に対する予防・治療を目的とした身体活動、運動の必要性について講義する。加えて、解剖学に基づいて骨、筋肉、腱、関節、それぞれの役割を理解し、柔軟性、筋力、筋持久力を向上させていく技術を教授する。身体の機能的な動きを理解し健康な身体作りの運動方法についての理解を促す。

到達目標

- 運動の不足や過剰がもたらす病気や障害について理解し、健康の一助としての運動の必要性について論ずることができる。
- 身体の柱となる骨格の役割、および筋の役割を理解し、説明できる。
- 自身の身体を使ってストレッチやエクササイズなどの実技を行うことにより、身体のバランスを整えるための技術を習得する。
- 実技を通し簡単な運動指導が出来る技術を習得する。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL 3	身体のバランスの重要性/ボールを使って身体を整える運動、動きの仕組み/有酸素運動①
第2回 AL 3	背中筋肉と関わる骨、関節①/ボールを使った運動とピラティス、動きの仕組み/有酸素運動②
第3回 AL 3	背中筋肉と関わる骨、関節②/ボールを使った運動とピラティス、動きの仕組み/有酸素運動③
第4回 AL 3	腹部筋肉と関わる骨、関節①/ボールを使った運動とピラティス、動きの仕組み/有酸素運動④
第5回 AL 3	腹部筋肉と関わる骨、関節②/ボールを使った運動とピラティス、動きの仕組み/有酸素運動⑤
第6回 AL 3	腹部筋肉と関わる骨、関節③/ボールを使った運動とピラティス、動きの仕組み/有酸素運動⑥
第7回 AL 3	胸の筋肉と関わる骨①、関節/ボールを使った運動とピラティス、動きの仕組み/体操①
第8回 AL 3	胸の筋肉と関わる骨②、関節/ボールを使った運動とピラティス、動きの仕組み/体操②
第9回 AL 3	胸の筋肉と関わる骨③、関節/ボールを使った運動とピラティス、動きの仕組み/体操③
第10回 AL 3	肩の筋肉と関わる骨/ボールを使った運動とピラティス、動きの仕組み/体操④
第11回 AL 3	腕の筋肉と関わる骨①/ボールを使った運動とピラティス、動きの仕組み/体操⑤
第12回 AL 3	腕の筋肉と関わる骨②/ボールを使った運動とピラティス、動きの仕組み/体操⑥
第13回 AL 3	ピラティスと動きの仕組み体操⑦
第14回 AL 3	動きの仕組み体操⑧
第15回 AL 3	実技テスト及びまとめ

成績評価方法	定期試験（実技）60% 小テスト 40%					
教科書	プリント配布					
参考文献	『骨のしくみ・はたらき事典』松村天裕（西東社）、 『筋肉のしくみ・はたらき事典』左明・山口典孝（西東社）					
事前学習（内容・時間）	次の授業に必要な筋肉の付着部を覚えてくる（2時間）					
事後学習（内容・時間）	授業で行ったワークを1つでも実践し、確認する（2時間）					
フィードバックの方法	小テストは授業内で解説します					
備 考	水分を補給しながらの実技です。水分補給できる物を用意すること。またGパン、スカート、ストッキングは×です。動きやすい服装（前にファスナーやボタンが付いているものは推奨しない）、Tシャツ、トレーニング用のコットン素材のスパッツ又はトレーニング用パンツ着用。靴は、底の平らなものを用意。				オフィスアワー	授業後15分
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用 力（看護実践力）
	○	○	△	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
衛生関係法規	牧野 裕子	講義	2年次 前期	必修	1	30	KSB21106

科目の概要

保健、医療、福祉に関連した関係法規の基礎知識について学ぶ。医療サービス実践の基盤は法律によって根拠づけられ、規制されているということの重要さと必要性を理解する。さらに人々の健康を守るためのサービス提供機関と医療従事者の役割や機能についての基本的な法律や問題などについて、保健・医療職に焦点を当てながら関係法規を中心に講義する

到達目標

- 看護サービスを提供する上で必要な基本法規について説明できる
- 看護専門職としての意識を高め、看護師としての法的責任について説明できる。
- チーム医療における、看護職の職務の根拠や役割について説明できる

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	看護職が知っておくべき法の基礎
第2回	保健師助産師看護師法・看護師の職務と責任
第3回	医療従事者に関する法律・医療法
第4回 AL 2	医療事故が生じた時の法的責任・看護に関する法的事例
第5回	公衆衛生法1 地域保健法・健康増進法
第6回	公衆衛生法2 母子保健法・学校保健安全法
第7回	公衆衛生法3 精神保健福祉法・感染症に関する法律
第8回	薬務に関する法律 医薬品医療機器等法・麻薬および向精神薬取締法
第9回	社会福祉に関する法律1 社会福祉法・生活保護法
第10回	社会福祉に関する法律2 高齢者福祉に関する法
第11回	社会福祉に関する法律3 障がい者福祉に関する法・児童福祉に関する法
第12回	社会保険法1 医療保険
第13回	社会保険法2 介護保険法
第14回	労働に関する法 労働基準法・労働安全衛生法
第15回 AL 2	まとめ・小テスト

成績評価方法	小テスト 60% 成果物40%					
教科書	『看護・医療を学ぶ人のためのよくわかる関係法規 改定第2版』 編著：松原孝明（Gakken）					
参考文献	『2023年度版 社会保障制度指しガイド』いとう総研編					
事前学習(内容・時間)	次回講義内容に関するテキストの事前学習（1時間）					
事後学習(内容・時間)	講義内容の復習・課題（1時間）					
フィードバックの方法	講義の都度授業の理解程度と質問について確認し、次回の講義で全体または個別にフィードバックします					
備考	基本的にテキストに沿って授業展開します。必ずテキストの関連項目を事前学習の上、授業に臨んで下さい。			オフィスアワー		講義後
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	△	○	△	○	△	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
情報処理 I	吉田 浩	講義・演習	1年次 前期	必修	1	30	KSB11201

科目の概要

授業ではコンピューターを使用した情報の取り扱いに必要な基本的な知識と技術を概説し、情報をまとめる技術を実技演習を通して修得させる。また情報をやり取りする時に気を付けなければならないセキュリティの知識やマナーも合わせて説明し、安全なコミュニケーションのあり方を考察させる。

到達目標

- 情報を伝え合うツールとしてのコンピューターを正しく操作できる。
- 基本ソフトウェア(Word, Excel, PowerPoint)を使って情報をまとめて作成できる。
- ネットも含めたコンピューターによるコミュニケーションにおいて必要な知識やマナーを説明できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	コンピューターの基本操作その1 / Wordの基礎 -テキスト入力-
第2回	コンピューターの基本操作その2 / Wordの基礎 -テキスト入力の応用-
第3回	コンピューターの応用操作その1 / Wordの基礎 -書式の設定
第4回	コンピューターの応用操作その2 / Wordの基礎 -表の操作
第5回	ネットワークのマナーその1 / Wordの基礎 -画像と図形-
第6回	ネットワークのマナーその2 / Wordの基礎 -アプリケーションとの連携-
第7回	メディアリテラシー / Excelの基礎 -データ入力の基礎-
第8回	情報セキュリティその1 / Excelの基礎 -データ入力の応用
第9回	情報セキュリティその2 / Excelの基礎 -表のレイアウト
第10回	情報セキュリティその3 / Excelの基礎 -数式の計算とグラフの作成
第11回	プレゼンテーションのポイント1 / Power Pointの基礎 -スライド作成-
第12回	プレゼンテーションのポイント2 / Power Pointの基礎 -スライドのデザイン
第13回	プレゼンテーションのポイント3 / Power Pointの基礎 -スライドの画面転換の効果
第14回 AL 4	プレゼンテーションについて考える / Power Point -スライドショーを作成する、プレゼンテーション資料作成
第15回 AL 4	プレゼンテーション

成績評価方法	小テスト 60% 成果物 40%					
教科書	『イチからしっかり学ぶ！ Office基礎と情報モラル Office365 [®] ・Office 2021対応』（n o a 出版）					
参考文献	なし					
事前学習(内容・時間)	前回の授業の内容を復習し習得しておくこと（1時間）					
事後学習(内容・時間)	毎回の授業時に復習用の課題（小テスト）を出題するので、それらに回答し提出すること（2時間）					
フィードバックの方法	提出された課題にコメントをつけて返却する					
備考	授業に対する主体的な態度を望みます			オフィスアワー		授業終了後30分
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用 力(看護実践力)
	△	○	△	○	△	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
情報処理Ⅱ	吉田 浩	講義・演習	1年次 後期	選択	1	30	KSB13201

科目の概要

情報処理Ⅰで習得した知識・技術を基に「Power Point」を活用したプレゼンテーションが最終目標です。プレゼンターと聴衆がコミュニケーションを十分に取れるような“プレゼント”としてのメッセージを各自が整理しまとめ、それらを伝えるためのスライド（発表資料）制作に必要な方法論をポイントを絞って指導します。

到達目標

- ブレインストーミングを通じて伝えるべき情報を整理し、それらをまとめられる。
- プレゼンテーションに必要なスライド制作をシンプルかつ大胆に行う方法を理解し、発表資料を作成することができる。
- 聴衆との十分なコミュニケーションのとれたプレゼンテーションが行える。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	オリエンテーション（授業の進め方とプレゼンテーションの基礎概説）
第2回 AL 2	プレゼンテーションの準備1（アイデアを提案する）／ブレインストーミング
第3回 AL 2	プレゼンテーションの準備2（独創的なアイデアとは）／ブレインストーミング
第4回 AL 2	プレゼンテーションの準備3（中心となるメッセージ）／ブレインストーミング
第5回	プレゼンテーションの準備4（意味のあるプレゼンテーション）
第6回	プレゼンテーションの資料制作1（物語の演出）
第7回	プレゼンテーションの資料制作2（意思を伝える方法）
第8回	プレゼンテーションの資料制作3（スライドデザイン：デザインとデコレーション）
第9回	プレゼンテーションの資料制作4（スライドデザイン：引用句と余白）
第10回	プレゼンテーションの資料制作5（スライドデザイン：コントラスト・反復）
第11回 AL 4	プレゼンテーションの実践1（ミニプレゼンの実施）
第12回	プレゼンの講評と修正（発表内容と資料のチェック）
第13回 AL 4	プレゼンテーションの実践2（ミニプレゼンの実施）
第14回	プレゼンの講評と修正（発表内容と資料のチェック）
第15回 AL 4	最終プレゼンテーションと総評／プレゼンテーション

成績評価方法	成果物 100%					
教科書	なし					
参考文献	必要に応じて授業内で紹介します					
事前学習(内容・時間)	スライドデザインに必要な資料収集（2時間）					
事後学習(内容・時間)	スライドデザインの修正作業（2時間）					
フィードバックの方法	スライドの提出及びミニプレゼンの後、個別に発表内容について指導します					
備 考	プレゼンテーションに対する真摯な態度を望みます			オフィスアワー	授業終了後30分	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用 力(看護実践力)
	○	△	—	—	○	—

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
社会保障と福祉	長谷川 章子	講義	2年次 後期	必修	2	30	KSB21107

科目の概要

現代社会における社会保障について、その発達の歴史、理念と意義、社会保障の体系、社会保障各制度の概要、民間保険の概要と公的施策との関係等を教授し、医療専門職として理解しておくべき社会保障の基本的知識を説明する。また、ライフサイクルを基礎とし、人々の生活に社会保障がどのように関わり、支えているかを講義する。

到達目標

- 医療従事者として理解しておかなければならない社会保障制度を説明できる。
- グループワークを通して、社会保障をより身近なものとして理解を深め、医療現場で使用できる社会保障制度を述べることができる。
- 「人を援助する」ことを学び、適切な援助をディスカッションできる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	社会保障の概念および理念 —— 社会保障とは ——
第2回	出生～乳児期の社会保障 —— 出産費用・出産保障等 ——
第3回 AL 3	幼児期の社会保障 —— 保健所の役割、保育所の役割等 ——
第4回	児童期の社会保障 —— 小学校、中学校、学童保育等 ——
第5回 AL 4	出生～児童期までの社会保障を学び、各グループでテーマを設定しグループでプレゼンテーションを行う。
第6回	青年期前期の社会保障 —— 高校、大学、専門学校、アルバイト等 ——
第7回 AL 3	青年期後期の社会保障 —— 就労等 ——
第8回 AL 4	視聴資料「シッコ」—— アメリカの医療保険制度——
第9回	成人期前期の社会保障 —— 結婚、出産等 ——
第10回 AL 3	成人期後期の社会保障 —— 子育て等 ——
第11回	高齢期の社会保障 —— 定年、介護等 ——
第12回 AL 4	コンプライアンス —— ハラスメントの概要 ——
第13回	医療保障の概要 —— 医療保障とは・医療保障の種類 ——
第14回	年金制度の概要 —— 公的年金とは・民間年金とは ——
第15回 AL 3	障害者制度の概要 —— 障害者総合支援法の概要 ——

成績評価方法	定期試験(筆記) 50% 成果物 30% 小テスト 20%					
教科書	毎講義で講師の方から資料を配布します					
参考文献	『はじめての社会保障』 椋野美智子、田中耕太郎 (有斐閣)					
事前学習(内容・時間)	ライフサイクルについて事前に流れを理解しておくこと (2時間)					
事後学習(内容・時間)	グループワークの討議に備えて、各講義の内容を復習し、十分に理解すること (2時間)					
フィードバックの方法	個人課題に対するコメントは、次回講義時に返却します。小テストの解答は次回講義時に解説します。					
備 考				オフィスアワー 講義開始30分前		
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用能力(看護実践力)
	○	△	△	○	○	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
医療と経済	川島 隆志	講義	2年次 後期	選択	2	30	KSB23103

科目の概要

医療・看護を取り巻く環境は、ますます厳しくなっている。その大きな要因が「経済」である。日本が高度成長を続けていた頃は、医療において経済・経営が語られることはなかった。コロナ禍、少子化・高齢化の促進等による人口の変化がその要因となっている。本講義は、医療と経済の関係をわかりやすく講義し、効果的・効率的なケアを保証するために、経済を理解する必要性を説明する。

到達目標

- 経済学、行動経済学の基本を理解し、その考え方を述べるができる
- 経済に関わる統計を医療・看護の視点で説明できる
- 行動経済学の考え方を医療・看護への応用例で説明できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	はじめに 本講義の概要
第2回	経済学の基礎①
第3回	経済学の基礎②
第4回 AL 2	国民医療費の推移、社会保障給付金の現状
第5回	人口動態、世帯構成
第6回 AL 2	人口動態、世帯構成と医療・看護の関係
第7回	医療従事者数、医療施設数の現状
第8回 AL 2	医療と経済のまとめ①
第9回	行動経済学の基礎①
第10回	行動経済学の基礎②
第11回	ナッジとは何か
第12回	行動経済学の応用①(仕事への応用)
第13回 AL 2	行動経済学の応用②(医療・健康活動への応用)
第14回 AL 2	行動経済学の応用③(医療・健康活動への応用)
第15回	医療と経済のまとめ②

成績評価方法	定期試験(レポート) 80% 定期試験(レポート) 20%					
教科書	厚生労働省のホームページより必要な資料をダウンロードしていただきます(講義で指示します)					
参考文献	『行動経済学の使い方』大竹文雄 (岩波新書)					
事前学習(内容・時間)	医療・看護の関係をディスカッションするための事前準備 (2時間)					
事後学習(内容・時間)	ディスカッションについて復習する (2時間)					
フィードバックの方法	課題等については授業中に解説し、返却します					
備 考	統計数値を読む力、そこから課題を発見する力を学修するという心構えで受講してください				オフィスアワー	
	講日の授業の後30分。随時メールでも受け付ける。					
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	△	△	△	○	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
臨床心理学	岩城 晶子	講義	2年次 前期	選択	2	30	KSB23104

科目の概要

臨床心理学は、何らかの心の問題や葛藤に苦しむ人を援助しようとする現実的な要請の中で起こってきた学問である。臨床心理学が対象とするのは病を抱える人だけでなく、ライフサイクル上の様々な変化や困難の中にある人、自分のよりよい人生とは何かについて考える人など幅広く、本科目では多様な心の理論や技法、歴史、文化などの視点から講義し、様々な角度から「人のこころ」について共に考える。

到達目標

- 臨床心理学の各理論とそれにおける心の定義やメカニズムについての知識を獲得し、説明することができる。
- 心理的援助の具体的方法や実践について基礎知識を獲得し、説明することができる。
- 病、ライフサイクル、社会、文化などの多角的視点から人の心について自分なりに考え、表現することができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	臨床心理学ってなんだろう？
第2回	臨床心理学の歴史①
第3回	臨床心理学の歴史②
第4回	臨床心理学の基礎理論・方法論①
第5回	臨床心理学の基礎理論・方法論②
第6回	アセスメント①
第7回 AL 3	アセスメント②
第8回	心理療法①
第9回	心理療法②
第10回 AL 3	心理療法③
第11回	臨床心理学の実践について①
第12回 AL 3	臨床心理学の実践について②
第13回 AL 3	「文化」を通して心について考える①
第14回	「文化」を通して心について考える②
第15回 AL 3	「文化」を通して心について考える③

成績評価方法	定期試験(筆記) 40% 定期試験(レポート) 40% 成果物 20%					
教科書	特に使用しません。適宜、参考資料やプリントを配布します。					
参考文献	『臨床心理学』丹野義彦・石垣琢磨・毛利伊吹・佐々木淳・杉山明子（有斐閣） 『こころを大切にする看護 燃え尽きを防ぐための臨床心理学』樫村通子（日本評論社） 『カウンセリングの実際問題』河合隼雄（誠信書房）					
事前学習(内容・時間)	授業で提示されたキーワードや社会問題について調べてくること（2時間）					
事後学習(内容・時間)	毎時間の授業内容を踏まえた小レポートを作成し、次回授業までに提出すること（2時間）					
フィードバックの方法	小レポートや質問、成果物については、授業内でフィードバックします					
備考	人の心・苦しみに関するテーマや事例を扱うので、受講生の真剣な態度での参加を求めます			オフィスアワー		オフィスアワー一覧表参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用能力 (看護実践力)
	○	○	—	△	△	△

III 專 門 分 野

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
看護とアートⅠ (治療環境とアメニティ)	森 合音	講義・演習	1年次 後期	必修	1	30	KSP11201

科目の概要

超高齢社会の到来、コロナ禍により今、医療現場は大きく変化している。先の見通せない不確かさの中で私たちは何を目指し、何を成すのか。これからの看護に求められるものは？看護と芸術がどのような関係性を持ち、芸術分野が看護と結びつくことで開かれる可能性を教授する。また、毎回、学生の提出したリアクションペーパーからディスカッションする時間を設け、双方向から対話型授業を作り上げてゆく。その他医療現場における様々なアート活動の事例を知り、その考え方や手法を学ぶことで観察力、想像力、表現力を身につけた創造的な看護師育成を目指す。

到達目標

- 日常の丁寧な観察、発想の転換から「美」を見いだせる感受性を磨き、真の問題発見から解決へ向っての道筋が見出せる。
- 循環論を理解し、問題を直視できる考え方を身につける。
- 創造性を身につけ、問題（課題）解決への道筋をたて、作品を制作し、表現、解説できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	「ホスピタルアート」とは看護と建築との繋がり ナイチンゲールの看護覚書から
第2回	看護と芸術 心の「痛み」と芸術表現
第3回 AL 2	学生との双方向の対話（リアクションペーパー）
第4回 AL 2	学生との双方向の対話（リアクションペーパーから）病院に於けるアートの役割 ①理念の顕在化（事例紹介）
第5回	病院に於けるアートの役割 ②理念の顕在化（事例紹介）
第6回	病院に於けるアートの役割 ③社会包摂（事例紹介）
第7回 AL 3	コミュニケーションを誘発するものづくり 課題説明
第8回 AL 3	制作①色集め
第9回 AL 3	制作②プレゼン資料制作
第10回 AL 4	制作物発表①
第11回 AL 4	制作物発表②
第12回 AL 4	制作物発表③
第13回 AL 4	制作物発表④
第14回 AL 3	とても小さなものづくり リアクションペーパー
第15回 AL 2	リアクションペーパーから

成績評価方法	定期試験(レポート) 50% 成果物 50%					
教科書	特になし					
参考文献	『未来共創の哲学 大統一生命理論に挑む』村瀬雅俊・村瀬智子（言叢社）京都大学基礎物理学研究所 Journal of Integrated Creative Studies 2022 第3章 生命体としての病院―「痛み」を「希望」に変えるホリスティックなアートの力 森 合音 http://www2.yukawa.kyoto-u.ac.jp/~future/icis/					
事前学習(内容・時間)	医療環境における様々なアート活動をリサーチ、分析する（2時間）					
事後学習(内容・時間)	実際に授業を受けた内容から、臨床看護に応用できる部分をまとめる（2時間）					
フィードバックの方法	作品、レポートは以降の授業で講評します					
備 考	希望者には質問や情報提供等個別に対応します			オフィスアワー	Teams上の「チャット」にて、随時質問を受け付けます	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用能力(看護実践力)
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
看護とアートⅡ (治療環境とアメニティ)	森 合音	講義・演習	2年次 後期	必修	1	30	KSP21201

科目の概要

「ものづくり」は自分自身を知ることから始まる。他者とのコミュニケーションの始まりは自分を表現し、理解してもらおうと歩み寄ることに他ならない。制作を通じて自己と向き合い、プレゼンを通じて他者に自己を投げかけてゆく体験を通じ表現力を身につける。また「共同制作」を通じて作家の世界観やそこに込める思いなどを共有、完成されていく過程を体験することで、作家性や作品性を超えてつながる芸術の持つ社会包摂機能の活用術を身につける。

到達目標

- 医療現場の問題を、「自己の心、患者の心の変化」を含めた広義の「治療環境」の側面から分析できる。
- 他者の考えを知り、痛みを観察し、想像し、寄り添える柔軟な感性を持つ。
- 創造性を身につけ、問題（課題）解決への道筋をたて、作品を制作し、表現、解説できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画	
第1回	コミュニケーションを誘発するものづくり	課題説明
第2回	コミュニケーションを誘発するものづくり	個人制作
第3回	コミュニケーションを誘発するものづくり	個人制作
第4回	コミュニケーションを誘発するものづくり	個人制作
第5回 AL 4	コミュニケーションを誘発するものづくり	制作物発表
第6回 AL 4	コミュニケーションを誘発するものづくり	制作物発表
第7回 AL 4	コミュニケーションを誘発するものづくり	制作物発表
第8回 AL 4	コミュニケーションを誘発するものづくり	制作物発表
第9回	チームで作るものづくり	和紙照明作家 招聘 講義 照明塾 主宰 橋田 裕司
第10回 AL 3	チームで作るものづくり	和紙照明作家 招聘 制作
第11回 AL 3	チームで作るものづくり	和紙照明作家 招聘 制作
第12回	想いを形にする	グラフィック工芸家 招聘 講義 モーネ工房 井上 由季子
第13回 AL 3	想いを形にする手法	グラフィック工芸家 招聘 講義
第14回 AL 3	想いを形にする手法	グラフィック工芸家 招聘 講義
第15回 AL 3	想いを形にする手法	グラフィック工芸家 招聘 講義

成績評価方法	成果物 50% 定期試験(レポート) 50%					
教科書	特になし					
参考文献	『未来共創の哲学 大統一生命理論に挑む』村瀬雅俊・村瀬智子(言叢社) 京都大学基礎物理学研究所 論文集 Journal of Integrated Creative Studies 2022 第3章 生命体としての病院—「痛み」を「希望」に変えるホリスティックなアートの力 森 合音 http://www2.yukawa.kyoto-u.ac.jp/~future/icis/					
事前学習(内容・時間)	医療環境における様々なアート活動をリサーチ、分析する(2時間)					
事後学習(内容・時間)	実際に授業を受けた内容から、臨床看護に応用できる部分をまとめる(2時間)					
フィードバックの方法	作品、レポートは以降の授業で講評します					
備考	希望者には質問や情報提供等個別に対応します				オフィスアワー	Teams上の「チャット」にて、随時質問を受け付けます
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
看護とアートⅢ (笑い療法)	古谷 昭雄	講義・演習	2年次 前期	選択	1	15	KSP22201

科目の概要

笑いは免疫力を高め、自然治癒力を持つことを再認識し、笑いの効果を実感してほしい。笑いの三大効用は健康力、人間関係力、想像力であるといわれている。それらが高めるためには人生を豊かにし、自己表現ができる芸術の力をかりなければならない。講義や演習でノーズフルート（鼻笛）やラフターヨガを実践することにより、心と脳の処方せんである笑い療法について講義する。

到達目標

- 笑いは免疫力を高め、楽しく豊かに生きるためのコミュニケーション、マネージメントの基本であることについて説明できる。
- ラフターヨガとノーズフルートや身近な楽器を使って笑い療法を企画することができる。
- 企画された笑い療法をフィールド・ワークのなかでレクリエーションの一環として実演することができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL 3	看護とアート1 (ガイダンス、笑いと健康、ユーモア看護)
第2回 AL 3	看護とアート2 (ノーズフルート入門、ラフターヨガ入門)
第3回 AL 5	癒しのノーズフルート1 (実演と演習)
第4回 AL 5	癒しのノーズフルート2 (実演と演習)
第5回 AL 5	癒しのラフターヨガ (実演と演習)
第6回 AL 3	ノーズフルート演奏の企画リハーサル
第7回 AL 3	ラフターヨガの企画リハーサル
第8回 AL 5	フィールド・ワーク (シニア会または病院にて実演)

成績評価方法	定期試験(レポート) 50% 成果物 50%					
教科書	『ユーモア看護 一癒しと和み一』平澤久一 古谷昭雄監修 (金芳堂)					
参考文献	『笑って長生き』昇 幹夫著 (大月書店)、『笑は咲にして勝なり』中井宏次著 (薬事日報社)					
事前学習(内容・時間)	ノーズフルートとラフターヨガの練習 (2時間)					
事後学習(内容・時間)	ノーズフルートとラフターヨガの練習 (2時間)					
フィードバックの方法	成果物については、授業内で説明をします					
備 考	笑い健康、笑いヨガ、動揺などに興味・関心を持ってください。フィールド・ワークを欠席した者は受験資格を失いますので必ず出席をしてください。鼻笛の購入が必要。			オフィスアワー		授業終了後30分、教室で質問を受け付ける
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	△	○	○	△	○	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
看護とアートⅣ (音楽療法)	武田 倫衣子	講義・演習	2年次 前期	選択	1	15	KSP22202

科目の概要

音楽療法では、クライアントのこころとからだの治療のために音楽を用いる。現在、音楽療法は看護と重要な関わりのある様々な臨床現場で実施されている。看護師をはじめとする医療スタッフの音楽療法への正しい理解は、クライアントへの音楽療法の効果を倍増させる。クライアントから深い信頼を寄せられるであろう未来の看護師たちへ、音楽療法の基本及び看護師としての有効な関わり方を講義する。

到達目標

- 音楽療法についての基礎知識を修得し、説明できる。
- 音楽療法の意義と、看護師が積極的に参加することの重要性を理解し、解説することができる。
- 音楽療法で用いられる基礎的な技術の一部を修得し、活用できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	音楽療法の概要と歴史
第2回	心身障がい者（児）のための音楽療法
第3回	精神科における音楽療法
第4回	第一回小テスト・神経学的リハビリテーションにおける音楽療法・緩和ケア及びホスピスにおける音楽療法
第5回	第一回小テスト解説・高齢者のための音楽療法
第6回 AL 3	高齢者のための音楽療法・いろいろな音楽療法・ハンドベル演奏の実践
第7回	第二回小テスト・高齢者の音楽療法に関する映画鑑賞
第8回 AL 3	第二回小テスト解説・高齢者の音楽療法に関する映画鑑賞（続き）・総括

成績評価方法	小テスト 80% 成果物 20%					
教科書	資料を随時配布する					
参考文献	必要に応じて適宜配布する					
事前学習(内容・時間)	次回の授業内容について、インターネット・書籍などで自分なりに知識を得ておく（2時間）					
事後学習(内容・時間)	授業内容の復習（2時間）					
フィードバックの方法	小テストは次回の授業中に返却し解説を行う。成果物の返却は行わない。					
備考	受講にあたって音楽的知識の有無は問わないが、音楽に興味・関心があることが望ましい			オフィスアワー		授業終了後30分
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用能力(看護実践力)
	△	○	○	△	○	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
看護とアートⅤ (絵画療法)	フルイミエコ	講義・演習	2年次 前期	選択	1	15	KSP22203

科目の概要

アートによって人の潜在能力を引き出すには、活動の目的を理解して環境を整え、実践する力が求められます。この教科では「臨床美術」を軸に、対人援助のアートの実践に必要な技術と表現力、コミュニケーション技術を教授します。同時に実践を支える人間観について講義します。

到達目標

- 美術表現についての知識を理解し、美術活動を実践できる技能を習得する。
- アートを看護に活かせる具体的手法と技術を身につける。
- 対人援助としてのアートの実践に必要なマインドを理解し、コミュニケーション技術を身につける。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	総論「生きるを励ますアート」
第2回 AL 3	美術表現の理解～「感じる」から「表現」へ繋げる
第3回 AL 5	実践に役立つ手法①オイルパステルの抽象表現
第4回 AL 5	美術表現の理解②造形からの出発
第5回 AL 5	実践に役立つ手法③色鉛筆の表現
第6回 AL 5	実践に役立つ手法④素材を楽しむ表現
第7回 AL 3	アート活動の実際～現場運営に必要なこと
第8回	まとめ「アートを味方に」～存在論的人間観と関係性

成績評価方法	成果物 70% 小テスト 30%					
教科書	なし					
参考文献	『臨床美術』金子健二編 (日本地域社会研究所)					
事前学習(内容・時間)	実技に必要なものを用意する (2時間)					
事後学習(内容・時間)	実技作品画像の提出、小テスト (2時間)					
フィードバックの方法	授業の時間内に成果物についてコメント。質問は次回の授業にて回答する。					
備 考	画材は指定のものを使うこと。(2,500円程度必要) 指示のあるものは各自が事前に用意すること。				オフィスアワー	授業終了後30分
	ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
看護とアートVI (陶芸療法)	上田 順平	講義・演習	2年次 後期	選択	1	15	KSP22204

科目の概要

陶芸は、作業療法として精神科領域で以前から用いられていた。一方、生活機能訓練としても注目されており、脳賦活訓練と手指のリハビリテーションなどでも効果が認められている。作陶の実際を通して、陶芸の治療的効果について講義・演習する。

到達目標

- 焼き物の成り立ち、基本的な陶芸制作の方法を説明することができる。
- 焼き物を通じて、医療にとって身体の健康と等しく重要である心の健康を体感し、作品に表現することができる。
- 基礎的な焼き物作りの方法を身につけ、制作を行うことができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL 5	焼き物の成り立ち、制作プロセスの紹介
第2回 AL 5	作りたい作品のイメージを共有して、様々な芸術作品を紹介する。
第3回 AL 5	カップやお茶碗、オブジェなどの制作開始
第4回 AL 5	粘土段階での加飾を行う
第5回 AL 5	素焼きに備えて、表面処理を行う。
第6回 AL 5	絵付けと釉薬作業
第7回 AL 5	絵付けと釉薬作業
第8回 AL 5	自身の作品について各自プレゼンテーション、講評会（意見交換）

成績評価方法	成果物 100%（内、作品 80%、プレゼンテーション評価 20%）					
教科書	なし					
参考文献	なし					
事前学習（内容・時間）	講義までに制作する作品の構想を考えておくこと（2時間）					
事後学習（内容・時間）	講義後に当日の制作の成果を検証し、次回制作時に活かせるようにすること（2時間）					
フィードバックの方法	講評会の際に芸術からの視点、生活からの視点で受講者それぞれの作品について、講評を行います					
備 考					オフィスアワー	授業終了後 90分
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用 力（看護実践力）
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
看護とアートⅦ (セラピーメイク)	倉地 祐子	講義・演習	2年次 後期	選択	1	15	KSP22205

科目の概要

今、医療現場では、治療だけでなく心のケアが重要視されています。患者様の心を癒し前向きに、QOLを上げる化粧療法「セラピーメイク」が注目されています。この講座では、ご自身の看護師としての身だしなみメイク、患者様に寄り添う「セラピーメイク」を中心に、理論と技術、カウンセリングの仕方について教授します。

到達目標

- 看護師としての身だしなみ「セルフメイク」の知識と技術を説明できる。
- 患者様に寄り添う化粧療法「セラピーメイク」の知識と技術を説明できる。
- 故人様に行う「エンゼルメイク」の知識と技術を説明できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	オリエンテーション セルフメイク（皮膚理論、スキンケア・下地）
第2回 AL 3	セルフメイク（ファンデーション・チーク・リップ）
第3回	セルフメイク（眉・アイメイク）
第4回	セラピーメイク（ニキビ・ニキビ跡）
第5回	セラピーメイク（アザ・タトゥー）
第6回	セラピーメイク（傷あと・ケロイド・リストカット）
第7回 AL 5	エンゼルメイク
第8回	1回から7回目までのまとめと小テスト

成績評価方法	定期試験(筆記) 100%					
教科書	授業ごとに資料配布					
参考文献	『今あるコスメで上品で洗練された美人になれる』福井美余（ダイヤモンド社） 『リハビリメイク』監修:百束比古 編著:青木律・かづきれいこ（克誠堂出版）					
事前学習(内容・時間)	講義時に使用するテキストを事前に読んでおくこと（2時間）					
事後学習(内容・時間)	講義内で行ったメイク実習を復習すること（2時間）					
フィードバックの方法	授業内で解説を行います					
備考	メイクアップの知識と技術を活かす為に、復習と練習が大切です			オフィスアワー	随時メールで受付します	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用 力(看護実践力)
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
看護とアートⅧ (アロマセラピー・タッチケア)	佐保美奈子	講義・演習	2年次 後期	選択	1	15	KSP22206

科目の概要

タッチケアとアロマセラピーは、補完代替療法の有望な治療法の一つとして医療経済の観点からも注目されている。タッチケア、アロマセラピーについての基礎的知識の講義をおこなう。特に最も早くに普及した周産期領域のアロマセラピーについて、実技演習を交えながら講義をおこなう。

到達目標

- タッチング・タッチケアの基礎的知識を学び、医療分野への活用について説明できる。
- アロマセラピーの基礎的知識を学び、医療分野での安全な使用方法について説明できる。
- 女性・周産期領域におけるアロマセラピーについて基礎的技術を身につける。

授業内容

授業回数・AL	授業計画
第1回	タッチケア (1)
第2回	タッチケア (2)
第3回	タッチケア (3)
第4回	タッチケア (4)
第5回	アロマセラピー概論1 歴史、医療分野でのアロマセラピーの現状 (世界、日本)
第6回	アロマセラピー概論2 精油の特徴 ケモタイプ 精油の正しい取り扱い
第7回	女性・周産期領域におけるアロマセラピー 理論
第8回	女性・周産期領域におけるアロマセラピー 実技

成績評価方法	定期試験(レポート) 100% (タッチケア50% アロマセラピー50%)					
教科書	『第2版 アロマセラピー標準テキスト基礎・実技編』日本アロマセラピー学会編 (丸善出版)					
参考文献	講義で紹介する					
事前学習(内容・時間)	興味のある分野でのアロマセラピーの実践例について調べる (2時間)					
事後学習(内容・時間)	課題レポート作成に向けて学習を深める (2時間)					
フィードバックの方法	課題レポート返却時にコメントを追記する					
備考				オフィスアワー	適宜メールで対応する	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用能力(看護実践力)
	○	—	—	—	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
看護とアートIX (<small>すいな</small> 推拿)	矢尾重雄 陳雷・鈴木利	講義・演習	2年次 後期	選択	1	15	KSP22207

科目の概要

「中医学の全体像」、「中医臨床における推拿の施術方法とその効果」についての講義と実技指導を行う。推拿とは、中国伝統医学の理論と技術を用いた治療法である。東洋医学や推拿の基本的な考え方を学び、その基本的な手技を実践できるようになる。推拿のソフトな手技により気血の巡りを整え、陰陽のバランスを調整して、メンタルケア、ストレス緩和、看護ケアに活用できる知識と実践を指導する。

到達目標

- 東洋医学の基本的な考え方を説明できる。
- 推拿の考え方を説明できる。
- 推拿の基本的手技を実践できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	中医基礎理論概論Ⅰ（整体観と中医学における陰陽五行論・弁証論治）
第2回	中医基礎理論概論Ⅱ（気・血・水概念、五臓六腑）
第3回	経絡経穴学
第4回	中医推拿療法概論（推拿の概念・歴史・応用範囲・注意事項・臨床特徴）
第5回 AL 5	推拿基本手技Ⅰ（頭部・顔面部 ツボへの基本手技）
第6回 AL 5	推拿基本手技Ⅱ（肩部・上肢 ツボへの基本手技）
第7回 AL 5	推拿基本手技Ⅲ（背部、腰部、下肢 ツボへの基本手技）
第8回 AL 5	推拿基本手技Ⅰ～Ⅲの総復習

成績評価方法	成果物 80% 小テスト 20%					
教科書	教科書無し、各講義に資料を配布する					
参考文献	『中医基礎理論』・『鍼灸学』・『推拿学』『新中医学入門テキスト／基礎編・応用編』：上海中医薬大学附属日本校、【病気が見える Vol.15】中医基礎理論：MEDIC MEDIA					
事前学習(内容・時間)	事前資料を確認と熟読、前回演習の手技を練習（2時間）					
事後学習(内容・時間)	授業資料の復習と手技の練習（2時間）					
フィードバックの方法	各講義で質問を受けて解説を実施します					
備考	推拿を通して中医学を理解していただき看護の臨床現場に役立てていただきたい			オフィスアワー		授業終了後30分、教室で質問を受け付ける
	ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力
	○	△	○	△	○	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
基礎看護学概論	北島 洋子	講義	1年次 前期	必修	2	30	KSP11101

科目の概要

基礎看護学概論は、看護の初学者が専門職としてキャリア発達を遂げていくための最初のステップとして、看護について考える重要な科目である。本科目においては、看護の対象者、看護専門職、看護の提供の仕組み等の看護に関する主要な概念（Concept）について広く概観し、看護活動の基盤として重要な倫理観や看護師の臨床判断の基盤となる気づく力を修得し、社会から必要とされる看護の役割と責務についての理解を深め、「看護とは何か」という問に対する学生自身の探求を円滑に深めることができるよう学修を支援する。

到達目標

- 看護における主要な概念（Concept）とその意味、および概念間の関連について説明できる。
- 看護師の臨床判断の基盤となる思考パターンについて説明し、自身の気づく力を伸長することができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL 2	ガイダンス 科目の位置づけと学習する意義と目的 看護・ケアとは
第2回 AL 2	看護のなりたち
第3回 AL 2	看護の対象者① 人間・健康・環境
第4回 AL 2	看護の対象者② 人間・健康・環境
第5回 AL 2	看護の提供者① 看護実践の基盤 看護専門職の思考法
第6回 AL 2	看護の提供者② 看護実践の原則
第7回 AL 2	看護の提供者③ 看護倫理
第8回 AL 2	看護の提供者④ 医療安全への取り組み
第9回 AL 2	看護の提供の仕組み① 看護マネジメント
第10回 AL 2	看護の提供の仕組み② 保健医療福祉サービス
第11回 AL 2	看護の提供の仕組み③ 法律・医療保険制度と介護保険制度・看護教育制度
第12回 AL 2	看護専門職の活躍① キャリア発達 専門看護師・認定看護師
第13回 AL 3	看護専門職の活躍② 国際看護・災害看護
第14回 AL 3	臨床判断モデルと気づく力①
第15回 AL 3	臨床判断モデルと気づく力②

成績評価方法	定期試験（筆記）70% 成果物 30%					
教科書	『看護学概論 第5版 看護追求へのアプローチ』田中幸子（医歯薬出版株式会社） 『ケアとはなにか 看護・福祉で大事なこと』村上靖彦（中央公論新社）					
参考文献	『ケアの本質—生きることの意味』ミルトン・メイヤロフ（みゆる出版）					
事前学習（内容・時間）	『ケアとはなにか 看護・福祉で大切なこと』の通読と要約（2時間）					
事後学習（内容・時間）	各講義回に課題を提示する（2時間）					
フィードバックの方法	講義時間中に必要に応じて説明を加える					
備考				オフィスアワー	オフィスアワー一覧参照	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	△	△	△	△	△	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
看護理論	北島 洋子	講義	1年次 後期	必修	1	15	KSP11102

科目の概要

看護理論は看護における知識を体系化し、看護に関連した現象をより明確に記述・説明・予測するための枠組みであり、より望ましい看護実践を可能にするため開発され発展してきた。ここでは看護理論および中範囲理論について事例を通して学習し、看護の展開における対象理解と対象者の持てる力を導き出す看護援助を考えるための基礎的能力を開発するための学修を支援する。

到達目標

- 看護学を構成する主要概念について説明できる。
- 看護理論と看護に関連する諸理論について説明できる。
- 看護専門職を志向し、自身の考える看護について説明することができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL 2	ガイダンス 看護学を構成する主要概念と看護理論
第2回 AL 3	代表的な看護理論①
第3回 AL 3	代表的な看護理論②
第4回 AL 3	代表的な看護理論③
第5回 AL 3	看護現象を理解するための諸理論①
第6回 AL 3	看護現象を理解するための諸理論②
第7回 AL 3	看護現象を理解するための諸理論③
第8回 AL 2	看護学の発展と看護理論の活用 まとめ

成績評価方法	定期試験（筆記）70% 成果物 30%					
教科書	『看護学の概念と理論』野嶋佐由美（日本看護協会出版会） 『看護覚え書き』フロレンス・ナイティンゲール（日本看護協会出版会）					
参考文献	『看護の基本となるもの』ヴァージニア・ヘンダーソン（日本看護協会出版会）					
事前学習（内容・時間）	教科書の授業範囲のページを熟読し、割り当てられた課題に取り組む（2時間）					
事後学習（内容・時間）	『看護覚え書き』を通読し要約する（2時間）					
フィードバックの方法	課題に対するフィードバックは課題へのコメントや、講義におけるディスカッションにより適宜行う					
備 考				オフィスアワー		オフィスアワー一覧を参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	△	△	△	△	△	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
看護コミュニケーション論	北島 洋子	講義・演習	1年次 前期	必修	1	30	KSP11202

科目の概要

看護の対象者とその家族は日常とは異なる環境や状況の中にあるため、看護者として関わりを持つとき専門的な高いコミュニケーション能力が求められる。本科目においてはコミュニケーションを構成する要素とプロセスを理解し、看護実践の基盤となる援助的人間関係を築くための基礎的な知識とスキルを身につけ、個々の学生が自身の力でコミュニケーション能力を伸ばすことができるよう、グループワークやディスカッションによるインタラクティブな活動を多く取り入れ学修を支援する。

到達目標

- 自己理解と他者理解および関係構築のための基礎的知識について説明できる。
- 社会の一員として必要な言葉遣いやマナーとチームで活動するために必要な基本的なスキルを身につける。
- 看護専門職として対象者と関係構築する際の素地となる気づく力を養う。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL 2	ガイダンス コミュニケーションを学ぶ意味 コミュニケーションを構成する要素とプロセス
第2回 AL 2	自分とのコミュニケーション(1) 自己理解 他者理解 自己受容
第3回 AL 2	自分とのコミュニケーション(2) 自己開示 自己表現 アサーティブコミュニケーション
第4回 AL 2	社会人としてのコミュニケーション(1) 社会人基礎力 マナー 大人の語彙力
第5回 AL 2	社会人としてのコミュニケーション(2) 社会人基礎力 マナー 大人の語彙力
第6回 AL 4	看護専門職としてのコミュニケーション(1) 多職種連携 チームワーク コミュニケーションエラー
第7回 AL 2	看護専門職としてのコミュニケーション(2) コミュニケーション障害と看護
第8回 AL 2	看護専門職としてのコミュニケーション(3) リフレクション プロセスレコード
第9回 AL 3	看護専門職としてのコミュニケーション(4) コーチング
第10回 AL 2	看護専門職としてのコミュニケーション(5) コーチング
第11回 AL 2	看護の学習者としてのコミュニケーション(1) チーム活動 リーダーシップ メンバーシップ
第12回 AL 3	看護の学習者としてのコミュニケーション(2) 挨拶、報告・連絡・相談
第13回 AL 3	看護の学習者としてのコミュニケーション(3) カンファレンス
第14回 AL 3	看護の学習者としてのコミュニケーション(4) 実習場面のマナー、モラル、倫理的態度
第15回 AL 3	看護の学習者としてのコミュニケーション(5) 実習場面のマナー、モラル、倫理的態度

成績評価方法	定期試験（筆記）70% 成果物 30%					
教科書	『系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[2]基礎看護技術 I 第18版』茂野香おる（医学書院）					
参考文献	『看護コミュニケーション 第2版: 基礎から学ぶスキルとトレーニング』篠崎恵美子、藤井徹也（医学書院）					
事前学習(内容・時間)	テキストの授業範囲の箇所を熟読しまとめ、自分に置き換え考えてみる（1時間）					
事後学習(内容・時間)	学習内容を日常生活のコミュニケーション場面に落とし込み実践してみる（1時間）					
フィードバックの方法	成果物に対するフィードバックやコメントは授業中に対話しながら解説する					
備 考				オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	△	△	△	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
基礎看護学援助技術 I	北島洋子 基礎看護学 分野教員	講義・演習	1年次 前期	必修	2	60	KSP11203

科目の概要

すべての看護ケアに共通する基本的な知識と技術、自立した生活が困難となった人々に対する日常生活の援助、原理と原則に準拠した安全で安楽な看護ケアを提供するための基礎的な知識と技術を修得し、科学的根拠に基づく判断と、倫理的な配慮を伴った技術が展開できる能力を養うことを目的として、実習室という臨床を模した学習環境において、看護学を学習するにあたり必要となる主体的な学習態度とグループで協力して学び合う姿勢を身につけることができるよう、講義と演習を組み合わせ、学修を支援する。

到達目標

- 原理・原則に基づいた看護ケアを提供するための基本的な知識について説明できる。
- 科学的根拠に基づき対象者に必要な看護ケアを計画することができる。
- 安全・安楽で、倫理的な配慮を伴う看護ケアを展開することができる。
- 主体的に学習に取り組み、グループの活動に貢献できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL 2	ガイダンス、Nursing Art(看護技術)とは(講義)
第2回 AL 2	感染防止の技術① [感染予防の基礎知識、スタンダードプリコーション、感染経路別予防策] (講義)
第3回 AL 2	感染防止の技術② [実習室オリエンテーション、スタンダードプリコーション] (講義・演習)
第4回 AL 2	環境調整技術① [環境調整の意義、療養環境のアセスメント、療養環境の調整と整備] (講義)
第5回 AL 3	環境調整技術② [スタンダードプリコーション、ベッドメイキング、環境整備] (演習)
第6回 AL 3	環境調整技術③ [ベッドメイキング、環境整備] (演習)
第7回 AL 2	活動・休息援助技術①(講義)
第8回 AL 2	苦痛の緩和・安楽確保の技術(講義)
第9回 AL 3	活動・休息援助技術② [移送・移乗・安楽な体位] (演習)
第10回 AL 3	活動・休息援助技術③ [移送・移乗・安楽な体位] (演習)
第11回 AL 2	食事援助技術① [食事と栄養の意義、食事摂取基準、治療食・治療食、食事と栄養のアセスメント] (講義)
第12回 AL 2	食事援助技術② [食事摂取の自立困難、嚥下障害、経管・経腸栄養法、経静脈栄養法] (講義)
第13回 AL 3	食事援助技術③ [食事介助] (演習)
第14回 AL 3	食事援助技術④ [食事介助] (演習)
第15回 AL 2	清潔・衣生活援助技術① [清潔と衣生活の意義、清潔に影響する要因、アセスメント] (講義)
第16回 AL 2	清潔・衣生活援助技術② [清潔行動や衣生活の援助] (講義)
第17回 AL 3	清潔・衣生活援助技術③ [足浴] (演習)
第18回 AL 3	清潔・衣生活援助技術④ [足浴] (演習)
第19回 AL 3	清潔・衣生活援助技術⑤ [洗髪] (演習)
第20回 AL 3	清潔・衣生活援助技術⑥ [洗髪] (演習)
第21回 AL 3	清潔・衣生活援助技術⑦ [全身清拭・寝衣交換] (演習)
第22回 AL 3	清潔・衣生活援助技術⑧ [全身清拭・寝衣交換] (演習)
第23回 AL 2	排泄援助技術① [排泄の意義、排泄に影響する要因、排泄のアセスメント] (講義)
第24回 AL 2	排泄援助技術② [排泄の意義、排泄に影響する要因、排泄のアセスメント] (講義)
第25回 AL 3	排泄援助技術③ [おむつ交換、陰部洗浄] (演習)
第26回 AL 3	排泄援助技術④ [おむつ交換、陰部洗浄] (演習)
第27回 AL 3	排泄援助技術⑤ [浣腸、床上排泄] (演習)
第28回 AL 3	排泄援助技術⑥ [浣腸、床上排泄] (演習)
第29回 AL 3	技術の統合①
第30回 AL 3	技術の統合②

成績評価方法	定期試験(筆記) 60% 定期試験(実技) 20% 成果物 20%					
教科書	『系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 [2] 基礎看護技術 I 第18版』茂野香おる他(医学書院) 『系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 [3] 基礎看護技術 II 第18版』任和子他(医学書院)					
参考文献	『看護がみえるvol.1 基礎看護技術』医療情報科学研究所(メディックメディア)、『看護がみえるvol.2 基礎看護技術』医療情報科学研究所(メディックメディア)					
事前学習(内容・時間)	テキスト・配布資料・関連動画を活用し、技術の手順と根拠を説明できる状態で演習に臨む(1～3時間)					
事後学習(内容・時間)	事後課題により演習をふり返り、セルフトレーニングを繰り返し行い、看護技術を身につける(1～3時間)					
フィードバックの方法	演習内容や課題へのフィードバックは、成果物へのコメントもしくは演習中のディスカッションを通して行う					
備 考				オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
基礎看護学援助技術Ⅱ	北島洋子 基礎看護学 分野教員	講義・演習	1年次 後期	必修	2	60	KSP11204

科目の概要

治療や検査などの身体的侵襲を伴う技術は正確性・安全性・安楽性が特に重要となり、高い倫理観を基盤とした援助が求められる。科学的根拠に基づく判断と、倫理的な配慮を伴った技術が展開できる能力を養うことを目的として、医療安全の視点から理解できるように授業を展開する。授業は、講義と演習を組み合わせた主体的学習が取り組めるように指導する。

到達目標

- 原理・原則に基づいた看護ケアを提供するための基本的な知識について説明できる。
- 科学的根拠に基づき対象者に必要な看護ケアを計画することができる。
- 安全・安楽で、倫理的な配慮を伴う看護ケアを展開することができる。
- 主体的に学習に取り組み、グループの活動に貢献できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL 2	ガイダンス、安全確保の技術（講義）
第2回 AL 2	感染防止の技術② [洗浄・消毒・滅菌、無菌操作]（講義）
第3回 AL 2	感染防止の技術③ [感染性廃棄物、感染管理、針刺し事故]（講義）
第4回 AL 2	感染防止の技術④ [滅菌手袋、滅菌鑷子の取り扱い、スタンダードプリコーション]（演習）
第5回 AL 3	感染防止の技術⑤ [滅菌手袋、滅菌鑷子の取り扱い、スタンダードプリコーション]（演習）
第6回 AL 3	排泄援助技術① [排便・排尿]（講義）
第7回 AL 2	排泄援助技術② [一時的導尿]（演習）
第8回 AL 3	排泄援助技術③ [一時的導尿]（演習）
第9回 AL 3	呼吸・循環を整える技術① [呼吸・循環・体温のアセスメント]（講義）
第10回 AL 2	呼吸・循環を整える技術② [呼吸・循環・体温のアセスメント]（講義）
第11回 AL 2	呼吸・循環を整える技術③ [バイタルサインの測定]（演習）
第12回 AL 3	呼吸・循環を整える技術④ [バイタルサインの測定]（演習）
第13回 AL 3	呼吸・循環を整える技術⑤ [酸素療法]（演習）
第14回 AL 3	呼吸・循環を整える技術⑥ [酸素療法]（演習）
第15回 AL 3	創傷管理技術① [創傷管理、褥瘡予防]（講義）
第16回 AL 2	創傷管理技術② [創傷処置、ドレッシング]（演習）
第17回 AL 3	症状・生体機能管理技術①（講義）
第18回 AL 2	症状・生体機能管理技術②（講義）
第19回 AL 2	症状・生体機能管理技術③ [静脈血採血]（演習）
第20回 AL 3	症状・生体機能管理技術④ [静脈血採血]（演習）
第21回 AL 3	与薬の技術① [薬物の性質]（講義）
第22回 AL 2	与薬の技術② [与薬法]（講義）
第23回 AL 2	与薬の技術③ [輸血管理]（講義）
第24回 AL 2	与薬の技術④ [皮下注射、筋肉内注射]（演習）
第25回 AL 3	与薬の技術⑤ [皮下注射、筋肉内注射]（演習）
第26回 AL 3	与薬の技術⑥ [輸液]（演習）
第27回 AL 3	与薬の技術⑦ [輸液]（演習）
第28回 AL 3	技術の統合①
第29回 AL 3	技術の統合②
第30回 AL 3	技術の統合③

成績評価方法	定期試験（筆記）60% 定期試験（実技）20% 成果物 20%					
教科書	『系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学 [2] 基礎看護技術Ⅰ 第18版』茂野香おる他（医学書院） 『系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ 第18版』任和子他（医学書院）					
参考文献	『看護がみえるvol.1 基礎看護技術』医療情報科学研究所（メディックメディア） 『看護がみえるvol.2 臨床看護技術』医療情報科学研究所（メディックメディア）					
事前学習（内容・時間）	テキスト・配布資料・関連動画を活用し、技術の手順と根拠を説明できる状態で演習に臨む（1～3時間）					
事後学習（内容・時間）	事後課題により演習をふり返り、セルフトレーニングを繰り返し行い、看護技術を身につける（1～3時間）					
フィードバックの方法	演習内容や課題へのフィードバックは、成果物へのコメントもしくは演習中のディスカッションを通して行う					
備 考				オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力（看護実践力）
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
ヘルスアセスメント	國松 秀美 基礎看護学 分野教員	講義・演習	2年次 前期	必修	1	30	KSP21202

科目の概要

ヘルスアセスメントは、対象者の健康状態を把握するために必要な知識、技術および的確に診査できる能力が必要である。特に看護実践に必要なフィジカルアセスメントは、生活者である対象者の身体状況を診査し、より適切な看護判断や看護実践に活用するために必要な知識、思考、技術を修得できるように講義および演習を進める。さらに看護過程における身体的問題のアセスメントにつなげるための学修を支援する。

到達目標

- 看護の場面におけるヘルスアセスメントの意義が説明できる。
- フィジカルイグザミネーションの基本技術の方法と根拠が説明でき実施できる。
- フィジカルイグザミネーションで得られた情報を正確に記録できる。
- フィジカルイグザミネーションで得られた情報から身体的問題をアセスメントすることができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	【講義】ヘルスアセスメントと看護の役割とフィジカルアセスメントの概念
第2回	【講義】フィジカルアセスメントの基本技術と対象者への配慮
第3回	【講義】脳神経系（感覚器系、神経系）フィジカルアセスメントの基本
第4回 AL 3	【演習】脳神経系フィジカルアセスメントの実際
第5回	【講義】筋・骨格系フィジカルアセスメントの基本（運動系）
第6回 AL 3	【演習】脳神経系と筋・骨格系のフィジカルイグザミネーションの実際
第7回	【講義】呼吸器系フィジカルアセスメントの基本
第8回 AL 3	【演習】呼吸器系フィジカルイグザミネーションの実際
第9回	【講義】循環器系フィジカルアセスメントの基本
第10回 AL 3	【演習】循環器系のフィジカルイグザミネーションの実際
第11回	【講義】消化器系、腎・泌尿器系フィジカルアセスメントの基本（講義）
第12回 AL 3	【演習】消化器系、腎・泌尿器系フィジカルイグザミネーションの実際
第13回	【講義】事例を用いたフィジカルイグザミネーション（実施計画の作成）
第14回 AL 3	【演習】事例を用いたフィジカルイグザミネーション（技術テスト）
第15回 AL 3	【演習】事例を用いたフィジカルイグザミネーション（技術テスト）

成績評価方法	定期試験(筆記) 70% 成果物 20% 定期試験(実技) 10%					
教科書	『系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 [2] 基礎看護学技術 I』茂野香おる他 (医学書院)					
参考文献	『日常生活行動からみるヘルスアセスメント看護』形態機能学の枠組みを用いて、大久保暢子編, (日本看護協会出版会) 2016. 『看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント』メディックメディア2019					
事前学習(内容・時間)	講義前は「人体の構造と機能」の知識がベースとなりますので復習しておく必要があります。講義後、必ず演習を実施しますので、フィジカルイグザミネーションの根拠と方法を復習して臨んでください (2時間)					
事後学習(内容・時間)	授業毎に事後課題レポートを提示します (1時間)					
フィードバックの方法	事後課題は、授業時または提出後に講評する					
備考				オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力 (看護実践力)
	○	△	—	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
看護過程展開の基礎	國松 秀美 基礎看護学 分野教員	講義・演習	2年次 前期	必修	1	30	KSP21203

科目の概要

看護過程は看護を展開するための思考技術であり、看護を科学的に展開するための基本技術である。授業では、看護過程の必要性や構成要素、看護過程の展開プロセスとそこで必要なクリティカルシンキングについて講義する。さらに模擬電子カルテソフトを使用し、事例展開を演習形式で行い、概念の理解と知識の活用ができるように学修を支援する。

到達目標

- 看護過程の概念と構成要素を説明できる。
- 事例に対する看護過程の展開ができる。
- 事例に対する個別性を考慮した看護計画を立案することができる。
- 事例の看護計画に基づいた実践・評価ができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	【講義】看護学における看護過程の位置づけ、看護過程の構成要素
第2回	【講義】看護過程の5つの段階と事例展開を行う上で必要な準備
第3回	【講義】情報収集
第4回	【講義】情報の分析
第5回	【講義】アセスメントと全体像
第6回 AL 3	【演習】事例患者の全体像の作成①
第7回 AL 3	【演習】事例患者の全体像の作成②（グループ発表）
第8回	【講義】看護上の問題の明確化
第9回 AL 3	【演習】事例患者の看護問題リストの作成
第10回 AL 3	【演習】事例患者のアセスメントおよび看護問題の明確化までのプロセス（グループ発表）
第11回 AL 3	【講義・演習】事例患者の看護問題優先順位の決定と目標設定
第12回 AL 3	【講義・演習】看護計画立案
第13回 AL 3	【演習】看護計画立案（グループ発表）
第14回 AL 3	【演習】看護実践と記録の整理
第15回	【講義】実践後の評価と看護計画の修正、まとめ

成績評価方法	定期試験(筆記) 70% 成果物 30%					
教科書	『系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 [2] 基礎看護学技術 I』有田清子他 (医学書院)、『ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断 第6版』江川隆子編集 (ヌーヴェルヒロカワ)					
参考文献	『看護がみえる vol.4 看護過程の展開』(医療情報科学研究所) 『実習記録の書き方がわかる 看護過程展開ガイド 第2版』任 和子					
事前学習(内容・時間)	アセスメントに必要な知識を随時、復習・学習する。授業資料を読む(1～3時間)。					
事後学習(内容・時間)	指定された課題(2時間)					
フィードバックの方法	レポート課題は、授業時または提出後に講評する					
備考				オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	—	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
地域・在宅看護学概論	桶河 華代	講義	2年次前期	必修	2	30	KSP21101

科目の概要

地域で暮らす人々の「健康と暮らし」を支える看護について、その基盤となる考え方と社会資源や法制度等について教授する。人々を取り巻く社会の変化に伴う生活者のニーズに対応するため、医療現場、行政、産業、学校、介護・福祉施設など多様な場で展開される看護活動を説明する。地域包括ケアシステムの目的を理解し、看護職間での連携・多職種との協働の重要性について講義する。

到達目標

- 地域で暮らす人々の「健康と暮らし」を支える看護について、その基盤となる考え方と社会支援や法制度等について説明できる。
- 社会の変化に伴う生活者のニーズに対応するため、医療現場、行政、産業、学校、介護・福祉施設など多様な場で展開される看護活動を説明できる。
- 地域包括ケアシステムの目的を理解し、看護職間での連携・多職種との協働の重要性について説明できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	地域・在宅看護の概念①
第2回	地域・在宅看護の概念②
第3回	在宅療養者と家族の支援①
第4回	在宅療養者と家族の支援②
第5回	地域包括ケアシステムと多様な生活の場における看護① 地域アセスメント
第6回	地域包括ケアシステムと多様な生活の場における看護② 地域包括ケアシステム
第7回	地域包括ケアシステムと多様な生活の場における看護③ 療養の場の移行に伴う看護/地域包括ケアシステムにおける多職種・多機関連携
第8回	地域包括ケアシステムと多様な生活の場における看護④ 在宅看護におけるケースマネジメント/ケアマネジメント
第9回	地域療養を支える制度① 社会資源の活用/医療保険制度/後期高齢者医療制度
第10回	地域療養を支える制度② 介護保険制度/生活保護制度
第11回	地域療養を支える制度③ 障害者に関連する法律/難病法/子どもの在宅療養を支える制度と社会資源
第12回	地域療養を支える制度④ 在宅療養者の権利を擁護する制度と社会資源/高齢者施策
第13回	在宅療養を支える訪問看護① 訪問看護の特徴/在宅ケアを支える訪問看護ステーション
第14回	在宅療養を支える訪問看護② 訪問看護サービスの展開在宅看護における安全と健康危機管理
第15回 AL 2	地域・在宅看護の動向と今後の発展－在宅看護の先駆的取り組み/これからの地域・在宅看護の発展に向けて－

成績評価方法	定期試験(筆記) 80% 成果物 20%					
教科書	『ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論 (1) 地域療養を支えるケア』 臺有桂他(メディカ出版)					
参考文献	『系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 [1] 地域・在宅看護の基盤』 河原加代子 (医学書院)					
事前学習(内容・時間)	該当部分のテキストを読んでおく (2時間)					
事後学習(内容・時間)	授業時間の指示された課題を実施する (2時間)					
フィードバックの方法	課題について、授業の中で解説します					
備考	授業開始時に講義受講に際しての注意事項を説明します			オフィスアワー		オフィスアワー一覧表参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	△	○	△	△	△	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
地域・在宅 看護学援助論Ⅰ	桶河 華代	講義	2年次 後期	必修	1	15	KSP21102

科目の概要

地域で暮らす療養者と家族が、在宅療養を継続できるための看護援助について教授する。生活者である療養者とその家族を疾患や障害だけでなく、社会活動および社会環境という視点で見つめ、生活者としてのニーズや看護課題を抽出し、援助の個別性・多様性と看護の役割について講義する。

到達目標

- 地域で暮らす人々の「健康と暮らし」を支える看護について、その基盤となる考え方と社会支援や法制度等について説明できる。
- 社会の変化に伴う生活者のニーズに対応するため、医療現場、行政、産業、学校、介護・福祉施設など多様な場で展開される看護活動を説明できる。
- 地域包括ケアシステムの目的を理解し、看護職間での連携・多職種との協働の重要性について説明できる。

授業内容

授業回数・AL	授業計画
第1回	在宅療養生活を支える基本的な技術①—コミュニケーション/ヘルスアセスメント—
第2回	在宅療養生活を支える基本的な技術②—環境整備/生活リハビリテーション—
第3回	在宅療養生活を支える基本的な技術③—感染対策/災害看護—
第4回	在宅療養生活を支える基本的な技術④—ターミナルケア—
第5回	日常生活生活を支える看護技術①—食生活—
第6回	日常生活生活を支える看護技術②—排泄—
第7回	日常生活生活を支える看護技術③—清潔—
第8回	日常生活生活を支える看護技術④—呼吸—

成績評価方法	定期試験(筆記) 80% 成果物 20%					
教科書	『ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論(2) 在宅療養を支える技術』臺有桂他(メディカ出版)					
参考文献	『系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 [2] 地域・在宅看護の実践』河原加代子(医学書院)					
事前学習(内容・時間)	該当部分のテキストを読んでおく(2時間)					
事後学習(内容・時間)	授業時間の指示された課題を実施する(2時間)					
フィードバックの方法	課題について、授業の中で解説します					
備考					オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	△	△	○	△	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
地域・在宅 看護学援助論Ⅱ	桶河 華代	講義	2年次 後期	必修	2	30	KSP21103

科目の概要

地域で生活するさまざまなライフサイクルや健康レベルにある個人・家族・集団が、健康の維持・増進や疾病予防を目指した看護の展開を教授する。地域包括ケアシステム作りを含む具体的な事例を通じた看護を説明する。個々や集団にアプローチするだけでなく公共政策や環境づくりが重要であるヘルスプロモーションの概念から健康教育の理論的枠組みなど基本的な知識と技術を教授する。

到達目標

- 在宅看護の対象者の健康状態や暮らし方、生活環境の特徴、ニーズを説明できる。
- 生活の場において、対象者の健康状態から、予防的ケアや早期対応の視点をもった看護について説明できる。
- 対象者が望む生活を実現するために必要な地域包括ケアシステムにおける多職種・多機関連携の在り方を説明できる。
- 地域で暮らす人々の健康の保持増進、疾病の予防に関する看護活動を理解し説明できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	地域での人々の暮らしを支える地域包括ケアシステムと看護
第2回	地域包括ケアシステムにおける多職種・多機関の連携
第3回	退院調整支援と在宅医療の実際
第4回	在宅療養者と家族の特徴と看護
第5回	様々な家族の理解と家族支援
第6回 AL 2	健康課題をもつ療養者の暮らしを支える看護①独居の糖尿病療養者
第7回 AL 2	健康課題をもつ療養者の暮らしを支える看護②認知症高齢者と家族
第8回 AL 2	健康課題をもつ療養者の暮らしを支える看護③脳梗塞後遺症のある高齢者と家族
第9回 AL 2	健康課題をもつ療養者の暮らしを支える看護④ターミナル期のがん療養者と家族
第10回 AL 2	健康課題をもつ療養者の暮らしを支える看護⑤ALS療養者と家族
第11回 AL 2	健康課題をもつ療養者の暮らしを支える看護⑥脊髄損傷者と家族
第12回 AL 2	健康課題をもつ療養者の暮らしを支える看護⑦精神障害者と家族
第13回 AL 2	健康課題をもつ療養者の暮らしを支える看護⑧重症心身障害児と家族
第14回 AL 2	健康課題をもつ療養者の暮らしを支える看護⑨COPD療養者と家族
第15回 AL 3	地域で暮らす人々の健康の保持増進、疾病の予防に関する看護活動

成績評価方法	定期試験(筆記) 70% 成果物 20% 小テスト 10%					
教科書	『ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論(2) 在宅療養を支える技術』臺有桂他(メディカ出版)					
参考文献	『系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 [2] 地域・在宅看護の実践』河原加代子(医学書院)					
事前学習(内容・時間)	該当部分のテキストを読んでおく(2時間)					
事後学習(内容・時間)	授業時間の指示された課題を実施する(2時間)					
フィードバックの方法	課題について、授業の中で解説します					
備 考				オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	△	○	△	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
成人看護学概論	成人看護学 分野教員	講義	2年次 前期	必修	1	15	KSP21104

科目の概要

成人が成長発達する上での特徴、発達課題、生活の特徴を講義するとともに、健康障害による生活への影響を教授する。また、生活習慣、職業、生活ストレス、セクシャリティに関連する健康障害および更年期にみられる健康障害と健康の保持増進・健康障害の予防のための方法についても講義する。

到達目標

- 成人期の特徴を身体的変化と心理的・社会的諸相との関連による統一体として説明できる。
- 成長発達過程と健康及び健康課題について理解し、ライフスタイルや生活ストレスと関連させて説明できる。
- セルフケアによる生活の再構築やquality of life(QOL)を維持する看護について説明できる。
- 成人を取り巻く社会や保健医療環境の変化・福祉の動向を考慮し、看護の役割について説明できる。
- 健康レベルに応じた看護の方法に関する概念や理論について理解し、アプローチについて説明できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL 3	成人期にある人の理解：ライフサイクルから見た成人期の区分と特徴
第2回 AL 3	成人期の特徴：身体的変化と心理的・社会的発達の相互関係
第3回 AL 3	成人期にある人の健康
第4回 AL 4	生活習慣・職業・生活ストレスに関連する健康障害
第5回 AL 3	成人期にある人を看護するための重要な概念・理論
第6回 AL 3	健康の保持・増進、疾病の予防に向けた看護：ヘルスプロモーション（1次予防・2次予防・3次予防）
第7回 AL 3	成人期にある人の学習の特徴と看護
第8回 AL 3	回復期・慢性期・急性期の健康障害の特徴と看護

成績評価方法	定期試験(レポート) 100%					
教科書	『看護学テキストNiCE 成人看護学概論 社会に生き世代をつなぐ 成人の健康を支える』林直子他編集 (南江堂)					
参考文献	『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[1] 成人看護学総論』小松浩子他 (医学書院) 『ナースングラフィカ 成人看護学[1] 成人看護学概論』安酸史子他編集 (メディカ出版)					
事前学習(内容・時間)	教員が課題を提示する (2時間)					
事後学習(内容・時間)	教員が課題を提示する (2時間)					
フィードバックの方法	授業中およびTeams等を用いて、適宜フィードバックする					
備 考					オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	○	○	△	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
成人看護学援助論 I	成人看護学 分野教員	講義・演習	2年次 後期	必修	2	60	KSP21204

科目の概要

急性期・回復期にある成人の特徴および健康問題を理解し、危機的状況乗り越え生活を再構築する援助に必要な基礎的知識と方法について教授する。周手術期にある成人の特徴および健康問題の特性を理解し、術前・術中・術後の援助に必要な基礎的知識および方法について教授する。また、リハビリテーションを必要とする成人の特徴および健康問題を理解し、運動障害、循環障害、視覚障害のある成人のリハビリテーションの援助に必要な基礎的知識および方法について講義・演習を行う。

到達目標

- 急性期から回復期における成人期の患者の身体・心理・社会的な特徴を説明できる。
- 急性疾患および周手術期患者の特徴を踏まえて心身の状態を説明できる。
- 急性疾患および周手術期患者の回復にむけた援助の方法について説明できる。
- 急性期から回復期において必要とされる看護の役割や技術を説明できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL 3	急性期における看護の特徴
第2回 AL 3	手術前患者の看護①
第3回 AL 3	手術前患者の看護②
第4回 AL 3	手術中患者の看護①
第5回 AL 3	手術中患者の看護②
第6回 AL 3	手術後患者の看護①
第7回 AL 3	手術後患者の看護②
第8回 AL 3	手術後患者の看護③
第9回 AL 3	手術後患者の看護④
第10回 AL 3	手術後患者の看護⑤
第11回 AL 3	一次救命処置 (BLS) ①
第12回 AL 3	一次救命処置 (BLS) ②
第13回	救急医療や集中治療における看護①
第14回 AL 3	救急医療や集中治療における看護②
第15回	呼吸器機能障害のある患者の看護①
第16回 AL 3	呼吸器機能障害のある患者の看護②
第17回	循環器機能障害のある患者の看護①
第18回	循環器機能障害のある患者の看護②
第19回	消化器機能障害のある患者の看護①
第20回	消化器機能障害のある患者の看護②
第21回	脳・神経機能障害のある患者の看護①
第22回	脳・神経機能障害のある患者の看護②
第23回	腎・泌尿器機能障害のある患者の看護
第24回	肝臓・胆道系・膵臓機能障害のある患者の看護
第25回	運動機能障害のある患者の看護①
第26回	運動機能障害のある患者の看護②
第27回 AL 3	演習：術後観察①
第28回 AL 3	演習：術後観察②
第29回 AL 3	演習：術後観察③
第30回 AL 3	演習：術後観察④

成績評価方法	定期試験(筆記) 70% 成果物 20% 演習(実技) 10%					
教科書	『ナーシンググラフィカ 成人看護学④ 周術期看護』中島恵美子、山崎智子、竹内佐智恵編集(メディカ出版) 『看護学テキストNiCE 成人看護学 急性期看護Ⅱ-救急看護・クリティカルケア』佐藤まゆみ、林直子編集(南江堂)					
参考文献	『系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学』坂井建雄他(医学書院) 『系統看護学講座 臨床外科看護総論』矢永勝彦(医学書院)					
事前学習(内容・時間)	人体構造機能論 I / II / III、病態治療学 I / II / IIIについて復習する(1時間)					
事後学習(内容・時間)	課題について学習をし、提出する(1時間)					
フィードバックの方法	授業中あるいはTeamsなどを用いて適宜フィードバックする					
備考	演習を行うため、実習室では白衣を着用してください			オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
成人看護学援助論Ⅱ	成人看護学 分野教員	講義・演習	2年次 後期	必修	1	30	KSP21205

科目の概要

我が国において慢性疾患を有する人は年々増加しており、深刻な健康問題となっている。慢性疾患の特徴および慢性疾患を抱えて生きる成人とその家族の特徴や病気とともに生活する人のセルフマネジメントを支援する援助方法について教授する。また、ターミナルケア・緩和ケアに関する概念、およびターミナルケアを必要とする人、および家族への援助方法を教授する。

到達目標

- 慢性疾患をもつ人とその家族の特徴について説明できる。
- 慢性疾患をもつ人の援助方法について説明できる。
- 緩和・ターミナルケアにかかわる概念、援助の基本的な考え方を説明できる。
- 患者や家族が抱える問題や苦痛について理解を深め、ターミナルケア・緩和ケアの必要性を説明できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL 2	慢性疾患を有する人とその家族の理解と援助支援の基本①
第2回 AL 2	慢性疾患を有する人とその家族の理解と援助支援の基本②
第3回 AL 2	呼吸器系の障害を有する人とその家族への援助
第4回 AL 2	循環器系の障害を有する人とその家族への援助
第5回 AL 2	消化器系の障害を有する人とその家族への援助
第6回 AL 2	代謝・内分泌系の障害を有する人とその家族への援助①
第7回 AL 2	代謝・内分泌系の障害を有する人とその家族への援助②
第8回 AL 5	代謝・内分泌系の障害を有する人とその家族への援助③
第9回 AL 3	腎・泌尿器系の障害を有する人とその家族への援助
第10回 AL 2	血液・免疫系の障害を有する人とその家族への援助①
第11回 AL 2	血液・免疫系の障害を有する人とその家族への援助②
第12回 AL 2	脳・神経系の障害を有する人とその家族への援助①
第13回 AL 2	脳・神経系の障害を有する人とその家族への援助②
第14回 AL 2	ターミナル期にある人とその家族の特徴と理解および看護援助
第15回 AL 2	ターミナルケアにおける倫理

成績評価方法	定期試験(筆記) 70% 成果物 20% 演習(実技) 10%					
教科書	『成人看護学 慢性期看護 病気とともに生活する人を支える』鈴木久美、野澤明子、森一恵編(南江堂) 『成人看護学 緩和・ターミナルケア看護論』鈴木志津枝、内布敦子編(ヌーヴェルヒロカワ)					
参考文献	『系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学』坂井建雄、岡田隆夫(医学書院)、 『系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[2] 病態生理学』田中越郎(医学書院)					
事前学習(内容・時間)	人体構造機能論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、病態治療学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで授業テーマと関連するところを復習しておくこと(1時間)					
事後学習(内容・時間)	課題について学習をすること(1時間)					
フィードバックの方法	課題にコメントを記入して、返却する					
備考	主体的な参加を望みます			オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
老年看護学概論	老年看護学 分野教員	講義	2年次 前期	必修	2	30	KSP21105

科目の概要

人の“老い”について、文化、家族、身体、心理、社会というさまざまな側面から捉え、学生個々が「老いの意味」を考え、老いの意味と価値をしっかりと見極める視点を養えるよう講義を行う。そして、高齢者の健康と生活を支える基盤となる知識や看護援助のあり方や老年看護の担うべき役割について講義する。

到達目標

- 老いの意味や価値について、自分の考えを述べることができる。
- 高齢者の特徴を多面的に捉えたうえで、高齢者の多様性や複雑性について説明できる。
- 老年看護の理念と目標、担うべき役割について説明できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	オリエンテーション、老年看護学を理解するための基盤～“老い”の意味を考える～
第2回 AL 2	老年期の理解
第3回 AL 2	高齢者を取り巻く社会制度、高齢者の権利擁護
第4回 AL 2	老年看護の対象となる人々の特徴 ～対象特性・対象理解～
第5回 AL 2	老年看護の対象となる人々の特徴 ～からだ・こころ～
第6回 AL 2	老年看護の対象となる人々の特徴 ～かかわり・暮らし・生きがい・生活史～
第7回 AL 2	高齢者の「豊かな生」、老年看護学領域における倫理的課題
第8回 AL 3	老いを生きる高齢者の理解①（第1回～7回の講義内容を踏まえて、「高齢者の理解」に関するグループワーク）
第9回 AL 4	老いを生きる高齢者の理解②（第8回のグループワークの内容を発表し合い、「高齢者の理解」について深め合う）
第10回 AL 2	老年看護に活用できる理論・アプローチ
第11回 AL 2	高齢者の生活の支援
第12回 AL 2	高齢者の療養生活の支援
第13回 AL 2	高齢者の尊厳を支える看護と看取り
第14回 AL 2	家族介護者の生活支援、高齢者が暮らす地域づくり
第15回 AL 2	老年看護の理念と目標と課題

成績評価方法	定期試験(筆記) 60% 成果物 40%					
教科書	看護学テキストNiCE『老年看護学概論』（改訂第3版）正木治恵、真田弘美（南江堂）					
参考文献	適宜紹介する					
事前学習(内容・時間)	事前に指示された課題に取り組む、または次回の講義内容を事前に学習する（1～2時間）					
事後学習(内容・時間)	講義内の課題に取り組む、講義内容を振り返り追加学習をするとともに、資料をファイリングする（1～2時間）					
フィードバックの方法	課題については、講義内等で講評する					
備 考	講義では毎回、発言や課題への取り組みを求めます。常に「自分の考え」を大切にしながら学び合ひましょう。			オフィスアワー		オフィスアワー一覧表参照
	ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力
	○	○	△	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
老年看護学援助論 I	老年看護学 分野教員	講義・演習	2年次 後期	必修	1	30	KSP21206

科目の概要

高齢者の看護実践に必要な基本的な技術について、①高齢者のヘルスアセスメントを実施する上で踏まえるべき特徴、・高齢者総合機能評価、②高齢者の生活場面に対する看護実践と評価の方法、③老年症候群の各症状が生活に及ぼす影響と看護、④高齢者に特徴的な疾患を抱える看護の実際、等の視点から講義する。

到達目標

- 老年看護におけるヘルスアセスメントの意義やその実際について説明できる。
- 各生活場面における高齢者の加齢変化をふまえた高齢者に対するフィジカルアセスメントと看護実践について説明できる。
- 老年症候群の各症状の病態・生活に及ぼす影響が説明でき、必要とされる看護について自分の言葉で述べる事ができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	オリエンテーション、老年看護の特徴と目標
第2回 AL 2	老年看護の基本技術 ～ヘルスアセスメント～
第3回 AL 2	加齢変化とフィジカルアセスメントの技術 ～呼吸・食事・排泄～
第4回 AL 2	加齢変化とフィジカルアセスメントの技術 ～動作と移動・睡眠～
第5回 AL 2	加齢変化とフィジカルアセスメントの技術 ～体温・清潔～
第6回 AL 2	加齢変化とフィジカルアセスメントの技術 ～コミュニケーション・性～
第7回 AL 2	老年症候群の理解と看護
第8回 AL 4	老年症候群の各症状と看護実践①
第9回 AL 4	老年症候群の各症状と看護実践②
第10回 AL 4	老年症候群の各症状と看護実践③
第11回 AL 4	老年症候群の各症状と看護実践④
第12回 AL 2	パーキンソン病を抱える高齢者の看護
第13回 AL 2	薬物療法を受ける高齢者の看護①
第14回 AL 2	薬物療法を受ける高齢者の看護②
第15回 AL 2	老年看護技術の新たな動向と課題

成績評価方法	定期試験(筆記) 60% 成果物 40%					
教科書	看護学テキストNiCE『老年看護学技術』(改訂第3版) 真田弘美、正木治恵 (南江堂)					
参考文献	適宜紹介する					
事前学習(内容・時間)	事前に指示された課題に取り組む、または次回の講義内容を事前に学習する (1～2時間)					
事後学習(内容・時間)	講義内の課題に取り組む、講義内容を振り返り追加学習をするとともに、資料をファイリングする (1～2時間)					
フィードバックの方法	課題については、講義内等で講評する					
備考	講義では毎回、発言や課題への取り組みを求めます。常に「自分の考え」を大切にしながら学び合ひましょう。			オフィスアワー		オフィスアワー一覧表参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	△	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
小児看護学概論	松尾ひとみ	講義	2年次 前期	必修	1	30	KSP21103

科目の概要

ライフサイクルにおける「子ども」期をとらえ、SDGS の観点から、小児医療の変遷や文化差（国際）、衛生法規や福祉事業と子どもと家族の現状について課題を教授する。また、看護形態機能学の視点で、胎児期から青年期までの子どもの生活能力獲得過程の根拠となる解剖・生理の変化や、子どもの認知機能・社会性の発達について教授する。

到達目標

- 文化・歴史・制度等多角的な視点から子どもを理解し、小児看護の目的を説明できる。
- 子どもの解剖・生理の特徴を踏まえ、生活能力の獲得過程について説明できる。
- SDGsの観点から国内外の子どもの課題を理解し、小児医療における看護の役割を説明できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	子どもって何？
第2回	世界の子ども達
第3回	子どもをめぐる環境の変化（保健統計）と法の保護
第4回	大人と異なる子どもの身体機能と生活習慣の関係性（動く）
第5回	大人と異なる子どもの身体機能と生活習慣の関係性（息をする・循環）
第6回	大人と異なる子どもの身体機能と生活習慣の関係性（食べる）
第7回 AL 6	離乳食について
第8回	大人と異なる子どもの身体機能と生活習慣の関係性（トイレに行く・眠る）
第9回	大人と異なる子どもの身体機能と生活習慣の関係性（お風呂に入る）
第10回	大人と異なる子どもの身体機能（見る、話す・聞く）
第11回	小児看護における子どもの社会性の発達
第12回	神経系の発達と子どもの認知の発達
第13回	家族の発達過程と小児看護
第14回	小児保健（予防接種とスクリーニング）
第15回	小児看護における看護倫理

成績評価方法	定期試験(筆記) 70% 成果物 30%					
教科書	なし、適宜資料配布					
参考文献	『看護形態機能学 生活行動からみるからだ 第4版』菱沼典子（日本看護協会出版会）					
事前学習(内容・時間)	配布資料に目を通し、わからない用語を調べる（1時間）					
事後学習(内容・時間)	授業後のノート整理（1時間）					
フィードバックの方法	授業中の質問に回答する。課題は授業中の講義をもってフィードバックとする。					
備考				オフィスアワー		オフィスアワー一覧表参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
小児看護学援助論 I	松尾ひとみ	講義・演習	2年次 後期	必修	1	30	KSP21207

科目の概要

疾病と入院による子どもと家族への影響を理解するために基盤となる理論を教授し、子どもと家族に対する健康段階別の看護の特徴を理解できるよう教授する。また、成人への移行を円滑にするための看護や、教育の場における子どもの看護についても展望する。

到達目標

- 子どもと家族の生活と成長・発達に、健康段階が及ぼす影響を説明できる。
- 子どもと家族の生活と成長・発達に、入院による環境の変化や入院体験が及ぼす影響を説明できる。
- 子どもの苦痛を緩和し、セルフケア獲得にむけての支援について説明できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	オリエンテーション：小児のセルフケアのアセスメント
第2回	子どものからだの理解・病気の理解・死の理解
第3回	入院による子どもと家族の生活への影響
第4回	治療・処置に対する子どもの理解と看護
第5回	急性期にある子どもと家族の看護①
第6回	急性期にある子どもと家族の看護②
第7回	急性期にある子どもと家族の看護③
第8回	慢性期にある子どもと家族の看護①
第9回	慢性期にある子どもと家族の看護②
第10回	終末期にある子どもと家族の看護
第11回	災害看護 子どもと家族に及ぼす影響
第12回	異常新生児の看護
第13回	被虐待児の看護
第14回	地域で生活する病気の子どもの・障害児、がんの親をもつ子ども
第15回	Family centered care

成績評価方法	定期試験(筆記) 100%					
教科書	なし、適宜資料					
参考文献	随時提示する					
事前学習(内容・時間)	指示した予習用の資料を読む(1時間)					
事後学習(内容・時間)	わからない内容を調べノートを整理する(1時間)					
フィードバックの方法	授業中の質問に回答する					
備考	授業内容微調整と順番の変更を行う可能性がある				オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照
	ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
母性看護学概論	鷲尾 弘枝	講義	2年次 前期	必修	2	30	KSP21107

科目の概要

母性看護の特徴および母性看護の基盤となる概念、我が国における母子保健の歴史的変遷や今日的課題について講義する。また、女性のライフサイクル各期（思春期、成熟期、更年期、老年期）の発達課題や健康上の課題と支援方法やリプロダクティブ・ヘルス/ライツ、リプロダクティブヘルスケアについて教授する。

到達目標

- 母性看護の変遷・母性看護の特徴および対象について説明できる。
- 女性のライフステージ各期における特徴や健康問題、それらに対する援助について説明できる。
- 母子保健統計や母子保健行政・施策の現状と問題を踏まえ、自分自身の考えを述べるができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	導入、母性看護の基盤となる概念（1）母性の定義・特性
第2回	母性看護の基盤となる概念（2）セクシャリティー・性的マイノリティ
第3回	母性看護の基盤となる概念（3）母性看護のあり方、母性看護における倫理
第4回 AL 2	母性看護の対象取り巻く社会の変遷（1）母性看護の変遷と動向（関連法規含む）
第5回 AL 3	母性看護の対象取り巻く社会の変遷（2）母性関連施策・システムと法規
第6回 AL 4	母性看護の対象理解 女性のライフサイクル・母性の発達
第7回	母性看護に必要な看護技術 セルフケア・エンパワーメント・ヘルスプロモーション（母性看護技術を含む）
第8回 AL 3	女性のライフステージ各期における看護（1）性周期 小テスト
第9回	女性のライフステージ各期における看護（2）思春期 小テスト解説
第10回 AL 4	女性のライフステージ各期における看護（3）成熟期
第11回	女性のライフステージ各期における看護（4）更年期・老年期
第12回 AL 4	リプロダクティブヘルスケア（1）リプロダクティブヘルス・ライツ、性感染症とその予防
第13回 AL 4	リプロダクティブヘルスケア（2）人工妊娠中絶と看護
第14回	リプロダクティブヘルスケア（3）家族計画と受胎調整法の実際
第15回 AL 4	リプロダクティブヘルスケア（4）DV・虐待、性暴力を受けた女性に対する看護

成績評価方法	定期試験(筆記) 60% 成果物 20% 小テスト 20%					
教科書	『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論』森 恵美編著（医学書院） 『系統看護学講座 専門分野 成人看護学[9] 女性生殖器』末岡浩著（医学書院）					
参考文献	『国民衛生の動向2022/2023』（厚生労働統計協会）、適宜プリントを配布する					
事前学習(内容・時間)	毎回の授業計画を確認し、テキストおよび参考文献を読んでおく（2時間）					
事後学習(内容・時間)	講義の復習を行うこと（2時間）					
フィードバックの方法	小テストについては、授業内で解説を行います					
備考	最近の母性を取り巻く現状を情報収集して毎回講義に望んで、話し合えるようにしてください			オフィスアワー		オフィスアワー一覧表参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
母性看護学援助論 I	東尾 公子	講義・演習	2年次 後期	必修	1	30	KSP21208

科目の概要

マタニティサイクル期（妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期）にある対象の生理的、心理・社会的特徴を教授するとともにそれらの対象と家族に対する援助をウェルネスの視点で教授する。また、妊婦・産婦・褥婦・新生児の正常経過からの逸脱と援助について教授する。

到達目標

- 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期にある対象の生理的、心理・社会的特徴について説明できる。
- 正常経過にある妊婦・産婦・褥婦・新生児のアセスメントとウェルネスに主眼をおいた援助について説明できる。
- 妊婦・産婦・褥婦・新生児の正常経過から逸脱した状態と援助について説明できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL 2	妊婦の生理的变化と 心理・社会的特徴
第2回	胎児の発育状態、胎児付属物の発達と機能
第3回 AL 2	妊婦のアセスメントと援助
第4回	正常分娩の経過、産婦と家族の心理
第5回 AL2・3	分娩経過のアセスメントと分娩各期の援助①
第6回	分娩経過のアセスメントと分娩各期の援助②
第7回	新生児の特徴、出生直後の適応生理とアセスメント①
第8回	新生児の適応生理とアセスメント②
第9回 AL 2	新生児の生理をふまえた援助、退院時の援助
第10回	退行性変化
第11回 AL2・3	退行性変化のアセスメントと援助
第12回	進行性変化のアセスメント
第13回 AL2・3	母乳育児確立への援助
第14回	褥婦の心理・社会的特徴、育児技術習得状態や家庭・社会生活への適応のアセスメントと援助
第15回	ハイリスク妊婦・産婦・褥婦と援助、産科処置 講義のまとめ

成績評価方法	定期試験(筆記) 70% 成果物 30%					
教科書	『看護学テキストNiCE 母性看護学II マタニティ・サイクル 母と子そして家族へのよりよい看護実践』大平光子他編集 (南江堂)、『系統看護学講座 専門分野 成人看護学[9] 女性生殖器』末岡浩著 (医学書院)					
参考文献	『ナーシング・グラフィカ 母性看護学③ 母性看護技術』荒木奈緒他編者 (メディカ出版)					
事前学習(内容・時間)	授業計画の該当部分を予習すること (1時間)					
事後学習(内容・時間)	授業始めまたは終わり前に小テストを行うことがある。講義の復習行う (1時間)。					
フィードバックの方法	小テストは講義内で解説を行います					
備考	小テストおよび授業後課題は成果物として評価する				オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	△	○	○	△	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
精神看護学概論	西垣 里志	講義	2年次 前期	必修	2	30	KSP21108

科目の概要

精神看護学を学ぶ上で理解しておくべき、精神の健康や、精神症状と状態像を知り、精神障害の基礎的理解を図ることを目的とした講義を行う。また、心の機能と発達、人格の形成について説明する。精神障害と治療の歴史を学び、現在の精神保健医療福祉の動向の理解に繋げていながら、精神科医療の問題を考えられるように教授していく。

到達目標

- 精神の健康の概念について説明できる。
- 心の機能と発達について述べることができる。
- 精神障害への治療の歴史並びに法律や精神保健福祉の動向を説明することができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL 2	精神の健康の概念・精神疾患への予防
第2回 AL 4	心のしくみと人格形成、心の働きと人格の発達
第3回 AL 3	精神を病むことと生きること
第4回 AL 4	精神症状論と状態像
第5回 AL 4	精神の健康とストレスマネジメント
第6回 AL 4	精神障害者の治療の歴史
第7回 AL 4	精神障害と社会学
第8回 AL 4	精神科領域に必要な法律と制度
第9回 AL 3	精神保健医療福祉対策と動向
第10回 AL 4	地域におけるメンタルヘルス
第11回 AL 3	看護師のメンタルヘルス、感情労働
第12回 AL 2	世界の精神医療の在り方(映画「人生ここにあり」から)①
第13回 AL 2	世界の精神医療の在り方(映画「人生ここにあり」から)②
第14回 AL 2	レジリエンス、エンパワメント、リカバリーとは
第15回 AL 3・4	当事者の体験から学ぶ

成績評価方法	定期試験(筆記) 60% 成果物(レポート等) 40%					
教科書	『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学〔1〕精神看護の基礎』武井麻子他(医学書院)					
参考文献	別途案内					
事前学習(内容・時間)	次回の講義内容をテキストで学習し、ノートにまとめる(2時間)					
事後学習(内容・時間)	ノートのポイントを読み直して記憶する(2時間)					
フィードバックの方法	講義内容の質問に関して解説を行う					
備 考	知的好奇心をもって、積極的に自己学習する事			オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	△	○	○	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
精神看護学援助論 I	西垣・木村 棕本・東野	講義・演習	2年次 後期	必修	1	15	KSP21209

科目の概要

主な精神疾患の基本的理解のために、病態と症状、看護について教授する。また、精神疾患患者を看護するうえで、問題解決だけでなく、ストレングスをいかした看護を説明し、精神障害者の理解の幅を広げるよう教授する。

到達目標

- ストレングスモデルの理解と、ストレングスマッピングを作成し強みを生かした看護について説明することができる。
- プロセスレコードを書くことができ、その意味を理解して活用方法を説明することができる。
- 精神疾患の代表的なものの病態と症状、看護について説明することができる。

授業内容

授業回数・AL	授業計画
第1回	ストレングスモデルについて
第2回	ストレングスモデルを使った精神科看護
第3回	プロセスレコードについて
第4回	統合失調症の病態と症状について
第5回	統合失調症の看護について
第6回	気分障害の病態と症状について
第7回	気分障害の看護について
第8回	神経症と物質関連障害群、パーソナリティ障害の症状について

成績評価方法	定期試験(筆記) 70% 成果物 20% 小テスト 10%					
教科書	『系統別看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学 [2] 精神看護の基礎』武井麻子他 (医学書院) 『系統別看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学 [2] 精神看護の展開』武井麻子他 (医学書院)					
参考文献	適宜紹介します					
事前学習(内容・時間)	教科書等の該当ページを読み、講義内容についてまとめる (2時間)					
事後学習(内容・時間)	学習内容および提示した課題について、講義資料や教科書等を用いてまとめる (2時間)					
フィードバックの方法	小テストの解説と成果物に関して授業での説明					
備考					オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	○	○	—	○	○	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
精神看護学援助論Ⅱ	西垣・木村 椋本・東野	講義・演習	2年次 後期	必修	1	15	KSP21210

科目の概要

統合失調症や気分障害を理解し、オレム・アンダーウッド理論を使った看護過程を展開することができるように教授する。精神障害者の地域生活を支援している社会資源を説明する。精神障害者への看護としての技術と、精神科リハビリテーションについて教授し、具体的に技術を修得できるように説明していく。

到達目標

- オレム・アンダーウッド理論について内容を説明できる。
- 統合失調症や気分障害の患者の個別性を配慮した、看護過程を展開することができる。
- 精神障害者の社会資源を説明することができる。
- 精神療法や精神科リハビリテーションを理解し、実際に技術を習得することができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL 4	オレム・アンダーウッド理論の理解と看護過程
第2回 AL 2,4	統合失調症の看護過程①
第3回 AL 2,4	統合失調症の看護過程②
第4回 AL 2,4	気分障害の看護過程①
第5回 AL 2,4	気分障害の看護過程②
第6回 AL 4	精神障害者の地域生活支援の理解
第7回 AL 4	精神療法と、精神科リハビリテーションについて
第8回 AL 2,3	SST、芸術療法について

成績評価方法	定期試験(筆記) 60% 小テスト 30% 成果物 10%					
教科書	『系統別看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学 [1] 精神看護の基礎』武井麻子他 (医学書院) 『系統別看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学 [2] 精神看護の展開』武井麻子他 (医学書院)					
参考文献	別途案内					
事前学習(内容・時間)	次回の講義内容をテキストで学習し、ノートにまとめる (2時間)					
事後学習(内容・時間)	ノートのポイントを読み直して記憶する (2時間)					
フィードバックの方法	講義内容の質問に関して解説を行う					
備考	知的好奇心をもって、積極的に自己学習する事			オフィスアワー		オフィスアワー一覧表参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用能力(看護実践力)
	○	○	△	○	○	○

IV 専門分野（臨地実習科目）

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
基礎看護学実習 I	北島 洋子 基礎看護学 分野教員	実習	1年次 前期	必修	1	45	KSP11401

科目の概要

実際の医療の場へ赴き看護実践場面や看護の対象者の療養生活の様子を見学することにより、看護の提供の仕組みと看護の機能や役割、看護の対象者の療養生活とニーズなど、前期に学習した理論と実際とを統合させて理解し、臨床判断の基盤となる気づく力を育み、看護専門職として必要な倫理観やキャリア発達の開始時期にある学習者としての自覚と姿勢を身につけるための学びを支援する。

到達目標

- 看護の提供の仕組み、看護の機能や役割に関するConceptについて自らの気づきをもとに発展させて説明することができる。
- 対象者の療養生活の様子、対象者のニーズに関するConceptについて自らの気づきをもとに発展させて説明することができる。
- 看護職者としての倫理観に基づく学習姿勢と実習態度を示すことができる。
- 看護に対する興味・関心を持ち、自己の今後の課題とキャリア発達への展望を述べることができる。

授業内容

授業回数・AL	授業計画
AL 5	<p>○実習期間：下記のいずれかで行う。</p> <p>基礎看護学実習（1週間）</p> <p>1年次 2023年8月28日（月）～9月1日（金） 2023年9月4日（月）～9月8日（金）</p> <p>○実習施設：下記のいずれかで行う。（実習施設の法人名は省略）</p> <p>大阪南医療センター、大野記念病院、川西市立総合医療センター、多根総合病院、阪和第二住吉病院、星ヶ丘医療センター</p> <p>その他の事項及び実習の詳細については、別途配布する「2023年度 基礎看護学実習 I 実習要項」による。 なお、上記日程とは別に7月末または8月上旬頃、プレ・オリエンテーションの日程を設ける。</p>

成績評価方法	別途配布する「2023年度 基礎看護学実習 I 実習要項」に記載する					
教科書	実習開始時に提示する					
参考文献	実習開始時に提示する					
事前学習(内容・時間)	プレ・オリエンテーション時に、別紙課題を提示する（10時間）					
事後学習(内容・時間)	実習で学んだことを論理的にまとめ、自己の課題を明確にし、今後の学習に役立てる（8時間）					
フィードバックの方法	実習記録は適宜フィードバックし、実習の振り返りと今後の課題はデブリーフィングによりフォローする					
備考					オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用能力(看護実践力)
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
基礎看護学実習Ⅱ	國松 秀美 基礎看護学 分野教員	実習	2年次 後期	必修	3	135	KSP21401

科目の概要

基礎看護学実習Ⅱでは、地域で生活する人々との関わりや健康上の問題を抱える患者を受け持ち、学内や基礎看護学実習Ⅰで学んだ知識や技術を活用した実習を行う。具体的には、受け持ち患者に関する情報を収集し、看護問題を判別、問題を解決するために必要な看護計画を立案、実施、評価するといった、一連の看護の思考プロセスを踏んだ看護の展開と、様々な社会資源やシステムを視野に入れ連携するための基礎的能力を育成する。

到達目標

- 健康な人や健康上の問題を抱えている地域で生活する人々と関わり、生活するうえでの問題を明らかにし、その問題を解決するために人的・物的資源や医療や介護システムを活用することを考えることができる。
- 対象者に対する看護上の問題を解決するための思考プロセスを展開する基礎的能力を修得する。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
AL 5	<p>○実習期間：下記のいずれかで行う。</p> <p>基礎看護学実習Ⅱ（3週間）</p> <p>2年次 2024年 1月 29日（月）～ 2月 2日（金）</p> <p>実習施設：大和ハウスみらい価値共創センター、ATCエイジレスセンター等</p> <p>2024年 2月 5日（月）～ 2月 16日（金）</p> <p>2024年 2月 19日（月）～ 3月 1日（金）</p> <p>○実習施設：下記のいずれかで行う。（実習施設の法人名は省略）</p> <p>済生会中津病院、川西市立総合医療センター、大阪南医療センター、多根総合病院、星ヶ丘医療センター、八尾市立病院</p> <p>その他の事項及び実習の詳細については、別途配布する「2023年度 基礎看護学実習Ⅱ 実習要項」による。</p>

成績評価方法	別途配布する「2023年度 基礎看護学実習Ⅱ 実習要項」に記載する					
教科書	実習開始時に提示する					
参考文献	実習開始時に提示する					
事前学習(内容・時間)	実習開始前は、既習学習の知識の振り返りと援助技術の習得。実習中は毎日、受持ち患者に必要な知識と技術の学習（40時間）					
事後学習(内容・時間)	実践した看護のまとめと自己の課題を明確にする（8時間）					
フィードバックの方法	実習記録は、毎日指導する。全体関連図は、実習中のカンファレンスでディスカッションし修正をする。最終レポートは面談で学んだことや今後の課題を確認し、指導する。					
備 考					オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	○	○	○	○

授 業 科 目

授業要項と授業内容（2017～2021年度入学生）

凡 例

2023年度のシラバスは次の原則にしたがって編集されています。

1. 授業科目は以下の分野に分かれています。
 - I. 基礎分野
 - II. 専門基礎分野
 - III. 専門分野
 - IV. 専門分野（臨地実習科目）

2. 各分野においては、1年次履修科目、2年次履修科目、3年次履修科目、4年次履修科目にわけて配列されています。ただし専門分野においては、看護学領域に分けて配列されています。

3. 授業科目は Semester 制による前期科目および後期科目、一年を通して行われる通年科目の2種類に分かれています。

I 基礎分野

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
文章表現法Ⅱ	加畑公一郎	講義	3年次 前期	選択	2	30	KGE33101

科目の概要

作家、詩人、哲学者、社会学者、医師、ジャーナリストたちが書いた文章と一緒に読み、視点・論点・言葉遣いなどの特徴について講義し、講師と受講生がディスカッションする。この読解作業を通じて、人の心をつかむ個性的な文章を書くためには何が必要なのか、どのような工夫をすればいいのかを教える。

到達目標

- エッセイ・詩・評論などから学んだ技法を生かして、自分の意思を正確に豊かに伝える力を身につけることができる。
- 人々の言動や社会の出来事をじっくり観察し、自分の視点で問題点を指摘することができる。
- 人の気持ちをくみとり心の深いところでコミュニケーションを成立させるには何が必要かを説明することができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	発見と思考のある文章
第2回 AL 2	目の見えない作家の描写力
第3回	相手を思いやる表現
第4回	古代言語を題材にして身体と表現について考える
第5回 AL 4	見えている光景の奥に隠れているものを読み解く
第6回	思考停止に陥らない方法
第7回	批評の精神
第8回 AL 4	ユーモア感覚を身につけよう
第9回	人の尊厳をささえる文章
第10回	問題を見つけることが出発点だ
第11回 AL 4	ひととは違う文章の切り口
第12回	詫び状から世間を学ぶ
第13回	事実と意見を書き分ける
第14回 AL 2	自分を売り込む作法
第15回	言葉の喚起力

成績評価方法	成果物(授業中に数回書く読書感想文と小論文) 100%					
教科書	なし					
参考文献	必要に応じて授業の中で紹介する					
事前学習(内容・時間)	書籍や新聞、テレビなどで気になった言葉や言い回しを授業で報告してもらう(2時間)					
事後学習(内容・時間)	その日の授業内容を復習し、その応用例を書籍・新聞などから集めて理解を深める(2時間)					
フィードバックの方法	成果物はていねいに添削し、コメントを書き添えて本人に返し、講評する					
備 考				オフィスアワー	授業の前後と、メールでも随時対応する	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用(看護実践力)
	○	○	△	△	○	—

II 專門基礎分野

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
医療と情報 (保健統計)	日高 庸晴	講義・演習	3年次 前期	必修	2	30	KSB31201

科目の概要

医療従事者は常に先端の医療知識を身につける必要があり、さらに情報開示やインフォームド・コンセントの形成に対する強い社会的要請、密接な情報交換に基づく信頼形成等も求められている。これらに対応すべく現代の医療と情報について教授する。具体的にはE BMという現代医療における情報活用方法、プライバシー保護や医療情報システムについて概説する。さらに医療情報や公の統計情報などの医療情報を獲得する技術を身につけるために、国民衛生の動向や医学中央雑誌など情報リソースやデータ検索ベースを活用した情報収集とその整理・データの読み取り方やプレゼンテーション方法を教示する。

到達目標

- 医療に関する情報をアクティブに収集していくことの重要性を理解し、エビデンスレベルの高い医療情報の検索を実施できる。
- 医療に関する情報の収集の過程で、情報にはクオリティがあることを知り、その重要性を述べることができる。
- 医療に関する情報のクオリティと善し悪しを見分け、最善の情報収集技術について述べるができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	オリエンテーションー健康や保健医療に関する情報、情報リテラシーとは
第2回	EMBの理念
第3回	医療情報の検索のために (1)
第4回	医療情報の検索のために (2)
第5回 AL 6	医療情報の検索のために (3)
第6回 AL 6	医療情報の検索のために (4)
第7回 AL 6	医療情報の検索のために (5)
第8回	公衆衛生と人権
第9回	わが国の性教育の現状ー疫学データをもとにー
第10回	公衆衛生に関する情報リテラシーと保健統計 (1)
第11回	公衆衛生に関する情報リテラシーと保健統計 (2)
第12回	思春期の健康課題とSNS
第13回 AL 4	医学情報を検索・まとめのプレゼンテーション (1)
第14回 AL 4	医学情報を検索・まとめのプレゼンテーション (2)
第15回	看護職における保健統計の重要性

成績評価方法	定期試験(レポート) 100%					
教科書	適宜配布資料を用意します					
参考文献	適宜紹介します					
事前学習(内容・時間)	講義前のアナウンスに基づき、必要に応じて情報収集や予習を行うこと (2時間)					
事後学習(内容・時間)	随時指定する課題について、自分の考えをまとめる取り組みをすること (2時間)					
フィードバックの方法	プレゼンテーションについて講義時に全体でシェアすると共に、講評します					
備 考	講義中に講義と無関係のスマホ使用・私語は厳禁			オフィスアワー		オフィスアワー一覧表参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用能力 (看護実践力)
	○	○	△	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
運動と健康	大本 友香	講義・演習	3年次 前期	選択	2	30	KSB33201

科目の概要

この授業では、生活習慣病をはじめとした病気や障害に対する予防・治癒を目的とした身体活動、運動の必要性について講義する。加えて、解剖学に基づいて骨、筋肉、腱、関節、それぞれの役割を理解し、柔軟性、筋力、筋持久力を向上させていく技術を教授する。簡単にできるストレッチ法や機能的な動きを実施することで、自身の身体のバランスに気づき、ひずみを調整する方法、および健康へアプローチする運動の方法についての理解を促す。

到達目標

- 運動の不足や過剰がもたらす病気や障害について理解し、健康の一助としての運動の必要性について論ずることができる。
- 身体の柱となる骨格の役割、および筋の役割を理解し、説明できる。
- 自身の身体を使ってストレッチやエクササイズなどの実技を行うことにより、身体のバランスを整えるための技術を習得する。
- 実技を通し、コミュニケーション力・チーム力及びリーダーシップ力を身に付ける。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL 3	身体のバランスの重要性/ボールを使って身体を整える運動とフットセラピー、動きの仕組み/有酸素運動①
第2回 AL 3	殿部の筋肉と関わる骨、関節/ボールを使った運動とピラティス、フットセラピー、動きの仕組み/有酸素運動②
第3回 AL 3	大脚後面の筋肉と関わる骨、関節/ボールを使った運動とピラティス、フットセラピー、動きの仕組み/有酸素運動③
第4回 AL 3	大脚前面の筋肉と関わる骨、関節①/ボールを使った運動とピラティス、フットセラピー、動きの仕組み/有酸素運動④
第5回 AL 3	大脚前面の筋肉と関わる骨、関節②/ボールを使った運動とピラティス、肩関節周辺をほぐすためのストレッチ、動きの仕組み/有酸素運動⑤
第6回 AL 3	脚サイドに関わる筋肉と関わる骨、関節/ボールを使った運動とピラティス、肩関節周辺をほぐすためのストレッチ、動きの仕組み/有酸素運動⑥
第7回 AL 3	下腿に関わる筋肉と関わる骨、関節/ボールを使った運動とピラティス、肩関節周辺をほぐすためのストレッチ、動きの仕組み/体操①
第8回 AL 3	内転に関わる筋肉と関わる骨、関節/ボールを使った運動と肩関節周辺をほぐすためのストレッチ、ピラティス、動きの仕組み体操②
第9回 AL 3	腹部に関わる筋肉と関わる骨、関節/ボールを使った運動と関節周辺をほぐすためのストレッチ、ピラティス、動きの仕組み体操③
第10回 AL 3	胸からか肩に関わる筋肉と関わる骨、関節/ボールを使った運動と関節周辺をほぐすためのストレッチ、ピラティス、動きの仕組み体操④
第11回 AL 3	背中に関わる筋肉と関わる骨、関節/ボールを使った運動と関節周辺をほぐすためのストレッチ、ピラティス、動きの仕組み体操⑤
第12回 AL 3	背中に関わる筋肉と関わる骨、関節/ボールを使った運動と関節周辺をほぐすためのストレッチ、ピラティス、動きの仕組み体操⑥
第13回 AL 3	ピラティス、動きの仕組み体操⑦
第14回 AL 3	ピラティスと動きの仕組み体操⑧
第15回 AL 4	実技テスト及びまとめ

成績評価方法	定期試験(実技) 60% 小テスト 40%					
教科書	プリント配布					
参考文献	『骨のしくみ・はたらき事典』松村天裕(西東社)、『筋肉のしくみ・はたらき事典』左明・山口典孝(西東社)、『筋肉と関節しくみと動きが見える事典』末吉勝則・中田康夫(永岡書店)					
事前学習(内容・時間)	次の授業に必要な筋肉の付着部を覚えてくる(2時間)					
事後学習(内容・時間)	授業で行ったワークを1つでも実践し、確認する(2時間)					
フィードバックの方法	小テストは授業内で解説します					
備 考	水分を補給しながらの実技なので水分補給できる物を用意すること。またGパン、スカート、ストッキングは×です。動きやすい服装(前にファスナーやボタンが付いているものは推奨しない)、Tシャツ、トレーニング用のコットン素材のスパッツ又はトレーニング用パンツ着用。靴は、底の平らなもの用意。				オフィスアワー	授業後15分
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	△	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
医療と経済	川島 隆志	講義	3年次 前期	選択	2	30	KSB33101

科目の概要

医療・看護を取り巻く環境は、ますます厳しくなっている。その大きな要因が「経済」である。日本が高度成長を続けていた頃は、医療において経済・経営が語られることはなかった。コロナ禍、少子化・高齢化の促進等による人口の変化がその要因となっている。本講義は、医療と経済の関係をわかりやすく講義し、効果的・効率的なケアを保証するために、経済を理解する必要性を説明する。

到達目標

- 経済学、行動経済学の基本を理解し、その考え方を述べることができる。
- 経済に関わる統計を医療・看護の視点で説明できる。
- 行動経済学の考え方を医療・看護への応用例で説明できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	はじめに 本講義の概要
第2回	経済学の基礎①
第3回	経済学の基礎②
第4回 AL 2	国民医療費の推移、社会保障給付金の現状
第5回	人口動態、世帯構成
第6回 AL 2	人口動態、世帯構成と医療・看護の関係
第7回	医療従事者数、医療施設数の現状
第8回 AL 2	医療と経済のまとめ①
第9回	行動経済学の基礎①
第10回	行動経済学の基礎②
第11回	ナッジとは何か
第12回	行動経済学の応用①（仕事への応用）
第13回 AL 2	行動経済学の応用②（医療・健康活動への応用）
第14回 AL 2	行動経済学の応用③（医療・健康活動への応用）
第15回	医療と経済のまとめ②

成績評価方法	定期試験（レポート）80% 成果物 20%					
教科書	厚生労働省のホームページより必要な資料をダウンロードしていただきます（講義で指示します）					
参考文献	『行動経済学の使い方』大竹文雄（岩波新書）					
事前学習（内容・時間）	医療・看護の関係をディスカッションするための事前準備（2時間）					
事後学習（内容・時間）	ディスカッションについて復習する（2時間）					
フィードバックの方法	課題等については授業中に解説し、返却します					
備考	統計数値を読む力、そこから課題を発見する力を学修するという心構えで受講してください				オフィスアワー	出講日の授業の後30分。随時メールでも受け付ける
	ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力
	○	△	△	○	○	△

III 專 門 分 野

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
成人看護学Ⅳ (援助方法論)	成人看護学 分野教員	演習	3年次 前期	必修	2	60	KSP31301

科目の概要

手術を受ける患者および急性および慢性疾患をもつ成人への看護援助に必要な知識・看護技術が習得できるように指導する。事例を通して急性期または慢性期の患者を身体的・社会的・心理的側面から総合的にとらえ、様々な知識や情報を用いてアセスメントを行うことで看護上の問題を抽出し、患者が必要としている看護の明確化および実践ができるように教授する。

到達目標

- 手術を受ける患者および急性および慢性疾患をもつ成人に必要な看護援助について、演習を通して実施できる。
- 急性期または慢性期の患者の看護上の問題を、看護理論を用いてアセスメントし、優先順位を考えて抽出できる。
- 看護上の問題から患者の目標を考え、目標を達成するために必要な看護援助を立案および評価できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL 2	成人看護援助に必要な看護過程①
第2回 AL 2	成人看護援助に必要な看護過程②
第3回 AL 2	慢性期における看護過程の展開①
第4回 AL 2	慢性期における看護過程の展開②
第5回 AL 2	慢性期における看護過程の展開③
第6回 AL 2	慢性期における看護過程の展開④
第7回 AL 2	慢性期における看護過程の展開⑤
第8回 AL 2	慢性期における看護過程の展開⑥
第9回 AL 2	慢性期における看護過程の展開⑦
第10回 AL 2	慢性期における看護過程の展開⑧
第11回 AL 3	慢性期における看護過程の展開⑨
第12回 AL 3	慢性期における看護過程の展開⑩
第13回 AL 3	慢性期における看護過程の展開⑪
第14回 AL 3	慢性期における看護過程の展開⑫
第15回 AL 3	慢性期における看護過程の展開⑬
第16回 AL 3	急性期における看護過程の展開①
第17回 AL 2	急性期における看護過程の展開②
第18回 AL 2	急性期における看護過程の展開③
第19回 AL 2	急性期における看護過程の展開④
第20回 AL 2	急性期における看護過程の展開⑤
第21回 AL 2	急性期における看護過程の展開⑥
第22回 AL 2	急性期における看護過程の展開⑦
第23回 AL 2	急性期における看護過程の展開⑧
第24回 AL 2	急性期における看護過程の展開⑨
第25回 AL 2	急性期における看護過程の展開⑩
第26回 AL 2	急性期における看護過程の展開⑪
第27回 AL 2	急性期における看護過程の展開⑫
第28回 AL 2	急性期における看護過程の展開⑬
第29回 AL 2	急性期における看護過程の展開⑭
第30回 AL 2	急性期における看護過程の展開⑮

成績評価方法	成果物 80% 演習 (実技) 20%					
教科書	『ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断』江川隆子編集 (スーヴェルヒロカワ)、『看護診断ハンドブック 第11版』リンダJ.カルペニート著 (医学書院)					
参考文献	『病気がみえるvol.3糖尿病・代謝・内分泌』医学情報 (メディックメディア)、『病気がみえるvol.7脳・神経』医学情報 (メディックメディア)、『病気がみえるvol.1消化器』医学情報 (メディックメディア)、『病気がみえるvol4呼吸器』医学情報 (メディックメディア)					
事前学習(内容・時間)	既習の成人看護学の授業内容を復習し、資料を整理してから授業に臨んでください (1時間)					
事後学習(内容・時間)	提示された課題に取り組み、指定期日までに提出してください (1時間) 授業で理解できなかった内容については自己学習をしてください (1時間)					
フィードバックの方法	成果物に対して、適宜フィードバックする					
備考	この授業では後期からの実習を想定しているため演習を中心に行います			オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	○	○	△	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
老年看護学Ⅳ (症状とケアプラン)	老年看護学 分野教員	講義・演習	3年次 前期	必修	1	30	KSP31201

科目の概要

慢性疾患や加齢による身体機能の低下を抱える高齢者を対象とする老年看護学では、疾患や障害をもちながらも、その人らしく生活を営むことができるよう支援する。したがって、この授業で疾患や健康障害を有している生活者として幅広く高齢者を捉え、生活機能の観点からアセスメントし、必要とされる看護を抽出し実践・評価する一連の看護の過程を教授する。

到達目標

- 高齢者を身体的、心的・霊的、社会・文化的視点を包括し、全人的な存在として捉え、総合的に理解する方法を説明できる。
- 高齢者の看護に必要な情報を収集し、アセスメントし、看護計画を立て実践・評価する一連のプロセスの方法を説明できる。
- 高齢者の望む生活や状態像を見据えた目標志向型思考で高齢者の看護を展開する能力・実践力を修得する。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	オリエンテーション、老年看護の展開における考え方
第2回 AL 2	高齢者の特徴を踏まえた看護過程の展開の方法について
第3回 AL 2	高齢者の看護過程の展開 ①情報収集・整理
第4回 AL 2	高齢者の看護過程の展開 ②情報収集・整理、アセスメント
第5回 AL 2	高齢者の看護過程の展開 ③病態・生活機能関連図、アセスメント
第6回 AL 2	高齢者の看護過程の展開 ④病態・生活機能関連図、アセスメント、全体像
第7回 AL 2	高齢者の看護過程の展開 ⑤全体像、看護の焦点の抽出
第8回 AL 2	高齢者の看護過程の展開 ⑥看護目標の設定と看護計画の立案
第9回 AL 2	高齢者の看護過程の展開 ⑦看護目標の設定と看護計画の立案、アクティビティケア
第10回 AL 3	高齢者の看護過程の展開 ⑧看護実践（アクティビティケアの計画と実践）
第11回 AL 3	高齢者の看護過程の展開 ⑨看護実践（ロールプレイ）
第12回 AL 3	高齢者の看護過程の展開 ⑩看護実践（ロールプレイ）
第13回 AL 2	高齢者の看護過程の展開 ⑪看護実践の評価、看護計画の修正
第14回 AL 3	「老年看護の展開の実践」の振り返り
第15回 AL 2	まとめ

成績評価方法	定期試験(筆記) 50% 成果物 50%					
教科書	『老年看護学概論』（改訂第3版）正木治恵、真田弘美（南江堂）、 『生活機能からみた老年看護過程 第4版+病態・生活機能関連図』編集 山田律子（医学書院）					
参考文献	適宜紹介する					
事前学習(内容・時間)	事前に指示された課題に取り組む、または次回の講義内容を事前に学習する（1～2時間）					
事後学習(内容・時間)	講義内の課題に取り組む、講義内容を振り返り追加学習をするとともに、資料をファイリングする（1～2時間）					
フィードバックの方法	課題については、講義内等で講評する					
備考	講義では毎回、発言や課題への取り組みを求めます。常に「自分の考え」を大切にしながら学び合ひましょう。			オフィスアワー		オフィスアワー一覧表参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	—	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
小児看護学Ⅳ (小児のアセスメントとケア論)	松尾ひとみ 西村 郁香	演習	3年次 前期	必修	1	30	KSP31302

科目の概要

小児看護学実習を行う上での基盤となる知識を活用し、子どもと保護者のセルフケア能力をアセスメントする方法を整理し、セルフケアに応じた看護計画の立て方について教授する。

到達目標

- 子どもの成長・発達を評価し、疾患や環境の変化による子どもの生活への影響を説明できる。
- 病気をもつ子どもと保護者のセルフケア能力をアセスメントできる。
- 病気をもつ子どもと保護者のセルフケアへの支援を説明できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	小児看護学実習でのアセスメントの考え方
第2回 AL 3	情報収集・分類・病態図作成 1
第3回 AL 3	情報収集・分類・病態図作成 2
第4回 AL 3	事例のアセスメント 1
第5回 AL 3	事例のアセスメント発表 1
第6回 AL 3	事例のアセスメント 2
第7回 AL 3	事例のアセスメント発表 2
第8回 AL 3	事例のアセスメント 3
第9回 AL 3	事例のアセスメント発表 3
第10回 AL 3	事例のアセスメント 4
第11回 AL 3	事例のアセスメント発表 4
第12回 AL 3	事例のアセスメント 5
第13回 AL 3	事例のアセスメント発表 5
第14回 AL 3	ケア計画 発表
第15回 AL 3	ケア計画 発表

成績評価方法	成果物 100%					
教科書	なし					
参考文献	『看護形態機能学 生活行動からみるからだ 第4版』菱沼典子（日本看護協会出版会）					
事前学習(内容・時間)	課題の記述（1時間）					
事後学習(内容・時間)	課題の記述（1時間）					
フィードバックの方法	授業中の質問に答える。適宜コメントする。					
備考					オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
母性看護学Ⅳ (周産期ケアマネジメント)	園田 希 母性看護学 分野教員	講義・演習	3年次 前期	必修	1	30	KSP31202

科目の概要

マタニティサイクルにおける女性と新生児、その家族を対象とし、身体的・心理的・社会的な変化を踏まえ、マタニティサイクルに必要な基礎的な看護実践について講義する。具体的には、女性とその家族が持つ力や強み、新たな役割に適切していく過程に焦点を当て、女性とその家族が持つ力を最大限に発揮できるための支援について説明する。

到達目標

- マタニティサイクルにある対象の身体的・心理的・社会的な特徴を踏まえた具体的な看護過程を展開することができる。
- 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期に必要な看護技術の目的、方法、留意点を説明することができる。
- 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期に必要な看護技術を実施することができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画	
第1回	コースガイダンス	: ウェルネス、セルフケア、周産期医療体制、周産期の感染管理と事故防止
第2回	妊娠期の看護①	: 妊娠期の健康維持のためのセルフマネジメント
第3回 AL3,4	妊娠期の看護②	: 妊娠期の事例
第4回 AL3,4	妊娠期の看護③	: 妊娠期の事例
第5回 AL 3	妊婦のヘルスアセスメント	: レオポルド触診法・胎児心音の聴取・胎児心拍陣痛図の判読
第6回	分娩期の看護	: 産婦のニーズへのケア
第7回 AL3,4	産褥期・新生児期の看護①	: Team-based learning (個人テスト・グループテストを行います。成績評価に含)
第8回 AL3,4	産褥期・新生児期の看護②	: 産褥期・新生児期の事例
第9回 AL3,4	産褥期・新生児期の看護③	: 産褥期・新生児期の事例
第10回 AL3,4	産褥期・新生児期の看護④	: 産褥期・新生児期の事例
第11回	保健指導と患者向け教育資料の評価	
第12回	帝王切開における看護	
第13回 AL 3	褥婦のヘルスアセスメント	: 退行性変化・進行性変化の観察、授乳の援助
第14回 AL 3	新生児のヘルスアセスメント	: 全身状態の観察、新生児のバイタルサインの測定
第15回	産婦健康診査と地域での育児支援	

成績評価方法	定期試験(筆記) 50% 成果物 40% 小テスト 10%					
教科書	『看護学テキストNiCE 母性看護学Ⅱ マタニティサイクル 母と子そして家族へのよりよい看護実践』大平光子他 (南江堂)、『ナーシング・グラフィカ 母性看護学③ 母性看護技術』荒木奈緒他 (メディカ出版)					
参考文献	『看護実践のための根拠がわかる母性看護技術』北川真理子他 (メヂカルフレンド社)					
事前学習(内容・時間)	事前課題および自己学習 (1時間)					
事後学習(内容・時間)	自己学習および看護技術習得 (1時間)					
フィードバックの方法	事例、個人テスト・グループテストは講義の中でフィードバックを行います					
備 考	主体的・積極的な講義への参加を期待しています			オフィスアワー		オフィスアワー一覧表参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
精神看護学Ⅳ (地域における援助)	西垣・木村 棕本・東野	講義	3年次 前期	必修	1	30	KSP31101

科目の概要

地域において精神障害者が利用する社会資源やリハビリテーションを説明し、精神障害者とその家族の現状を講義する。自己のコミュニケーションを振り返ることを通して、自己を見つめ自己理解を図りながらケアへの影響の理解を深められるよう教授する。また精神障害者がおかれている状況を社会資源などを通して考えることができるよう説明する。

到達目標

- 精神保健医療福祉に関する法制度や具体的な事業内容について説明できる。
- 精神疾患の代表的なものの看護過程が展開できる。
- 地域で生活している精神障害者のはなしを聞き、精神保健としての地域援助の在り方を考えることができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL 4	日本の精神保健医療福祉の現状と課題と精神看護師の役割
第2回 AL 4	ケアの人間関係 人としての尊厳と、患者—看護師関係における感情体験
第3回 AL 4	集団のダイナミクス、S S T
第4回 AL2,3	【演習】S S T
第5回 AL 4	オレムアンダーウッド理論の看護過程
第6回 AL2,4	【演習】看護過程①
第7回 AL2,4	【演習】看護過程②
第8回 AL2,4	【演習】看護過程③
第9回 AL2,4	【演習】看護過程④
第10回 AL2,4	ストレングスモデルについて
第11回 AL2,4	ストレングスモデルについて
第12回 AL 2	芸術療法【演習】芸術療法
第13回 AL 4	精神障害者の家族支援、精神科訪問看護
第14回 AL2,4	地域で暮らすということ：当事者の体験から学ぶ①
第15回 AL2,4	地域で暮らすということ：支援者の体験から学ぶ②

成績評価方法	定期試験（筆記）60% 成果物 40%					
教科書	『系統別看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学 [1] 精神看護の基礎』武井麻子他（医学書院） 『系統別看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学 [2] 精神看護の展開』武井麻子他（医学書院）					
参考文献	授業時間内に適宜提示する					
事前学習（内容・時間）	教科書等の該当ページを読み、講義内容についてまとめる（1時間）					
事後学習（内容・時間）	教科書等の該当ページを読み、講義内容についてまとめる（1時間）					
フィードバックの方法	成果物はコメントをして返却する					
備 考					オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用能力（看護実践力）
	○	○	○	○	○	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
在宅看護論Ⅲ (在宅ケアの演習)	桶河 華代	演習	3年次 前期	必修	1	30	KSP31303

科目の概要

在宅看護における安全と健康危機管理について教授する。また、在宅における日常生活援助、ならびに医療的援助における基本的なアセスメントや援助技術の具体的展開方法を教授する。

到達目標

- 在宅で医療的援助を必要とする療養者と家族の生活状況をふまえ、安全に配慮した援助の必要性について説明できる。
- 在宅で医療的援助を必要とする療養者と家族への看護援助技術の実際について説明できる。
- 在宅療養者と家族のニーズに則した看護目標の設定と個性性を尊重した看護計画を立案できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	医療管理を要する療養者と家族の生活と看護
第2回 AL 3	療養者宅での看護援助の特徴と留意点
第3回 AL 3	医療的援助に必要な療養者への援助技術① 褥瘡の予防とケア
第4回 AL 3	医療的援助に必要な療養者への援助技術② 経管栄養法・在宅中心静脈栄養法
第5回 AL 3	医療的援助に必要な療養者への援助技術③ 在宅酸素療法・在宅人工呼吸療法
第6回 AL 3	在宅療養者と家族の支援① 脳血管疾患・認知症
第7回 AL 3	在宅療養者と家族の支援② 難病
第8回 AL 3	在宅療養者と家族の支援③ 在宅ターミナルケア・グリーフケア
第9回 AL 3	在宅看護過程の展開① 在宅における看護過程の特徴
第10回 AL 3	在宅看護過程の展開② 情報整理
第11回 AL 3	在宅看護過程の展開③ アセスメント
第12回 AL 3	在宅看護過程の展開④ 課題の明確化・援助目標の設定
第13回 AL 3	在宅看護過程の展開⑤ 看護計画の立案
第14回 AL 4	在宅看護過程の展開⑥ 看護計画の発表・ディスカッション
第15回 AL 3	訪問看護活動の実際・まとめ

成績評価方法	定期試験(レポート) 50% 成果物 50%					
教科書	『ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論①地域療養を支えるケア』 臺有桂他(メディカ出版) 『ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論②在宅療養を支える技術』 臺有桂他(メディカ出版)					
参考文献	『在宅看護過程+総合的機能関連図』 河野あゆみ (医学書院)					
事前学習(内容・時間)	該当部分のテキスト(配布資料等)を通読し予習を行う(1時間)					
事後学習(内容・時間)	授業時間に指示された課題の実施および該当部分のテキスト(配布資料等)の復習を行う(2時間)					
フィードバックの方法	質問および課題については授業内で説明および解説する					
備考	講義・演習に際し基礎看護技術の復習を行っておくこと			オフィスアワー		オフィスアワー一覧表参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	○	○	△	○	△	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
在宅看護論Ⅳ (地域ネットワーク論)	桶河 華代	講義	3年次 前期	必修	1	30	KSP31203

科目の概要

療養者と家族を取り巻く環境と状況に応じた在宅看護の実際から、在宅ケア・在宅看護サービスの展開に必要なケアネットワークの形成・仕組みづくりを教授する。また、演習を通して健康課題別の地域資源作りの考え方を習得させる。地域包括ケアシステムに関わる機関や専門職の役割と連携方法から看護職の役割について教授する。

到達目標

- 在宅ケア・在宅看護サービスの展開に必要なケアネットワークの形成と仕組みづくりを説明できる。
- 地域包括ケアシステムに関わる機関について説明できる。
- 地域包括ケアシステムにおける連携方法と看護職の役割を説明できる。
- 健康課題別に地域包括ケアシステム作りの考え方を発表できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	地域包括ケアシステムと地域包括ケア支援センター
第2回	地域包括ケアシステムづくりの方法と実際
第3回	地域包括ケアシステムにおける多職種・多機関連携
第4回	地域包括ケアシステムにおける看護職の役割
第5回 AL 2	退院調整支援
第6回 AL 2	子どもの在宅療養を支える制度と社会資源
第7回 AL 2	高齢者（介護予防・終末期）を支える制度と社会資源
第8回 AL 2	認知症高齢者を支える制度と社会資源
第9回 AL 2	障害者を支える制度（心身障害者）と社会資源
第10回 AL 2	障害者を支える制度（精神障害者）と社会資源
第11回 AL 2	難病患者を支える制度と社会資源
第12回 AL 3	事例に基づく制度と社会資源（現行の社会資源）
第13回 AL 3	事例に基づく制度と社会資源（不足する社会資源）
第14回 AL 4	課題発表 1
第15回 AL 4	課題発表 2

成績評価方法	定期試験(筆記) 50% 成果物 40% 小テスト 10%					
教科書	『ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論①地域療養を支えるケア』 臺有桂他(メディカ出版) 『ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論②在宅療養を支える技術』 臺有桂他(メディカ出版)					
参考文献	『系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 [1] 地域・在宅看護の基盤』 河原加代子 (医学書院) 『系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 [2] 地域・在宅看護の実践』 河原加代子 (医学書院)					
事前学習(内容・時間)	該当部分のテキストを読んでおく (30分)					
事後学習(内容・時間)	授業時間に指示された課題を実施する (30分)					
フィードバックの方法	課題について授業の中で、解説します					
備考					オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
看護と芸術Ⅰ-① (絵画療法)	フルイミエコ	講義・演習	3年次 前期	選択	2	30	KSP32201

科目の概要

アートによって人の潜在能力を引き出すには、活動の目的を理解して環境を整え、実践する力が求められます。この教科では「臨床美術」を軸に、対人援助のアートの実践に必要な技術と表現力、コミュニケーション技術を教授します。同時に実践を支える人間観について講義します。

到達目標

- 美術表現についての知識を理解し、美術活動を実践できる技能を習得する。
- アートを看護に活かせる具体的手法と技術を身につける。
- 対人援助としてのアートの実践に必要なマインドを理解し、コミュニケーション技術を身につける。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	総論「生きるを励ますアート」
第2回 AL 5	美術表現の理解①視覚の楽しみ
第3回 AL 5	美術表現の理解②造形からの出発
第4回 AL 5	美術表現の理解③身近なものを再発見する
第5回 AL 5	美術表現の理解④素材との出会い
第6回 AL 3	美術表現の理解⑤鑑賞とは感じること
第7回	アート活動の実際～現場運営に必要なこと
第8回 AL 5	実践に役立つ手法①オイルパステルの抽象表現
第9回 AL 5	実践に役立つ手法②オイルパステルの色彩表現
第10回 AL 5	実践に役立つ手法③オイルパステルとコラージュ
第11回 AL 5	実践に役立つ手法④色鉛筆の表現
第12回 AL 5	実践に役立つ手法⑤デザイン的な表現
第13回 AL 3	生きるを励ますアートとは
第14回	存在論的人間観と関係性
第15回	まとめ「アートを味方に」

成績評価方法	成果物 70% 小テスト 30%					
教科書	なし					
参考文献	『臨床美術』金子健二編（日本地域社会研究所）					
事前学習(内容・時間)	実技に必要なものを用意する（2時間）					
事後学習(内容・時間)	実技作品画像の提出、小テスト（2時間）					
フィードバックの方法	授業の時間内に成果物についてコメント。質問は次回の授業にて回答する。					
備 考	2年次の癒しと芸術で使用したオイルパステルを使います。1500円程度の画材セットの購入が必要です。			オフィスアワー		Teamsにて随時受け付けます
	ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
看護と芸術Ⅰ-② (音楽療法)	武田倫衣子	講義・演習	3年次 前期	選択	2	30	KSP32202

科目の概要

音楽療法では、クライアントのこころとからだの治療のために音楽を用いる。現在、音楽療法は看護と重要な関わりのある様々な臨床現場で実施されている。看護師をはじめとする医療スタッフの音楽療法への正しい理解は、クライアントへの音楽療法の効果を倍増させる。クライアントから深い信頼を寄せられるであろう未来の看護師たちへ、音楽療法の基本及び看護師としての有効な関わり方を講義する。

到達目標

- 音楽療法についての基礎知識を修得し、説明できる。
- 音楽療法の意義と、看護師が積極的に参加することの重要性を理解し、解説することができる。
- 音楽療法で用いられる基礎的な技術の一部を修得し、活用できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	音楽療法の概要と歴史①
第2回	音楽療法の概要と歴史②
第3回	心身障がい者（児）のための音楽療法①
第4回	心身障がい者（児）のための音楽療法②
第5回	精神科における音楽療法①
第6回	精神科における音楽療法②
第7回	第一回小テスト・高齢者の音楽療法に関する映画鑑賞
第8回	高齢者のための音楽療法①（映画鑑賞の続きを含む）
第9回 AL 3	高齢者のための音楽療法②・ハンドベル演奏の実践
第10回	緩和ケア病棟・ホスピス/神経学的リハビリテーションにおける音楽療法①
第11回	緩和ケア病棟・ホスピス/神経学的リハビリテーションにおける音楽療法②・その他いろいろな音楽療法
第12回	第二回小テスト・音楽療法に関する動画鑑賞
第13回 AL 3	音楽療法のデザインと実践①
第14回 AL 3	音楽療法のデザインと実践②・総括・音楽療法にまつわる映画を見ながら①
第15回	総括・音楽療法にまつわる映画を見ながら②

成績評価方法	小テスト 50% 定期試験（レポート）25% 成果物 25%					
教科書	資料を随時配布する					
参考文献	必要に応じて適宜配布する					
事前学習（内容・時間）	次回の授業内容について、インターネット・書籍などで自分なりに知識を得ておく（2時間）					
事後学習（内容・時間）	授業内容の復習（2時間）					
フィードバックの方法	小テストは次回の授業中に返却し解説を行う。定期試験（レポート）は提出期日後に返却を行う。成果物の返却は行わない。					
備考	受講にあたって音楽的知識の有無は問わないが、音楽に興味・関心があることが望ましい				オフィスアワー	授業終了後30分
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力（看護実践力）
	△	○	○	△	○	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
看護と芸術Ⅰ-③ (笑い療法)	古谷 昭雄	講義・演習	3年次 前期	選択	2	30	KSP32203

科目の概要

笑いは免疫力を上げ、自然治癒力を持つということを認識し、笑いの効果を実感してもらうことを目的とする。笑いの三大効用は健康力、人間関係力、創造力であるといわれている。それらが高めるためには、自己表現ができる芸術の力をかりなければならない。講義や演習でノーズフルート（鼻笛）やラフターヨガを実践することにより、心と脳の処方せんである笑い療法について教授する。

到達目標

- 笑いは免疫力を上げ、楽しく豊かに生きるためのコミュニケーション、マネジメントの基本であることについて説明できる。
- ラフターヨガとノーズフルートや身近な楽器を使って笑い療法を企画することができる。
- 企画された笑い療法をグループごとのフィールド・ワークのなかでレクリエーションの一環として実演することができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL 3	看護と芸術1 (ガイダンス、笑い与健康、ユーモア看護)
第2回 AL 3	看護と芸術2 (ノーズフルート入門、ラフターヨガ入門)
第3回 AL 3	ユーモア療法1 (日本笑い学会、笑いヨガ協会)
第4回 AL 4	ユーモア療法2 (ユーモア看護アプローチ、ユーモアと非言語的行動)
第5回 AL 5	癒しのノーズフルート1 (実演と演習)
第6回 AL 5	癒しのノーズフルート2 (実演と演習)
第7回 AL 5	癒しのラフターヨガ (実演と演習)
第8回 AL 3	ノーズフルート演奏の効果
第9回 AL 3	ラフターヨガ実践の効果
第10回 AL 3	ノーズフルート演奏の企画リハーサル
第11回 AL 3	ラフターヨガ実践の企画リハーサル
第12回 AL 5	フィールド・ワーク1 (シニア会または病院にて実演)
第13回 AL 5	フィールド・ワーク2 (シニア会または病院にて実演)
第14回 AL 5	フィールド・ワーク3 (介護福祉施設または病院にて実演)
第15回 AL 5	フィールド・ワーク4 (介護福祉施設または病院にて実演)

成績評価方法	定期試験（レポート）50% 成果物 50%					
教科書	『ユーモア看護 ―癒しと和み―』平澤久一、古谷昭雄監修（金芳堂）					
参考文献	『笑って長生き 笑いと長寿の健康科学』昇 幹夫著（大月書店） 『笑は咲にして勝なり 人生100年時代の指南書』中井宏次著（薬事日報社）					
事前学習（内容・時間）	ノーズフルートとラフターヨガの練習（2時間）					
事後学習（内容・時間）	ノーズフルートとラフターヨガの練習（2時間）					
フィードバックの方法	成果物については、授業内で解説をします					
備 考	笑い与健康、笑いヨガ、音楽などに興味・関心を持ってください。この授業の成績評価においては、フィールド・ワークへの参加が必須となります。必ず出席して下さい。授業に必要なノーズフルート（¥1,000円前後）を購入していただきます。				オフィスアワー	授業終了後30分、質問を受け付ける
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	△	○	○	△	○	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
看護と芸術Ⅰ-④ (セラピーメイク)	倉地 祐子	講義・演習	3年次 前期	選択	2	30	KSP32204

科目の概要

今、医療現場では、治療だけでなく心のケアが重要視されています。患者様の心を癒し前向きに、QOLを上げる化粧療法「セラピーメイク」が注目されています。この講座では、ご自身の看護師としての身だしなみメイク、患者様に寄り添う「セラピーメイク」を中心に、理論と技術、カウンセリングの仕方について教授します。

到達目標

- 看護師としての身だしなみ「セルフメイク」の知識と技術を説明できる。
- 患者様に寄り添う化粧療法「セラピーメイク」の知識と技術を説明できる。
- 故人様に行う「エンゼルメイク」の知識と技術を説明できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	オリエンテーション メイクと心の関わりについて、皮膚理論
第2回	セルフメイク スキンケア
第3回	セルフメイク 下地の種類、紫外線対策
第4回 AL 3	セルフメイク ファンデーションの種類と塗り方
第5回	セルフメイク チーク・リップの塗り方
第6回 AL 3	セルフメイク 眉・アイメイクの塗り方
第7回	セラピーメイク セラピーメイクの必要性について、セラピーメイクの対象
第8回	セラピーメイク アトピー性皮膚炎などの敏感肌用メイク
第9回	セラピーメイク ニキビ・ニキビ跡メイク
第10回	セラピーメイク アザのカバーメイク
第11回 AL 4	セラピーメイク タトゥーのカバーメイク
第12回	セラピーメイク 傷あとやケロイドのカバーメイク
第13回	セラピーメイク リストカットのカバーメイク
第14回 AL 5	エンゼルメイク
第15回	7回目から13回目までのまとめと小テスト

成績評価方法	定期試験（筆記）100%					
教科書	授業ごとに資料配布					
参考文献	『今あるコスメで上品で洗練された美人になれる』福井美余（ダイヤモンド社） 『リハビリメイク』監修:百束比古 編著:青木律・かづきれいこ（克誠堂出版）					
事前学習（内容・時間）	講義時に使用するテキストを事前に読んでおくこと（2時間）					
事後学習（内容・時間）	講義内で行ったメイク実習を復習すること（2時間）					
フィードバックの方法	授業内で解説を行います					
備考	メイクアップの知識と技術を活かす為に、復習と練習が大切です			オフィスアワー		随時メールで受付します
	ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
看護と芸術Ⅰ－⑤ (陶芸療法)	上田 順平	講義・演習	3年次 前期	選択	2	30	KSP32205

科目の概要

陶芸は、作業療法として精神科領域で以前から用いられていた。一方、生活機能訓練としても注目されており、脳賦活訓練と手指のリハビリテーションなどでも効果が認められている。作陶の実際を通して、陶芸の治療的効果について講義・演習する。

到達目標

- 焼き物の成り立ち、基本的な陶芸制作の方法を説明することができる。
- 焼き物を通じて、医療にとって身体の健康と等しく重要である心の健康を体感し、作品に表現することができる。
- 基礎的な焼き物作りの方法を身につけ、制作を行うことができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL 5	焼き物の成り立ち、制作プロセスの紹介
第2回 AL 5	作りたい作品のイメージを共有して、様々な芸術作品を紹介する。
第3回 AL 5	カップやお茶碗、オブジェなどの制作開始
第4回 AL 5	粘土による造形を手びねり、くりぬき技法、粘土板を貼り付けるなどして成形する。
第5回 AL 5	目標の大きさまで成形する。
第6回 AL 5	作品の形を整える。
第7回 AL 5	取っ手などの付属部品をとりつける。
第8回 AL 5	乾燥させて削り作業にて形を調整する。
第9回 AL 5	作品の底、裏側の処理を行う。
第10回 AL 5	粘土段階での加飾を行う。
第11回 AL 5	粘土段階での加飾を行う。
第12回 AL 5	素焼きに備えて、表面処理を行う。
第13回 AL 5	絵付けと釉薬作業
第14回 AL 5	絵付けと釉薬作業
第15回 AL 4	自身の作品について各自プレゼンテーション、講評会（意見交換）

成績評価方法	成果物 100%（内、作品 80%、プレゼンテーション評価 20%）					
教科書	無し					
参考文献	無し					
事前学習（内容・時間）	講義までに制作する作品の構想を考えておくこと（2時間）					
事後学習（内容・時間）	講義後に当日の制作の成果を検証し、次回制作時に活かせるようにすること（2時間）					
フィードバックの方法	講評会の際に芸術からの視点、生活からの視点で受講者それぞれの作品について、講評を行います					
備 考					オフィスアワー	授業終了後90分
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
看護と芸術Ⅱ (治療環境とアメニティ)	森 合音	講義	4年次 後期	必修	2	30	KSP41101

科目の概要

医療現場でのアートの役割や活動の目的を説明する。ホスピタルアートの具体的な業務である、理念の顕在化、業務改善、社会的包摂、それぞれの事例から総合的な概要を講義する。その上でホスピタルアートが持つセルフカウンセリングの技術を重点的に教授し、芸術による痛みを抱えた患者さんに寄り添う際の実践力、発想の転換の技術を教授する。

到達目標

- 様々なホスピタルアートの事例を知ることで既成概念にとらわれない問題解決の考え方を身につける。
- 写真を通じて自己表現することでの内側にある自己の声に耳を傾け、セルフカウンセリングとしての写真技術を習得する。
- クラスメイトの表現に触れその多様性を知ることによって「患者」の心に寄り添う想像力と共感力を磨き患者に対し創造的な看護ができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	「ホスピタルアート」とは看護と建築との繋がり ナイチンゲールの看護覚書から
第2回	看護と芸術 心の「痛み」と芸術表現
第3回 AL 2	学生との双方向の対話（リアクションペーパーから） 病院に於けるアートの役割 ①理念の顕在化（事例紹介）
第4回 AL 2	学生との双方向の対話（リアクションペーパーから） 病院に於けるアートの役割 ②業務改善（事例紹介）
第5回 AL 2	学生との双方向の対話（リアクションペーパーから） 病院に於けるアートの役割 ③社会包摂（事例紹介）
第6回	写真で自己を表現する 講義
第7回	写真で自己を表現する 課題説明
第8回	作品制作
第9回	作品制作
第10回 AL 4	作品発表 講評
第11回 AL 4	作品発表 講評
第12回 AL 4	作品発表 講評
第13回 AL 4	作品発表 講評
第14回 AL 4	作品発表 講評
第15回 AL 3	コミュニケーションを誘うものづくり 制作

成績評価方法	成果物 50% 定期試験(レポート) 50%					
教科書	特になし					
参考文献	『未来共創の哲学 大統一生命理論に挑む』村瀬雅俊・村瀬智子 (言叢社) 京都大学基礎物理学研究所 論文集 Journal of Integrated Creative Studies 2022 第3章 生命体としての病院—「痛み」を「希望」に変えるホリスティックなアートの力 森 合音 http://www2.yukawa.kyoto-u.ac.jp/~future/icis/					
事前学習(内容・時間)	医療環境における様々なアート活動をリサーチ、分析する (2時間)					
事後学習(内容・時間)	実際に授業を受けた内容から、臨床看護に応用できる部分をまとめる (2時間)					
フィードバックの方法	作品、レポートは以降の授業で講評します					
備考	希望者には質問や情報提供等個別に対応します			オフィスアワー		希望者には質問や情報提供等個別に対応します
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
看護教育学	北島 洋子	講義	4年次 後期	選択	1	15	KSP42101

科目の概要

看護における看護教育学の意義を理解し、看護学基礎教育、看護人材育成における学習支援や、患者の健康問題に対する学習支援のあり方を概観し、看護教育学の課題と展望、自身のキャリア発達における学習ニーズについて考えることができるよう、学修を支援する。

到達目標

- 看護教育学の基盤となる学習理論について説明することができる。
- インストラクショナルデザインの視点から実際の授業を概観し説明できる。
- 自己のキャリア発達とそのための学習ニーズについて考察することができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL 2	ガイダンス 看護学と看護教育学
第2回 AL 2	学習理論と看護学教育
第3回 AL 2	看護教育課程とカリキュラム
第4回 AL 2	インストラクショナルデザイン、教育方法、教育評価
第5回 AL 2	授業設計、学習指導案
第6回 AL 6	学習指導案に基づく授業への参加・観察
第7回 AL 2	看護教育制度と看護専門職のキャリア発達
第8回 AL 2	看護学教育の課題と展望、まとめ

成績評価方法	定期試験(レポート) 60% 成果物 40%					
教科書	『看護学テキストNiCE 看護教育学 看護を学ぶ自分と向き合う』グレッグ美鈴、池西悦子(南江堂)					
参考文献	『看護のための教育学』中村俊樹(医学書院)					
事前学習(内容・時間)	テキストの授業範囲の箇所を熟読しまとめる、提示された事前課題に取り組む(2時間)					
事後学習(内容・時間)	講義内容の復習、提示された事後課題に取り組む(2時間)					
フィードバックの方法	講義内のディスカッションをととしてフィードバックする					
備 考					オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	△	△	△	△	△	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
海外看護活動論	杉野 美礼	講義	4年次 後期	選択	2	30	KSP42102

科目の概要

世界人口の約80%を占める途上国の人々の健康、地球規模で発生している健康問題／課題（グローバルヘルス）について、その要因となる社会構造および、それに対処する諸機関と戦略について教授する。そして、一人の人間として、また看護職として、どのようにそこに貢献するかを、自国の状況も含めて考えることを促す。

到達目標

- グローバルヘルスの概念とそれを支える看護について説明できる。
- 海外看護活動の基礎能力となる文化的な感受性を身につけ、異文化理解を看護に統合して説明できる。
- 海外看護活動の基礎となる情報収集方法を理解し、現地の状況をふまえた保健活動を考えることができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	講義：国際看護とは：国際看護学の概念と、世界の健康問題の概要を学ぶ ◆現地報告1：ネパールのヘルスプロモーション活動（担当教員）
第2回	講義：貧困と開発、プライマリヘルスケア、人間の安全保障、持続可能な開発目標の概要を学ぶ
第3回 AL 3	講義：国際協力機関と活動の概要：最新の国際健康問題（コロナ感染等）の概要と情報収集方法を学ぶ 演習：コロナ感染状況、人口、保健統計の課題をグループで実施する
第4回 AL 2	講義：開発途上国の保健医療：開発途上国の保健医療システム、国際看護の実践概要を学ぶ 演習：現地報告から。グループで国際協力における看護活動を考える。
第5回	講義：途上国の小児保健の現状と医療対策の概要：小児の主要な疾患の特徴とその対応、対策について理解する。
第6回 AL 3	講義：女性の健康問題：途上国における妊産婦を含む女性の健康問題から、社会的問題との対策について考える 演習：グループで母子保健の統計を調べ、母子保健の問題と取り組み方法を考える
第7回	講義：世界の三大感染症：マラリア、結核、HIV/AIDSの疾患と対策、予防について学び、看護の役割を考える
第8回	講義：①多文化共生看護：多文化共生看護の概念と背景を学び、看護への統合を考える ②在留外国人への看護：国内での国際看護活動の概要を理解する
第9回	講義：国際看護活動の実際：住民参加と健康教育の取り組み方について学び看護の役割を考える
第10回 AL 3	◆現地報告2：国際保健活動の実際（海外ワーカー報告）途上国での保健活動の実際を知る
AL 5	講義：情報収集とアセスメント：国際看護活動に必要な情報収集・計画・評価方法について学び、実施例から看護展開方法について考える。 演習：グループで保健プログラムを企画する対象国を決め、情報収集する。
第11回 AL 5	JICA神戸訪問：日本の国際協力の概要と課題を学ぶ。途上国活動経験者の体験談から、保健活動実習上の課題と取り組み方法を理解する。
第12回 AL 3	JICA神戸訪問：グループの保健プログラム企画に必要な情報収集を行う
第13回 AL 4	演習：途上国の保健プログラム企画①：国際看護の学びを統合し、多文化共生看護にもとづいた保健プログラムをグループで企画する
第14回	演習：途上国の保健プログラム企画発表：グループで企画した保健プログラムを発表する。
第15回	講義：国際看護のキャリア形成：国際看護実践に必要な基礎能力の養成方法と実践分野を学ぶ

成績評価方法	定期試験(レポート) 60% 成果物40% (授業課題、保健プログラム企画・発表)					
教科書	講義資料を配布します					
参考文献	国際保健関連記事、情報、動画（ウェブサイト参照）、適宜指示します					
事前学習(内容・時間)	教科書や資料に目を通す。テレビやインターネットのニュース・新聞で、最新の国際情勢やグローバルヘルス情報を学ぶ（2時間）					
事後学習(内容・時間)	課題により学習内容を振り返り、国際看護についての自己の考えを深め、表現する（2時間）					
フィードバックの方法	授業ワークシートに対する応答を授業内、またはワークシートへのコメントで行います					
備 考					オフィスアワー	Teams上で随時質問を受付けます
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
看護マネジメント学 I (リスクマネジメント)	伊津美孝子	講義	3年次 前期	必修	1	30	KSP31102

科目の概要

本授業では、医療施設における医療安全体制の現状と課題及びリスク対策などについて必要な基本的知識について教授する。また、安全に臨地実習に取り組むための注意点などについて説明する。さらに、看護マネジメントにおけるキャリア開発、継続教育、生涯学習、看護職員自身のマネジメントについて講義する。

到達目標

- 医療安全とリスクマネジメントの概念を述べるができる。
- 看護における安全対策、看護業務上の危険と防止対策について述べるができる。
- 臨地実習時におけるリスクと安全について理解し、自らの防止対策について説明することができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL 2	看護マネジメント、リスクマネジメントの概念と看護における実践
第2回 AL 2	医療安全と看護の理念
第3回 AL 2	医療安全への取り組みと医療の質の評価
第4回 AL 2	医療機関における医療安全への取り組み
第5回 AL 2	チームで取り組む安全対策
第6回 AL 2	看護業務に関する事故と安全対策①：事例検討
第7回 AL 3	看護業務に関する事故と安全対策②：事例検討
第8回 AL 4	看護業務に関する事故と安全対策③：事例検討
第9回 AL 2	在宅看護における医療事故と安全対策
第10回 AL 2	医療従事者の安全を脅かすリスクと対策
第11回 AL 2	看護業務遂行のためのマネジメント 多重課題への危険性と対策
第12回 AL 2	看護師が関与した医療事故/ヒヤリハット
第13回 AL 2	看護学生の臨地実習と安全
第14回 AL 2	看護師のキャリア開発、継続教育、生涯教育
第15回 AL 2	看護職員自身のマネジメント

成績評価方法	定期試験（筆記）100%					
教科書	『ナーシング・グラフィカ 看護の統合と実践(2)医療安全』松下由美子他編（メディカ出版） 『新体系看護学全書 看護の統合と実践①看護実践マネジメント/医療安全』小澤かおり著（メデカルフレンド社）					
参考文献	適宜紹介する					
事前学習(内容・時間)	講義計画に沿ってテキストを読んでおく（1時間）					
事後学習(内容・時間)	講義後の復習を行う（1時間）					
フィードバックの方法	毎回、講義開始前に講義内容についての質問、意見についてフィードバックを行う					
備考	毎回の講義内でペアワークを行うため、主体的に参画し、活発な討議を期待する			オフィスアワー	講義後 30分	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力（看護実践力）
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
看護マネジメント学Ⅱ (看護管理)	高須久美子	講義	4年次 後期	選択	2	30	KSP42103

科目の概要

看護管理学は、特別なものではなく自分自身のマネジメントが基盤となり、看護を専門とする者に必要な知識である。看護の対象者に質の高い看護を提供するために看護管理(マネジメント)が重要であることを踏まえ、看護管理の歴史的な背景および、看護実践者のマネジメントについて講義する。看護活動に必要な多職種間のマネジメント、看護組織における看護管理の実際、看護管理に関する関係法規や看護師国家試験対策についても修得できるよう講義する。

到達目標

- 看護の質向上のための組織運営やマネジメントおよびリーダーシップについて説明することができる。
- 「ケアのマネジメント」「組織のマネジメント」「セルフマネジメント」について理解し、看護者の役割を述べることができる。
- 他職種との連携・協働について理解し、自己の看護管理について考察することができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL 2	1 社会の変化と看護職の役割
第2回 AL 2	2 協働：他者と共に活動すること
第3回 AL 2	3 看護マネジメントとは 「効率的・効果的に仕事をする」ということ
第4回 AL 2	4 組織で取り組む看護活動「モノの管理・情報の管理・カネの管理」
第5回	5 看護の質向上のための取り組み
第6回	6 看護と経営
第7回	7 業務のマネジメント
第8回 AL 2	多重課題における対処
第9回 AL 2	8 セルフマネジメント「健康的な働き方」
第10回 AL 3	9 看護専門職とキャリア 専門職とは 社会人になること
第11回 AL 4	自己のキャリアについて考えるとともに将来像を描く
第12回	10 看護現場に影響を与える制度と法律
第13回	看護管理に関連する関係法規①
第14回 AL 2	看護管理に関連する関係法規②
第15回	試験およびその解説

成績評価方法	定期試験（筆記）80% 成果物 20%					
教科書	ナーシング・グラフィカ『看護の統合と実践①看護管理』吉田千文 下田京子他（メディカ出版）					
参考文献	『社会保障&関係法規』看護師国試出題基準令和5年版に対応！西田幸典他（メディカ出版）他 随時紹介					
事前学習（内容・時間）	該当範囲の教科書を読んでおくことおよび当該範囲の国家試験問題を配布するため見ておくこと（2時間）					
事後学習（内容・時間）	授業後配布した資料などを復習しておくこと。疑問に思ったことは次回までに整理し、質問する（2時間）。					
フィードバックの方法	授業後本時のまとめ。復習のミニテスト、課題の説明。					
備考	グループワークやディスカッションには、自己の考えを持って参加する。厚生労働省や看護協会のHPを見る習慣を付けること。			オフィスアワー		授業の前後およびメールは随時OK
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力（看護実践力）
	○	○	○	○	○	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
地域リハビリテーション論	三好 弘之	講義	3年次 前期	選択	2	30	KSP32101

科目の概要

わが国では、世界に先駆け超高齢社会に突入したことで様々な問題（医療経済の負担増、寝たきり高齢者や認知症高齢者の増加等）が生じている。それらの問題解決策の一つとして地域包括ケアシステムの構築に向けた取組みがされている。さらに、高齢者や障害者、子どもに対する虐待、8050問題（9060問題）といわれるひきこもり問題、格差社会による貧困問題等の対応に対しても高齢者だけでなく一人ひとりの地域住民に向けた地域包括ケアシステムの構築が重要とされている。それらを踏まえて本講義では、「地域包括ケアシステムと看護に期待される役割」とは何かについて講義する。そして、高齢者や子ども、障害者への支援における問題点や支援体制をより具体的に把握するために様々な現場の医療や福祉従事者の生の声を聴き、今後、地域で期待されている看護師の役割・多職種連携のあり方について理解できるように講義する。

到達目標

- 地域リハビリテーションについて、思想・実践のあり方等についての基礎知識を述べることができる。
- 高齢者や障害者が在宅生活するための支援システムについて理解し、各専門職種との連携のあり方を述べるができる。
- 地域において、看護師に求められる理念と知識、チーム医療や多職種連携の重要性について述べるができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	講師自己紹介、「地域」とは何か、「地域リハビリテーション」とは何かについて考える。
第2回	地域リハビリテーションにおける歴史・思想・実践のあり方について考える。
第3回 AL 3	地域での自助、共助、公助等、支え合いについて考える。地域住民に対する聞き取り方法（グループワーク）
第4回	地域リハビリテーションの主要な概念の説明（ノーマライゼーション、ICF、ストレングス、エンパワメント、リカバリー、レジリエンス、ソーシャルインクルージョンなど）
第5回	介護保険の仕組みと地域リハビリテーション（高齢者）「在宅生活の高齢者をイメージする」
第6回 AL 6	地域リハビリテーションの実際 自助グループについて当事者たちの体験談に耳を傾ける
第7回 AL 6	地域リハビリテーションの実際 家族会活動など当事者の家族たちの体験談に耳を傾ける
第8回	地域包括ケアシステムにおける在宅生活者の家族支援についての基礎知識
第9回 AL 6	地域包括支援センター従事者による実践報告と具体的事例による検討（高齢者）
第10回 AL 6	社会福祉法人従事者による実践報告と具体的事例による検討（身体障害者・知的障害者・発達障害者等）
第11回 AL 3	地域における具体的事例による検討（精神障害者）「精神障害者の生活をイメージする」
第12回 AL 6	地域リハビリテーションの実際 地域で活躍している医療・福祉従事者（社会福祉士など）の体験談に耳を傾ける
第13回 AL 6	精神障害者支援における多職種連携とネットワークづくりについて保健所・福祉事務所職員からの実践報告
第14回	地域包括ケアシステムにおける在宅生活者と家族への支援方法
第15回	地域リハビリテーションの今後の課題と総括

成績評価方法	定期試験（レポート）70% 成果物 30%					
教科書	無し（授業の開始前に資料を配布します）					
参考文献	『地域包括ケアと地域医療連携』二木立著（勁草書房）、『障害学のリハビリテーション 障害の社会モデルその射程と限界』川越敏司他編（生活書院）、『ナーシング・グラフィカ 在宅看護論(1)地域療養を支えるケア』櫻井尚子他編（メディカ出版）					
事前学習（内容・時間）	前講義の配布資料の復習をすること（2時間）					
事後学習（内容・時間）	授業の終了前に次回の課題を伝えます（2時間）					
フィードバックの方法	授業終了後、課題について作成し提出していただいた小レポートについては、次回の授業で要点を伝えます					
備 考				オフィスアワー	授業終了後30分	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力（看護実践力）
	○	○	○	○	○	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
移植コーディネーション論	高原 史郎	講義	4年次 後期	選択	2	30	KSP42104

科目の概要

臓器移植の実施には多くの職種が関わり、提供者・受者および家族への精神的ケアや、救急医療・終末期医療に関わる医学的・社会的な多種多様な要因が相互に影響している。提供現場では、家族が親しい人の死を受け止めるための精神的援助やグループ・ケアなど、医学的な対応だけでなく精神的な対応も求められる。この科目では様々な医学分野の講義を通じて、急性期医療、終末期医療、臓器移植という先進医療を総合的に理解できることを目指し、講義によっては専門知識を有するスペシャリストを迎える。

到達目標

- 様々な医学分野の学習を通じて、急性期医療、終末期医療、臓器移植という先進医療の知識を身に付け、述べることができる。
- 臓器移植及び終末期医療に対する自分なりの見解を持ち現場の対応に関する技術について把握し、述べることができる。
- 救急医療の診断・治療についての基本的な考え方を論ずることができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	総論 我が国の脳死移植の現状
第2回	心臓移植・肺移植
第3回	肝臓移植
第4回	腎臓移植・膵臓移植
第5回	ドナー・コーディネーターの役割
第6回	レシピエントコーディネーターの役割
第7回	臨床心理士の役割
第8回	救急医学Ⅰ
第9回	救急医学Ⅱ
第10回 AL 2	臓器移植Ⅰ
第11回	臓器移植Ⅱ
第12回	臓器移植Ⅲ
第13回	臓器移植Ⅳ
第14回	臓器移植Ⅴ
第15回	臓器移植Ⅵ

成績評価方法	定期試験(レポート) 100%					
教科書	なし					
参考文献	なし					
事前学習(内容・時間)	レジメ、講義資料を2回予習すること(2時間)					
事後学習(内容・時間)	講義中に行った小テストについて復習すること(2時間)					
フィードバックの方法	小テストはテスト後に授業内で解説します					
備 考					オフィスアワー	授業日の講義前10分～ 講義終了30分後まで
ディプロマ・ポリシーに 掲げる 能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケー ション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
看護研究の方法	日高・中川・西垣 北島・鷺尾・房間 國松・東尾・園田	講義	3年次 前期	必修	1	30	KSP31204

科目の概要

看護研究の必要性とその意義および看護の研究方法について教授する。実際に看護に関連する疑問・問題の中から研究課題を抽出し、論理的・科学的思考に基づいた研究方法について教示すると共に、その理解を深めることを目指す。

到達目標

- 看護研究の意義と研究方法（量的研究/実験研究・質的研究・文献研究）を理解し、説明できる。
- 適切な論文クリティークができ、看護の現場からの臨床クエスチョンを言語化することができる。
- 仮説を導き出しその仮説に基づき、インタビューガイドや質問項目・質問票を設計できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	イントロダクション、看護研究とは何か 論文のスタイル、研究の種類とその違い
第2回	研究の実施手順、研究計画書とは何か
第3回	質問票設計
第4回	質問票による調査研究の実際
第5回	量的研究1
第6回	量的研究2
第7回	質的研究1
第8回	質的研究2
第9回	研究倫理
第10回 AL 3	文献レビュー演習1
第11回 AL 3	文献レビュー演習2
第12回	量的研究のクリティーク
第13回	質的研究のクリティーク
第14回 AL 3	クリティーク演習1
第15回 AL 3	クリティーク演習2

成績評価方法	成果物 100%					
教科書	『系統看護学講座 別巻 看護研究』坂下玲子（医学書院）					
参考文献	『よくわかる看護研究の進め方・まとめ方ー量的研究のエキスパートをめざして』横山美江 編著、『よくわかる質的研究の進め方・まとめ方ー看護研究のエキスパートをめざして』グレッグ美鈴他編著（医歯薬出版）					
事前学習(内容・時間)	第1回および各講義前のアナウンスに基づき、必要に応じて情報収集や予習をすること（2時間）					
事後学習(内容・時間)	随時指定する課題について、自分の考えをまとめる取り組みをすること（2時間）					
フィードバックの方法	課題提出後に、適宜全体で講評します					
備 考	私語や講義に関係しないスマートフォン操作等は厳禁			オフィスアワー		オフィスアワー一覧表参照
	ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力
	○	○	△	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
看護の探究 (看護の統合)	看護学部 専任教員	講義・演習	4年次 後期	必修	2	60	KSP41201

科目の概要

4年間の学習を振り返り広い視野を持ちながら、自己の看護における関心や課題となるテーマを抽出し文献検索・文献検討を行い、研究目的達成のための実現可能な研究計画書を作成できるように教授する。

到達目標

- 看護に関する研究テーマを設定できる。
- 文献検索・文献検討を通して批判的思考を習得することができる。
- 研究目的達成のための研究計画書を作成することができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 第2回 AL 2 ～ 第30回 AL 2	オリエンテーション ゼミナール形式にて行い、「研究計画書」を作成し提出する。

成績評価方法	成果物 100%					
教科書	『系統看護学講座 別巻 看護研究』坂下玲子他 (医学書院)					
参考文献	適宜紹介します					
事前学習(内容・時間)	講義「看護研究の方法」を復習してください (1時間)					
事後学習(内容・時間)	看護研究計画書が実践可能な「研究計画書」であるのかを再考して、加筆修正を行ってください (1時間)					
フィードバックの方法	「研究計画書」の作成に関する質問や疑問に対しては随時指導します					
備考	4年間の看護教育の総仕上げの授業科目なので、主体的に行動し自己研鑽を怠らないようにしましょう			オフィスアワー		オフィスアワー一覧参照
	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用 (看護実践力)
ディプロマ・ポリシーに 掲げる 能力と授業の対応	○	○	○	○	○	○

IV 専門分野（臨地実習科目）

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
成人看護学実習 I (急性期・回復期)	成人看護学 分野教員	実習	3年次 後期 4年次 前期	必修	3	135	KSP31401

科目の概要

急性または救急疾患あるいは手術を受ける成人期の患者に対し、治療による心身への侵襲に伴う変化と回復過程をふまえ、急性期から回復期における全人的な看護援助（回復促進のための看護、患者およびその家族の社会生活への復帰に向けた看護）が展開できるよう教授する。

到達目標

- 患者や家族を総合的に理解し、急性または救急疾患の患者あるいは手術を受ける患者が心身を整えるための援助を実施できる。
- 急性または救急疾患や手術等の侵襲に対する生体反応を踏まえ、回復促進に向けた援助を科学的根拠のもとで実施できる。
- 身体機能やボディイメージの変化を踏まえ、患者およびその家族が社会生活へ復帰するための援助を実施できる。
- 急性期から回復期における看護の役割や継続について説明できる。
- 看護実践を振り返り、自己の看護観について述べるができる。

授業内容

授業回数・AL	授業計画
AL 5	<p>○実習期間：下記のいずれかで行う。</p> <p>1. 成人看護学実習 I（3週間）</p> <p>3年次 後期 4年次 前期</p> <p>○実習施設：下記のいずれかで行う。（実習施設の法人名は省略）</p> <p>尼崎総合医療センター、星ヶ丘医療センター、北野病院、国立大阪南医療センター、多根総合病院、神戸マリナーズ病院、バリタス病院</p> <p>その他の事項及び実習の詳細については、別途配布する「2023年度後期～2024年度前期 成人看護学実習 I 実習要項」による。</p>

成績評価方法	別途配布する「2023年度後期～2024年度前期 成人看護学実習 I 実習要項」に記載する。					
教科書	実習開始時に提示する					
参考文献	実習開始時に提示する					
事前学習(内容・時間)	成人看護学 I・II・III・IVの講義および演習内容を復習し、成人看護学実習オリエンテーションで提示する事前学習内容をしっかり学習すること。スタンダードプリコーションを含む感染予防対策について学習しておくこと（3時間）					
事後学習(内容・時間)	病態生理や疾病論中に理解できなかったことを振り返り学習すること（3時間）					
フィードバックの方法	実習記録にコメントを入れて返却します					
備考					オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
成人看護学実習Ⅱ (慢性期・終末期)	成人看護学 分野教員	実習	3年次 後期 4年次 前期	必修	3	135	KSP31402

科目の概要

生活習慣病をベースとする慢性疾患患者は、療養を継続しながら生活を維持していくため“自己コントロール”を行う必要がある。生涯にわたり生活調整を必要とする成人期にある患者およびその家族に対して、セルフケア能力を高める援助およびQOLの維持・向上を目指した看護を実践できるように指導する。

到達目標

- 慢性的な健康障害の状態に応じた看護が実践できる。
- 患者および家族がライフスタイルを再構成するための援助ができる。
- 患者の療養生活継続への援助を説明できる。
- 看護実践を通して、慢性期看護について述べるができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
AL 5	<p>○実習期間：下記のいずれかで行う。</p> <p>1. 成人看護学実習Ⅱ（3週間）</p> <p>3年次 後期 4年次 前期</p> <p>○実習施設：下記のいずれかで行う。（実習施設の法人名は省略）</p> <p>大阪刀根山医療センター、星ヶ丘医療センター、大阪暁明館病院、大和病院、神戸マリナーズ厚生会病院、ベリタス病院</p> <p>その他の事項及び実習の詳細については、別途配布する「2023年度後期～2024年度前期 成人看護学実習Ⅱ 実習要項」による。</p>

成績評価方法	別途配布する「2023年度後期～2024年度前期 成人看護学実習Ⅱ 実習要項」に記載する					
教科書	実習開始時に提示する					
参考文献	実習開始時に提示する					
事前学習(内容・時間)	成人看護学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳの講義および演習内容を復習し、成人看護学実習オリエンテーションで提示する事前学習内容をしっかり学習すること。スタンダードプリコーションを含む感染予防対策について学習しておくこと（3時間）					
事後学習(内容・時間)	病態生理や疾病論中に理解できなかったことを振り返り学習すること（3時間）					
フィードバックの方法	記録用紙にコメントして返却する					
備 考	主体的に取り組み、看護とは何かを中範囲理論を用いて考えながら課題解決し、チーム医療の一員として実習する			オフィスアワー		オフィスアワー一覧表参照
	ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
老年看護学実習	老年看護学 分野教員	実習	3年次 後期 4年次 前期	必修	4	180	KSP31403

科目の概要

元気な高齢者や健康障害を持ちながらも地域で暮らす高齢者とのコミュニケーションや触れ合いを通して、日常生活の過ごし方や家族や 社会とのつながりなどを知ることにより高齢者の多様性について理解するとともに、様々な療養場所での生活援助を通して高齢者を総合的にアセスメントし健康障害のレベルに応じた個別性のある看護過程の展開ができるように教授する。

到達目標

- 元気な高齢者が地域でどのような生活や活動をしているのかを説明することができる。
- 高齢者への看護援助を通して、高齢者の多様性を理解し自立・自律を尊重した個別性のある看護過程の展開を実践することができる。
- 家族を含む他職種の役割を理解し、看護職に期待される役割と連携の仕方を説明することができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
AL 5	<p>○実習期間：下記のいずれかで行う。 老年看護学実習 （4週間） 3年次 後期 4年次 前期</p> <p>○実習施設：下記の1と2のいずれかを組み合わせて行う。（実習施設の法人名は省略） 1. フィールド実習：大阪市内高齢者施設、ATCエイジレスセンター 2. 施設実習：介護老人保健施設 (ポート愛ランド。老健、ポート愛ランド。老健ムーチョ、摂津老健ひかり他)</p> <p>その他の事項及び実習の詳細については、別途配布する「2023年度後期～2024年度前期 老年看護学実習 実習要項」による。</p>

成績評価方法	別途配布する「2023年度後期～2024年度前期 老年看護学実習 実習要項」に記載する					
教科書	実習開始時に提示する					
参考文献	実習開始時に提示する					
事前学習(内容・時間)	老年看護学Ⅰ～Ⅳの内容を振り返り、実習で活用できるよう資料をファイリングする、その他後日提示する					
事後学習(内容・時間)	実習を振り返り自己の課題を見つけ取り組む(適宜)					
フィードバックの方法	記録物にコメントを入れるとともに、その都度口頭にて指導を行う					
備考					オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
小児看護学実習	松尾ひとみ 西村 郁香	実習	3年次 後期 4年次 前期	必修	2	90	KSP31404

科目の概要

セルフケアの観点から子どもの成長・発達段階、健康段階に適した、子どもと家族を尊重したケアを実践できるよう指導する。

到達目標

- 健康なこどもの成長・発達と生活習慣の獲得過程を理解し、こどもを尊重し、こどもが健康に育つための関わり（集団にむけての関わり・個別性のある関わり）について説明できる。
- 健康な子どもと病気をもつ子どもを比較し、子どもの成長・発達と生活習慣の獲得過程に、疾病・治療・入院・家族関係がどのように影響しているか説明できる。
- 子どもと家族の目線に添ったケアを行い、その根拠を説明できる。

授業内容

授業回数・AL	授業計画
AL 5	<p>○実習期間：下記のいずれかで行う。</p> <p>1. 保育園実習（1週間） 3年次</p> <p>2. 小児病棟実習（1週間） 3年次</p> <p>○実習施設：下記のいずれかで行う。（実習施設の法人名は省略）</p> <p>1. 保育園：摂津ひかり幼稚園、摂津ひかり保育園、正雀ひかり保育園、鳥飼さつき園、摂津さつき保育園</p> <p>2. 小児病棟実習：東大阪市立医療センター、旭こども病院、北野病院、伊丹病院、県立尼ヶ崎医療センター</p> <p>その他の事項及び実習の詳細については、別途配布する「2023年度後期～2024年度前期 小児看護学実習 実習要項」による。</p>

成績評価方法	別途配布する「2023年度後期～2024年度前期 小児看護学実習 実習要項」に記載する					
教科書	なし					
参考文献	なし					
事前学習(内容・時間)	小児の成長発達の一覧表の修正と、事前学習の課題（10時間）					
事後学習(内容・時間)	出された課題について学習する（5時間）					
フィードバックの方法	実習のカンファレンスやまとめで、適宜個別指導する					
備考				オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
母性看護学実習	鷺尾・東尾 園田	実習	3年次 後期 4年次 前期	必修	2	90	KSP31405

科目の概要

産科施設、助産師会等を実習施設として、母児に対する看護の実際を教授する。具体的には、周産期や乳幼児期の母子と家族への看護実践活動から、妊婦、産婦、褥婦とそのパートナー、児および家族への支援に必要な能力を養うとともに、ウェルネスの視点に基づいて、看護展開が行えるように教授する。

到達目標

- 周産期の母子およびそのパートナーや家族に対する看護過程の展開および実施した看護実践を記述できる。
- 妊娠期から乳幼児を持つ女性の健康問題と援助法を説明できる。
- 生命の誕生や母子・親子、家族の在り方について、ディスカッション及び記述することができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
AL 5	<p>○実習期間：下記のいずれかで行う。</p> <p>母性看護学実習（2週間）</p> <p>3年次 2023年9月25日（月）～12月22日（金） 2024年1月9日（火）～3月22日（金）</p> <p>○実習施設：下記のいずれかで行う。（実習施設の法人名は省略）</p> <p>尼崎総合医療センター、大阪母子医療センター、北野病院、大阪南医療センター 済生会茨木病院、吹田徳州会病院、ベルランド総合病院、八尾市立病院、洛和会音羽病院 大阪府助産師会 いわしま助産院、きた助産所</p> <p>その他の事項及び実習の詳細については、別途配布する「2023年度後期～2024年度前期 母性看護学実習 実習要項」による。</p>

成績評価方法	「2023年度後期～2024年度前期 母性看護学実習 実習要項」内に提示しているルーブリック評価によって行う					
教科書	実習開始時に提示する					
参考文献	実習開始時に提示する					
事前学習(内容・時間)	実習に際する事前学習（夏季休暇課題や既習科目の復習）（2時間）					
事後学習(内容・時間)	受け持ち対象者の看護過程の展開（2時間）					
フィードバックの方法	夏期休暇事前学習は実習開始前に返却します。実習中、適時個別に実習内容のフィードバックを行います。					
備 考					オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用能力（看護実践力）
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
精神看護学実習	西垣・木村 棕本・東野	実習	3年次 後期 4年次 前期	必修	2	90	KSP31406

科目の概要

精神に障害をもつ人とのかかわりを通して、その人の抱えている問題をオレム・アンダーウッド理論や、ストレングスモデルを使って理解し、その人自身がもつ力をケアにいかすことを指導する。また実習を通して自己を振り返り人間対人間のかかわりを教授する。

到達目標

- 心に病を持つ人とのかかわりを通して、心の健康と病気についての知識を融合し説明できる。
- セルフケアレベルを把握し、心の病を持つ人の人間性やもっている力を大切に援助をすることができる。
- リハビリテーション看護や精神保健福祉医療における看護の役割や意味を説明することができる。

授業内容

授業回数・AL	授業計画
AL 5	<p>○実習期間：下記のいずれかで行う。</p> <p>精神看護学実習（2週間）</p> <p>3年次 後期 4年次 前期</p> <p>○実習施設：下記のいずれかで行う。</p> <p>1. 病院実習：有馬病院、八尾こころのホスピタル、オレンジホスピタル 他 2. 地域精神保健医療施設実習：やすらぎの苑、KITA作業所、訪問看護ステーションN</p> <p>その他の事項及び実習の詳細については、別途配布する「2023年度後期～2024年度前期 精神看護学実習 実習要項」による。</p>

成績評価方法	別途配布する「2023年度後期～2024年度前期 精神看護学実習 実習要項」に記載する					
教科書	実習開始時に提示する					
参考文献	実習開始時に提示する					
事前学習(内容・時間)	オリエンテーション時に指示された事前課題をおこなう（6時間程度）					
事後学習(内容・時間)	受け持ち患者の理解のために、随時課題に取り組む（1日2時間程度）					
フィードバックの方法	実習記録にコメントをつけて返却し、実習期間中は随時指導をおこなう					
備考					オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
在宅看護論実習	桶河 華代	実習	3年次 後期 4年次 前期	必修	2	90	KSP31407

科目の概要

家族を含む在宅看護の対象者へ提供される看護の実際から、訪問看護の役割と機能を教授する。また、在宅療養を支援する保健・医療・福祉機関で展開される様々なサービスや専門職の役割が分かり、他職種との連携・協働について理解できるよう指導する。

到達目標

- 家族を含む在宅看護の対象者へ提供される看護の実際から、訪問看護の役割と機能を説明できる。
- 在宅療養を支援する保健・医療・福祉機関で展開される様々なサービスや専門職の役割が説明できる。
- 在宅療養を支える他職種との連携・協働の実際について説明できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
AL 5	<p>○実習期間：下記のいずれかで行う。</p> <p>1. 在宅看護論実習（2週間）（訪問看護ステーション実習・居宅介護支援事業所実習） 3年次 後期 4年次 前期</p> <p>○実習施設：下記のいずれかで行う。（実習施設の法人名は省略）</p> <p>1. 訪問看護ステーション実習：多根訪問看護ステーション、阪和訪問看護ステーション 訪問看護ステーションそよかぜ、垂水訪問看護ステーション、つばい訪問看護ステーション ハピネス訪問看護ステーション、訪問看護ステーションあんさんぶる東淀川サテライトリンク 訪問看護ステーション友楽園、STY訪問看護ステーション</p> <p>2. 居宅介護支援事業所実習：垂水居宅介護支援事業所、STYケアプランセンター、多根総合病院居宅介護支援事業所、そよかぜ居宅介護支援事業所、ハピネスケアプランセンター 他</p> <p>その他の事項及び実習の詳細については、別途配布する「2023年度後期～2024年度前期 在宅看護論実習 実習要項」による。</p>

成績評価方法	別途配布する「2023年度後期～2024年度前期 在宅看護論実習 実習要項」に記載する					
教科書	実習開始時に提示する					
参考文献	実習開始時に提示する					
事前学習(内容・時間)	事前課題の作成を行う（10時間）					
事後学習(内容・時間)	実習内容により随時課題に取り組む（1日1時間）					
フィードバックの方法	実習中、臨地にて随時指導を行う					
備 考				オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照	
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力（看護実践力）
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
総合実習	看護学部 専任教員	実習	4年次 前期	必修	2	90	KSP41401

科目の概要

複数の患者に対して、既習の知識・技術を使い、安全安楽な看護計画を立案し、計画の修正や実施の判断をする基礎的能力を養うことを教授する。看護組織における管理者やリーダー、メンバーの役割を見学を通して理解し、安全で質の高い看護サービスの提供をするために必要な看護管理者の視点を養うように教授する。

到達目標

- 複数の対象者の状態を把握し、適切な看護援助ができる。
- 看護組織における管理の役割について述べるができる。
- 看護実践の振り返りを通して、自己の課題を述べるができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
AL 5	<p>○実習期間：下記のいずれかで行う。</p> <p>1. 総合実習（2週間） 4年次 2023年 7月3日（月）～ 7月28日（金）</p> <p>その他の事項及び実習の詳細については、別途配布する「2023年度前記総合実習要項」による。</p>

成績評価方法	別途配布する「2023年度後期総合実習 実習要項」に記載する					
教科書	実習開始時に提示する					
参考文献	実習開始時に提示する					
事前学習(内容・時間)	看護の役割と機能」「看護の継続性と情報共有」、「看護マネジメント学I（リスクマネジメント）」で学んだ内容を復習する。事前課題（6時間）。					
事後学習(内容・時間)	総合実習での体験をふまえ、看護専門職者としての自己の課題を明らかにする（2時間）					
フィードバックの方法	実習記録のコメントは実習中にフィードバックする					
備 考					オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	○	○	○	○	○	○

助産学専攻科

2023年度 授業計画 (SYLLABUS)

目 次

助産学専攻科

助産学専攻科の教育方針	168
シラバスについて	170
2023年度 学年暦	171
修了要件	172
教育課程	173
実務家教員一覧	174
授業科目（授業要項と授業内容）、凡例	175
Ⅰ 基礎助産学	177
Ⅱ 助産診断・技術学	181
Ⅲ 地域母子保健論	187
Ⅳ 助産管理	189
Ⅴ 助産学実習	191
Ⅵ 助産学実践関連	195

助産学専攻科の教育方針

教育目的

人間の生命や生活の質を真に理解できる感性豊かな人間性ととも、生命の尊厳と人権の尊重を基盤にした倫理観を備え、女性の健康問題の解決に向けたリプロダクティブ・ヘルス/ライツの視点から助産を実践できる能力の育成をめざす。さらにアート＝技を駆使して、助産学の発展に自律的・創造的に取り組める人材を育成する。

【教育目標】

- (1) 感性豊かな人間性と、専門職者としての倫理観を養う。
- (2) リプロダクティブ・ヘルス/ライツの視点に立って、女性のライフステージ各期の健康問題に対応する能力を育成する。
- (3) 人の心の健康と人の心の自由を大切に思い、想像力豊かに様々なライフスタイルの女性の健康支援を担う能力と技術を養う。
- (4) 母子保健のニーズを助産師として捉え、保健・医療・福祉チームとの連携を図り、地域社会に貢献できる能力を養う。
- (5) チーム医療の一員として、自己の役割と責任を自覚し、協働できる力を養う。
- (6) アート＝技を駆使して、助産学の発展に自律的・創造的に取り組める能力と技術を養う。

「入学者受入れの方針」(アドミッション・ポリシー)

下記の能力を備えた受験生を、一般入試選抜試験を通して入学させる。

1. 感性豊かな人間性と、生命や人権の尊重を基盤にした倫理観を育める素養のある人。
2. 協調性、責任感があり、自律したパーソナリティを持つ人。
3. 助産師として地域社会に貢献する意思を持った人。
4. 幅広く学問を学ぼうとする向上心・探求心・創造性を持った人。

「教育編成・実施方針」(カリキュラムポリシー)

助産学専攻科におけるカリキュラムは、本学の理念であるアートを駆使した特色あるカリキュラム構成である。助産学基礎領域、助産学関連領域、助産学実践領域の講義・演習は実習施設との連携により助産師の専門教育を育んでいる。

〈助産学基礎領域〉

1. ウイメンズヘルスの視点を重視した、女性の健康問題を捉えた学び
2. マタニティーヘルスのケアにおける助産実践に必要な知識と技術の学び
3. 専門職としての責務と倫理の学び

〈助産学関連領域〉

1. 都市型の健康問題・社会問題について、地域に根ざした助産師としての取り組みができる「アーバンヘルス」の学び

2. 乳幼児や家族を対象とした継続ケアが展開できる「アタッチメント・ヨガ、ベビーマッサージ」の学び
3. アート＝技を駆使し、悲しみに向き合う家族に寄り添う援助者としての働きができる学び
(助産学実践領域)
1. 助産ケアや周産期ハイリスクの母子看護など、育児支援に向けて他職種と連携・協働し専門性を発揮できる学び
2. リプロダクティブヘルスに関わる支援者として活躍できる学び
3. 女性の健康を守るケアの専門職者として自立した行動と責務を遂行できる学び

「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)

宝塚大学は、豊かな感性と深い理解力、高い実践能力を持つ人材を育成するため、所定の期間在学し、所属学部において定める能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に学位を授与する。助産学専攻科は看護基礎教育を生かし、大学の理念や教育目的を基盤とした助産の理論や実践能力を修得し、専門職者として以下の能力が認められることとする。

1. グローバルな視点に立ち、時代のニーズに即応できる助産実践能力。
2. 他職種と連携・協働し、リーダーシップが取れる自立した母子保健活動の実践能力。
3. 専門知識・技術の発展向上を図る為の研究的姿勢、科学的根拠に基づいた助産ケアを探究できる能力。

シラバスについて

シラバスは学生に単位取得のための履修科目選択の情報を提供する履修科目一覧としての役割と、履修する個々の授業科目について科目の目標、授業内容などの授業計画を示すとともに、学生の教室外における予習などについての指示を与える役割があります。

大学では、単位制をとっており、1単位は①教員が教室などで授業を行う時間、②学生が事前・事後に教室外において予習・復習を行う時間の合計で45時間の学習を要する教育内容をもって構成されています。(大学設置基準第21条)

授業方法	授業時間	教室外学習
講義・演習	15～30時間	30～15時間
実験・実習	30～45時間	15時間

科目の単位を取得するには、授業科目は、授業回数の3分の2以上出席していなければ受験資格が得られません。実習科目は5分の4以上の出席がなければ単位取得資格が得られません。

「StudentGuide Book 2022」の履修方法にも目を通して受験資格、単位取得に必要な条件を確認してください。

皆さんは、自分の将来に向け、助産師になるという目標を掲げていることでしょうか。目標達成に向けて、履修計画を立てる上で、シラバスを十分に活用してください。

2023年4月1日

宝塚大学
助産学専攻科

2023(令和5)年度 学年暦

宝塚大学 助産学専攻科
【大阪梅田キャンパス】

		備 考							備 考																
		日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	備 考									
2023年4月								1								4/1 入学式 4/3~6 新入生ガイダンス期間 4/5 前期履修届提出締切日 4/6 前期授業開始 4/29 平常授業実施	10	1	2	3	4	5	6	7	
		2	3	4	5	6	7	8	8	9	10	11	12	13	14										
		9	10	11	12	13	14	15	15	16	17	18	19	20	21										
		16	17	18	19	20	21	22	22	23	24	25	26	27	28										
		23	24	25	26	27	28	29	29	30	31														
		30																							
5月			(1)	(2)	3	4	5	(6)				1	2	3	4	5/23 創立記念日(平常授業実施) 地域母子保健実習(11月27日~12月1日)	11	5	6	7	8	9	10	11	
		7	8	9	10	11	12	13	12	13	14	15	16	17	18										
		14	15	16	17	18	19	20	19	20	21	22	23	24	25										
		21	22	23	24	25	26	27	26	27	28	29	30												
		28	29	30	31																				
6月						1	2	3						1	2	6/20~6/23前期定期試験 助産学実習Ⅱ(6/26~6/30) 年末年始休業(12/28~1/5)	12	3	4	5	6	7	8	9	
		4	5	6	7	8	9	10	10	11	12	13	14	15	16										
		11	12	13	14	15	16	17	17	18	19	20	21	22	23										
		18	19	20	21	22	23	24	24	25	26	27	(28)	(29)	(30)										
		25	26	27	28	29	30		31																
7月								1								助産学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ(7月3日~1月26日)	20	2	1	(2)	(3)	(4)	(5)	6	2024年1月
		2	3	4	5	6	7	8	7	8	9	10	11	12	13										
		9	10	11	12	13	14	15	14	15	16	17	18	19	20										
		16	17	18	19	20	21	22	21	22	23	24	25	26	27										
		23	24	25	26	27	28	29	28	29	30	31													
		30	31																						
8月				1	2	3	4	5					1	2	3	夏季休業(8/11~17) 助産師国家試験 選択科目集中講義	2	4	5	6	7	8	9	10	2月
		6	7	8	9	10	11	(12)	11	12	13	14	15	16	17										
		13	(14)	(15)	(16)	(17)	18	19	18	19	20	21	22	23	24										
		20	21	22	23	24	25	26	25	26	27	28	29												
		27	28	29	30	31																			
9月						1	2						1	2	9/16~18 宝翔祭期間(予定) うち1日宝翔祭(予定) 9/20 9月卒業生学位記授与式(予定)	3	3	4	5	6	7	8	9	3月	
		3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15		16									
		10	11	12	13	14	15	(16)	17	18	19	20	21	22		23									
		17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29		30									
		24	25	26	27	28	29	30	31																

	日	月	火	水	木	金	土
前期	15	15	15	15	15	15	15
後期	15	15	15	15	15	15	15

- ... 授業日
- ... 定期試験
- 印 ... 祝日(平常授業実施日)
- 印 ... 日曜・祝日(休業日)
- () ... 大学施設閉館日

修了要件

本専攻科を修了するためには、1年以上在学し、下記の単位を取得しなければならない。

助産学専攻科	
基礎助産学	6単位
助産診断技術学	10単位
地域母子保健論	2単位
助産管理	2単位
助産学実習	12単位
助産学実践関連	4単位 以上
計	36単位 以上

助産学専攻科の教育課程

助産学専攻科の教育課程は基礎助産学、助産診断・技術学、地域母子保健論、助産管理学、助産学実習、助産学実践関連の6つの領域から成ります。

基礎助産学の中には、助産学を学ぶ上での基礎的能力を習得することを目的とした「助産学概論」や「周産期の生理と病態Ⅰ・Ⅱ」「母子の心理社会学」の科目があります。

助産診断・技術学は妊娠期から分娩期、産褥期、新生児期までの対象に助産過程を展開する際に必要な基礎的能力と、判断力、実践能力を習得することを目指して展開する科目です。

助産学実践関連の中には都市型の健康問題・社会問題について疫学的視点をもって学ぶ「アーバンヘルステ論」や周産期のグリーフケアと癒しについて考える「アートとグリーフケア」など本専攻科に特有の科目があります。また、助産師として提供できる技術として「ベビーマッサージ」や「アタッチメント・ヨガ」を習得できます。

科目ナンバリングについて

体系的履修の指針となるように、全ての授業科目にアルファベットと5桁の数字からなる科目ナンバリングを付番しています。科目ナンバリングは以下の規則によって付番されています。

科目領域	レベル	科目形式		科目番号（連番）
JSP=専門分野	1=1年次レベル	1=必修 2=選択必修	1=講義 2=講義・演習 3=演習 4=実習	01～99

アクティブラーニングの種別について

アクティブラーニングの要素を含む手法を取り入れる授業回については、以下のアクティブラーニングの種別を数字で授業計画AL欄に記載しています。

- 1 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業
- 2 ディスカッション、ディベート
- 3 グループワーク
- 4 プレゼンテーション
- 5 実習、フィールドワーク
- 6 その他（上記1～5に当てはまらないアクティブラーニング）

教育課程

区分	授業科目	科目ナンバー	配当年次	単位数		時間数	修了要件
				必修	選択		
基礎助産学	助産学概論	JSP11101	1 前期	1		30	必修6単位
	周産期の生理と病態 I	JSP11102	1 前期	2		30	
	周産期の生理と病態 II	JSP11103	1 前期	2		30	
	母子の心理社会学	JSP11104	1 前期	1		15	
助産診断・技術学	助産診断・技術学 I	JSP11201	1 前期	1		15	必修10単位
	助産診断・技術学 II	JSP11202	1 前期	2		30	
	助産診断・技術学 III	JSP11203	1 前期	2		30	
	助産診断・技術学 IV	JSP11204	1 前期	1		15	
	助産診断・技術学演習 I	JSP11301	1 前期	2		60	
	助産診断・技術学演習 II	JSP11205	1 前期	2		60	
地域母子保健論	JSP11105	1 前期	2		30	必修2単位	
助産管理	助産管理学	JSP11106	1 後期	2		30	必修2単位
助産学実習	助産学実習 I	JSP11401	1 通年	3		135	必修12単位
	助産学実習 II	JSP11402	1 通年	6		270	
	助産学実習 III	JSP11403	1 通年	2		90	
	地域母子保健実習	JSP11404	1 後期	1		45	
助産学実践関連	助産学研究	JSP11107	1 後期	1		30	必修2単位
	アーバンヘルスト論	JSP11108	1 後期	1		15	
	アートとグリーフケア	JSP12201	1 後期		1	15	選択必修 2単位以上
	アタッチメント・ヨガ	JSP12202	1 後期		1	30	
	アタッチメント・ベビーマッサージ	JSP12203	1 後期		1	30	
修了要件単位数							36単位以上
助産師国家試験受験資格を取得する場合の最低必要単位数							

実務家教員一覧

担当教員	専任／非常勤	2023 授業科目	科目ナンバ-	配当年次	必修	単位数	時間数	実務経験の概要	実務経験の反映内容
南田 智子	専任	助産学概論	JSP11101	1 前期	必修	1	30	助産師として総合病院での臨床経験があり、地域母子保健活動では母子訪問や養育支援訪問の経験がある。また、看護部長として安全管理ならびに感染管理をマネジメントし、臨地実習等の看護教育に関わってきた。	複雑化する母子や家族をどのようにとらえて支援していくのか。実務経験を活かして健康の社会決定要因を踏まえたアセスメントや支援のあり方を教授する。
		助産診断・技術学Ⅱ	JSP11202	1 前期	必修	2	30		
		助産診断・技術学演習Ⅰ	JSP11301	1 前期	必修	2	60		
		助産診断・技術学演習Ⅱ	JSP11205	1 前期	必修	2	60		
		助産管理学	JSP11106	1 後期	必修	2	30		
		助産学研究	JSP11107	1 後期	必修	1	30		
		助産学実習Ⅰ	JSP11401	1 通年	必修	3	135		
		助産学実習Ⅱ	JSP11402	1 通年	必修	6	270		
		助産学実習Ⅲ	JSP11403	1 通年	必修	2	90		
		地域母子保健実習	JSP11404	1 後期	必修	1	45		
		アタッチメント・ヨガ	JSP12202	1 後期	選択	1	30		
		アタッチメント・ベビーマッサージ	JSP12203	1 後期	選択	1	30		
中尾 幹子	専任	助産学概論	JSP11101	1 前期	必修	1	30	総合病院で助産師として臨床経験および地域での母子訪問活動経験がある。	臨床や地域母子保健活動での実務経験を活かしながら、最新のデータや法制度についても提示し教授する。
		助産診断・技術学Ⅰ	JSP11201	1 前期	必修	1	15		
		助産診断・技術学Ⅲ	JSP11204	1 前期	必修	1	15		
		助産診断・技術学演習Ⅰ	JSP11301	1 前期	必修	2	60		
		助産診断・技術学演習Ⅱ	JSP11205	1 前期	必修	2	60		
		地域母子保健論	JSP11105	1 前期	必修	2	30		
		助産管理学	JSP11106	1 後期	必修	2	30		
		助産学実習Ⅰ	JSP11401	1 通年	必修	3	135		
		助産学実習Ⅱ	JSP11402	1 通年	必修	6	270		
		助産学実習Ⅲ	JSP11403	1 通年	必修	2	90		
		地域母子保健実習	JSP11404	1 後期	必修	1	45		
		アートとグリーンケア	JSP12201	1 後期	必修	1	15		
林 資子	専任	助産診断・技術学演習Ⅰ	JSP11301	1 前期	必修	2	60	助産師として、産婦人科病棟や助産師外来の臨床経験がある。また、外来・病棟副主任や臨床指導者として看護学生・助産師学生の教育・指導に携わってきた。	臨床での経験を踏まえ、妊娠・分娩・産褥期にある母子とその家族にエビデンスに基づいた判断や実践的な援助技術について教授する。
		助産診断・技術学演習Ⅱ	JSP11205	1 前期	必修	2	60		
		助産学実習Ⅰ	JSP11401	1 通年	必修	3	135		
		助産学実習Ⅱ	JSP11402	1 通年	必修	6	270		
		助産学実習Ⅲ	JSP11403	1 通年	必修	2	90		
		地域母子保健実習	JSP11404	1 後期	必修	1	45		

カリキュラム単位数合計

29

授 業 科 目

授業要項と授業内容

凡 例

2023年度のシラバスは次の原則にしたがって編集されています。

1. 授業科目は以下の分野に分かれています。
 - I. 基礎助産学
 - II. 助産診断・技術学
 - III. 地域母子保健論
 - IV. 助産管理
 - V. 助産学実習
 - VI. 助産学実践関連

2. 授業科目はsemester制による前期科目および後期科目、一年を通して行われる通年科目の2種類に分かれています。

I 基礎助産学

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
助産学概論	南田 智子 中尾 幹子	講義	1年次 前期	必修	1	30	JSP11101

科目の概要

助産の意義や基本概念を概説し、助産師の役割と責務を遂行するための知識について教授する。助産の変遷や国際比較、女性の社会問題や生命倫理についての学びを通し、自己の助産観、倫理観を養うことを目的とする。

到達目標

- 助産の基本概念、意義を理解し、説明できる。
- 助産の変遷や助産師教育について学び、今後の助産、助産師教育の課題を考えることができる。
- 女性を取り巻く社会問題、健康問題について広い視野を持ち考えることができる。
- 助産師としての職業倫理、生命倫理について自己の倫理観を述べるができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	助産の概念 助産の定義・意義・対象 助産の変遷①
第2回	助産の変遷② 助産の将来
第3回 AL 4	助産の文化的側面：産育風俗
第4回	助産師の専門性と責任
第5回	助産師教育の変遷（日本と諸外国）
第6回	女性の健康と人権
第7回	女性の貧困
第8回	倫理的に考えるとは
第9回	生殖補助医療をめぐる倫理① 不妊とはどういう問題なのか
第10回	生殖補助医療をめぐる倫理② 高度生殖補助医療をめぐる
第11回	妊娠中絶をめぐる
第12回	出生前診断が投げかける問い
第13回	さまざまなジェンダー現象
第14回 AL 2	ワークライフバランスを実現するために
第15回	私の助産観

成績評価方法	定期試験（レポート）80% 成果物 20%		
教科書	『助産学講座1 基礎助産学[1] 助産学概論』我部山キヨ子、武谷雄二編（医学書院）		
参考文献	適宜、提示します		
事前学習（内容・時間）	教科書の該当箇所を読んでおくこと（1時間）		
事後学習（内容・時間）	講義内容を復習すること（1時間）		
フィードバックの方法	講義内でのプレゼンテーションにはコメントを返します。質問などには、講義内で対応します。		
備考	助産の概念や生命倫理、女性の社会問題などについて学び助産師としての基本的な姿勢を培います。専門職者としての意識をもち、授業に臨みましょう。	オフィスアワー	オフィスアワー一覧参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 グローバルな視点に立ち、時代のニーズに即応できる助産実践能力	2 他職種と連携・協働し、リーダーシップが取れる自立した母子保健活動の実践能力	3 専門知識・技術の発展向上を図る為の研究的姿勢、科学的根拠に基づいた助産ケアを探索できる能力
	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
周産期の生理と病態 I	藤田圭以子	講義	1年次 前期	必修	2	30	JSP11102

科目の概要

妊娠・分娩・産褥・新生児期における正常な病態生理を理解し、生理的経過をアセスメントするための基礎知識を教授する。助産師として正常な妊産婦、新生児の経過診断ができるよう、臨床での具体的な事例や検査データなどを示しながら講義する。

到達目標

- 妊娠期の母体と胎児の生理的変化を理解し、説明できる。
- 分娩の3要素、分娩機転、分娩期の母体と胎児の生理的変化を理解し説明できる。
- 産褥婦と新生児の生理的変化を理解し、説明できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	妊娠期の生理と病態①
第2回	妊娠期の生理と病態②
第3回	妊娠期の生理と病態③
第4回	妊娠期の生理と病態④
第5回	分娩期の生理と病態①
第6回	分娩期の生理と病態②
第7回	分娩期の生理と病態③
第8回	分娩期の生理と病態④
第9回	産褥期の生理と病態①
第10回	産褥期の生理と病態②
第11回	産褥期の生理と病態③
第12回	妊娠期の栄養①
第13回	妊娠期の栄養②
第14回 AL 3	新生児の生理と病態①
第15回	新生児の生理と病態②

成績評価方法	定期試験(筆記) 100%		
教科書	『病気がみえる vol.10 産科 (第3版)』医療情報科学研究所 (MEDIC MEDIA) 『助産学講座2 基礎助産学[2]母子の基礎科学』我部山キヨ子編 (医学書院) 『助産学講座3 基礎助産学[3]母子の健康科学』我部山キヨ子編 (医学書院)		
参考文献	『新生児学入門』仁志田博司 (医学書院)、『最新産科学 正常編』荒木勤 (文光堂)		
事前学習(内容・時間)	教科書の該当箇所を読んでおくこと (2時間)		
事後学習(内容・時間)	講義資料を見直して、復習すること (2時間)		
フィードバックの方法	質問などには講義内に対応します。試験結果は閲覧可能です。間違ったところは見直しをしてください。		
備考	助産実践の基礎となる病態生理です。しっかり取り組みましょう。	オフィスアワー	講義終了後30分
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 グローバルな視点に立ち、時代のニーズに即応できる助産実践能力	2 他職種と連携・協働し、リーダーシップが取れる自立した母子保健活動の実践能力	3 専門知識・技術の発展向上を図る為の研究的姿勢、科学的根拠に基づいた助産ケアを探究できる能力
	○	△	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
周産期の生理と病態Ⅱ	堀 謙輔	講義	1年次 前期	必修	2	30	JSP11103

科目の概要

助産師として自ら母体や胎児をアセスメントし、ケアを行うために必要な知識、すなわち、妊娠期・分娩期・産褥期における母体と胎児の異常な経過と分娩や産褥の経過に影響を及ぼす基礎疾患や感染症について、その概要、診断法、治療法についての産婦人科診療ガイドラインを中心とした最新の医学的根拠や講師の臨床経験を織り交ぜて講義する。

到達目標

- 妊娠期の異常とハイリスク妊娠について説明できる。
- 分娩期の正常からの逸脱状態を診断でき、異常分娩の際の処置や対応を説明できる。
- 産褥期ならびに新生児期の異常について説明できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL 1	妊娠期の異常①
第2回 AL 1	妊娠期の異常②
第3回 AL 1	妊娠期の異常③
第4回 AL 1	妊娠期の異常④
第5回 AL 1	分娩期の異常①
第6回 AL 1	分娩期の異常②
第7回 AL 1	分娩期の異常③
第8回 AL 1	分娩期の異常④
第9回 AL 1	産褥期の異常①
第10回 AL 1	産褥期の異常②
第11回 AL 2	産褥期の異常③ /意見交換
第12回	無痛分娩の基礎
第13回	無痛分娩の管理
第14回	産褥期の栄養
第15回	ハイリスク新生児の生理と病態

成績評価方法	定期試験（筆記）100%		
教科書	『病気がみえる vol.10 産科（第3版）』医療情報科学研究所（MEDIC MEDIA） 『助産学講座2基礎助産学[2]母子の基礎科学』我部山キヨ子編（医学書院） 『助産学講座3 基礎助産学[3] 母子の健康科学』我部山キヨ子編（医学書院）		
参考文献	『新生児学入門』仁志田博司（医学書院）、『最新産科学 正常編』『最新産科学 異常編』荒木勤（文光堂）『産婦人科診療ガイドライン産科編2020』（日本産科婦人科学会）		
事前学習（内容・時間）	教科書の該当ページを読んでくること（2時間）		
事後学習（内容・時間）	各自講義内容を復習すること（2時間）		
フィードバックの方法	質問事項については、授業内で解説します。講義中に、基礎知識の振り返りや忌憚のない意見を求めて、質問することがあります。		
備考	オフィスアワー		講義終了後30分
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 グローバルな視点に立ち、時代のニーズに即応できる助産実践能力	2 他職種と連携・協働し、リーダーシップが取れる自立した母子保健活動の実践能力	3 専門知識・技術の発展向上を図る為の研究的姿勢、科学的根拠に基づいた助産ケアを探索できる能力
	○	△	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
母子の心理社会学	菅生 聖子	講義	1年次 前期	必修	1	15	JSP11104

科目の概要

母親へのケアを行う上で、その心理社会的状況への視点は必須である。本講義では、それらの知識・理解を深めるため母子や家族の心理社会的課題とサポートの具体的方法を説明する。心理的支援について基礎的技術を含め事例を通して教授する。

到達目標

- 母子の心理社会的支援の基本と方法を理解、実践できる。
- カウンセリングの基礎的技術について各概要を理解し説明できる。
- 周産期における心理的サポートが必要な対象に対する相談対応を身につける。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回 AL 3	ライフサイクルと心理・社会的課題
第2回 AL 2	妊娠・出産をめぐる心理・社会的課題
第3回 AL 2	妊娠・出産後のメンタルヘルス
第4回 AL 3	親子関係の形成と課題
第5回 AL 3	家族と社会
第6回 AL 3	心理的支援の基本的態度
第7回 AL 2	事例を踏まえたロールプレイ 1 育児不安や産後うつ疑いのケース等
第8回 AL 2	事例を踏まえたロールプレイ 2 DV/虐待疑いのあるケース等

成績評価方法	成果物 100%		
教科書	『助産学講座4 基礎助産学[4]母子の心理・社会学』我部山キヨ子・菅原ますみ編 (医学書院)		
参考文献	講義内で適宜紹介する		
事前学習(内容・時間)	日ごろから親子の心理社会学に関する情報に注意を向け、自身の考えを巡らせておくこと (2時間)		
事後学習(内容・時間)	学習内容について、自身の考えや価値観を改めて理解し深めておくこと (2時間)		
フィードバックの方法	講義内でいくつか取り上げ、必要に応じてフィードバックを行う		
備 考		オフィスアワー	授業前後で教室で質問を受け付ける
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 グローバルな視点に立ち、時代のニーズに即応できる助産実践能力	2 他職種と連携・協働し、リーダーシップが取れる自立した母子保健活動の実践能力	3 専門知識・技術の発展向上を図る為の研究的姿勢、科学的根拠に基づいた助産ケアを探究できる能力
	○	○	○

Ⅱ 助産診断・技術学

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
助産診断・技術学Ⅰ	中尾 幹子	講義・演習	1年次 前期	必修	1	15	JSP11201

科目の概要

本科目は妊娠の生理とフィジカルアセスメントの視点を学ぶことにより、妊娠期の助産診断が出来る能力を養うことが目的である。また、妊婦への身体的ケア、心理的ケアの具体的な方法を教授する。科目内での講義をもとに、妊娠期の事例を展開し、助産診断、助産計画の実際が理解できるよう指導する。

到達目標

- 妊婦の身体・心理・社会的状態について診断し、必要な援助の助産計画を立案できる。
- 妊婦と家族への支援内容や援助技術について説明できる。
- 妊娠期の異常やハイリスク状態について理解し、対象の個別性に応じた支援を述べるができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	助産診断とマタニティ診断・臨床推論
第2回	妊娠期の助産診断
第3回	妊娠期の援助技術
第4回 AL 2	妊娠初期の助産診断
第5回 AL 2	妊娠初期の助産計画
第6回 AL 2	妊娠中期の助産診断と助産計画
第7回 AL 2	妊娠後期の助産診断と助産計画
第8回	ハイリスク・異常妊婦のアセスメントと支援

成績評価方法	定期試験（筆記）80% 成果物 20%		
教科書	『助産学講座5 助産診断・技術学Ⅰ』堀内成子編（医学書院）、『助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱ[1]妊娠期』我部山キヨ子編（医学書院）、『実践マタニティ診断（第5版）』日本助産診断・実践研究会（医学書院）		
参考文献	『今日の助産（第4版）』北川眞理子編（南江堂）		
事前学習（内容・時間）	教科書の該当箇所を読んでおくこと（2時間）		
事後学習（内容・時間）	講義内容を復習し提示された課題に取り組むこと（2時間）		
フィードバックの方法	妊娠各期の助産過程は各自で記述した内容にコメントを返します。質問は講義内で解説します。		
備考	事例を用いて、妊娠期の助産過程を展開します。実習に直結する内容です。気を引き締めて取り組みましょう。	オフィスアワー	オフィスアワー一覧参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 グローバルな視点に立ち、時代のニーズに即応できる助産実践能力	2 他職種と連携・協働し、リーダーシップが取れる自立した母子保健活動の実践能力	3 専門知識・技術の発展向上を図る為の研究的姿勢、科学的根拠に基づいた助産ケアを探索できる能力
	△	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
助産診断・技術学Ⅱ	南田 智子	講義・演習	1年次 前期	必修	2	30	JSP11202

科目の概要

分娩期における助産診断に必要な基礎知識を修得するために、分娩経過における助産診断に必要な基礎知識、評価表、観察法、ならびに分娩経過に伴う妊婦および胎児の健康水準診断を教授する。

到達目標

- 分娩各期の助産診断、異常分娩時の助産診断のための情報を統合しアセスメントできる。
- 分娩各期および異常分娩時の助産計画が立案できる。
- 産婦と家族への支援内容や援助方法について述べることができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	助産師が行う分娩期のケア
第2回	分娩経過の診断に必要な知識
第3回	分娩経過の診断・アセスメントの視点
第4回	分娩経過に伴う診断・アセスメントとケア
第5回	分娩期の異常とそのケア
第6回	分娩進行に伴う正常経過逸脱の予測と予防
第7回	分娩期の異常とそのケア 産科手術の介助とケア
第8回	胎児心拍数モニタリング
第9回	分娩経過に伴う診断・アセスメントとケア
第10回 AL 2	正常分娩の助産診断・計画 ①
第11回 AL 2	正常分娩の助産診断・計画 ②
第12回 AL 2	異常分娩の助産診断・計画 ①
第13回 AL 2	異常分娩の助産診断・計画 ②
第14回 AL 2	助産診断・計画発表 ①
第15回 AL 2	助産診断・計画発表 ②

成績評価方法	定期試験（筆記）80% 成果物 20%		
教科書	『助産学講座7助産診断・技術学Ⅱ[2]分娩期・産褥期』我部山キヨ子編（医学書院） 『実践マタニティ診断（第5版）』日本助産診断・実践研究会（医学書院）		
参考文献	『病気がみえる10産科』（メディックメディア）、『今日の助産（第4版）』北川眞理子編（南江堂）、『産婦人科診療ガイドライン産科編2020』（日本産婦人科学会）、『エビデンスに基づく助産ガイドライン—妊娠期・分娩期・産褥期2020』（日本助産学会）、『助産業務ガイドライン2019』（日本助産師会）		
事前学習（内容・時間）	母性看護学で学んだ正常分娩経過を復習し、参考書等の事例から看護過程の展開を1例行っておく。教科書の該当箇所を読んでおく（3時間）。		
事後学習（内容・時間）	既習の講義内容については復習し、課題に取り組む（2時間）		
フィードバックの方法	授業はじめに毎回小テストを実施し、学習の確認を行う		
備考	授業には積極的に参加し、活発な発言を期待します	オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 グローバルな視点に立ち、時代のニーズに即応できる助産実践能力	2 他職種と連携・協働し、リーダーシップが取れる自立した母子保健活動の実践能力	3 専門知識・技術の発展向上を図る為の研究的姿勢、科学的根拠に基づいた助産ケアを探究できる能力
	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
助産診断・技術学Ⅲ	中尾 幹子	講義・演習	1年次 前期	必修	2	30	JSP11203

科目の概要

褥婦の生理とフィジカルアセスメントの視点から、産褥期とその後の産後期における助産診断および助産計画立案の思考過程を講義する。また、セルフケア能力に応じた支援および逸脱への予防的支援、母乳育児のための支援、親役割獲得や家庭・社会生活復帰のための支援などの具体的な方法を教授する。

到達目標

- 助産診断の視点に沿って情報収集・情報分類を行い、情報を解釈・分析してアセスメントできる。
- 事例課題について逸脱への予防的支援、親役割獲得のための支援、家庭・社会生活復帰のための支援を立案できる。
- 産褥期・産後期のハイリスク状態についてアセスメントし、予防的支援および異常発生時の対応について説明できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	産褥期のフィジカルアセスメント
第2回	産褥期のセルフケア能力に応じた支援
第3回	母乳育児のための支援①
第4回	母乳育児のための支援②
第5回	産褥期の異常とその支援
第6回	親役割獲得のための支援
第7回	家庭・社会生活復帰のための支援
第8回 AL 2	産褥早期の助産診断・助産計画①
第9回 AL 2	産褥早期の助産診断・助産計画②
第10回 AL 2	産褥早期の助産診断・助産計画③
第11回 AL 2	退院から産後1か月までの助産診断・助産計画
第12回	心理社会的ハイリスクと産後ケア
第13回	乳児期・産後期の異常とその支援
第14回	乳児期・産後期のアセスメント
第15回 AL 2	乳児期・産後期の助産計画

成績評価方法	定期試験(筆記) 80% 成果物 20%		
教科書	『助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ [2] 分娩期・産褥期』我部山キヨ子編 (医学書院) 『実践マタニティ診断 (第5版)』日本助産診断実践学会 (医学書院)		
参考文献	『今日の助産 (改訂第4版)』北川眞理子編 (南江堂)、『母乳育児学』水野克己著 (南山堂) 『母乳育児スタンダード第2版』NPO法人日本ラクテーション・コンサルタント協会編 (医学書院)		
事前学習(内容・時間)	教科書の該当箇所をよく読んでおくこと (2時間)		
事後学習(内容・時間)	講義内容を復習し、提示された課題に取り組むこと (2時間)		
フィードバックの方法	助産過程は各自で記述したものにコメントをつけて返却します		
備考	助産実践に直結する内容です。積極的に学びましょう。	オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 グローバルな視点に立ち、時代のニーズに即応できる助産実践能力	2 他職種と連携・協働し、リーダーシップが取れる自立した母子保健活動の実践能力	3 専門知識・技術の発展向上を図る為の研究的姿勢、科学的根拠に基づいた助産ケアを探究できる能力
	△	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
助産診断・技術学Ⅳ	泉川 孝子	講義・演習	1年次 前期	必修	1	15	JSP11204

科目の概要

正常新生児の適応過程・生理的变化とフィジカルアセスメントの視点から、正常新生児の基本的な助産診断、助産計画の思考過程を講義する。また、出生後の女性と家族が子どもを育てていく上で必要な新生児と乳幼児の生理、罹患しやすい疾患と病態、健康診査に関する基礎的な知識、家庭生活への適応に関する具体的内容とその方法を教授する。

到達目標

- 新生児期・乳幼児期の身体的・心理的・社会的状態についてアセスメントをし、助産診断および助産計画立案ができる。
- 母児一貫したケアの重要性を認識し、正常からの逸脱予防のための支援方法を述べることができる。
- 新生児・乳幼児にかかわる際の倫理的な態度、留意点を説明できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	新生児・乳幼児ケアの基本と適応過程
第2回	新生児のフィジカルアセスメント
第3回	早期新生児のアセスメントとケア
第4回	新生児・乳児の異常とそのケア
第5回 AL 2	新生児の助産診断・助産計画①
第6回 AL 2	新生児の助産診断・助産計画②
第7回 AL 2	新生児の助産診断・助産計画③
第8回 AL 2	新生児の助産診断・助産計画④

成績評価方法	定期試験(筆記) 80% 成果物20%		
教科書	『助産学講座 8 助産診断・技術学Ⅱ [3] 新生児期・乳幼児期』石井邦子編 (医学書院) 『実践マタニティ診断 (第5版)』日本助産診断・実践研究会 (医学書院)		
参考文献	『新生児学入門第5版』仁志田博司著 (医学書院)、『今日の助産 (改訂第4版)』北川眞理子編 (南江堂)		
事前学習(内容・時間)	該当する教科書の内容をよく読んでおくこと (2時間)		
事後学習(内容・時間)	講義内容を復習し、提示された課題に取り組むこと (2時間)		
フィードバックの方法	助産過程は各自が記述したものにコメントをつけて返却します		
備考	実習に直結する内容です。積極的に学びましょう。	オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 グローバルな視点に立ち、時代のニーズに即応できる助産実践能力 △	2 他職種と連携・協働し、リーダーシップが取れる自立した母子保健活動の実践能力 △	3 専門知識・技術の発展向上を図る為の研究的姿勢、科学的根拠に基づいた助産ケアを採求できる能力 ○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
助産診断・技術学演習 I	南田・中尾 林	演習	1年次 前期	必修	2	60	JSP11301

科目の概要

助産師に求められる実践応力として、周産期・産後期の妊産褥婦および胎児・新生児・乳児の健康診断・健康生活診断に必要な基礎的診断技術や援助技術を教授する。また、安全な分娩介助技術、母体急変時の対応や新生児蘇生法について実践能力を身につけられるよう指導する。

到達目標

- 妊産褥婦、新生児の助産診断に必要な診断技術を習得する。
- 妊産褥婦、新生児への援助技術について学び、実践できる。
- 安全、安楽な分娩介助技術を習得する。
- 母体急変時の対応、新生児蘇生法に必要な知識、技術を習得する。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	妊婦の健康診査
第2回 AL 5	妊婦の診断技術：レオポルド触診法、ザイツ法、骨盤外計測
第3回 AL 5	妊婦への援助技術：妊婦体操、腹帯装着
第4回 AL 5	産婦への援助技術：内診、CTG装着、骨盤ベルト装着
第5回 AL 5	産婦の診断技術：産後の観察、退行性変化の観察
第6回 AL 5	分娩介助技術①：分娩介助、胎盤計測
第7回 AL 5	分娩介助技術②：分娩介助、胎盤計測
第8回 AL 5	分娩介助技術③：分娩介助、胎盤計測
第9回 AL 5	産婦への援助技術①：分娩促進法
第10回 AL 5	産婦への援助技術②：分娩促進法
第11回	産婦への援助技術③：アロマの活用①
第12回 AL 5	産婦への援助技術④：アロマの活用②
第13回	産婦への援助技術⑤：東洋医学の活用
第14回 AL 5	新生児の診断技術：出生直後の観察、身体計測
第15回	分娩介助技術④：会陰縫合
第16回	急変時の対応：BLS①
第17回	急変時の対応：BLS②
第18回	新生児蘇生法①
第19回	新生児蘇生法②
第20回	新生児蘇生法③
第21回	新生児蘇生法④
第22回	超音波診断法①：基本操作
第23回	超音波診断法②：基本操作・計測
第24回	分娩介助技術⑤
第25回	分娩介助技術⑥
第26回	分娩介助技術チェック①
第27回	分娩介助技術チェック②
第28回	分娩介助技術チェック③
第29回	分娩介助技術チェック④
第30回	分娩介助技術チェック⑤

成績評価方法	定期試験(実技) 100%		
教科書	『助産学講座 6・7・8』(医学書院)、『新生児蘇生法テキスト』細野茂春監修(メジカルビュー社)		
参考文献	『写真でわかる母性看護技術』平沢美恵子・村上睦子(インターメディカ)、『写真でわかる助産技術』平沢美恵子・村上睦子(インターメディカ)、『助産師のためのフィジカルイグザミネーション』我部山キヨ子(医学書院)、『母乳育児支援スタンダード(第2版)』NPO法人日本ラクテーション・コンサルタント協会(医学書院)		
事前学習(内容・時間)	既習の基礎看護技術を各自復習しておくこと。事前配布資料を読んでおくこと(1時間)		
事後学習(内容・時間)	各診断技術、援助技術、分娩介助技術などは繰り返し練習して身に付けること(1時間)		
フィードバックの方法	技術演習の際は、講義内で適宜、評価コメントを返します		
備 考	診断技術、援助技術は実習に直結する内容です。繰り返し練習して身に付けましょう。	オフィスアワー	オフィスアワー一覧参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 グローバルな視点に立ち、時代のニーズに即応できる助産実践能力	2 他職種と連携・協働し、リーダーシップが取れる自立した母子保健活動の実践能力	3 専門知識・技術の発展向上を図る為の研究的姿勢、科学的根拠に基づいた助産ケアを探索できる能力
	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
助産診断・技術学演習Ⅱ	南田・中尾 林	講義・演習	1年次 前期	必修	1	30	JSP11205

科目の概要

女性のライフサイクル各期における健康問題と援助の必要性について教授する。健康教育の在り方および必要性について解説し、思春期教育、妊娠期の保健指導、両親学級について計画から実施までを行えるよう指導する。また、継続した母子支援のための基礎力を養えるように産後から乳児期までの助産診断、援助技術について教授する。

到達目標

- ライフサイクル各期における女性の健康問題と援助について説明できる。
- 健康教育の計画、立案、実施、評価のプロセスを実践できる。
- 産後、乳児期の診断と母子支援について理解し、説明できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	援助としての相談・教育活動と健康教育
第2回	妊娠期の保健指導
第3回	両親学級
第4回 AL 3	妊娠各期の保健指導案の作成①
第5回 AL 3	妊娠各期の保健指導案の作成②
第6回	産褥期の保健指導：母児同室、沐浴指導、退院指導
第7回 AL 3	産褥期の保健指導案の作成①
第8回 AL 3	産褥期の保健指導案の作成②
第9回 AL 3	産後健康診査と保健指導：2週間健診、1か月健診
第10回	3, 4か月健診のアセスメントと保健指導
第11回	乳児期の成長発達とアセスメント、母親支援
第12回	女性の健康問題と援助<思春期の健康問題>
第13回	思春期教育
第14回	女性の健康問題と援助<成熟期の健康問題>
第15回	女性の健康問題と援助<不妊と生殖補助医療>
第16回	家族計画指導について
第17回	受胎調節に必要な知識と技術
第18回 AL 3	家族計画保健指導案の作成①
第19回 AL 3	家族計画保健指導案の作成②
第20回	女性の健康問題と援助<更年期、老年期の健康問題>
第21回 AL 5	栄養指導実習①
第22回 AL 5	栄養指導実習②
第23回 AL 4	保健指導の実際：ロールプレイ
第24回 AL 4	保健指導の実際：ロールプレイ
第25回 AL 3	健康教育の企画①
第26回 AL 3	健康教育の企画②
第27回 AL 3	健康教育の企画③
第28回 AL 3	健康教育の企画④
第29回 AL 5	健康教育の実際①
第30回 AL 5	健康教育の実際②

成績評価方法	成果物 100%		
教科書	『助産学講座5 助産診断・技術学Ⅰ』堀内成子編（医学書院）		
参考文献	適宜、提示する		
事前学習(内容・時間)	事前配布の資料及び教科書の該当箇所を読んでおくこと（1時間）		
事後学習(内容・時間)	各自、担当の保健指導案、媒体の作成（2時間）		
フィードバックの方法	保健指導案は随時担当教員が確認し、コメントを返します		
備 考	実習の際に行う保健指導の基になる指導案と媒体です。各自で作成し、実習に備えましょう。個別指導のロールプレイや集団指導の実際を行います。	オフィスアワー	オフィスアワー一覧参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 グローバルな視点に立ち、時代のニーズに即応できる助産実践能力	2 他職種と連携・協働し、リーダーシップが取れる自立した母子保健活動の実践能力	3 専門知識・技術の発展向上を図る為の研究的姿勢、科学的根拠に基づいた助産ケアを探索できる能力
	○	○	○

Ⅲ 地 域 母 子 保 健 論

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
地域母子保健論	中尾 幹子	講義	1年次 前期	必修	2	30	JSP11105

科目の概要

地域社会で生活する母親・子ども・父親や家族が置かれている社会的背景や現状、統計的水準、法制度および母子保健の課題について講義する。また、子どもの成長・発達に応じた母子や家族への支援および地域社会で活動する他職種や組織との連携・協働について教授する。

到達目標

- 母子保健に関する統計資料を分析し、母子保健の現状と動向を考察し説明できる。
- 母子保健行政の仕組みや母子保健施策、地域で生活する母子と家族への支援システムについて説明できる。
- 地域で生活する母子と家族を支援する助産師の役割、他職種や関係機関との連携・協働について考察し述べることができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	地域母子保健の概念と意義、グループワーク課題提示
第2回 AL 2	母子保健の現状と動向
第3回	わが国の母子保健行政と制度
第4回	わが国の母子保健施策とその基盤
第5回 AL 2	地域母子保健活動の実際①
第6回 AL 2	地域母子保健活動の実際②
第7回 AL 2	地域母子保健活動の実際③
第8回	地域組織活動と地域子育て支援活動
第9回	母子を取り巻く保健・医療・福祉関係機関との連携・協働
第10回	心理社会的ハイリスクと児童虐待
第11回	社会的養育としての母子支援活動
第12回	災害時の母子保健活動
第13回 AL 4	まとめ発表
第14回	国際母子保健活動①
第15回	国際母子保健活動②

成績評価方法	定期試験(レポート)50% 成果物50%		
教科書	『助産学講座9 地域母子保健・国際母子保健論』我部山キヨ子編 (医学書院)		
参考文献	『母子保健の主なる統計 令和5年』公益社団法人母子衛生研究会		
事前学習(内容・時間)	教科書の該当箇所を読んでおくこと (2時間)		
事後学習(内容・時間)	講義内容を復習すること (2時間)		
フィードバックの方法	質問については講義内で解説します		
備考	多面的な視点から母子保健活動の実際や課題を明らかにできるよう、積極的に学んでいきましょう	オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 グローバルな視点に立ち、時代のニーズに即応できる助産実践能力	2 他職種と連携・協働し、リーダーシップが取れる自立した母子保健活動の実践能力	3 専門知識・技術の発展向上を図る為の研究的姿勢、科学的根拠に基づいた助産ケアを探究できる能力
	○	○	○

IV 助 產 管 理

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
助産管理学	南田 智子 中尾 幹子	講義	1年次 後期	必修	2	30	JSP11106

科目の概要

助産管理の基本的な知識および、産科病棟・院内助産システム・助産院など実践場所ごとの管理の特徴や課題、リスクマネジメントの方法などを教授する。医療事故については具体的な事例を挙げ、リスクマネジメントのあり方についてより身近な問題として各自が考えられよう講義する。

到達目標

- 助産業務の範囲と法的責任を理解し、倫理的観点を踏まえた助産業務管理に必要な知識を述べることができる。
- 助産業務を効果的・効率的に遂行できる基本的能力および危機管理能力について説明できる。
- 開業助産院や院内助産の開設と運営方法について説明できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	授業ガイダンス 看護管理・助産管理の基本 助産管理の概念
第2回	助産と医療経済 助産業務と関連法規 助産師の法的責任と義務
第3回	周産期の医療事故とリスクマネジメント①
第4回	周産期の医療事故とリスクマネジメント②
第5回	病院における助産業務管理過程 助産業務管理方法
第6回	病院における助産業務管理
第7回	周産期管理システム (母体搬送システム オープンシステム)
第8回	周産期管理システム (新生児集中治療室)
第9回	院内助産システムについて
第10回	災害時の助産管理
第11回	災害時の助産活動
第12回	望ましい助産ケアと助産管理
第13回	開業助産院における助産管理①
第14回	開業助産所における助産管理②
第15回	まとめ

成績評価方法	定期試験(筆記) 100%		
教科書	『助産学講座10 助産管理』我部山キヨ子編(医学書院)		
参考文献	『助産師業務要覧Ⅰ・Ⅱ』福井トシ子(日本看護協会出版会)		
事前学習(内容・時間)	教科書の該当箇所を読んでおくこと(2時間)		
事後学習(内容・時間)	講義内容の復習をすること(2時間)		
フィードバックの方法	質問には講義内にお答えします。定期試験結果は閲覧可能ですので間違った箇所は復習してください。		
備考	助産管理と聞いても、イメージしにくいかと思いますが、助産師としては理解しておくべき内容ばかりです。楽しく管理を学びましょう。	オフィスアワー	オフィスアワー一覧参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 グローバルな視点に立ち、時代のニーズに即応できる助産実践能力	2 他職種と連携・協働し、リーダーシップが取れる自立した母子保健活動の実践能力	3 専門知識・技術の発展向上を図る為の研究的姿勢、科学的根拠に基づいた助産ケアを探究できる能力
	○	○	△

V 助 産 学 実 習

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
助産学実習 I	南田・中尾 林	実習	1年次 通年	必修	3	135	JSP11401

科目の概要

助産診断・技術学の学びを基に、妊娠期の母児とその家族に対して助産過程を展開し、必要な援助を行う実習科目である。また、外来における妊婦管理、病棟における産婦管理、母児管理の実際の見学を通し、施設における助産管理の実際や助産業務の範囲について理解できるよう指導する。

到達目標

- 妊娠期の母児とその家族に対して助産過程を展開できる。
- 妊娠各期の対象に必要な保健指導案を作成し、実施できる。
- 病棟、外来における助産業務管理・運用を見学し、助産管理の実際や助産業務管理について説明できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
AL 5	<p>○実習期間：下記のいずれかで行う。 助産学実習 I（2週間） 2023年 7月3日（月）～11月24日（金）</p> <p>○実習施設：下記のいずれかで行う。 伊丹市立病院 川西市立総合医療センター 関西労災病院 国立循環器病センター サンタクルス ザ ウメダ 野村病院</p> <p>その他の事項及び実習の詳細については、別途配布する「2023年度 助産学実習 実習要項」による。</p>

成績評価方法	別途配布する「2023年度 助産学実習 実習要項」に記載する		
教科書	実習開始時に提示する		
参考文献	実習開始時に提示する		
事前学習(内容・時間)	関連する講義・演習内容を復習する（1時間）		
事後学習(内容・時間)	実習記録をまとめ自己評価を行う（1時間）		
フィードバックの方法	実習中は適宜、質問・相談を受けます。実習記録はコメントをつけて返却しますので、見直して追加修正してください。		
備考	学内演習の成果を發揮して、保健指導を実施しましょう	オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 グローバルな視点に立ち、時代のニーズに即応できる助産実践能力	2 他職種と連携・協働し、リーダーシップが取れる自立した母子保健活動の実践能力	3 専門知識・技術の発展向上を図る為の研究的姿勢、科学的根拠に基づいた助産ケアを採求できる能力
	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
助産学実習Ⅱ	南田・中尾 林	実習	1年次 通年	必修	6	270	JSP11402

科目の概要

分娩期にある女性とその家族に対して助産過程を展開し、必要な援助を行う実習科目である。本実習では10例程度の正常分娩の直接介助を行う。分娩直接介助・間接介助を通じて、正常な分娩経過を理解し診断する能力、安全・安楽な分娩に導くための援助方法を習得できるよう指導する。

到達目標

- 分娩期の経過診断、健康生活診断に必要な情報を収集しアセスメント、診断、予測を行うことができる。
- 産婦、新生児への身体的及び心理的援助の具体的方法や内容が理解でき助産計画を立案、実施できる。(分娩介助を含む)
- 分娩経過中の胎児の健康状態を判断し必要な援助を実施することができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
AL 5	<p>○実習期間：下記のいずれかで行う。 助産学実習Ⅱ実習（6～9週間） 2023年6月26日（月）～2024年1月26日（金）</p> <p>○実習施設：下記のいずれかで行う。(実習施設の法人名は省略) 伊丹市立病院 大阪南医療センター 関西労災病院 川西市立総合医療センター 済生会中津病院 野村病院 八尾市立病院</p> <p>その他の事項及び実習の詳細については、別途配布する「2023年度 助産学実習 実習要項」による。</p>

成績評価方法	別途配布する「2023年度 助産学実習 実習要項」に記載する		
教科書	実習開始時に提示する		
参考文献	実習開始時に提示する		
事前学習(内容・時間)	必要な援助技術について練習すること（1時間）		
事後学習(内容・時間)	実習記録をまとめ自己評価を行う（1時間）		
フィードバックの方法	実習中は適宜、質問・相談を受けます。実習記録はコメントをつけて返却しますので、見直して追加修正してください。		
備考	長期間および不規則な実習形態になります。体調管理をして臨んでください。	オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 グローバルな視点に立ち、時代のニーズに即応できる助産実践能力	2 他職種と連携・協働し、リーダーシップが取れる自立した母子保健活動の実践能力	3 専門知識・技術の発展向上を図る為の研究的姿勢、科学的根拠に基づいた助産ケアを探索できる能力
	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
助産学実習Ⅲ	南田・中尾 林	実習	1年次 通年	必修	2	90	JSP11403

科目の概要

1名の対象者を妊娠中から受け持ち、妊婦健康診査、保健指導の実施、分娩介助、産後健診を経て産後4か月までの受け持ちを通じて母児について助産過程を展開する実習科目である。対象者の個別性を考慮した継続的な支援が行えるよう導く。

到達目標

- 妊娠期から産褥・乳児期までを継続して受け持ち助産過程を展開し、助産診断能力、助産実践能力を修得する。
- 受け持ち妊産褥婦と家族に必要な保健指導を実施できる。
- 継続して支援することで、生活圏における母子を支援する他職種、関連機関との連携の在り方を説明できる。
- 受け持ち母子の人権を尊重し、擁護できる。
- 継続受け持ちを通して、助産師としての責任や専門性を認識し、自身の助産師観を述べることができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
AL 5	<p>○実習期間：下記のいずれかで行う。 助産学実習Ⅲ（12週間） 2023年7月3日（月）～12月22日（金）</p> <p>○実習施設：下記のいずれかで行う。（実習施設の法人名は省略） 伊丹市立病院 川西市立総合医療センター 関西労災病院 国立循環器病研究センター 野村病院</p> <p>その他の事項及び実習の詳細については、別途配布する「2023年度 助産学実習 実習要項」による。</p>

成績評価方法	別途配布する「2023年度 助産学実習 実習要項」に記載する		
教科書	実習開始時に提示する		
参考文献	実習開始時に提示する		
事前学習(内容・時間)	関連する講義・演習内容を復習すること（1時間）		
事後学習(内容・時間)	実習記録をまとめ自己評価を行う（1時間）		
フィードバックの方法	実習中は適宜、質問・相談を受けます。実習記録はコメントをつけて返却しますので、見直して追加修正してください。		
備考	受け持たせていただく対象者に、より良い妊娠分娩産褥期を過ごしてもらえるように十分な事前準備をして取り組みましょう	オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 グローバルな視点に立ち、時代のニーズに即応できる助産実践能力	2 他職種と連携・協働し、リーダーシップが取れる自立した母子保健活動の実践能力	3 専門知識・技術の発展向上を図る為の研究的姿勢、科学的根拠に基づいた助産ケアを採求できる能力
	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
地域母子保健実習	南田・中尾 林	実習	1年次 後期	必修	1	45	JSP11404

科目の概要

母子保健活動としての褥婦、新生児の訪問指導や地域組織活動、地域子育て支援の実際を学ぶ実習科目である。それぞれの地域での課題をアセスメントすることで、地域的な視点からの母子保健活動の基礎を理解できるよう指導する。

到達目標

- 大阪市の各地域における母子保健上の課題について、情報収集を行い考察し、説明できる。
- 産前産後ケアセンターでの取り組みや利用者の実態を知り、包括的な母子支援について自身の考えを述べることができる。
- 助産院における助産師活動の実際を学び、地域における助産師の役割について述べるができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
AL 5	<p>○実習期間：下記のいずれかで行う。 地域母子保健実習（1週間） 2023年7月3日（月）～12月22日（金）</p> <p>○実習施設：下記のいずれかで行う。（実習施設の法人名は省略） 大阪市内保健センター 大阪府助産師会産後ケアセンター 助産院：らうらうみっどわいふりい</p> <p>その他の事項及び実習の詳細については、別途配布する「2023年度 助産学実習 実習要項」による。</p>

成績評価方法	別途配布する「2023年度 助産学実習 実習要項」に記載する		
教科書	実習開始時に提示する		
参考文献	実習開始時に提示する		
事前学習(内容・時間)	関連する講義内容を復習。担当地域の情報収集をする（1時間）		
事後学習(内容・時間)	実習記録をまとめ、自己評価する（1時間）		
フィードバックの方法	実習中は適宜、質問・相談を受けます		
備考	病院実習とは違う視点で、助産師の役割や母子保健について学べる実習です。目的を明確に持って、実習に参加しましょう。積極的に意見交換をして、学びを深められるようにしてください。	オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 グローバルな視点に立ち、時代のニーズに即応できる助産実践能力	2 他職種と連携・協働し、リーダーシップが取れる自立した母子保健活動の実践能力	3 専門知識・技術の発展向上を図る為の研究的姿勢、科学的根拠に基づいた助産ケアを探索できる能力
	○	○	○

VI 助産学実践関連

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
助産学研究	南田 智子	講義	1年次 後期	必修	1	30	JSP11107

科目の概要

助産研究を行うための基本的能力を修得することを目的に、研究の意義や基本的研究手法を解説する。実習等で経験した事例のケーススタディや自らの着眼点から、研究計画書作成、調査、分析、考察、公表までの研究プロセスに必要な基礎的知識を教授する。

到達目標

- 研究テーマに関連する文献検索を行い、クリティークを通して理論的推論を発達させる。
- 研究的着眼点から研究デザインを決定し、研究計画書を作成できる。
- 研究論文を作成し、成果を発表できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	助産学研究とは
第2回	助産学研究の基本的研究手法
第3回	看護研究における倫理
第4回 AL 2	文献クリティーク ①
第5回 AL 2	文献クリティーク ②
第6回 AL 5	文献検索・文献検討 ①
第7回 AL 5	文献検索・文献検討 ②
第8回	研究計画書の立案
第9回 AL 2	事例研究の分析・展開 ①
第10回 AL 2	事例研究の分析・展開 ②
第11回 AL 2	事例研究の分析・展開 ③
第12回	研究論文作成 ①
第13回	研究論文作成 ②
第14回 AL 4	研究発表 ①
第15回 AL 4	研究発表 ②

成績評価方法	成果物 100%		
教科書	適宜資料を配布		
参考文献	『わかりやすいケーススタディーの進め方』松本 孚（照林社） 『看護における研究』南裕子（日本看護協会出版社）		
事前学習(内容・時間)	研究テーマに関連する文献検索を行い、論文を読んでおく（1時間）		
事後学習(内容・時間)	講義で紹介する文献を次回講義までに読み、クリティークする（1時間）		
フィードバックの方法	研究計画書ならびに研究論文作成は個別に指導を行う		
備考	積極的に研究テーマに関連する文献検索を行い、クリティークしてください	オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 グローバルな視点に立ち、時代のニーズに即応できる助産実践能力	2 他職種と連携・協働し、リーダーシップが取れる自立した母子保健活動の実践能力	3 専門知識・技術の発展向上を図る為の研究的姿勢、科学的根拠に基づいた助産ケアを探究できる能力
	○	△	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
アーバンヘルス特論	日高 庸晴	講義	1年次 後期	必修	1	15	JSP11108

科目の概要

思春期青年期の健康課題として、性感染症・HIV/AIDSといった性に関わること、違法ドラッグ・危険ドラッグなどの薬物に関することや児童虐待やメンタルヘルスなど、都市部在住の若年層に集中的に観測される健康課題・社会的課題がある。講義では多領域の知見と理論、実証データや事例を通じて、これらについて解説する。

到達目標

- 差別やスティグマに直面しがちな健康課題・社会的課題について、疫学的視点を持って説明できる。
- 実証研究によって示されるエビデンスやアクションリサーチなどの介入研究の取り組みの知見を通じて、考察を述べることができる。
- 都市部における健康教育の実施にあたって、研究デザイン構築のスキルを身に付けることができる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	イントロダクション
第2回 AL 6	わが国の都市部におけるHIV/STI感染リスク行動の現状
第3回 AL 6	HIV/STI感染予防のための健康教育の実際
第4回 AL 6	性的指向・性自認・性別表現と健康課題1
第5回 AL 6	性的指向・性自認・性別表現と健康課題2
第6回 AL 6	都市部の若者における薬物使用の現状
第7回 AL 6	子どもの虐待
第8回 AL 6	性暴力被害の現状と支援

成績評価方法	定期試験（レポート）100%		
教科書	適宜紹介します		
参考文献	適宜紹介します		
事前学習（内容・時間）	第1回イントロダクション・講義前のアナウンスに基づき、情報収集や予習をすること（2時間）		
事後学習（内容・時間）	随時指定する課題について、自分の考えをまとめる取り組みをすること（2時間）		
フィードバックの方法	講義時間中の意見交換を踏まえ、適宜全体で講評します		
備 考	講義中の私語・スマートフォンの使用等は厳禁とします	オフィスアワー	オフィスアワー一覧表参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 グローバルな視点に立ち、時代のニーズに即応できる助産実践能力	2 他職種と連携・協働し、リーダーシップが取れる自立した母子保健活動の実践能力	3 専門知識・技術の発展向上を図る為の研究的姿勢、科学的根拠に基づいた助産ケアを探索できる能力
	○	△	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
アートとグリーフケア	中尾 幹子 坂下 裕子	講義・演習	1年次 後期	選択	1	15	JSP12201

科目の概要

女性の健康問題や周産期医療に携わる助産師にとって、グリーフケアは避けては通れないものです。助産師として、対象者のグリーフに寄り添えるよう、講義内ではグリーフケアの基本的考え方、母親や家族へのグリーフケアのあり方を解説し、母親自ら行うグリーフワークや医療者自身のグリーフケアについても説明します。また、グリーフケアについて考えを深められるよう、自己の思いを言語化したり、他者の考えを聞くことを大切にしながら講義をします。

到達目標

- グリーフケアの基本的な考え方、周産期のグリーフケアについて理解できる。
- 深刻な喪失に伴う様々な反応について説明できる。
- 対象者の心の揺れに寄り添うために必要な技能について解説できる。
- 周産期喪失の現状や支援について知り、家族の悲嘆へのケア、情報提供の在り方について理解できる。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	助産師とグリーフケア
第2回	グリーフケア概論
第3回	周産期のグリーフとグリーフケア
第4回	こどものグリーフとグリーフケア
第5回	遺族にとっての課題 ウォーデンの喪の課題から
第6回 AL 3	言語的グリーフケア グリーフカードの作成など
第7回 AL 3	非言語的グリーフケア 産着の作成など
第8回 AL 2	体験者の声と分析
第9回 AL 3	グリーフワークプログラムの実践
第10回	周産期喪失の現状と支援①
第11回	周産期喪失の現状と支援②
第12回	悲嘆へのケア：心療内科医の立場から①
第13回	悲嘆へのケア：心療内科医の立場から②
第14回	当事者支援の実際
第15回	まとめ

成績評価方法	定期試験（レポート）100%		
教科書	『家族にとってのグリーフケア 医療の現場から考える』坂下ひろこ著（彩流社）		
参考文献	適宜、提示します		
事前学習（内容・時間）	事前配布資料や教科書の該当箇所を読んでおくこと（1時間）		
事後学習（内容・時間）	講義内容を振り返り、自身の考えをまとめる（1時間）		
フィードバックの方法	講義時間内に質問に答えます		
備 考		オフィスアワー	講義終了後30分
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 グローバルな視点に立ち、時代のニーズに即応できる助産実践能力	2 他職種と連携・協働し、リーダーシップが取れる自立した母子保健活動の実践能力	3 専門知識・技術の発展向上を図る為の研究的姿勢、科学的根拠に基づいた助産ケアを探究できる能力
	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
アタッチメント・ヨガ	南田 智子	講義・演習	1年次 後期	選択	1	30	JSP12202

科目の概要

本科目は妊娠期から乳児期の親子を支援するために、ヨガの呼吸法やポーズを取り入れながら、アタッチメントを育む方法とその背景となる知識を教授する。発達心理学の知識とカウンセリングの基礎について学び、母子支援の際の実践的な技能を教授する。科目終了時にはアタッチメント・ヨガforマタニティ&ベビーのインストラクター資格の取得に必要な知識とスキルを習得し、協会認定資格を取得することができる。

到達目標

- アタッチメント・ヨガに必要な発達心理学の基礎を理解し、説明できる。
- アタッチメント・ヨガに必要なカウンセリングの基礎について述べることができる。
- アタッチメント・ヨガのインストラクター資格取得に必要なスキルを修得する。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	オリエンテーション
第2回	アタッチメント理論
第3回	マタニティ アタッチメント
第4回	ベビー アタッチメント
第5回	アタッチメント・ヨガ 理論
第6回 AL 3	アタッチメント・ヨガ 実技 マタニティ①
第7回 AL 3	アタッチメント・ヨガ 実技 マタニティ②
第8回 AL 3	カウンセリング & 対人援助
第9回 AL 3	アタッチメント・ヨガ 実技 ベビー①
第10回 AL 3	アタッチメント・・ヨガ 実技 ベビー②
第11回	教室運営
第12回	ヨガ 概論
第13回 AL 3	企画作りワーク
第14回 AL 3	インストラクション演習
第15回	まとめと振り返り

成績評価方法	定期試験(筆記) 80% 定期試験(実技) 20%		
教科書	『アタッチメント・ヨガテキスト』『アタッチメント・ヨガ概論』アタッチメント育児協会		
参考文献	なし		
事前学習(内容・時間)	ストレッチをして臨みましょう。前回の講義内容を復習しておきましょう (30分)。		
事後学習(内容・時間)	講義内容の復習、実技の自己練習をしてください (1時間)		
フィードバックの方法	質問については授業内に解説します。インストラクションについては実施後に評価コメントをします。		
備考	テストに合格すると日本アタッチメント育児協会のインストラクター認定資格を申請できます。 ヨガをして、自分の心と身体に向き合う時間を楽しんでください。	オフィスアワー	オフィスアワー一覧参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 グローバルな視点に立ち、時代のニーズに即応できる助産実践能力 ○	2 他職種と連携・協働し、リーダーシップが取れる自立した母子保健活動の実践能力 △	3 専門知識・技術の発展向上を図る為の研究的姿勢、科学的根拠に基づいた助産ケアを探究できる能力 ○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
アタッチメント・ベビーマッサージ	南田 智子	講義・演習	1年次後期	選択	1	30	JSP12203

科目の概要

本科目は、アタッチメント理論について理解し、ベビーマッサージが親と子供の非言語的コミュニケーションツールとして親子関係の形成に相互的に役立つことを学ぶ。また、ベビーマッサージインストラクターの資格取得のために必要な、ベビーマッサージの意義や効用などの知識と基本的な手技について教授する。

到達目標

- 育児に役立つ発達心理学として発達段階の特性や発達に応じたかかわり方について説明できる。
- 根拠に基づいたベビーマッサージの理論を指摘できる。
- アタッチメント・ベビーマッサージのインストラクター資格取得に必要な知識とスキルを習得する。

授業内容

授業回数・AL	授 業 計 画
第1回	オリエンテーション
第2回	アタッチメント育児①
第3回	アタッチメント育児②
第4回	育児に役立つ発達心理学①
第5回	育児に役立つ発達心理学②
第6回 AL 3	「アタッチメント・発達心理」ワーク
第7回	自己心理学
第8回 AL 3	コフトワーク 振り返りとワークの意義
第9回	自己対象体験カウンセリング
第10回	ベビーマッサージ理論
第11回 AL 5	アタッチメント・ベビーマッサージ インストラクション①
第12回 AL 5	アタッチメント・ベビーマッサージ インストラクション②
第13回	インストラクション演習①
第14回	インストラクション演習②
第15回	まとめ

成績評価方法	定期試験(筆記) 80% 定期試験(実技) 20%		
教科書	「アタッチメント・ベビーマッサージ」テキスト アタッチメント育児協会		
参考文献	なし		
事前学習(内容・時間)	テキストの該当ページを読んでおくこと (1時間)		
事後学習(内容・時間)	講義内容を復習し、実技の練習をすること (1時間)		
フィードバックの方法	質問については授業内に解説します。インストラクションについては実施後に評価コメントをします。		
備考	テストに合格すると日本アタッチメント育児協会のインストラクター認定資格を申請できます。	オフィスアワー	オフィスアワー一覧参照
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 グローバルな視点に立ち、時代のニーズに即応できる助産実践能力	2 他職種と連携・協働し、リーダーシップが取れる自立した母子保健活動の実践能力	3 専門知識・技術の発展向上を図る為の研究的姿勢、科学的根拠に基づいた助産ケアを探究できる能力
	○	△	○

2023年度 シラバス（授業計画）

編集・発行 宝塚大学 大学事務局 梅田事務部

〒530-0012

大阪市北区芝田一丁目13番16号

TEL 06-6376-0853

FAX 06-6373-4829

発行日 2023年4月1日

